

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

令和 7年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	杉村 寿重	経営	H2301012
	②	渋谷 清	福祉	H1801013
	③	澤村 明子	福祉	H1101015
	④	令和7		
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	天沼学童クラブ			
事業所連絡先	〒	167-0032		
	所在地	東京都杉並区天沼1丁目6番25号		
	TEL	03-3398-8717		
事業所代表者氏名	館長 橋本 正彦			
契約日	2024年	6月	7日	
利用者調査票配付日(実施日)	2024年	9月	24日	
利用者調査結果報告日	2024年	12月	25日	
自己評価の調査票配付日	2024年	9月	24日	
自己評価結果報告日	2024年	12月	25日	
訪問調査日	2025年	1月	31日	
評価合議日	2025年	1月	31日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 館長 橋本 正彦 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)杉並区子ども家庭計画 2)杉並区児童館・学童クラブ運営マニュアル(令和2年1月) 3)杉並区児童館危機管理マニュアル(2016年改訂版) 4)杉並区子どもの居場所づくり基本方針(案)令和6年11月 5)事業に関わる杉並区条例、規則、要綱、要領(杉並区HP例規集参考)</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>職員が組織目標を理解し、仕事に取り組むこと。 人権を尊重して、仕事に取り組むこと。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>あたたかく児童や保護者に寄り添い対応すること。 問題意識を持って仕事に取り組むこと。 時代の変化や児童や保護者のニーズを踏まえ、仕事に取り組むこと。</p>

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である122名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生16名、2年生15名、3年生9名、4年生4名、5年生1名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

122

共通評価項目による調査対象者数
 共通評価項目による調査の有効回答者数
 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
122	0	122
45	0	45
36.9	0.0	36.9

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が35.6%、「本人と家族」が57.7%、「家族が推察」が6.7%であった。総合的な感想に関する調査の結果は、対象者の88.9%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が11.1%であり、大変高い満足度が得られている。
 項目別では、＜生活について＞に関する5設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「おやつ時間の楽しさ」では、93.3%の大変高い満足度が得られている。
 ＜安心・快適性＞に関する4設問は1設問において、大変高い満足度であった。「けが・体調不良時の対応」では、82.2%の大変高い満足度が得られている。
 ＜あなたを大切にしてくれるか＞に関する2設問は「気持ちを大切にしてくれるか」において、71.1%の高い満足度が得られている。
 ＜嫌なことやしてほしいこと＞では、「困ったり、してほしいこと」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「職員以外へ相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	38	5	0	2
「はい」が84.5%、「どちらともいえない」が11.1%、「無回答・非該当」が4.4%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「気が合う友だちがいて楽しい」、「一輪車が楽しい」、「遊ぶ友だちがいない時がいやだ」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	34	5	1	5
「はい」が75.6%、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が2.2%、「無回答・非該当」が11.1%であり、高い満足度であった。自由意見では、「きつい言い方のひともいるけど」、「先生に話しかけるタイミングがわからない」、「そもそも、相談したことがありません」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	42	3	0	0
「はい」が93.3%、「どちらともいえない」が6.7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「すごく楽しいです」、「いろいろなものが出るし、友だちとしゃべって食べられるから」、「おやつは自由がいいです。多すぎるときがあります」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	25	5	1	14
「はい」が55. 6%、「どちらともいえない」が11. 1%、「いいえ」が2. 2%、「無回答・非該当」が31. 1%であった。自由意見では、「とても良く聞いています」、「安心して話している」、「イベントのお店屋さん役とかは上級生なんですか」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	34	4	1	6
「はい」が75. 6%、「どちらともいえない」が8. 9%、「いいえ」が2. 2%、「無回答・非該当」が13. 3%であり、高い満足度であった。自由意見では、「危険があるから」、「じぶんがまもれているか、自信がないです」、「ルールは説明していましたが、なぜ大切かは学校でしか習っていません」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	30	10	3	2
「はい」が66. 7%、「どちらともいえない」が22. 2%、「いいえ」が6. 7%、「無回答・非該当」が4. 4%であった。自由意見では、「すごくきれいです」、「しっかり掃除しています」、「子どもが玩具を落として捨てるのを忘れてる」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	34	5	3	3
「はい」が75. 6%、「どちらともいえない」が11. 0%、「いいえ」が6. 7%、「無回答・非該当」が6. 7%であり、高い満足度であった。自由意見では、「やさしいです」、「私が自分から「あだ名でよんで！」と言っています」、「ことばづかいが気になる」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	37	1	0	7
「はい」が82. 2%、「どちらともいえない」が2. 2%、「無回答・非該当」が15. 6%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「もちろん!」、「かぜとかひいたことがない」、「ケガや具合が悪くなったことがないです」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	32	3	1	9
「はい」が71. 1%、「どちらともいえない」が6. 7%、「いいえ」が2. 2%、「無回答・非該当」が20. 0%であり、高い満足度であった。自由意見では、「ケンカしないから。仲良しすぎるから」、「先生が来る前に片付け」、「ケンカや悲しいことがあっても先生に相談したことはない」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	32	3	1	9
「はい」が71. 1%、「どちらともいえない」が6. 7%、「いいえ」が2. 2%、「無回答・非該当」が20. 0%であり、高い満足度であった。自由意見では、「すごくいい人たちです」、「相談する時は、みんなの意見を職員がメモしていました」、「先生に話しかけるタイミングがわからない。うまく話せないかもしれないし」という声が聞かれた。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	24	3	0	18
「はい」が53. 3%、「どちらともいえない」が6. 7%、「無回答・非該当」が40. 0%であった。自由意見では、「そもそも言っていません。でも個人的な情報は聞いたことないので、たぶん守っている」、「せんせいにもひみつにしているの、わからない」、「先生に、友だちに知られたくないことを話したいと思わない」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	28	2	2	13
「はい」が62. 3%、「どちらともいえない」が4. 4%、「いいえ」が4. 4%、「無回答・非該当」が28. 9%であった。自由意見では、「なったことがないからわかりません」、「いやだとかにならないのでわからない」、「あまりそんなふうには思ったことがありません」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	15	5	8	17
「はい」が33. 3%、「どちらともいえない」が11. 1%、「いいえ」が17. 8%、「無回答・非該当」が37. 8%であった。自由意見では、「あまり困りません」、「どういう意味かわからない」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/>非該当
	カテゴリ1の講評	
	杉並区の子ども家庭部児童青少年課職員が運営を行っている 区の職員による学童クラブとして、杉並区児童館・学童クラブ運営マニュアルや学童クラブ運営指針に基づいた、理念・ビジョンと基本方針が浸透しており、杉並区の学童クラブ運営指針と学童クラブ年間運営計画に沿って管理と活動が行われている。各種の情報や案内および手続きなどは、杉並区のホームページを見れば必要な情報が分かるようになっている。経営は杉並区であり、管理主体は区の子ども家庭部児童青少年課となり、同課の職員が施設長となり、学童クラブ常勤職員として運営がなされている。	
	保護者に対する説明は定期的に行い、安心でんしよばとで各種管理が行われている 新規入会者には3月に説明会を行い、全体に対しては夏休み前に保護者会を開催して説明と報告が行われている。保護者会では質疑応答やニーズ抽出を行っており、クラブの運営や計画にも反映させている。また、毎月1回のおたより(表裏2面)を発行して、クラブでの生活や活動を保護者に周知を図っている。おたよりは昨年度までは紙ベースの配付であったが、今年度(令和6年度)からは杉並区共通の電子配信複合システム「安心でんしよばと」を導入し、子どもの入退出管理と共に連絡メッセージや、毎月のおたより配信を行っている。	
	業務に対しては事務分担表に基づき滞りのない伝達と運営を目指している クラブ業務における事務分担表が毎年作成され、杉並区の学童クラブ運営指針等の規定に基づいて各種手続きやサービス業務、そして責任の所在を明らかにしている。学童クラブでの生活状況や必要な事項は「打合せノート」や毎日担当職員が記録する「学童クラブ日誌」に残されており、職員間のコミュニケーションや館長の意思決定などについては、上意下達の通知や周知に努めている。ただし、子ども家庭部児童青少年課からの情報の中で、子どもの保護者に通知するものはクラブを経由すると2度手間になることが課題と認識している。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー2の講評		
<p>利用者からは各種のアンケートを取り、今後の活動の質向上につなげている</p> <p>昨年度は「学童クラブ利用者アンケート」を児童青少年課が行い、今年度は福祉サービス第三者評価で利用者アンケートを行うなど、クラブの運営や支援の質向上につなげている。また、クラブで行われる各種行事の後には必ずアンケートを取り、関係者(町内会や母親クラブ等も含めて)が集まり毎回反省会を実施し、意見徴収と意見交換と今後の取り組みの話し合いを行っている。</p> <p>杉並区の中長期計画に基づいた、単年度の学童クラブ運営計画が作られている</p> <p>中長期計画は杉並区総合計画と実行計画に基づいている。ほかに杉並区子ども家庭計画があり、それらの計画に沿って館長が単年度の学童クラブ運営計画を作成している。予算は児童青少年課が編成を行ったものが学童クラブに降り、杉並区の計画の中で問題なく執行されている。クラブの単年度計画に基づいて日々の活動が行われているが、職員間のコミュニケーションは問題なく運営されている。日常活動レベルでは毎朝パート職員も含めて、全体ミーティングを30分程度の時間をかけて丁寧に行い、課題認識と解決のサイクルを回している。</p> <p>地域の子育て課題や要望を収集し、クラブで対応できることは工夫して対応している</p> <p>各種アンケートで把握したニーズや検討内容に対して、クラブ内で対応できるものと、児童青少年課が対応するものに分類し、区への依頼が必要なことは速やかに上にエスカレーションしている。予算は児童青少年課が管理しており、クラブだけの要望や課題に対して即座に予算がつくとは限らないため、児童青少年課に依頼事項として上げると共に、予算が下りるまでは館長のリーダシップの下職員の努力と工夫で対応に努めている。</p>		

3 カテゴリー3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー3の講評

法令遵守を周知徹底するための日常活動と仕組みが整っている

個人情報規定はホームページに載せている。ハラスメント防止宣言文を事務室に掲示し、いつでも注意喚起と振り返りが出来るようになっている。ハラスメント防止に関する取り扱い基準や懲戒関連法規は杉並区で作られているものであり、常勤職員はもとより、非常勤職員や会計年度任用職員もアルバイトや臨時職員などとは異なり、地方公務員法の適用となる体制となっており、安心して子どもを任せられる環境が整っている。

クレームや苦情解決の仕組みがあり、組織として動く体制が整備されている

クラブや区の児童青少年課には苦情解決窓口があり、杉並区保健福祉サービス苦情調整委員条例もある。利用者にとっては複数の相談窓口が用意されていることで、何か問題が発生した場合も、相談することができる環境が整っている。保護者の意見や相談や意向などに対しては、その内容に応じて担当職員や館長、児童青少年課で対応をし、かつ期限を決めて解決を目指し対応していることは評価できる。虐待疑いに関しては、子ども家庭支援センターを軸に関係機関と連携して実施している。ちなみに今年度の苦情はゼロ件との報告を受けた。

あまぬままつりや、地域を含めたもちつき大会で、地域と共にクラブが育っている

館長は中学校区にある地域教育推進協議会の事務局も兼任しており、小学校区にある杉並区地域子育てネットワーク事業にも参加し、地域の福祉や子育てニーズに向けた活動を行い、地域の情報共有や協働への取り組みに努めている。天沼小学校で10月に行われる祭り(あまぬままつり)の実施や、12月のもちつき大会は地域の協力を得てクラブで継続的に実施している。もちつき大会は餅づくりのプロセスから知って欲しいとの思いから行っているが、父母会の多大な協力も得られており、父母会との良好な関係を読み取ることができる。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	
カテゴリー4の講評		
<p>リスクヘッジに関することは事業所独自判断をせず区の規定に従った対応をしている</p> <p>危機管理マニュアルや感染症対応マニュアル、事業継続計画などは杉並区が策定したものを活用している。文書管理規定や文書事務の手引き、情報公開および個人情報保護情勢等関係法規、行政手続き関連法規なども区の規定、法の規定に従った活動を徹底しており、公設の施設ならではの。それ以外にも、アレルギー対応や事故報告、ハラスメント、不当要求に対する対応なども、区の基準に準じて運営している。</p> <p>定期的に子どもを含めた訓練も行われ、事故の際にはケガの記録も残している</p> <p>防災訓練は毎月行っている。警察の協力を得て不審者対応の訓練を行ったり、AED訓練や、アレルギー対応のアナフィラキシー症状対応などを順々に実施している。但し、医療的ケアが必要な事例は現時点では発生していない。子どもたちと共に行う防災訓練は年に2回で、地震対応の訓練と、火事対応の訓練を行っている。ヒヤリハットは現時点では特に作成していないが、発生に応じて書かれる事故報告書、ケガ対応メモがあり、毎日書かれている「学童クラブ日誌」に必要な応じて書けるので運用上の問題はないとのことである。</p> <p>情報は機密別に適切なアクセス権限と管理が行われている</p> <p>機密性情報は格納ドライブを別にし、パスワード設定を行い、かつアクセス権限を付けて管理されている。特に支援児関係等個人情報関係は必要最小限の職員しかアクセスできない仕様となっている。安心でんじょばとシステムに入る際も、各自のIDとパスワードでログイン設定がされており、杉並区全体の情報管理は、区の情報システム課が専門的に適正な管理を行っている。紙の情報は事務室の鍵のかかるロッカーで管理されており、今後の課題として、情報の電子化が進む中で文書の保存廃棄に関する見直しや検討を始めている。</p>		

5 カテゴリー5		
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー5の講評

採用と人材教育研修は杉並区の枠組みで行われている

常勤の採用は特別区職員人事厚生事務組合や杉並区人事課が行っており、当事者の希望を鑑みながら、各部署や児童館や学童クラブなどに配属されている。児童青少年課でも採用のPRを行っており、会計年度職員は課での採用となる。人事課では福祉職業紹介パンフレットが作成されている。区内では人事異動希望調書が提出されれば対応するという流れとなる。その後は区職員人材育成事業実施計画に基づき、研修計画が作られ(集合教育、OJT)、児童青少年課内研修を受けることになる。また、階層別研修も定期的に行われ育成にも配慮している。

職員育成や異動は自己評価シートで目標申告し上位職種へのロードマップが示されている

業務評価は、期初と中間、年度末の3回のタイミングがある。期初と中間は必須であるが、年度末はオプションとなっている。職員からは自己評価シートで目標申告がなされ、所属長によるヒアリングや面談で状況が把握され、振り返りと情報共有が行われている。研修を受講した後は、研修報告書が書かれ育成の一助となっている。一般職、主任、係長、管理職への方向性を示し、自己について評価する機会を設け、上位職種への選考に結び付けている。

様々な任用形態の職員をまとめながら、全員で業務と課題解決に努めている

学童クラブは登校日は午前中は子どもがおらず、研修やミーティングを行う時間はあるため、研修の幅を広げていきたいと館長は考えている。ベテラン職員からの知識やスキル移転が課題となっており、定年退職が近い職員もいるので、スキルトランスファーは直近の課題と受け止めている。任用形態が様々な職員がいるので、日々のミーティングを通して、いろいろな課題を解決していくことはもとより、今後発生する課題解決のスキルも継承していかなければならないことを認識している。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

子どもの出席確認など保護者から受けた連絡が担当職員にうまく伝達されず、子どもの出席や帰宅時間変更について見落としがあったり、対応の遅れを生んだりすることがあった。そこで、学童クラブ連絡チェック表への記入漏れをしないように、必ず保護者から電話を受けたらその場で記入する流れを徹底した。今年度から安心でんしよぼとのシステムを導入したことで、流れを再度振り返り、漏れの無いようにミーティングでも確認するようにした。システムの使い方は職員全員が研修を受けており、保護者にも早く慣れて貰えればと考えている。安心でんしよぼとはメッセージやおたより文書の送信も行われている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

杉並区で統一で使われている安心でんしよぼとを導入して、日常業務の効率化と正確性が担保できるようになった。導入時トラブルも不具合もなく、スムーズな導入が出来ている。紙ベースだった毎月発行のお知らせも安心でんしよぼとで保護者に送信しており、ペーパーレスでSDGsにも貢献している。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

学童クラブに通っている子どもの中にはアレルギーを持つ子どもも複数名いるので、アナフィラキシーショックの知識と対応スキルを職員は身につけている。アレルギーを持った子どもであっても、おやつを楽しんだり、安心安全に学童クラブで過ごせるように、全職員がアレルギーへの理解を深め、アナフィラキシー症状への迅速かつ適切な対応が出来ることを目標とした。それを実現するために、アレルギーを始めとする医療に関する研修を受講し、かつ子どものアレルギー調査票の再確認と点検を行い、緊急時で最優先で対応できるように全職員で情報共有と確認をしている。具体的にはエビベンなどの使用実施訓練、発症時の職員の役割分担の明文化とマニュアル化。そして、マニュアルをもとにしたシミュレーション訓練を定期的に行っている。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行ってなかった(目標設定を行ってなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

マニュアル化と体制化および役割分担を行い、場面を想定したシミュレーション訓練を定期的に行うことで、いざというときに迅速かつ的確に対応し、子どもの命と安全を守ることを目指している。今後も継続的に行うことで、安心安全な環境を担保していることは評価できる。

II サービス提供のプロセス項目 (カテゴリー6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1		評点(〇〇〇〇)	
子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している			
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評			
<p>主に区のHPや月1回発行のクラブだよりなどで情報を発信している</p> <p>主に区のHPや月1回発行のクラブだよりなどでこのクラブの情報を発信しているが、区のHPで発信できているのは住所や利用時間といった基本的な文字情報に留まっている。毎月発行しているクラブだよりは毎月の予定や連絡事項が多く掲載されているが、クラブの日常や雰囲気、育成室での様子を感じとることは難しい。学期に1回発行しているクラブだより特別号には、子どもたちの写真なども掲載されて、学童クラブでの様子を視覚からも伝えている。今後は、学童クラブの情報提供についての工夫が期待される。</p> <p>クラブ見学などの要望については丁寧に対応している</p> <p>区内に学童クラブは多数設置されているが、その中から好きなクラブを選べるわけではなく、基本的には自宅から近い小学校区内に設置されている学童クラブのいずれかに入会することになる。そのため、見学の要望は少なく、年に3~4件ということである。電話などで要望を受けると目的に合わせて日程調整を行っている。見学の際は、まず施設内を案内しながらそれぞれの部屋や場所の役割や子どもたちの過ごし方などの説明を行っている。特に時間や人数の制限は設けていない。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入会にあたり子どもや保護者に支援の内容を説明している</p> <p>入会が決まった子どもについては、2月下旬から3月中旬にかけての土曜日に保護者同伴で入会説明会及び入会面談を行っている。学童クラブの内容については「入会のしおり」を配付して説明している。そこには1日の流れや保護者との連絡、また事故時や緊急時の対応などについて詳しく記載している。また、面談では保護者の意向や家庭状況、子どものアレルギーなどについて聞き取るとともに子どもの様子を観察し、記録に残している。</p> <p>利用開始の際には子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している</p> <p>利用開始直後に必要な子どもへの支援については、入会面談時に把握・記録し職員間で共有するようになっている。また、新しく入る子どもにはそれぞれ上級生のお世話係をつけるようになっている。その係は自宅が同じ方向にある、保護者同士の交流があるなどを考慮して組み合わせを選択している。何らかの支援が必要な子どもについては、専門家により子どもの様子を観察してもらうことで、職員の適切な対応などについてアドバイスを得て、統一した支援ができるよう努めている。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
子どもに合わせた目標に沿って育成支援の計画を作成している 学童クラブの育成支援目標は区の児童青少年課が毎年作成しており、クラブではその目標に沿って育成支援計画を作成している。その計画に沿って日々の活動を行っているが、日々の打ち合わせでは情報共有を徹底するようにしている。年度末には全体の振り返りを行い、次年度の計画に反映させている。障害のある子どもについては年1回生活状況調査を行うとともに4～12月の状況を見て育成報告書を作成している。育成支援の目標や計画についてはお迎え時や面談などで保護者に説明をしている。			
子どもに関する記録を細かく作成する体制を確立している 日々の子どもたちの様子や活動は漏らさず記録するようにしている。その日のトラブルや出来事や良かったこと、またイベントでの様子や宿題をしている姿など気づいたことを日々の打ち合わせノートやクラブ全体の日誌に細かく記録するようにしており、職員全員が各自時間を見つけて確認するようにしている。障害のある子どもたちについては、ほかの子どもたちとは分けて区の書式を使用して報告書を作成したり日誌をつけている。			
子どもの状況などに関する情報は職員間で共有している 子どもに関する情報は、職員の日々の打ち合わせ会議で伝えたり職員各自がクラブ日誌を確認するなどして、職員間での共有を図っている。子どもや保護者の状況に変化があった場合などの緊急の事柄についても同様の方法で情報共有を図るようにしている。しかし、実際には情報の引き継ぎが上手くいかなかったことも報告されており、情報確認についての体制整備が期待される。一方で、子ども一人ひとりについての理解を深めるため、日々の打ち合わせの中で事例を話し合う時間を設けている。			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>子どものプライバシー保護には十分注意している</p> <p>子どものプライバシー保護については十分注意しており、入会前に一人ひとりから個人情報の利用についての同意書を得ている。また、子どもから相談がある場合にはプライバシーに配慮して、ほかの子どもに聞かれないよう別室で聞き取るようにしている。着替えなどが必要になった際にも、ほかの子どもたちの目に入らない場所で行うなどの配慮をしている。職員間で少し見守りが必要だと認識している子どもについては、同性の職員が対応するようにして支援に努めている。</p> <p>支援の実施においては子どもの意思を尊重している</p> <p>日常の子どもたちへの支援の場面においては、子どもたちそれぞれの意思を尊重するため一人ひとりに声をかけるようにしたり、話がある場合には別室を用意して丁寧に話を聞くようにしている。また、子どもや保護者の価値観や生活習慣についても、可能な範囲で配慮するようにしている。子どもたちの間で暴力やいじめが行われないように注意して見守りを行っており、対応方法は職員間で共有するようにしている。何か気になる点がある場合には個別に別紙に記録するようにしている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>事業所業務の標準化を図るためマニュアルなどを整備している</p> <p>区作成のマニュアルは準備されているが実際の学童クラブ内での活動にはあまりマッチしていない部分も多くあるとのことである。実際の現場では職員の役割分担を明確にして、誰が担当してもその役割が分かるようにしている。支援面での点検・見直しについては、まずは入会要件(出席日数など)を満たしているかという点を注視し、毎月確認している。分からないことが起きた場合にはまず入会案内を確認するので、入会案内は事務室だけでなくクラブの育成室にも常置しており、すぐに確認できるようにしている。</p> <p>子どもへの支援の向上を目指して業務水準の見直しに取り組んでいる</p> <p>提供している子どもへの支援の内容については毎年度末に職員で振り返りと見直しを行い、その結果を次年度の内容改善に反映させるようにしている。支援の見直しに際しては、職員の意見だけでなく日常的に寄せられる子どもたちの声やアプリを通して伝達される保護者からの声にも耳を傾け、時代にマッチした支援の提供・充実につなげられるようにしている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4																
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況																
		28 / 28																
<p>1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 65%;">標準項目</th> <th style="width: 20%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">●あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している</td> <td style="text-align: center;">○非該当</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">●あり ○なし</td> <td>2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している</td> <td style="text-align: center;">○非該当</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">●あり ○なし</td> <td>3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげるなどができるよう援助している</td> <td style="text-align: center;">○非該当</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">●あり ○なし</td> <td>4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td style="text-align: center;">○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">評価項目1の講評</p> <p>入会時には全員に面談をしている 入会時に全員に面談をしており、その際、病気やアレルギー、障害の有無など子どもの健康状態や保育園・幼稚園の経験及び期間、集団での様子、身辺自立、友人関係、家での様子、性格・育成上配慮してほしいことなど、さまざまな側面から聞き取りをして、子どもについて把握するようにしている。また、子どもにも友だちの名前や先生の名前、好きな遊び、苦手な遊び、好きな食べ物や苦手な食べ物などを聞いている。内容は打ち合わせで職員間で共有し、子ども一人ひとりについて理解したうえで援助できるようにしている。</p> <p>自由遊びの時間には異年齢で遊んでいる 自由遊びの時間には異年齢で対等な立場で遊んでいる様子が見られる。3学期には縦割りの班をつかって一緒にゲーム会やおやつを食べるなど、異年齢で交流できる場をつくらせている。ゲームのコーナーや漫画や本の部屋、工作や編み物の材料を置いているコーナー、おまごやプラレールで遊べる場所もある。縦割りの班で遊ぶ時には、ゲーム会やドッジボール、無制限レーと呼ばれるゲームなど班長会議で決めて遊んでいる。</p> <p>子ども同士のトラブルに対しては、個別に聞き取りをするようにしている 配慮を必要とする子どももほかの子ども達と同じ班に入り、自然な交流が見られる。子ども同士のトラブルに対しては、職員は落ち着いた場所で、双方の話を個別に丁寧に聞き取りをするようにしており、必要に応じて子どもの気持ちを代弁している。また、場合によっては保護者にも連絡をしている。ただし、現在クラブには感情が高ぶった子どもが落ち着けるための静かなスペース(クールダウンができるスペース)がないことが悩みとなっている。</p>				評価	標準項目		●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当	●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげるなどができるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
評価	標準項目																	
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当																
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当																
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげるなどができるよう援助している	○非該当																
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当																
<p>2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 65%;">標準項目</th> <th style="width: 20%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している</td> <td style="text-align: center;">○非該当</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している</td> <td style="text-align: center;">○非該当</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">●あり ○なし</td> <td>3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している</td> <td style="text-align: center;">○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">評価項目2の講評</p> <p>多様な遊びを用意して、子どもが自発的に遊べるようにしている 本や漫画、カードゲームやボードゲーム、ブロック、プラレール、おまごなど多様な遊びができるほかに、「ゆうぎしつ」では学年ごとに時間を分けて、ドッジボールやこまの練習、一輪車など身体を動かす遊びもできる。工作室では工作キットは月替わりで準備している。玩具やゲームは夏休み前にアンケートを取って、子どもの欲しいものを新しく購入している。近隣の公園で外遊びをする日も設けている。また、図書館で本を50冊ほど借りてきており、2か月に1回入れ替えをして、子どもが様々な本に触れることができるようにしている。</p> <p>ゲーム会やお楽しみ会の内容などは子どもたちが決めている ゲーム会やお楽しみ会の内容などは、主に上級生会議や班長会議で決めている。親子交流会で実施する内容はネーミングから子どもたちで考えており「あはれまくれ！お楽しみ会」「ゲーム会」「あまめまお楽しみ会」などが候補に上がり、子どもたちがシールを貼って投票して決めた。内容についても子どもたちがしたいことを書き出して参加したいと思うところに名前を書くなど、子ども主体の行事となっている。集団活動が苦手な子どもには無理強いをせず、見学だけでもよいと伝えるなど集団に慣れるように援助している。</p> <p>「基本的な生活習慣やルールを身につけること」を重点目標としてあげている 運営計画にも「基本的な生活習慣やルールを身につけ、自分の事を自分で考え行動できるよう、子どもたちがわかりやすい形で伝えていく」と重点目標に掲げている。学校から帰ってきた時やおやつの前には手洗いをするよう声かけをしている。片付けをする子どもには所定の場所に戻すことができるように援助している。クラブに来た時に宿題をするように声かけをし、学校休業日の時は全員9時半から学習の時間としている。また、ブロックの使い方のルールなども子どもたちが話し合っで決めている。</p>				評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当			
評価	標準項目																	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当																
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当																
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当																

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目3の講評

行事のタイトルや内容は主に上級生会議や班長会議で決めている

行事は主として上級生会議や班長会議で決めているが、下級生もシールを貼って投票したり、自分が参加したいところに名前を書くなど、主体的に参加できるようにしている。ゲーム会やお楽しみ会の内容も子どもたちが話し合っ決めていく。クラブの昨年度の重点目標にも「子どもたちの意見を取り入れ、上級生を中心に自主的に進めていけるような機会を作り」とあり、評価として「自分の意見が行事などに反映できて達成感もあったと思う。」としている。

親子交流会や親子遠足など保護者と楽しむ行事などについて早めに知らせている

当クラブでは、親子交流会、親子遠足など保護者に参加を依頼する行事も実施している。行事開催については、年度初めの保護者会にて年間行事予定で、おおよその時期について知らせている。併せて、毎月発行する「クラブだより」に早めに掲載しており、保護者が予定が立てやすいように配慮している。クラブでは保護者とのコミュニケーションを大切にしており、日頃から連絡帳、おたより、お迎えの際などに話をしたり、個人面談など保護者と情報共有する機会を多く持っている。これらにより、行事の実施などについても保護者の理解を得やすいと思われる。

4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇)・非該当1
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
○あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	●非該当

評価項目4の講評

月替わりの工作や多様な活動を提供している

工作のキットは月替わりで準備しており、「インディアンペンダント」などを制作している。また、毎月お誕生会やゲーム会、外遊びなどの行事や、ホールを時間を区切って使い、一輪車やドッジボールなどで遊んだり、ボードゲーム、読書、ブロック遊び、プラレール、おままごとなど好きなもので遊んでおり、多様な活動ができるように準備して、子どもたちが学童クラブに通いたくなるように工夫している。

ホワイトボードにその日の予定を書いて周知を図っている

子どもたちが登所してその日の予定が分かるように、ホワイトボードに予定を書いて周知を図っている。また、「ゆうぎしつ」でその日に行う予定を学年別に、使用できる時間帯で掲示している。特に「ゆうぎしつ」の使い方については、学年で時間帯が分かれており、行う活動も違うため、子ども達はその日の予定を確認して参加するかどうか決めている。夏休みなどにも、当日の予定を時間ごとに示して、子どもが主体的に動けるよう援助している。

テーブルで仕切りをして部屋を分けるなど工夫しながら環境を変えている

本や漫画を置いてある部屋、プラレールやおままごとがある部屋、工作用のキットや編み物用の材料が置いてある部屋など、好きなもので遊べるようにしている。部屋が足りないときには、テーブルをしきりにして皿回しをやる場所やダンスの場所などをつくることもある。また、「ゆうぎしつ」は学年と時間帯、活動内容が決まっているので、参加したい子どもが参加できるようになっている。

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当

評価項目5の講評

気になる子どもについては、学校側と話す時間を設定している

特に新1年生の気になる子どもについては、学校側にも面談する時間を設定してもらい、担任と情報を共有している。不登校の子どもはクラブに来ることもほぼないが、不登校の子どもがいた場合にも学校側と情報共有することとしている。クラブでは定期的な会議の場があるとなおよいと考えており、学校側への働きかけが期待される。

障害のある子どもについては関係機関と定期的に連絡をとっている

特別支援学級や区の子ども家庭支援センターなどの関係機関とは良好な関係を築いており、気になることがあればすぐに連絡をとりながら、連携して子どもの援助に努めている。場合によっては、子どもが通っていた保育園や療育施設にも状況を確認したり、保護者に様子を尋ねることもあり、情報収集や情報共有をしながら、学童クラブでの子どもの生活を援助している。また、職員は1時間ごとに交代で対応していることから、職員全員がその子どもについての情報を共有し、負担感も軽減されていると思われ、区の巡回指導の際にも評価されている。

6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当

評価項目6の講評

おやつは落ち着いて食べることが出来るよう配慮している

おやつ時間は1年生、2年生が3時から、3年生以上が3時半からと時間帯を分けている。おやつにはほかの学年の子どもは宿題や遊びを別室でするようにして、おやつを落ち着いて食べることが出来るように配慮している。おやつはビュッフェ方式にしており、甘いもの、しょっぱいもの、冷たいものを準備して好きなものを取るようになっている。冷たいものにはヨーグルト、ゼリー、プリン、アイスクリームなどがある。

縦割りの班をつくりおやつを一緒に食べる機会ももっている

縦割りの班をつくっており、ゲーム会や外遊びなどを行っているが、おやつも班ごとに食べることがあり、学年の違う子どもたちが一緒に過ごすことも増えている。おしゃべりをしたり、クラブではおやつ時間がより楽しめるようになったのではないかと評価している。おやつは食べたいものを選べる方式にしており、クリスマスにはクリスマスパッケージのものや唐揚げ、2月にはチョコレートを提供するなどおやつを楽しめるように工夫している。

入会時に「学童クラブアレルギー調査表」の提出を依頼している

アレルギーがある子どもについては、入会時に「学童クラブアレルギー調査表」を提出してもらっている。調査表では「アレルギーのある食物と除去の程度」「学童クラブのおやつ持ち込みについて」などのほか、処方薬やかかりつけの医療機関についても記載を依頼している。おやつを持参する子どもが多く、戸棚に個人別に名前を書いたかごを用意して、家庭で小分けにしてもらったおやつを預かり提供している。おやつの際はテーブルを別にし、パーテーションも設置している。また、緊急時に備えてエビベン研修を実施している。

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目7の講評			
<p> クラブに来た時やおやつの前には手洗いを呼びかけている クラブに来た時やおやつの前には手洗いを呼びかけており、ハンカチを忘れた子どもにはクラブのハンカチを貸し出して手洗いが習慣となるように取り組んでいる。また、室内で遊ぶ遊びと「ゆうぎしつ」での遊びや外遊びは違うことを伝え、室内では走らないなど基本的なことを教えるようにしており、子どもたちが自分で病気やケガを防止できるように援助している。 </p> <p> 現在利用はないが、区として医療的ケアが必要な子どもの受け入れを始めている 現在、当クラブでは医療的ケアが必要な子どもの利用はないが、区が今年度より医療的ケアが必要な子どもの受け入れを始めており、クラブの状況を見たらうで、受け入れ可能と判断した場合は区から要請があると思われる。ただし、受け入れ要件を全部満たすことや人工呼吸器が必要な子どもについては、現状では区として受け入れはしていない。今後医療的ケアが必要な子どもの受け入れについて依頼があった場合には、区と相談しながら、専門機関と連携していくことになるとと思われる。 </p>			
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目8の講評			
<p> 保護者が安心して子育てできるよう支援している 保護者には個々の事情に配慮して支援することを入会の面談の際に伝えている。土曜日の利用や平日の時間延長についても個別に対応するようにしている。保護者同士が交流する機会についても配慮しており、年2回の保護者会での懇談会、父母会との共済行事として6月の親子交流会、10月開催の「天沼まつり」、12月のもちつき大会などがある。ただし、まだ保護者の参加者が少ないとのことなので、今後の工夫が期待される。 </p> <p> 保護者と職員との信頼関係を深め子どもに対する共通認識を持てるよう取り組んでいる 保護者との信頼関係を深めるために、保護者とコミュニケーションする機会の創出に取り組んでいる。そのため、保護者と直接顔を合わせられる送迎時には積極的に声かけを行い、子どもについて話すようにしている。また、父母会と共済する親子交流会などでは保護者とさまざまな話題で交流することができるように配慮している。一方で、学童クラブでの子どもの様子を伝えるために写真付きの特別号を発行したり、保護者との連絡を密にするためアプリの活用をお願いするなどにも取り組んでいる。 </p>			

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人への参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子ともや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用して子どもが多様な体験や交流ができる機会作りに取り組んでいる</p> <p>当学童クラブは児童館と一体的に運営されている。児童館は「18歳未満の子どもが自由に利用することができる児童福祉施設」「専門の職員(児童厚生員)を配置して遊びを通じた子どもの健全育成活動を行っている」場所であるため、地域やそのほかの多様な人たちとの交流が期待できると思われる。実際に、地域のボランティアによるワークショップなどの活動に参加もしているが、限られた職員数で運営していることで活動を広げることが難しいことが推察される。職員によるさらなる工夫を期待したい。</p> <p>子どもたちが地域の子ともや大人と交流する機会の確保に取り組んでいる</p> <p>地域に開かれた児童館と一体的に運営されていること、この学童クラブが区立であるということにより、行政が関係する地域の組織である町会などとの結びつきは密接である。そのため、クラブの行事に地域の人に参加してもらったり、地域の行事にクラブの子どもたちが参加するといった交流は実施できている。町会と一緒に小学校の体育館を借りて秋の祭りを開催したり、年末にはもちつき大会も行っている。今後は、その地域との関係性を活かして、学童クラブの周囲にあるさまざまな地域資源を活用したさらなる交流が期待される。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	毎年恒例となった地域の祭りや、館内の各イベントを通して地域貢献をしている	
内容①	<p>中学校区で行っている地域教育推進協議会の事務局を行い、区教育委員会の一員として会議運営の一助を果たしている。また、天沼小学校と協働して地域や町内でも好評の「あまめまつり」を行っている。施設の中庭を使い、地域の方にも開放したもちつき大会を実施している。杵と臼を借り受けて中庭に設置し、米を蒸すところからの全ての工程を子どもが見学できるようにすることで、日本の文化を知る機会となる教育的行事として職員総出で行っている。それ以外にも親子交流会を年に2回開催しており、親子で楽しみ喜びを共感する機会を創出している。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している
タイトル②	非常勤職員を含め、毎日打ち合わせにより情報共有をして援助にあたっている	
内容②	<p>入会時には全員に面談をしており、子どもの健康状態や保育園・幼稚園の経験及び期間、集団での様子、身辺自立、友人関係など、さまざまな側面から聞き取りをして、子どもについて把握するようにしている。聞き取った内容は打ち合わせで職員間で共有し、子ども一人ひとりについて理解したうえで援助できるようにしている。打ち合わせは非常勤職員の出勤時に合わせて行っており、全職員で共有できるようにしている。また、担当の部屋や役割は常勤職員は1週間ごと、非常勤職員は毎日変えることで、職員が全体を把握できるよう取り組んでいる。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	保護者が安心して子育てできるよう保護者との信頼関係構築に力を入れている	
内容③	<p>この学童クラブに入っている子どもたちの保護者同士の関係性は良く、交流会といったものもある。また、父母会に入っている保護者はお互いラインでつながっており、情報交換・情報共有もできている。児童館と一体的に運営されているということにより広く地域の組織ともつながっており、地域全体で地域の子どもたちを見守り育てるという状況が生まれている。親子交流会がクラブと父母会との共催行事となっていることもこういった背景があるからと思われる。さらに信頼関係が深まっていくことを期待したい。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもたちの異年齢交流と職員間のコミュニケーションで学童クラブ全体に落ち着きと安心感が生まれている
	内容	異年齢が利用し、良好な交流が行われていることで学童クラブ全体に調和が生まれている。上級生は玩具やゲームで遊ぶと下級生の様子を見て譲ることを覚え、下級生は上級生の振る舞いを真似ることで礼儀や社会性を学び身につけている。このような状況が育まれているのは職員間のコミュニケーションによる信頼関係が構築され、過度に介入しない関係性が育まれているからだと思われる。加えて、支援の職員を交代で見守るなどの配慮をすることで、過度なストレスを予防する環境作りも大きく関与していると思われる。
2	タイトル	子どもを主体とすることを大切にしている
	内容	ゲーム会やお楽しみ会の内容などは、主に上級生会議や班長会議で決めている。親子交流会で実施する内容はネーミングから子どもたちで考えている。また、日々の遊びは本や漫画、カードゲームやボードゲーム、おままごとなど好きな遊びができるほかに、「ゆうぎしつ」では学年ごとに時間を分けて、ドッチボールなど身体を動かす遊びもできる。工作室では工作キットは月替わりで準備している。支援提供の考え方は「子どもを主体として、子どもたちの意見を聞き、子どもたちが主体的に行事に関われるように取り組む」としており、実践している。
3	タイトル	「こどもまんなか」の理念に基づき、子どもの主体性やニーズを捉えている
	内容	こども家庭庁が唱える「こどもまんなか」をモットーに、こどもの視点に立って耳を傾け、こどもにとっての一番の利益を考え、保護者の協力を得ながら福祉や健康の継続や向上を、学童クラブの日々の活動の中で支援している。要支援の児童に対しては館内ではマンツーマンの個別対応を行っており、一人の職員が付きっきりで支援するのではなく、職員全員で1時間ごとに変わりながら多くの目の中で、交代で支援する方法は、巡回指導の外部の専門家からも好評であった。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	事業所業務の標準化の推進が期待される
	内容	支援についての職員自己評価の集計結果を見ると、リーダ層・一般層ともに「事業所業務の標準化」の項目についてのみ低い数値が出ている。マニュアルについては児童青少年課で作成され、その後現場においても長く見直しは行われなかったと今回聞き取ることができた。マニュアルを活かすには時代と現場に合わせて毎年改善を重ねていくことが重要で、それがなければ現場とはかけ離れ、どんなに手をかけて作成したマニュアルも役立たないものになっていく。今一度マニュアルの重要性を確認して改善を図ることが期待される。
2	タイトル	下級生の意見をもっと吸い上げたいと考えている
	内容	ゲーム会やお楽しみ会の内容などは、主に上級生会議や班長会議で決めている。親子交流会で実施する内容はネーミングから子どもたちで考えており「あばれまくれ！お楽しみ会」「ゲーム会」「あまめまお楽しみ会」などが候補に上がり、子どもたちがシールを貼って投票して決めた。夏休みの企画で上級生が決めて水遊びなども行ったが、クラブでは下級生の意見も反映できるともっとよいと考えており、検討が期待される。
3	タイトル	マニュアル等の改訂や後輩へ知識やスキルの継承が課題となっている
	内容	杉並区児童館・学童クラブ運営マニュアルや児童館危機管理マニュアル等について、タイムリーな見直しや改訂が必要と考えている。しかし、加除式等での改訂等、主管課に伝えているが、実現に至っていない。また、職員の定年退職が多い状況で、ベテランの知識やスキルをいかにして後輩職員に伝えていくかが課題となっている。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

令和 7年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	大輪 光宏	経営	H2201047
	②	和田 大	経営	H2201037
	③	和田 輝美	福祉	H1001021
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	荻窪学童クラブ			
事業所連絡先	〒	167-0051		
	所在地	東京都杉並区荻窪2丁目40番2号		
	TEL	03-3391-0017		
事業所代表者氏名	館長 丸山しのぶ			
契約日	2024 年 6 月 7 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 9 月 27 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 1 月 4 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 9 月 10 日			
自己評価結果報告日	2025 年 1 月 4 日			
訪問調査日	2025 年 1 月 11 日			
評価合議日	2025 年 1 月 11 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
- 別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 館長 丸山しのぶ 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学童クラブ運営計画 2) 児童青少年課組織目標 3) 係の目標 4) 個々の目標申告シート
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>「杉並区人材育成事業実施計画」の中に、区の目指す職員像「主体的に意欲と能力を高め、新たな課題に挑戦していく職員」、目指す職場像「共に学び、助けあい、みんなで作る風通しの良い職場」と示している。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>「杉並区児童館・学童クラブ運営マニュアル」の中に基本姿勢が示されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)子ども一人ひとりを尊重し、子どもが安心して、安全に過ごせる居場所とする。 (2)子どもたちがともに育つ中で、自らの可能性を発揮し、健やかに成長するよう支援する。 (3)地域や関係機関と連携・協力し、保護者が安心して楽しく子育てができるように支援する。

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である145名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生15名、2年生21名、3年生22名、4年生3名、5年生1名、6年生1名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

145

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
145	0	145
63	0	63
43.4	0.0	43.4

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が44.4%、「本人と家族」が54.0%、「家族が推察」が1.6%であった。総合的な感想に関する調査の結果は、対象者の88.9%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が9.5%、「よくない」が1.6%であり、大変高い満足度が得られている。項目別では、〈生活について〉に関する5設問は1設問において、大変高い満足度であった。「学童での生活や遊びは楽しく興味が持てるか」では、84.1%の大変高い満足度が得られている。〈安心・快適性〉に関する4設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「けが・体調不良時の対応」では、90.5%の大変高い満足度が得られている。〈あなたを大切にしてくれるか〉に関する2設問は「気持ちを大切にしてくれるか」において、76.2%の高い満足度が得られている。〈嫌なことやしてほしいこと〉では、「困ったり、してほしいこと」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「職員以外へ相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	53	8	1	1
「はい」が84.1%、「どちらともいえない」が12.7%、「いいえ」が1.6%、「無回答・非該当」が1.6%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「全部楽しい」、「遊戯室の遊びが楽しい」、「さんぼの回数と時間を増やしてほしいです」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	44	12	2	5
「はい」が69.9%、「どちらともいえない」が19.0%、「いいえ」が3.2%、「無回答・非該当」が7.9%であった。自由意見では、「学童の先生は、いつもやさしいです」、「忙しい時は話せない」、「話すことがあまりありません」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	45	13	3	2
「はい」が71.4%、「どちらともいえない」が20.6%、「いいえ」が4.8%、「無回答・非該当」が3.2%であり、高い満足度であった。自由意見では、「おやつがおいしくてさいこう。とくべつなおやつのはもっとさいこう」、「毎日のおやつがかわるから、毎日たのしみ」、「おやつの種類で嫌いなものがある」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	47	7	1	8
「はい」が74. 6%、「どちらともいえない」が11. 1%、「いいえ」が1. 6%、「無回答・非該当」が12. 7%であり、高い満足度であった。自由意見では、「約束や行事について話し合う時間がない」、「とくになし」、「ない」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	48	7	2	6
「はい」が76. 2%、「どちらともいえない」が11. 1%、「いいえ」が3. 2%、「無回答・非該当」が9. 5%であり、高い満足度であった。自由意見では、「そとあそびのすなばあそびで、かいらをひろってももちかえれないのがかない」、「質問したことがないからわからない」、「とくになし」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	31	21	8	3
「はい」が49. 2%、「どちらともいえない」が33. 3%、「いいえ」が12. 7%、「無回答・非該当」が4. 8%であった。自由意見では、「毎日、ピカピカ」、「きれいな時もあれば、きれいではない時もある」、「片付いていない」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	51	8	0	4
「はい」が81. 0%、「どちらともいえない」が12. 7%、「無回答・非該当」が6. 3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「たまに、よびすてにされる」、「とくになし」、「なし」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	57	0	1	5
「はい」が90. 5%、「いいえ」が1. 6%、「無回答・非該当」が7. 9%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「ケガをしたときにてあてをしてくれました」、「ぜったいたすけてくれる」、「ケガをしたり、ぐあいがわるくなかったことがない」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	49	5	4	5
「はい」が77. 9%、「どちらともいえない」が7. 9%、「いいえ」が6. 3%、「無回答・非該当」が7. 9%であり、高い満足度であった。自由意見では、「嫌なことをする人たちに注意をしてくれました」、「助けてくれることが多いけど、忙しいときなどときどき助けてもらえないときがある」、「かけつけるのが遅い」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	48	5	1	9
「はい」が76. 2%、「どちらともいえない」が7. 9%、「いいえ」が1. 6%、「無回答・非該当」が14. 3%であり、高い満足度であった。自由意見では、「ケンカとかがないと、自分の気持ちを伝える機会がない」、「とくになし」、「なし」という声が聞かれた。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	32	3	1	27
「はい」が50.7%、「どちらともいえない」が4.8%、「いいえ」が1.6%、「無回答・非該当」が42.9%であった。自由意見では、「ないしょのことはありません」、「内緒の話はまだしたことがない」、「けいけんがない」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	36	11	1	15
「はい」が57.1%、「どちらともいえない」が17.5%、「いいえ」が1.6%、「無回答・非該当」が23.8%であった。自由意見では、「嫌なことをする人たちに注意をしてくれました」、「いっぱい相談に乗ってくれる」、「困ったことはありません」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	15	11	12	25
「はい」が23.8%、「どちらともいえない」が17.5%、「いいえ」が19.0%、「無回答・非該当」が39.7%であった。自由意見では、「伝えてくれていたと思いますが、認識していないようです」、「おぼえていない」、「とくになし」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく <input type="radio"/>非該当
	カテゴリ1の講評	
	学童クラブの重点目標を運営計画に掲げて職員全員で確認している 当学童クラブは、杉並区の公設公営施設で、児童館の中に設置されている。その基本方針は、杉並区学童クラブ運営指針や当年度の区の児童青少年課の組織目標を基に、係(児童館・学童クラブ)の目標を策定し、運営計画に重点目標として掲げ職員全員で確認している。保護者には、学童クラブ入会案内及び荻窪学童クラブの入会のおしりを作成し、新入会説明会、第1回目の保護者会で周知を図っている。また、保護者との個人面談やその後の保護者会などを通じて、基本方針などを繰り返し伝え周知理解に努めている。	
	館長は、職員面談により目指す目標を明確にしリーダーシップを発揮している 学童クラブの運営方針などは、区の児童青少年課傘下の館長会で示達され、館長は朝のクラブ打ち合わせや学童担当の打ち合わせなどで目指すべき方向性について全職員に徹底している。各職員の担うべき役割については、学童クラブの組織目標に照らして各自が目標設定し、目標申告シートを作成している。館長は、目標申告シートをもとに年に2回程度、職員とのヒアリングを実施し、それぞれの具体的な取り組みと達成度合いの検証を行うなど、リーダーシップを発揮している。	
	重要事項やクラブだよりを学童向け情報共有アプリで配信し、わかりやすく伝えている 重要事項は、区の児童青少年課傘下の館長会で報告され、館長はその内容を朝のクラブ打ち合わせや学童担当の打ち合わせなどで速やかに伝達し、常勤職員間で共有している。また、非常勤職員に対しても口頭や回覧物などで確実に伝達できるよう努めている。また、利用する子どもや保護者に対しては、館内掲示や連絡帳、学童事業向けの情報共有アプリなどで適時の周知に努めている。毎月発行されるクラブだよりには、重要な決定事項をはじめ当月の各種イベントやお知らせを満載し、利用者、家族にわかりやすく伝えている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー2の講評		
<p>利用者アンケートを実施し利用者のニーズ把握に努め運営に活かしている</p> <p>杉並区では、全学童クラブで昨年より利用者アンケートを実施している。その結果を職員で共有し、例えば、「勉強するスペースが欲しい」などの要望に対して、廊下に座卓を設置して自習スペースを作るなど、改善が必要なものは解決策を検討し極力実現できるようにしている。また、年2回開催される保護者会においても保護者のニーズ把握に務め、職員の意向や要望については、年2回の職員ヒアリングや、必要に応じて適宜職員からの相談に応じている。</p> <p>区の中長期の計画をもとに年度の重点目標を定め、目標達成に向け取り組んでいる</p> <p>当クラブは、行政機関の施設であり、区の中長期の計画をもとにクラブの運営計画を策定している。区の計画は、杉並区総合計画・実行計画、杉並区保健福祉計画(子ども家庭分野)などマクロなもので、そこからブレイクダウンした児童青少年課のメゾ目標を具体化しクラブのミクロな単年度運営計画に反映している。単年度運営計画では、1.子ども一人ひとりの尊重と安心安全、2.健やかな成長のために、3.子育て支援のために、という重点目標を定め、さらに取り組み施策を列挙して、目標達成に向け取り組んでいる。</p> <p>毎月の月間運営状況報告など目標達成に向けた適切な評価を行っている</p> <p>運営計画の遂行のため、年度当初に担当、事務分担などを決めている。学童クラブ運営計画を基に運営し、各検証タイミングに応じて取り組み状況を検証し、毎月および年度末の運営状況報告を行っている。前年度の運営状況報告をみると、重点目標に対して実施した取り組み内容を記載し、さらに、それぞれの取り組みについての評価結果を記載しており、適切にPDCAサイクルによるマネジメントが確認できる。一方、評価は概ね定性的で、客観的に達成度合いを評価できる指標などがあればさらに良いと思われる。</p>		

3 カテゴリー3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー3の講評

職員は全員公務員であり、公務員倫理や情報セキュリティを徹底して学んでいる

当学童クラブは公設公営であり、職員は全員公務員であることから、非常勤を含め全職員を対象に「公務員倫理」「情報セキュリティ」の職場内研修を徹底して実施している。業務の運営は、児童青少年課作成の詳細な「児童館、学童クラブ運営マニュアル」を基に運営している。マニュアル類はだれでも閲覧できる場所に置き、職員は業務に迷う場合など適宜参照して活用している。特に、新人のOJTに際してはマニュアルを活用し、公共サービス提供機関として公平で均一なサービス提供が可能となるよう務めている。

職員の言動を定期的に振り返る仕組みが未導入で今後の取り組みを期待したい

苦情の受け付け体制については、当クラブや区の児童青少年課を苦情受け付け先とし、保健福祉サービス苦情調整委員制度等を入会案内などで案内している。虐待疑いの早期発見に対しては、各部屋には常に職員を配置し、気になる言動、行動などがあった時には対応し、朝夕の打ち合わせ時に情報を共有している。一方、職員の日常業務チェックリストなど、職員の言動の定期的な振り返りや自己評価の仕組みが導入されておらず、区の学童クラブ全体として今後の取り組みを期待したい。

地域の子どもの拠点として地域貢献・地域交流・地域協同に努めている

区の学童クラブでは、随時見学者を受け入れ、また、地域の子育てネットワーク地域連絡会等で活動内容、状況などを伝えている。ボランティア、実習生は、一元的に児童青少年課で受け付け、各児童館、学童クラブで受け入れている。また、地域協同、地域交流については、館長が事務局となり、小学校地域子育てネットワーク地域連絡会主催の行事等を地域と協力して実施している。青少年育成委員会、中学校区地域教育連絡会との連携し情報交換を行っている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>水害想定訓練では川と逆方向に避難するなどリスクに応じた訓練を実施し有事に備えてる</p> <p>当学童クラブでは、安全計画を策定し、計画に従い避難訓練、嘔吐時の対応、アナフィラキシー治療剤の使用方法などの研修受講や訓練などを定期的実施している。危機管理マニュアルに従い、緊急時の防災無線や、学校110番の活用し、区と連携することとしている。安全計画を基に机上訓練や利用者も参加した訓練を実施している。例えば、クラブは善福寺川河岸に所在するため、水害を想定した場合は川と逆方向の高台の一時避難所に避難するなど、リスクに応じた訓練を実施し利用者の安全確保に努めている。</p> <p>児童の安全確保の方針と確実な引き渡しについて、きめ細かく保護者に周知している</p> <p>事業継続計画は、区全体で作成しており全区民の安全確保やライフライン復旧のための計画となっている。学童クラブ固有のBCPは策定できていないが、南海トラフ地震など大規模災害を想定した場合、利用者児童の安全確保と保護者への確実な引き渡しを最優先課題とし手順をきめ細かく整備している。保護者に配付される「学童クラブ防災携帯カード」や保護者あて文書「災害時等の学童クラブ児童引き渡しについて」にて入会説明会や保護者会などで児童の安全確保の方針と確実な引き渡しについて保護者に周知している。</p> <p>利用者の写真など肖像の利用についても同意書の取得が望ましい</p> <p>学童クラブでは、区の規定に基づき、文書保存及び廃棄を実施している。文書保存、廃棄一覧、個人情報持ち出し管理簿を備え、各種文書は施錠できるキャビネットに入れて管理し、共有できるようにしている。PCはユーザーID、パスワードでアクセス制限し、個人情報を持ち出すときには、個人情報持ち出し管理簿に記載している。保護者には入会面談時に個人情報取得について説明のうえ、同意書を取得している。一方、利用者の写真など肖像の利用については、口頭での同意に留まっており、具体的な利用目的を記した同意書の取得が望ましい。</p>		

5 カテゴリー5		
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー5の講評

正規職員は定期的に異動することで幾つかの現場を経験し専門性を高めている

学童クラブの職員は、全員区職員で、人材確保については区の総務部および児童青少年課で対応している。杉並区職員人材育成事業実施計画に基づき計画的に運用されているが、公務員といえども人材の確保はタイトな状況で、当学童クラブにおいても常勤職員は充足しているものの、一部の短時間職員に不足感がある。人事異動については、目標申告や異動希望調査を参考に実施し、特に正規職員は定期的に異動することで幾つかの現場を経験し専門性を高めている。

職員一人ひとりにフォーカスした育成計画の策定が期待される

区が目指す職員像は「杉並区職員人材育成事業実施計画」に示されている。現場では、職員は個々の目標申告シートを作成提出し、それを基に所属長とのヒアリングを実施している。また、学童クラブの職員は、人事課人材育成係や児童青少年課が設定する各種研修を計画的に受講することとしている。一方、各職員の目指すキャリアプランに沿った、職員一人ひとりにフォーカスした育成計画の策定は確認できなかった。職員アンケートでも、「個人別育成計画」について不明瞭な評価結果となっており、個人別育成計画の制度化が期待される。

風通しよく良好な人間関係の職場で、活力ある組織を創り上げている

館長は、常勤職員、非常勤職員ともに年に2回のヒアリングを実施し、職員一人ひとりの意向や希望、悩みなどを聴取しモチベーション向上に努めている。日々の打ち合わせや振り返りを通じて、忌憚なく意見交換し全職員が力を合わせて課題解決を図っている。職員アンケートを見ると、「意欲や働きがいの向上」や「良好な人間関係構築」、「チーム力向上」などの各項目について、全職員がポジティブな評価を残しており、風通しよく良好な人間関係の職場で、活力ある組織を創り上げていることが伺える。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

子どもたちの意見に耳を傾け、日常の運営に反映させていく
(大規模集団の中で、一人ひとりの子どもたちが楽しく学童クラブの生活を過ごせるために)

【取り組み】

- ・やりたいことごとに分かれるチーム活動
- ・学年会議の設置
- ・子どもたちの状況を合わせた遊び場のレイアウトの変更やコーナー分け

【取り組みの結果、振り返り、今後に向けて】

子どもたちの意見や発言を職員間で共有し、実現できるように支援できた。
子どもたちのやりたいことでの活動を実施することにより、学童クラブが楽しい子どもたちの居場所となることができた。
今後も子どもたちの意見を取り入れた活動を取り入れ、また、卒会後も児童館が居心地のよい居場所になるようにしていきたい。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

当学童クラブは、児童館に併設された区営のクラブで、登録の利用者数が144名という大規模施設であり、大勢の集団の中で一人ひとりの子どもが楽しく過ごせるように環境を調整することが大きな課題としている。クラブでは、「子どもたちの意見に耳を傾け、日常の運営に反映させていく」ことを目標に掲げ、①やりたいことごとに分かれるチーム活動、②学年会議の設置、③子どもたちの状況を合わせた遊び場のレイアウトの変更やコーナー分け、を柱とした取り組みを実施した。例えばチーム活動では、「ダンスクラブ」を結成して発表会も開催し、「虫チーム」は虫取りから飼育、卵を孵して育てるなど、やりたいことができ「楽しい施設」づくりに取り組んだ。また、学年会議では、子どもたちの意見を取り入れてクラブ運営を行い「子どもファースト」を推進した。子どもたちの意見を職員間で共有し実現に向け支援することで、学童クラブが楽しい居場所になってきていると総括している。人数の割に非常に手狭な施設環境の中で、あらゆる工夫を凝らして「子どもファースト」に取り組んでおり、今後もクラブでは子どもたちの意見を取り入れた活動をすすめ、居心地のよい居場所を目指すとしている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

家庭状況に応じた支援ができるように職員間で情報を共有し対応していく
(それぞれの家庭に合わせた支援が必要だと感じているため)

【取り組み】

- ・保護者が来館した際には、積極的にコミュニケーションを取り、保護者との良好な関係作りに努める。
- ・子どもの些細な変化に気づき、職員、各関係機関等と情報共有を行い、家庭に合わせた支援を検討し対応する。

【取り組みの結果、振り返り、今後に向けて】

保護者と積極的にコミュニケーションを取ることで、相談しやすい環境が作れた。
学校や子ども家庭支援センター等、関係機関と連携し、支援を行うことができた。
今後も見守りが必要な家庭には、引き続き支援していく。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

クラブには、数人、特別な配慮やケアが必要な子どもも利用しており、それぞれの家庭の環境や状況に合わせた支援が必要だと感じているため、「家庭状況に応じた支援ができるように職員間で情報を共有し対応する」ことを目標として取り組んだもの。具体的には、①保護者が来館した際には、積極的にコミュニケーションを取り、保護者との良好な関係作りに努める、②子どもの些細な変化に気づき、職員、各関係機関等と情報共有を行い家庭に合わせた支援を検討し対応する、ことに取り組んだ。不登校気味の子どもや、兄弟との関係に課題がある子どもなどへの対応について、保護者とのコミュニケーションや子ども家庭センター等との連携により適切な対応をすすめた。その結果、保護者と積極的にコミュニケーションを取ることで、相談しやすい環境が作れ、また、学校や子ども家庭支援センター等、関係機関と連携で、適切な支援を行うことができたとしている。今後も引き続き見守りが必要な子どもと家庭には、コミュニケーションを強化し、関係機関との連携をすすめ支援していくこととしている。

II サービス提供のプロセス項目 (カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー1の講評			
<p>多様な情報提供の充実と分かりやすい学童クラブ案内に取り組んでいる</p> <p>利用希望者や保護者に対し、オンラインとオフラインの両面から情報提供を行い、学童クラブの内容や手続きを分かりやすく伝えるための取り組みを進めている。具体的には、パンフレットや申請書を杉並区のHPで公開し、入会に関する詳細情報をオンラインで取得できるようにしているほか、直接施設に訪れて書類を受け取ることも可能としており、多様な方法で情報を提供している。一方で説明会への参加が難しい保護者に対して十分に情報が行き渡るよう、オンライン説明会や動画コンテンツの活用など、さらなる工夫が期待される。</p> <p>保護者の選択を支援する情報提供の強化と安心できる受け入れ体制の整備に期待したい</p> <p>入会申請や面談の際には、保護者に対して丁寧な情報提供が行われ、学童クラブの利用にあたっての疑問や不安を解消できるよう努めている。見学は事前予約制と書類受け取り時の希望に応じた対応があり、特に近隣の民間学童との合同説明会を実施することで、複数の選択肢を比較しながら学童クラブを選べる仕組みが整えられている。今後は、保護者が情報にアクセスしやすいより幅広い情報提供の環境を整え、入会から退会に至るまで、子どもと保護者の不安を最小限に抑えられる体制を構築することが望まれる。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
新入会者の受け入れ体制と支援の充実を目指している 新規入会希望者には、入会前に新入会説明会を実施し、学童クラブの利用方法や一日の流れ、持ち物などを詳細に説明している。また、入会面談では、保護者からの要望や子どもの特性を聞き取り、それらを受け入れ体制に活かしている。特別支援が必要な場合は、特別審査会を開き、適切な支援が可能かどうかを判断する仕組みも整っている。学童クラブ児童台帳の提出を求め、緊急時の対応や安全管理を徹底する体制を確保している。また、新入会の子どもがスムーズに学童クラブに馴染めるよう、児童館の利用を推奨し、休日や放課後の施設利用を案内している。			
退会後の子どもの居場所確保と支援の継続に取り組んでいる 退会時の手続きとしては、保護者が退会を申し出た際に退会届を提出し、正式な手続きを進める流れになる。退会後の支援として、児童館の継続利用を推奨し、子どもが気軽に来館できる環境を提供している。特に、長期休みのランチ利用を案内し、退会後も児童館で食事を摂ることができるような環境づくりをしている。また、「学童クラブを退会しても、何かあったら児童館に来るように伝えている」とのことで、退会した子どもが急な困りごとを抱えた際にも頼れる居場所を提供している。			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
育成支援計画の策定と特別支援児童への対応強化に努めている 前年度の総括を基に年間運営方針を作成し、日々の打ち合わせや振り返りの時間を通じて情報を共有することで、支援内容の適切な見直しを行っている。特に、特別支援児童に関しては、特別支援児童プロフィール資料や育成報告書を作成し、巡回指導の報告を職員間で共有する仕組みを整えており、特別支援育成報告書を年に1度区へ提出している。記録の作成と管理については、日誌や対応メモを活用し、ケガやトラブル、支援が必要な子どもに関する情報を記録している。必要に応じて保護者へ連絡し、家庭との情報共有を行う体制も確立されている。			
職員間の情報共有の充実と精度向上を目指している 職員間の情報共有のため、日々の振り返りや打ち合わせが行われており、情報は日誌に記録されている。日々15分間の振り返り時間を設け、職員が子どもの様子を確認し合い、必要な対応について議論する機会を確保している。参加できなかった職員に対しては、翌日の打ち合わせで報告が行われ、過去の記録はパソコンで共有される仕組みとなっている。ただし、議事録の作成は行われておらず、日誌の記載を基に口頭での申し送りが中心となっているため、情報共有の精度を高める工夫が求められる。			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>個人情報の適切な管理と安全対策の徹底に取り組んでいる</p> <p>個人情報の管理に関しては、入会面談時に同意書を取得し、随時口頭での確認を行うことで、保護者の理解と協力を得ながら慎重に取り扱っている。個人情報の持ち出しについては、区の規定に基づき、書面に記録し管理簿で確認する体制をとっている。また、子どもの安全管理に関しても徹底されており、迎えに来る人の確認を厳格に行い、事前に登録されていない人物には引き渡さないルールを徹底している。子ども同士のトラブルが発生した際、当事者同士の連絡先を直接伝えることはせず、必ず保護者の了承を得て対応することになっている。</p> <p>子どものプライバシー保護と権利尊重の推進に取り組んでいる</p> <p>施設内でのプライバシー保護にも配慮がなされており、着替えが必要な場合には別室を用意し、適切な環境で対応している。子どもの私物についても、職員が許可なくランドセルの中を開けることはなく、必要が生じた場合には必ず本人の同意を得ることを原則としている。子どもの権利尊重の観点から、日々の活動においても子どもの意思を尊重する姿勢が貫かれている。例えば、集団での食事が苦手な子どもには時間をずらして食べることを認め、それぞれの特性に合わせた柔軟な対応を行っている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>マニュアル活用と業務標準化の推進に取り組んでいる</p> <p>区が作成したマニュアルを活用し、必要に応じて確認しながら職務を遂行している。児童館・学童クラブ運営マニュアル、危機管理マニュアル、児童虐待対応マニュアルなどが整備されており、事務室に配置され、職員がいつでも確認できるようになっている。改訂が行われる場合には、館長会を通じて全体に周知される仕組みとなっており、必要に応じて担当部署に問い合わせを行うことも可能である。業務の標準化に関して、現場ではマニュアルを活用しつつも、日々の業務は職員の経験則に基づいて行われる場合もあり、個々の能力に依存する部分が大きい。</p> <p>研修の充実と職員の理解度向上に期待する</p> <p>必要なマニュアルが整備されており、職員が確認しながら業務を行う体制が整っているが、業務フローの明確化や標準的な対応手順の整備が求められる。区や課が主催する研修を受講し、子どもの権利や支援に関する知識を深める機会が提供されている。研修参加後には、職員がアンケートを記入し、職場内で報告することで情報共有を行っている。しかし、職員の理解度の把握については明確な評価基準がなく、経験の浅い職員への指導が十分に行き届いているかどうかの確認が必要な状況である。</p> <p>アレルギー対応と医療的ケアの強化に取り組んでいる</p> <p>独自の取り組みとして、アレルギー児童の対応マニュアルを作成し、職員間での確認や危機管理訓練を実施している。このマニュアルは、現場の職員が作成し、実際の業務に即した内容となっている。また、医療的ケアが必要な子どもへの対応として、緊急時の対応マニュアルを整備し、必要な場合に確認できる体制を構築している。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	28/28
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(0000)		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当	
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当	
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当	
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当	
評価項目1の講評				
<p>職員間での情報共有を密にし、子どもたちが安心して過ごせる環境を整えている</p> <p>毎日夕方6時から15分間の振り返りを行い、その日に伝える必要がある内容を優先し、特にケガ・トラブル・体調の変化について職員間で把握できるよう努めている。ケガなどの対応が必要な場合は必ず常勤職員を呼び、適切な対応を取れるようにしている。常勤職員は全体の状況を把握しやすいよう、フリーで動く体制を取っており、必要な場面で即座に対応できるよう配慮している。子どもの人数が多いため、ケガやトラブルへの対応には特に注意を払い、安全管理を徹底している。日誌、ケガボードでも把握できるようにしている。</p> <p>児童館のルールを伝え安全に過ごせるように見守る体制が整っている</p> <p>ほかの学童から移動してきた子どもたちに対しては、環境の違いを考慮しながら児童館のルールを覚えられるように都度伝えている。遊戯室では、安全を確保するために審判役とフリーの職員を配置し見守る体制を整えている。注意は2回までとし、1回目は気付くような声かけを行い、2回目には一度室外に出て気持ちを落ち着けられるよう配慮している。子どもたちからの相談にも対応し、安心して過ごせるよう話し合いの機会を設けている。自分たちで解決できないことは何でも話してもらえよう、4月からその姿勢を伝え続けている。</p> <p>配慮が必要な子どもが、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</p> <p>障がいのある子どもの受け入れを行い、派遣看護師による医療的ケアを実施している。活動中は職員1名がついて、子どもの希望に応じた遊びを一緒に行うようにしている。子ども同士の関わりについては、保護者の承諾を得たうえで、子どもの特性について説明を行い、理解が深まるよう配慮している。そのうえで、ほかの子どもたちと一緒に活動できるよう援助している。発達面で配慮が必要な子どもについても、職員が寄り添いながら対応し、無理なく集団活動に参加できるよう支援している。</p>				
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(000)		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当	
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当	
評価項目2の講評				
<p>発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している</p> <p>育成室や遊戯室の利用については、学年ごとに時間差を設けることで混雑を避け、1～2年生は他の学年が来る前に広い遊戯室で遊べる時間を確保している。子どもたちにも順番に使用する理由や配慮について説明し、理解を促している。環境整備では個別ロッカー、おやつを食べるスペース、工作コーナー、ごっこ遊びコーナーを設け、遊びや活動に適した場所を確保し玩具も分けて配置することで、遊びや片付けをしやすいよう工夫している。宿題・映画・外遊びなどを子ども自身が選択できるようにし、興味や気分に応じた活動ができる環境を整えている。</p> <p>子どもが無理なく集団活動に関われるよう援助している</p> <p>チーム活動は年ごとにテーマが変わる仕組みになっており、今年度は3年生の意見を取り入れやすいように配慮し、アンケート結果をもとに、虫探しなどのチーム活動を活動日を決めて取り組めるようにした。好きなテーマに学年を超えて一緒に活動できるようにしており、異年齢交流を促進している。集団活動が苦手な子どもに対しても配慮し、無理に参加させるのではなく、「見るだけでもよい」「空間を共有するだけでもよい」と声をかけ、気持ちが向いたときに自然に入れる環境を作っている。それぞれのペースを尊重しながら関わることを大切にしている。</p> <p>学年ごとに目標や課題を設定し、子どもたちの意見を積極的に取り入れている</p> <p>荷物管理については、各自のロッカーを用意し、金曜日には持ち帰りを促し整理整頓するよう声かけをしている。水筒や宿題などの忘れ物があった場合は、電話で保護者に伝えるなどの対応をしている。衛生管理の習慣づけにも力を入れ、特に1年生には、おやつの時間や食事の際に大きな声を出さないよう指導し、掲示を活用して視覚的にも意識できるようにしている。子ども一人ひとりが意見を出しやすい環境を整え、話し合いや活動を通じて成長できるよう工夫している。また、必要に応じて職員会議を開き、気になることがあれば速やかに対応している。</p>				

3	評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
行事前に学年会議を実施し、やりたいことを自分たちで選び、準備をしている 1年生から行事に参加し、企画・運営は4年生以上が中心となることで、上級生が活躍できる場を設けている。司会や運営を任せることで、責任感を持ち、自主的に取り組めるようにしている。10月に開催される「あそび市」は、地域の人々も参加する大きなイベントであり、中学校で開催される際に児童館としてブースを出展している。ゲームや小物販売、上級生による綿あめ販売など、多くの子どもたちが関われるよう工夫している。「あそび市」の準備として、景品づくりにも時間をかけ、子どもたちが自分たちで考えながら作る機会を提供している。		
異年齢の交流を深めながら、子どもたちが主体的に活動できるよう工夫している チーム活動や、児童館の4年生以上が中心となる「企画タイム」では、下の学年の子どもたちのために準備をし、上級生がリーダーシップを発揮している。「お楽しみ市」は他の学童と合同で実施し、バンド演奏やダンス発表などが行われ、異なる学童との交流の場となることで新たな関わりを持ち、幅広い経験ができる機会となっている。紙飛行機大会では、記録の計測や表彰を行い、子どもたちが競い合いながら楽しめるような行事となっており、子どもたちが主体的に活動できる場を作っている。		
子どもたちが準備に取り組む様子を伝え、活動の意義や進捗を保護者に共有している 保護者会で資料を配付し年間予定を共有しており、参加できない保護者には連絡帳を通じて資料を配付し、情報を漏れなく伝えられるようにしている。また、「安心でんしょばと」を活用し、毎月のおたよりをPDFで添付して早めに伝えることで、保護者が確認しやすい環境を整えている。連絡帳の自由記述欄を通じて、保護者が要望や意見を伝えやすい仕組みを導入し、保護者とのコミュニケーションを大切にしている。また、行事の際には、各コーナーの運営や子どものお店のサポートを保護者にもお願いし、一緒に関わってもらえる機会を作っている。		
4	評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)・非該当1</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
○あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	●非該当
評価項目4の講評		
新入生がスムーズに環境に慣れ、安心して過ごせるようサポートしている 1年生の受け入れにあたっては、4月1日から案内ができるように準備を整えている。職員が玄関で迎え入れるだけでなく、上級生も協力しながら館内を案内し、遊びの紹介をすることで、新しい環境に安心して馴染めるよう工夫している。また、4月中は職員が学校まで迎えに行き、子どもの様子を見ながら、玄関まで、校庭まで、門までと徐々に距離を取る形で無理なく通うことができるよう見守りながら支援を行うようにしている。段階的なサポートによって、5月の連休明けには1年生の子どもたちが自分たちで帰れるよう促している。		
育成時間が楽しいものとなるよう子どもの意見や要望を取り入れるようにしている 子どもたちと話し合い、必要な改善や新しい取り組みを一緒に考えながら進めており、学年会議では学年ごとにテーマを設定し、話し合いながら意見を出し合う場を作っている。また、職員も参加し、子どもたちの考えを尊重しながらサポートすることで、より充実した活動につなげている。玩具の修理や新しい本・ゲームの要望なども把握し、環境をより充実させる工夫を行っている。また、全学年において健康状態や子どもの表情・態度を観察し、気になることがあれば適切に声をかけ、職員間で情報を共有しながら、必要な援助を行うようにしている。		
子どもたちが主体的に活動しながら、安全で快適に過ごせる環境づくりを心がけている 育成室では学年ごとに一日の流れが分かるようホワイトボードで掲示し、遊戯室にも遊びの時間を設定するホワイトボードを設置し、子どもたちが自分で活動を選ぶように工夫している。室内環境は子どもの様子を踏まえながら見直しや変更を重ねており、年度末に向けて改善を行っている。また、子どもたちとも相談しながらレイアウトの変更を進め、手伝ってもらうことで、自分たちの希望が反映される環境づくりを大切にしている。近隣の公園で遊ぶ際は、安全確保のために職員3名以上が付き添い、子どもたちが安心して外遊びを楽しめるよう配慮している。		

5	評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
	●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当	
評価項目5の講評			
<p>学校との情報交換や情報共有を行いながら子どもの支援に取り組んでいる</p> <p>副校長や担任教諭が窓口となり必要に応じて連絡を取り合い、子どもの様子を共有することで、学校と学童の双方で子どもを支えられる体制を整えている。定期的な会議の実施はないが、電話でのやり取りを中心に、子どもの状況や支援の必要性について情報を共有できるようにしている。また、特に支援が必要なケースについては「ケース会議」によって関係者間での共通認識を持ちながら対応を進めており、子どもたちが学校と学童の両方で安心して過ごせるよう、適切な支援体制を整えている。</p> <p>不登校などの課題について、一人ひとりの状況に合わせた支援に努めている</p> <p>小学校や関係機関と連携し、不登校や家庭支援に関する対応を行っている。状況に応じて、職員が自宅へ迎えに行くなどの特別な対応を行い、子どもが少しでも安心して過ごせるよう支援している。また、給食の時間には学校へ行くよう促したり、学校には行かないが学童には来る子どもに対しても、その気持ちに寄り添いながら対応し、無理のない形での関わりを大切にしている。学童が子どもにとって安心できる居場所となるよう、温かい環境づくりを心がけている。</p> <p>配慮が必要な子どもの支援にあたっては関係機関と連携を図っている</p> <p>障がいのある子どもの受け入れを行い、関係機関と連携しながら支援を進めている。受け入れにあたっては、関係機関へ見学に行き、そこでの過ごし方を確認することで、児童館でどのように過ごせるかを具体的に検討している。また、関係機関からの見学も受け入れ、子どもに関する情報を共有できるよう努めている。日常の対応では関係機関だけでなく看護師や保護者とも密に連携を図っている。配慮が必要な子どもについては、入会前に保育園へ見学に行くこともあり、関係機関との連携を通じて事前に子どもの情報を得ることを大切にしている。</p>			
6	評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りで配慮している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当	
評価項目6の講評			
<p>子どもの好みに合わせておやつの内容を工夫している</p> <p>おやつは担当者がまとめて購入し、子どもたちが楽しめるように種類を工夫して提供している。駄菓子ははじめゼリーなど3種類程度を組み合わせ、バナナなどの果物も取り入れ、バリエーションを持たせている。「スペシャルおやつ」として、毎月誕生日を迎える子どもにアンケートを取り、ドーナツやアイスクリームなど、子どもたちが楽しめるメニューを取り入れている。また、チーム活動の一環として、子どもたちが選んだおやつや手作りトッピングを取り入れる機会があり、楽しさや食への興味を深められるよう工夫している。</p> <p>下校時間や学年に応じた工夫によって、子どもがおやつを楽しめるようにしている</p> <p>1年生は一斉におやつを食べるようにし、2年生以上は「カフェスタイル」として自分のタイミングで時間内に食べられるようにしている。また3年生以上は自由外出の際におやつを持参し、公園で食べたり、テラスを利用したりと、場所を選べるようにしている。長期休み期間には、お弁当を持参し、学年ごとに分かれて食べるようにしている。食後には掃除・換気を行い、遊戯室でシアターを観るなど、静かに過ごせる環境を整えている。自宅から果物などを持参した場合は、冷蔵庫で預かり、名前をつけて管理するようにしている。</p> <p>食物アレルギーなどの状況に応じたおやつを提供している</p> <p>入会決定後には、担当者から保護者へ連絡し、アレルギー対応の詳細を確認した上で提供方法を決定しており、適切な対応ができるよう工夫している。なるべく同じテーブルで食べてもらい、トレイに乗せて提供することで何を食べたかが分かるように管理し、食べたおやつの包装は万が一の対応が必要になった際に確認できるよう、翌日まで保管している。2年生以上については、保護者と相談しながら提供方法を検討し、安心して食べられる環境を整えている。自宅から持参する場合は、1週間分を名前を記入してもらった上で預かり、個別の箱に保管している。</p>			

7	<p>評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>日常生活の中で衛生意識を高め、安全で快適に過ごせるよう支援している</p> <p>手洗いやうがいの習慣化を促し、子どもたちが日常的に衛生管理を意識できるよう取り組んでいる。また、ケガや体調不良時には職員にすぐに伝えるよう、日頃から子どもたちに伝え、安全に過ごせる環境づくりを心がけている。育成室では手洗い後におやつを食べる流れを定着できるように声をかけており、ペーパータオルを設置するなど衛生面にも配慮している。また、帰りの会では、感染症予防や帰宅時のケガ・事故への注意喚起を行い、子どもたちが落ち着いて安全に帰宅できるよう促している。</p> <p>医療的ケアが必要な子どもに、専門機関などとの連携に基づく対応をしている</p> <p>児童青少年課の管理係、運営係と連携しながら対応を行い、支援体制を整えている。日常の医療的な対応については派遣看護師が担当し、適切なケアを実施している。バス停までの迎えは、看護師やヘルパーが対応し、子どもの安全を確保している。また、支援学校との情報共有を行い、健康状態を含めた子どもの状況を把握できるようにしており、連絡ノートを活用し職員間でも必要な情報を共有している。保護者にはお迎えの際にその日の様子を伝え、情報共有を行うことで、子どもの健康状態や活動の様子を把握してもらえるようにしている。</p>		
8	<p>評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者との継続的な対話と信頼関係の構築に取り組んでいる</p> <p>入会面談や個人面談、保護者会を通じた情報共有、出欠管理のシステム化、地域との連携強化など、多面的な支援を実施している。日々の子どもの様子を細かく伝えることや、保護者が職員と相談しやすい関係づくりに努めている。入会面談時には、家庭状況や保護者の就労状況、子どもの状況を詳しく確認し、入会後も個人面談を実施して、保護者との継続的な対話を重視している。また、お迎え時には、その日の子どもの様子を職員が直接伝えることで、保護者との信頼関係を深める取り組みを行っている。</p> <p>出欠管理のデジタル化と安全確保の強化に取り組んでいる</p> <p>出欠や帰宅時間の管理については、アプリを導入し、保護者がリアルタイムで情報を確認できる仕組みを整えている。アプリを活用し、子どもの入退時刻や学童クラブからのお知らせを保護者へ伝達することが可能となっている。一方で入力ミスや時間変更の確認作業が発生することがあり、職員側の負担が増加している。入力情報と実際の状況が異なる場合には、職員が電話で直接確認を行うことで、子どもの安全確保に努めている。この対応により、子どもの帰宅時のトラブルを防ぎ、保護者と学童クラブの信頼関係の構築がなされている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>保護者の参加促進と地域交流の強化に取り組んでいる</p> <p>地域のお祭りにおいて、保護者がボランティアとして参加できる機会を提供している。地域の神社での豆まきや山車引きの行事において学童クラブが積極的に参加し、地域住民と保護者が交流する場を設けている。また、西田学童クラブとの合同イベントを実施し、異なる学童に通う子ども同士の交流の機会を増やすことで、保護者同士のネットワーク強化にも寄与している。保護者アンケートでは、「職員が丁寧に対応してくれる」「運営への感謝の声が多い」といった肯定的な意見が多く寄せられており、保護者と職員の信頼関係が築かれていることがうかがえる。</p> <p>子育てネットワークの構築と地域連携の強化に取り組んでいる</p> <p>児童館が地域の子育てネットワークの事務局を担い、小学校や中学校、近隣の保育園との連携を強化している。保育園や学校とは定期的に情報共有を行い、卒園・進学後の支援が円滑に進むよう努めている。また、児童館を中心とした行政連絡会や地域連絡会を定期的に行い、地域の子育て環境を支える仕組みを作っている。これにより、学童クラブを利用していない子どもや家庭にも、地域全体での支援が行き届くようにしている。</p> <p>災害時の受け入れ体制と子どもの安全確保に取り組んでいる</p> <p>地域全体の子どもたちが安心して避難できる場所を目指し、災害時の受け入れ体制を整えている。避難訓練は各学期に1回実施され、職員向けの机上訓練も行うことで、緊急時の対応能力を高めている。第一避難所は小学校と設定されているが、状況に応じて広域避難所である集合住宅「シャレール荻窪」への避難も視野に入れており、職員は災害時の動線について子どもたちに説明している。また、鍵を忘れた子どもや、急に家に帰れなくなった子どもが児童館に駆け込むケースもあり、地域の子どもたちにとって頼れる場所としての役割を果たしている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-2-2	着実な計画の実行に取り組んでいる
タイトル①	クラブ目標の実現に向け施設を最大限に活用し楽しい居場所づくりに取り組んでいる	
内容①	当クラブは、クラブの運営計画に、1.子ども一人ひとりの尊重と安心安全、2.健やかな成長のために、3.子育て支援のために、という重点目標を掲げている。児童館の併設クラブで、150人弱の子どもたちの居場所としては空間的に非常に厳しい施設であり、重点目標の実現のため、一人ひとりの子どもが楽しく過ごせるように環境を調整することに力を入れている。子どもと職員が力を合わせて遊び場のレイアウト変更やコーナー分けを工夫し、驚くほど多様な空間を創出して「楽しい居場所づくり」に取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している
タイトル②	チーム活動などの取り組みによって異年齢活動を促している	
内容②	毎年テーマを決めて行う活動チームでは、今年度は特に3年生の希望を反映させた内容とし、活動日を設定し、興味を持つ子どもたちが自由に参加できる仕組みを取り入れている。また、2学期・3学期には行事に向けたチーム編成を行い、アンケートをもとに活動内容を決定している。好きなテーマに基づいて学年を超えて一緒に活動できるようにすることで、異年齢交流を促進し、子どもたちの関わりが多くなるよう援助している。職員も参加し、子どもたちの考えを尊重しながらサポートすることで、より充実した活動につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	保護者との連携強化と個別支援の充実に取り組んでいる	
内容③	学童クラブの運営状況を保護者と共有するために、年2回の保護者会を実施し、行事の際には保護者が学童クラブの活動に参加する機会を設けている。加えて、アプリを活用し、出欠や帰宅時間の確認、学童からの連絡を円滑に行う仕組みを導入しており、保護者と学童が密に連携することで、子どもの安全確保と育成支援の強化が図られている。学童内でのトラブルやケガの記録を日誌に残し、保護者への適切な連絡を行う体制も確立されている。特別支援児童については、個別の支援計画を作成し、必要に応じて学校や関係機関と連携している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保護者との連携強化と地域とのつながりに取り組んでいる
	内容	保護者との密な連携、子ども一人ひとりに寄り添う個別支援、地域とのつながりの強化を重点的に進めている。地域の行事にも積極的に参加し、神社の祭りで山車を引いたり、節分の豆まきに参加することで、地域の伝統や文化に触れる機会を提供している。日々の打ち合わせや振り返りを通じて、職員間で情報を共有し、子ども一人ひとりの状況を把握し、個別に対応する体制を整えており、保護者とのコミュニケーションの充実や、学童クラブでの生活の質向上に向けた取り組みに努めている。
2	タイトル	子ども主体の活動となるよう、子どもの意見を取り入れることを大切にしている
	内容	子どもたちの気持ちに寄り添い、不安や不満についても丁寧に話を聞き、どう対応していくかを一緒に考えることを大切にしている。また、子どもたちの意見や要望に対しても出来る限り応えることができるように努めているが、すぐに実現できないケースもあるため、その場合は話し合いの時間を持ち納得できるように配慮している。子ども一人ひとりの意見を尊重しながら、安心して過ごせる環境を整え日々の活動に主体的に参加できるように支援をしている。
3	タイトル	風通しよく良好な人間関係の職場で、全職員が力を合わせて課題解決に向かう活力ある組織を創り上げている
	内容	当クラブの印象として、子どもたちは元気に楽しく、職員は明るく闊達で、館内には爽やかな風を感じる。職員アンケートでも「意欲や働きがいの向上」や「良好な人間関係構築」、「チーム力向上」などほとんどの評価項目について全職員がポジティブな評価を残しており、風通しよく良好な人間関係の職場で、活力ある組織であることが伺える。館長は職員一人ひとりの意向や希望、悩みなどを聴取してモチベーション向上に努めている。日々の打ち合わせなどで忌憚なく意見交換し、全職員が力を合わせて課題解決に向かう活力ある組織を創り上げている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	業務の標準化と情報共有の改善によるサービス向上に期待したい
	内容	区が作成したマニュアルを基に業務を遂行しているが、現場での対応は経験に依存する部分が多く情報共有が口頭や紙の記録に依存しているため、業務の属人化が進みやすい状況にある。マニュアルの定期的な見直しと現場の実態に即した業務ガイドラインの作成、業務フローの明文化による新任職員や非常勤職員のスムーズな対応体制の構築などが期待される。現在、危機管理訓練をする際に職員が作成したアレルギー対応についてという書類があり、区のマニュアルだけに頼らない取り組みがなされている。このような方向性で更なるサービスの向上に期待したい。
2	タイトル	環境設定の工夫と職員の体制強化について継続的な課題としている
	内容	利用者数が多い中でも、限られたスペースを有効活用し、子どもたちが快適に過ごせるよう環境設定の工夫を行っている。すみ分けやスペースの活用については、引き続き課題としており、改善に向けて話し合うようにしている。また、職員の異動や新任職員の増加に伴い、どの職員でも子どもたちと円滑に関われるような体制づくりを強化していくことも継続的な課題として取り組んでいる。
3	タイトル	日々の職員の言動を定期的に振り返り、組織的に分析・評価する仕組みの導入が期待される
	内容	職員は、気になる言動、行動などをお互いに指摘しあい、朝夕の打ち合わせ時に情報を共有している。職員アンケートでも、「利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動」について全常勤職員が前向きな評価をしており、意識の高さが伺える。一方、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」など、日々の職員の言動を定期的に振り返り、分析・評価する仕組みは導入されておらず、組織的な人権擁護や虐待防止の取り組みには若干の課題が見受けられる。是非とも「日々の言動の振り返りと分析評価」を当区の学童クラブ全体で取り組むことを期待したい。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

令和 7年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	井上 和男	福祉	H2001039
	②	杉村 寿重	経営	H2301012
	③	和田 輝美	福祉	H1001021
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	桃井学童クラブ			
事業所連絡先	〒	167-0034		
	所在地	東京都杉並区桃井2丁目10番9号		
	TEL	03-3396-4527		
事業所代表者氏名	館長 小柴 秀昌			
契約日	2024年 6月 7日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024年 9月 27日			
利用者調査結果報告日	2024年 12月 11日			
自己評価の調査票配付日	2024年 9月 10日			
自己評価結果報告日	2024年 12月 11日			
訪問調査日	2024年 12月 18日			
評価合議日	2024年 12月 18日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ・ 機構が定める部分を公表することに同意します
別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 館長 小柴 秀昌 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1) 杉並区子ども家庭計画</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>「杉並区人材育成方針」では、目指す職員像を「主体的に意欲と能力を高め、新たな課題に挑戦していく職員」、目指す職場像を「共に学び、助け合い、みんなでつくる風通しの良い職場」と定めています。日々の仕事の中で実践しています。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>杉並区学童クラブ運営指針で学童クラブの基本姿勢が3つ述べられています。その使命を常に忘れないで職務を行っています。</p> <p>(1)子ども一人ひとりを尊重し、子どもが安心して、安全に過ごせる居場所とする。 (2)子どもたちがともに育つ中で、自らの可能性を発揮し、健やかに成長するように支援する。 (3)地域や関係機関と連携・協力し、保護者が安心して楽しく子育てができるように支援する。</p>

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である104名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生12名、2年生19名、3年生16名、4年生3名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

104

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
104	0	104
50	0	50
48.1	0.0	48.1

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が42.0%、「本人と家族」が48.0%、「家族が推察」が10.0%であった。総合的な感想に関する調査の結果は、対象者の96.0%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が4.0%であり、大変高い満足度が得られている。

項目別では、〈生活について〉に関する5設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「学童での生活や遊びは楽しく興味が持てるか」では、92.0%の大変高い満足度が得られている。

〈安心・快適性〉に関する4設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「職員の接遇・態度」では、86.0%の大変高い満足度が得られている。

〈あなたを大切にしてくれるか〉に関する2設問は「気持ちを大切にしてくれるか」において、72.0%の高い満足度が得られている。

〈嫌なことやしてほしいこと〉では、「困ったり、してほしいこと」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「職員以外へ相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	46	1	1	2
「はい」が92.0%、「どちらともいえない」が2.0%、「いいえ」が2.0%、「無回答・非該当」が4.0%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「いろいろなカードゲームがあったの嬉しい」、「友だちがいっぱいいて楽しい」、「遊びを増やしてほしいです」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	36	7	2	5
「はい」が72.0%、「どちらともいえない」が14.0%、「いいえ」が4.0%、「無回答・非該当」が10.0%であり、高い満足度であった。自由意見では、「聞いてくれる」、「先生と仲良し」、「先生が忙しい時は難しいです」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	40	9	0	1
「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が18.0%、「無回答・非該当」が2.0%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「いろんなおかしが出て、おいしい」、「美味しいし楽しい」、「遊ぶ時間とかぶることがある」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	27	5	0	18
「はい」が54.0%、「どちらともいえない」が10.0%、「無回答・非該当」が36.0%であった。自由意見では、「みんなの意見をきいてくれる」、「みんなと話すからわからない」、「意見を出していない」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	33	6	1	10
「はい」が66.0%、「どちらともいえない」が12.0%、「いいえ」が2.0%、「無回答・非該当」が20.0%であった。自由意見では、「ルールを守らない時に説明してくれる」、「走ったらぶつかってあぶないよとか」、「あまりおぼえていない」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	33	12	4	1
「はい」が66.0%、「どちらともいえない」が24.0%、「いいえ」が8.0%、「無回答・非該当」が2.0%であった。自由意見では、「すごいきれい」、「おもちゃの片付けが違う場所に入っていることがある」、「トイレもう少しきれいだと良い」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	43	3	1	3
「はい」が86.0%、「どちらともいえない」が6.0%、「いいえ」が2.0%、「無回答・非該当」が6.0%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「「ちゃん」をつけたりしている」、「同じ名前だと呼ばれた時に分からない」、「手伝ってほしいときに手伝ってくれない」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	42	2	1	5
「はい」が84.0%、「どちらともいえない」が4.0%、「いいえ」が2.0%、「無回答・非該当」が10.0%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「だいじょうぶ？ときいてくれる」、「ケガや熱のとき、たすけてくれました」、「一人の先生のみ。他の先生は助けてくれます」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	39	4	0	7
「はい」が78.0%、「どちらともいえない」が8.0%、「無回答・非該当」が14.0%であり、高い満足度であった。自由意見では、「すぐ、たすけてくれる」、「止めてくれる」、「言ったらたすけてくれます。先生が気づいてないときもある」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	36	6	0	8
「はい」が72.0%、「どちらともいえない」が12.0%、「無回答・非該当」が16.0%であり、高い満足度であった。自由意見では、「ちゃんとおぼえている」、「先生の気持ちはあまりよくわからない」という声が聞かれた。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	24	3	0	23
「はい」が48.0%、「どちらともいえない」が6.0%、「無回答・非該当」が46.0%であった。自由意見では、「いわないでくれる」、「そういう話を先生にしないからわからない」、「ないしょのはなしをしたことがない」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	29	8	1	12
「はい」が58.0%、「どちらともいえない」が16.0%、「いいえ」が2.0%、「無回答・非該当」が24.0%であった。自由意見では、「今はあまり困ってない」、「つたえたことがない」、「そういう機会がないからわからない」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	10	4	12	24
「はい」が20.0%、「どちらともいえない」が8.0%、「いいえ」が24.0%、「無回答・非該当」が48.0%であった。自由意見では、「おともだちにそうだしればいよいよおしえてくれた」、「該当することがない」、「知らなかった」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/> 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく <input type="radio"/> 非該当
	カテゴリ1の講評	
	運営計画などは職員・保護者に説明し、ともに子育てを支える関係づくりに努めている 杉並区学童クラブ運営指針・杉並区子ども家庭計画に基づいて、学童クラブ運営計画(直営)を作成、年度初めに職員に説明している。重点目標として①子ども一人ひとりの尊重と安心、安全のために②子どもの健やかな成長のために③子育て支援のために、という3項目に具体的な計画を上げている。事業所が目指していることなどは、区共通の入会案内およびクラブ作成のしおりを配付し、保護者会で説明している。事業所が目指していることを丁寧に説明することで保護者とともに子育てを支え合える関係づくりに努めている。	
	職員は個人目標を設定して、運営計画の実現に努めている 学童クラブ運営計画(公設)は、経営層のみならず職員全員が作成にも責任をもって関わっている。館長は、年度初めに全職員に学童クラブ運営計画や方針を改めて伝えるとともに、自らの役割と責任を職員に示し、職員一人ひとりの役割を確認している。職員が組織目標を理解した上で、日々の業務に反映させられるように、目標申告シートに記入して個別面談を行い、運営計画達成のための個人目標を設定している。館長はリーダーシップをもってミーティングを進め、常に職員とのコミュニケーションを心がけ、個人目標を達成できるように支援している。	
	重要案件はミーティングや保護者会やメールなど様々な方法で周知している 学童クラブの運営における重要な決定事項や共通案件は、館長会において通知され、職員ミーティングで周知している。現場の権限以上の個別の事案に関しては、児童青少年課各係と協議し、事案決定基準に基づいて決定している。保護者には毎月発行しているクラブだよりや入退室・連絡メッセージサービス機能を使用して出退の時刻をリアルタイムで伝えるとともに、連絡メッセージ機能で決定事項やその経緯を周知している。重要な案件はメールや便り、保護者会でも周知を図っている。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー2の講評		
<p>保護者や職員、地域の意向を汲み取り、そのニーズを学童クラブ運営に反映させている</p> <p>事業所運営に関しては、いつでも館長に気軽に相談できる体制が整い、職員間でも相談できる体制を取っているため、個別面談で改めて職員から意向などが出ることなどはほとんどない。職員アンケートでも「職員はお互いに尊重し全職員で解決に向けて議論している」との声も出ている。連絡帳、個人面談、懇談会や父母会、行事後には感想や意見を聞き、第三者評価アンケートの他にも区全体で独自のアンケート調査を行い意向などを確認している。地域の情報は、館長会での報告や研修、関係協力機関から収集して運営に活用している。</p> <p>保健福祉計画等に基づく運営計画と予算の適切な執行を行っている</p> <p>児童青少年課・区政相談室窓口・保健福祉サービス苦情調整委員などの各窓口を通じて個別の要望や苦情の把握に取り組んでいる。区や子育て関係や福祉関係の情報は、区のホームページや区役所イントラネット、地域子育てネットワーク、中学校区地域教育推進会議などから把握している。中長期計画は学童クラブ単独ではなく杉並区総合計画・実行計画、杉並区保健福祉計画(子ども家庭分野)に基づいて、運営計画や目標を設定している。作成した計画に基づいて作成された配当予算の適切な管理と執行を行っている。</p> <p>目標達成に向けた進捗を毎月確認し、区に報告している</p> <p>学童クラブ運営計画の確実な執行のために、組織目標のほかに職員一人ひとりが個人目標を定めている。進捗確認としては、行事ごとに反省会や感想や意見を聞くことで、その時点の達成度合いや改善点を話し合っている。館長会では、区全体の情報を共有し、区内の一貫性を確認しながら進捗を確認している。当初計画から月ごとの計画報告を作成し、区に報告する体制が出来ている。進捗は区のほか保護者会やクラブだよりでも必要事項は報告し、運営状況が保護者にもわかるように努めている。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-3の講評

倫理や規程の周知を徹底し、法令順守や虐待防止に取り組んでいる

年度初めに、全職員対象の個人情報保護に関する事業所内研修を実施している。ミーティングでは、定期的に職員の倫理や規程について確認している。法や規範の改定時やほかの事業所でコンプライアンス違反が発生した場合には緊急的にミーティングを開催して、全職員に確認を徹底している。さらに、職員同士はチームとして日常的にお互いの言動を振り返り、虐待防止に向けた研修やミーティングを定期的に開催することで適切な運営体制を整え、万が一、事案が発生した場合には子ども家庭支援センター・児童相談所と連携し対応する体制を構築している。

苦情・意見・要望に対して児童青少年課と連携して対応する体制を構築している。

杉並区のホームページから、杉並区保健福祉サービス苦情調整委員会に自由に相談できることを保護者には伝えている。苦情調整委員は、2名が弁護士で1名が社会福祉司の計3名で交代で対応している。入会案内には児童青少年課窓口も記載している。児童青少年課、区政相談窓口の周知を図り、保健福祉サービス苦情調整委員周知のポスターを事業所内に掲示している。実際に苦情はないが、苦情のみならず意見や要望に対しても児童青少年課担当者で連携して対応する体制は構築している。

実習生や職場体験を受け入れ、地域の子育て支援活動も行っている

実習生や中学生の職場体験を受け入れている。保護者や家族も参加できる行事を開催し、地域子育てネットワーク連絡会にて地域のニーズ把握に努めている。桃一祭りやマラソン大会などの地域行事には積極的に参加している。地域貢献は児童館中心ではあるが、乳幼児の親子向け「ももいろじどうかんゆうキッズ」を開催し、0歳児対象の「ももっこベビー」でふれあい遊びや絵本の読み聞かせ、1歳以上の親子向け「ももっこキッズ」で体を動かす遊びや工作を行っている。ほかにも「土曜日も遊ぼう」「親子体験型安全教室」など様々な活動を行っている。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ4の講評		
<p>危機管理マニュアルと研修、訓練で様々なリスクに備えている 危機管理マニュアルを整備して様々なリスクに備えている。危機管理マニュアル災害編では、地震、火災、台風・風水害、光化学スモッグ・熱中症に備えている。事故編では、大規模事故、感染症、食物アレルギー、その他に備えている。それぞれのリスクに対して、研修や訓練を実施している。児童館内学童クラブの特性を活用して、合同で毎月複数の訓練をマニュアルに沿って実施している。区が策定している業務継続計画を事務室に掲示し、訓練のほかにも機会があるごとに万が一に備えて確認している。</p> <p>ヒヤリハットや事故報告を活用して、事故の発生防止と再発防止に取り組んでいる ヒヤリハットや事故報告を活用して、日々発生するリスクを分析して事故の発生防止と再発防止に取り組んでいる。事故報告は児童青少年課に報告し、ヒヤリハットは危機管理対策課に提出し、フィードバックを受けて運営に反映させている。食物アレルギーの場合、トレーを色分けすることなどで事故の発生を未然に防ぎ、ほかの事業所の事例なども参考に事故防止にあたっている。事故などの報道があった際には、職員間で共有し、襟を正している。災害発生時は保護者・職員ともに連絡や安否確認ができるようになっている。</p> <p>個人情報は区の規程に基づいて厳格に保管管理している 年度初めには個人情報保護に関する研修を実施し、実習生やアルバイトに対しても個人情報の保護についてその都度説明している。保護者には、入会の面談時に個人情報の保護と利用について説明し、同意書を受けている。個人情報に関する書類は、区の規程に基づいて管理保管および廃棄を行っている。共有すべき情報は、情報の種類ごとにまとめ、書類は年度ごとに確認して入れ替えしながら保管管理している。電子データは職員ごとにIDとパスワード、権限を付けて管理するなど、厳格に定め運用している。</p>		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	3/3
----------------	----------------------	-----

評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる	評点(〇〇〇)
---	---------

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-5の講評

事業所の現状や要望を児童青少年課に上げ、運営に現場の声を反映させている
 事業所の人材確保や育成に関しては、児童青少年課全体で対応している。館長は個別面談などで職員の意向や適正を把握し、児童青少年課課長ヒヤリングで事業所の現状や課題、現場からの要望などをあげて適正な職員配置や異動を求めている。また、ミーティングでも職員の意見を収集し、働き甲斐のある職場づくりに反映させている。適正配置を目指してはいるものの、保護者と信頼関係が構築されているため今回の保護者アンケート調査でも「慣れ親しんだ職員異動が残念である」などの声が上がっていた。

人材育成計画に基づく研修で、職員の成長を支援している
 杉並区職員人材育成事業実施計画に基づいて、児童青少年課課内研修予定が作成されている。研修終了後は、研修報告とミーティングでの伝達を行い、研修報告には館長が必ずコメントを記載して、職員のさらなる学びを促している。新規採用職員については、指導担当職員を決め、その職員に対しても研修を行っている。就業前後に毎日打ち合わせを行い、情報交換及び対策を話し合い、業務改善に活かしている。児童館全体でも打ち合わせを行い、問題意識の共有を図っている。

ミーティングや日々のコミュニケーションから職員の気づきの共有を図っている
 ミーティングや日々のコミュニケーションの中で、職員はお互いの気づきを共有し、サービスの向上や業務改善につなげている。運営計画も職員全員が作成に関わり、自分たちの計画との意識も高く運営にあたっている。子ども・保護者・地域などのニーズや課題の把握に努め、その改善策を検討している。職員がフラットな関係で意見交換ができ、計画や目標の達成に向けて信頼関係を構築し組織的に取り組む体制が出来ていることから、104名の定員で、かつ特別な支援が必要な児童を積極的に受け入れることができている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

<課題・目標>

子ども一人ひとりの個性を大切にしながら、穏やかで安定した気持ちで過ごせるよう丁寧な対応や声かけ、配慮をする。

<課題抽出の理由>

目まぐるしく過ぎていく毎日を頑張っている子どもたちなので、集団行動よりは個性を大切にしたいと考えている。一つの行事についても皆が同じことをするのはなく、その子の得意な部分で取り組めるように配慮したいと考えたため。

<取り組み内容>

子どもたちが主体的に関わり、達成感をもって終わられるような企画とした。
また、主体的に関わりたい子、裏方で関わりたい子、準備のみ関わりたい子など、子ども一人ひとりの思いを尊重した企画とした。
「なんでもお楽しみ会」内容も含めて子ども主体で開催した。
児童館と合同でおやつ作りを行った。
異世代交流や特別な支援が必要な子どもとの交流を進めた。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

< 講評 >

限られたスペースと職員数の中で定員まで受け入れ、特別な支援が必要な子どもも積極的に受け入れ、なおかつ一人ひとりの子ども心身に気を配り、ストレンクスを活動に活かす取り組みには、職員の高いスキルが要求される。以前より実践されてきたことと思われるが、コロナ禍で出来なかった行事に取り組むことができたことから職員の行事への取り組む意識がさらに高まり、結果子どもたちの関心や意欲を高めることにつながっている。またその意識が職員・子どもたちともに、日常の遊びの中で個性を大切にすることに結びついている。「障害のあるお子さんを困らなくてほかに子どもたちが自然にやり取りをしている」「子どもの得意なものに着目して、皆の前で披露する場を設けてくれるなど異年齢で楽しく遊べている」「身体障害があるものの、発達センターの先生などとも相談してたくさん工夫をもらっている」「たくさん子どもが利用しているにも関わらず、職員の方がよく見てくれていると感じる」「子どもの少し元気がないな、など小さな変化にも気付いて連絡をくれる」などの保護者のアンケート結果からも取り組みの効果が見て取れる。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

<課題・目標>

子どもの更なる安全・安心を進めていく。

<課題抽出の理由>

現在限られたスペースや職員の中で定員いっぱいの104名が在籍し、要支援の子どもも積極的に受け入れている。児童館併設のため、多くの異世代と交流できるメリットもある反面、高くなるリスクから子どもの安全を担保する必要がある。さらには、侵入犯罪のリスクや下校時に事故や犯罪に巻き込まれるリスクなども年々高まっている。子どもの出欠確認や、保護者は何時に帰ったのか不安である。

<取り組みと結果>

ヒヤリハットや事故報告を活用して、リスクを分析して事故防止に取り組んでいる。事故報告は児童青少年課に報告、ヒヤリハットは危機管理対策課に提出、フィードバックを受け、ほかの事業所の事例なども参考に事故防止にあたっている。緊急時の連絡や安否確認は、保護者・職員ともにシステムでできるようになった。欠席などの連絡や子どもの入退室の状況を確認できるシステムを導入したことで、保護者の安心と利便性の向上を図った。また、子どもの下校時には見守り活動を行い、侵入防止訓練を実施、侵入犯罪には入口にある事務所で侵入防止にあたり、子どもたちに被害が出ないように備えている。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行ってなかった(目標設定を行ってなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

<講評>

欠席などの連絡や子どもの入退室の状況を確認できるシステムを導入したとのことであったが、これだけ多くの子どもたちの管理をシステムで行ってなかったことが驚きでもある。連絡漏れや入退室管理が正確かつ効率化したことは、結果子どもと関わる時間も増えサービスの向上と保護者の安心につながっている。これだけのスペースに多くの子どもが集まり、児童館併設で、事故のリスクも当然高くなるが、事故報告やヒヤリハット対策が徹底されていて、子どもたちの安全が守られている。昨今、登下校時の交通事故の報道も多いことから下校の見守りは子どもにも保護者にも大きな安心を提供している。侵入犯罪対策も行われているが、児童館併設で人の出入りを限定できないため、万が一の発生時には全職員が最適な対応ができるように定期的な訓練実施を望みたい。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目 (カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評			
<p>区のホームページで情報は統一されており、子育てに関する情報が公表されている</p> <p>区立の学童クラブであり、独自のホームページやSNSなどは持たずに、区のホームページで情報が統一されて公表されている。桃井学童クラブとしては紙媒体で入会案内や資料を配付し、区のホームページでも公表している。また、区のホームページその他のWebからも資料がダウンロードできるようになっている。いつでも誰でも興味のある人は検索し、内容を見て確認できるようになっている。</p> <p>学童クラブの案内や情報が、子どもが見ても分かりやすく工夫して提供されている</p> <p>区役所以外には、小学校や保育園などにも入会案内を配布している。資料の内容は表形式で見やすく整理したり、微笑ましいイラストなども入れることで保護者はもとより、子どもにも分かりやすい表記となるよう工夫している。また、案内情報などは子どもや保護者にも目につくような場所に随時掲示を行い、アナウンスがされている。</p> <p>情報は行政や関連施設に提供し、入会案内に基づいた説明や、見学会を実施している</p> <p>学童クラブの活動や運営内容は、子育てネットワークを通じて、行政や保育所、幼稚園、小学校などに提供しており、区の児童青少年課がとりまとめや整理をして資料が作成され、広報や情報提供がされている。問い合わせや見学希望者があれば、クラブの常勤職員が丁寧に随時対応している。特別に配慮が必要な児童に対しても、スキルと経験豊富な常勤職員が細やかに対応している。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入会説明会や個別面談を行い、学童クラブ利用の事前不安を取り除く説明をしている</p> <p>毎年3月上旬に新年度の入会説明会を開催して全体説明を行っている。希望者には個別面談を行い、事前説明に対する更なる質問などがあれば回答し、一人ひとりの「入会面談記録」を作成している。オモテ面は全員に対して記入し、ウラ面は特別な支援が必要な児童の場合に記入するルールになっており、子どもや保護者の意向の確認と記録化を行っている。各種の同意書を提出してもらうと共に、配慮が必要な子どもの場合は「すばるシート」も入会後に提出してもらう流れになっている。</p> <p>入会時には利用者情報を記録・共有化し生活の変化による影響に備えている</p> <p>入会決定後は、利用開始前に重要な情報収集として「学童クラブ児童台帳」を作成し、個々の家族状況や自宅までの地図、子どもの健康状況など詳しい記録を得ている。開始から子どもがクラブの行き来に慣れるまでは、保護者が同行してクラブ室に来てもらうようにしている。早い子どもの場合は1週間程度で慣れるが、子ども個々のペースに合わせて保護者と相談しながら進めている。日々の保護者とのコミュニケーションは連絡帳と、今年から導入した「安心でんしょぱと」というアプリの運用により行っている。</p> <p>利用終了時には支援の継続性に配慮して、次の生活に丁寧につなげている</p> <p>利用にあたり保護者からは同意書を得ている。入会時には関係機関からの情報を得て、受け入れや日々の活動に役立てており、日誌の記録も行っている。利用終了後にも保護者の意向があれば、移転先などに情報提供を行い、子どもにとってストレスのないスムーズな移行が出来るように配慮している。また、学童クラブ退所後や卒業生も希望者には引き続き児童館として利用できるように対応している。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>就業前と終業後は毎日ミーティングが行われ、職員全員が確認と情報共有を行っている</p> <p>全体計画としては年間事業計画書が作成され、日々の利用状況や事象などは学童クラブ日誌で記録されている。毎日、就業前と終業後に学童クラブの常勤職員と非常勤職員が参加する短時間のミーティングを実施している。伝達事項、予定、インシデント、課題などを15分程度で全員に情報共有できる場を作っている。その内容は「共有ノート」に記述され、いつでも見て確認が出来るようになっている。必要な記録を残すことで、職員間の情報を目に見える形でいつでも確認できるような環境を整えている。</p> <p>育成支援が必要な子どもも安心して利用できるような環境づくりをしている</p> <p>障害など配慮が必要な子どもには、「個別育成支援計画」として、①特別支援児童プロフィール資料、②学童クラブ特別支援児童巡回指導事前資料、③年度学童クラブ特別支援児童育成報告書の3種類の資料を職員が作成して運用している。支援が必要な子ども一人ひとりの状態や支援内容が個別及び具体的に管理運用されている。育成支援の目標や計画は、毎年5月もしくは6月に行われる保護者会で丁寧に説明され、その結果は保護者会記録として残され管理されている。</p> <p>利用者の課題を一人ひとりの支援計画に反映し、定期的な見直しを行っている</p> <p>日々の活動はクラブ日誌に記載され、個別の活動や状況は連絡帳やアプリを通して保護者に日々連絡している。支援活動の質向上のための事例研修として、区の杉並区子ども家庭部児童青少年課が主体となり随時行われており、10～15講座は開催されている。研修後は報告会としてフィードバックが行われている。研修は常勤だけでなく非常勤も受講していることで、子ども一人ひとりの理解を深めるための効果的な勉強会となっている。</p>			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>個人情報やプライバシー保護に関して、説明したうえで同意書を得ている</p> <p>プライバシー保護に関しては、入会時に利用者全員から同意書を取るとともに、随時口頭での確認も行っている。同時にマニュアルの整備もなされ、区の児童青少年課により作成された「児童館・学童クラブ運営マニュアル」に各種の対応が網羅されている。また、保護者との関係はもとより、子どものやりとりの中でも、ほかの子どもに対する配慮を行っている。</p> <p>虐待を未然に防ぐような意識が、職員の現場に浸透している</p> <p>虐待あるいは虐待が疑われる事象の対応に対しては、職員は常にアンテナを張りながら、必要に応じて関係機関との連携が取れるように体制を整えている。虐待対応マニュアルの徹底と、区が行う研修を毎年職員は受講し、職場報告で共有化している。虐待未然防止のため、マニュアルの確認を行うと同時に、新たな学習の機会を持つことに努め、学び続ける姿勢と意識が職場に浸透することを目指している。</p> <p>子どもの価値観や意向、そして生活習慣を尊重する支援に努めている</p> <p>子ども一人ひとりの意思を尊重し、子ども自身が自ら考え判断して行動できるようにしている。また、日々の活動を通して体験の機会を提供できるように工夫している。子どもとも個人面談を行い、面談で得られた子どもの価値観や、生活習慣、個別の意向などを丁寧に吸い上げ、職員間で共有し、子どもの成長に意味のある支援につながるよう努めている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	1/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(○●●)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
○あり ●なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
○あり ●なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(●●)	
評価	標準項目		
○あり ●なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
○あり ●なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映している	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>マニュアル類の定期的な改定基準が明確でなく、都度対応となっていることが憂慮される</p> <p>区が作成する運営マニュアル、危機管理マニュアル、虐待防止マニュアル等が整備されており、事務室に置かれいつでも確認できるようになっているが、定期的な改定基準は現時点では明確でなく不定期で、長期間改定・見直しが行われていないものもある。事務処理手順はパソコンアプリの使い方のような一部(さざんかねっと=杉並区公共施設予約システム)がある程度で、いわゆるワークフローが整理されているようなものは作成されていない。手順書やマニュアルで確認することもあるが、日常的に振り返る存在になっていないことが憂慮される。</p> <p>業務はワークフロー化し、子どもの意見を反映できる環境づくりが期待される</p> <p>マニュアル類は区が統一的にまとめており、現場の学童クラブは区の統一基準の中で行うことが指示されているため、業務の標準化に対して施設独自の部分もリーディングが出来る位置づけではないことが標準化を遅らせている一因と思われる。保護者や子どもから上がった意見や要望などには丁寧に対応し、区に上げると共に、作業標準(ワークフロー)を明確にして見える化へ変化させる環境づくりが今後は期待される。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
		27/27	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している			
		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもの全体的な姿を共有しながら支援している 児童台帳や会議を通じて、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握し、職員間で共有している。入会後は、1学期ごとに面談を実施し、特に1年生については必須で面談を行い、適切な支援ができるよう努めている。日々の利用者は平均80名程度であり、保護者は前日17時までにアプリを通じて子どもの出欠を連絡する仕組みとなっている。朝にはスケジュールを掲示し、職員間で情報を共有している。子どもたちの状況については、口頭での伝達に加え、日誌に記録することで、出勤時間の異なる職員も日々の情報を把握しやすいようにしている。</p> <p>子ども同士が尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している 育成時間中は同学年で過ごすことが多いが、ゲームなど遊びの内容によっては異年齢で関わる姿も見られている。おやつ時間は下校時間や帰宅時間に合わせて、3グループに分け、順番に提供している。子ども同士のトラブルについては、自分たちで話し合い、解決できるよう見守ることを基本としているが、状況に応じて声をかけることもあり、双方の気持ちを聞いたり、必要に応じてアドバイスを行ったりするなど、年齢に応じた対応を心がけ解決できるように促している。</p> <p>配慮が必要な子どもも、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している 支援を必要とする子どもについては、1対1での対応を基本とし、生活の流れはおおむね決まっている。その日の様子や希望に応じて柔軟に対応し、やりたいことや館内で過ごしたい場所を選ぶように配慮している。おやつや食事については、2階でほかの子どもたちと一緒に過ごすこともあり、横に付き添い一緒に過ごす子どもの姿も見られるなど、子ども同士の自然な関わりを大切にしている。お迎えの際には、口頭で子どもの様子を伝えるほか、連絡帳を通じても情報を共有している。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している			
		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>発達段階に応じた生活ができるよう、環境の工夫をしている 児童館という特性上、活動や使用場所には一定の制限があるが、館庭での遊びや工作コーナーをはじめ、児童館と連携しながら遊びや活動の環境を充実させ、その範囲内で子どもたちが楽しめるよう工夫している。職員は、おやつ担当や支援児の担当、各部屋の担当を交代制で行い、バランスよく役割を分担している。また、漫画やカードゲーム、卓球、本など、子どもたちが自由に選べる環境を整え、それぞれの興味に寄り添いながら関わるようにしている。活動への参加は無理強いせず、必要に応じて声をかけながらサポートしている。</p> <p>学童クラブでのルールを子どもたちにわかりやすく伝えている 4月は新年度の始まりとして、子どもたちが集団行動に慣れることを目的とした活動を行っている。館内の使い方についても段階的に説明し、おおよそ1週間程度で生活に慣れることを目指している。1年生については、保護者の要望を受け、宿題をする習慣づけを支援している。4時間授業の日は、学童クラブで30分間宿題をする時間を設け、個別に声をかけながら取り組めるようにしている。また、3年生以上はタブレットを使用した宿題を行っており、4年生以上の子どもたちは図書室やクラブ室で学習に取り組むことができるようにしている。</p> <p>日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している 一人ひとりにロッカーがあり、ランドセルや学校から持ち帰った荷物を収納したり、作りかけの仕事を置く場所として利用している。荷物は週末には持ち帰るよう声をかけ、きれいに使用できるよう指導しているが、整理整頓ができていない場合もあるため、掲示でも注意を促している。忘れ物や名前のない持ち物については都度声をかけて注意を促しているほか、年末には大掃除を一緒に行い、整理整頓の習慣を身につけられるようにしている。ロッカーについては毎日使用する場所であるため、使いやすいサイズにすることを修繕希望として区へ提出している。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子ども同士が協力し達成感を得られるような行事を開催している</p> <p>年間を通じた行事は、段階的につながるよう工夫しており、夏の縁日ごっこ、秋のゲームフェスティバル、冬の発表会へと発展できるようにしている。日々の利用時間内では大規模な行事の開催が難しいが、季節の工作タイムとして、職員と一緒に壁飾りを作る活動を行っている。夏休みなど利用時間が長い期間には、じっくりと工作に取り組める機会を設け、子どもたちが創作活動を楽しめるよう支援している。また、難しいパズルに挑戦するなど、子どもたちの意欲や興味を引き出せるよう援助している。</p> <p>子どもの希望を取り入れながら行事内容の工夫を行っている</p> <p>リクエストボックスを設置することで、子どもたちの意見を取り入れる機会を増やし、主体的に行事に関わることができるように工夫をしている。今年度は、発表会で行うダンスの振り付けや使用する曲、楽器演奏の内容などにも子どもたちの希望を反映することができている。また、誕生日会は毎月実施し、担当者がプレゼントのカード(写真・メッセージ付き)を用意し、歌を歌ったり、誕生日の子が主役になれるゲームを行うなどして、みんなでお祝いし楽しく過ごせるようにしている。</p> <p>行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている</p> <p>毎月おたよりを発行し、月の予定や誕生日会、イベントの様子を写真付きで伝えている。入会書類に関する案内など、その時期に応じたお知らせも掲載している。区の規定に従い、配信は出欠連絡や全体的な連絡のみに限定されているため、従来通り紙で発行し、発行のタイミングについてはアプリで通知を行っている。これは、アプリで出欠連絡を行うようになったことで、連絡帳を開かない保護者が増えたことへの配慮である。おたよりの写真が白黒でわかりにくいという声や、写真販売を希望する保護者の声が寄せられており、今後の対応について検討している。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇)・非該当1
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
○あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	●非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している</p> <p>1年生に対しては毎日、児童館玄関の外で職員が出迎えを行い、子ども一人ひとりの表情や態度、言葉などからその時の様子を確認している。気になることがあればクラブ室の職員に伝え、適宜声をかけるなど、状況に応じた対応ができるようにしている。また、ほかの学年についても、いつもと違う様子が見られた場合には、職員が積極的に声をかけるなど、子どもたちが安心して過ごせるよう配慮している。また、学童に通う子どもたちの家族が参加できる行事も年3回実施するなど、家庭との交流の機会を大切にしている。</p> <p>育成時間では、子どもが見通しをもって過ごせるよう援助している</p> <p>夏休みなど長期休み期間中は、午前10時までは2階のクラブ室で宿題や勉強をしたり、図書室でDVDを見て過ごしている。その後、児童館が開くと1階へ移動し、館庭や遊戯室、玄関スペースなどを利用できる。午前中の遊戯室の利用については、グループを組み、時間を決めて交代で使用するようにしている。今年から、学校での夏休みのプール授業は廃止されたが、希望者を対象とした補講が実施されている。補講は学年ごとに時間が振り分けられているため、保護者からの連絡帳で予定を確認し、子どもたちが適切な時間に参加できるよう対応している。</p> <p>環境面では児童館との協力により育成時間の工夫を行っている</p> <p>児童館の部屋を活用しながら学童クラブとしての活動も行っており、育成時間では工作タイムやお楽しみ会などの行事などを企画し、子どもたちが楽しく過ごせる場を提供している。児童館は吹き抜け構造のため音が反響しやすく、「おやつ」「お迎え」など連絡が必要な場面において全体への声が届かず、放送を流しても音が聞き取れない状況が生じている。施設の老朽化や子どもの人数増加による修繕の必要性などもあり、環境設備面での課題は多く見られている。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当

評価項目5の講評

小学校と情報共有を行いながら子どもの育成に取り組んでいる

小学校や関係機関との情報共有については、保護者を通じて行うことを基本としているが、気になる子どもの姿については、担任教諭に連絡を入れることもあり、学童クラブでの様子を伝えるなどの情報交換を行うようになっている。場合によっては、担任教諭が子どもを学童クラブまで送り届けてくれるなどの対応もとられている。また、小学校や学童クラブに行きたくないと感じる子どもについて、保護者から相談を受けた時には、個々のケースに応じて適切な対応を検討している。

不登校などの課題について職員間で共通認識を持ち対応できるようにしている

不登校などの課題を持つ子どもに対しては、小学校と密に情報を共有しながら、子どもの気持ちに寄り添った援助を行う体制をとり、学校を欠席した場合でも学童クラブの利用を受け入れるケースもある。その場合は支援員の対応可能な時間内での受け入れとしており、お弁当を持参することが条件となっている。学校を欠席しても、担任が把握していれば学童クラブに来ることができるため、その際は子どもの表情や体調を注意深く見守り、個別に声をかけるなどの配慮を行っている。

配慮が必要な子どもの支援にむけて保護者や関係機関と連携を図っている

障害のある子どもや、発達面・養育環境で特に配慮が必要な子どもへの支援については、保護者及び関係機関と連携を図りながら支援を行っている。館内はエレベーターの利用も可能となっており、安全に移動できる環境を整えている。専門機関や学校、担任との情報共有については保護者を通して行い、必要な支援がスムーズに提供できるようにしている。また、子どもの課題や発達状況を踏まえ、援助方法や環境設定について職員全員で確認し、情報を共有しながら子どもが安心して過ごせるよう支援している。

6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当

評価項目6の講評

子どもが落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している

おやつ時間は3部制とし、お知らせボードで子どもたちに予定時間を知らせている。ゼリー、アイスなどを含めた4品程度が用意され、バイキング形式でトレイから好きなものを選ぶことができる。自由に席に座り、リラックスして過ごせる環境を整えている。誕生日会ではいつもと違うおやつ提供や、子どもたちの希望を取り入れアイスのフレーバーなどを選べるおやつ縁日など、特別なおやつを楽しむことができるように工夫している。また、クラブ父母会の好意により「アイスの日」や「かき氷の日」などの機会を設けている。

子どもの来所時間や帰宅時間を考慮し提供時間や内容に工夫をしている

学童クラブから学習塾や、サッカー、水泳教室などへ通う子どもたちも多いため、17時までには多くの子どもが帰宅している。平日の下校後は、おやつを食べてすぐに帰宅時間になってしまう場合もあるが、時間がない中でも子どもの希望を踏まえてゼリーや飲み物など簡単に摂取できるものを提供するなど、それぞれの子どものスケジュールに合わせて柔軟な対応をしている。

食物アレルギーなどの状況に応じたおやつを提供している

おやつ選択、購入にあたっては、添加物に配慮し安全な食材を使用することを心がけている。また、季節感のあるものを積極的に取り入れるなど、子どもたちの希望も聞きながら楽しく食べてもらえるようになっている。アレルギー児や個別対応が必要な子どもに対しては、事前に職員が対応を確認することで、子どもが安心しておやつを楽しめるよう配慮している。専用の皿を使用し、担当職員がダブルチェックを行うことで誤食を防ぎ安全に提供できるように努めている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(○)・非該当1
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
○あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	●非該当

評価項目7の講評

子どもが自分の健康や安全に関心を持てるよう援助している

手洗いやうがいの必要性について子どもたちに伝え、日常的に実践できるよう指導している。様々な場面で手洗いをを行うことをルールとし、おやつの前、遊戯室に入る前や館庭から室内に戻った際にも手洗いをを行うように伝えている。長期休み期間では食事前後も手洗いを徹底し、子どもたちが清潔な環境で過ごせるようにしている。ハンカチを持っていない子どもが多いため貸し出しを行っているが、返却が滞ることもあり今後の対応を検討している。また、体調が優れないときは職員に伝えるよう促し、早めの対応ができるよう心がけている。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当

評価項目8の講評

保護者からの意見や要望を吸い上げる体制があり、出来るところから対応を検討している

入所時の面談と1年次面談は必須だが、2年次以降の面談は任意で、保護者の負担を減らしている。保護者から相談があれば事情に応じた支援を行っている。何よりも日常的な保護者とのコミュニケーションを大切に考え、場づくりとして「保護者会」はもとより、任意の「父母会」も結成されている。また、保護者同士が交流できる場と情報共有の機会を提供することで支援につなげている。現在、弁当が必要な子どもへの対応は保護者会が行っているが、学童クラブの方で弁当をやってほしいという意見も多いので、今後の検討課題となっている。

いろいろな機会を逃さず活用して、保護者との信頼関係と協力体制を構築している

お迎えの時は短い時間であっても保護者に声かけを行い、さまざまな話をすると同時に、いろいろな話を聞きだす努力をしている。面談も保護者が望めば随時対応しており、保護者との「ラポール形成(信頼関係構築)」を行うことで、架け橋や気持ちを通じ合う信頼関係を構築するための多くの努力をしている。連絡は連絡帳だけでなく、今年から導入したアプリの活用を今後は拡大したいと検討している。連絡帳、電話、お迎え時の声かけ、アプリ導入など多面的な機会をとらえて保護者に信頼してもらえる協力体制を築いている。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子ともや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>「児童館内学童クラブ」の強みを活かして、つながりと活動を広げる支援をしている</p> <p>桜井学童クラブは「児童館内学童クラブ」としての強みがあるので、学童クラブ単独で参加することが制度上困難があることの解消として、児童館として参加する地域の行事に、クラブの子どもたちの積極的な参加ができるよう促している。そのほかにも、地域子育てネットワーク連絡会へ、学童クラブの「父母会」が参加できるように支援することで、人々のつながりの広さと深さを進めるよう推進している。</p> <p>近隣の別の学童クラブから当該桃井学童クラブに遊びに来る傾向がある</p> <p>近隣の桃井第一小学校の敷地内にある、桃一学童クラブとの交流も行っており、桃一学童クラブの子どもが当該桃井学童クラブにやってきて交流している姿が良く見られている。当該桃井学童クラブには同じ玩具が2セット用意されており、毎年予算の範囲の中で新しい玩具を計画的に買い増やしていることもあり、桃一学童クラブの子どもが、桃井学童クラブの子どもと一緒に遊んで交流を深めることができる環境となっている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-1	透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる
タイトル①	地域行事や連絡会に積極的に参加し、児童館中心ではあるが子育て支援に取り組んでいる	
内容①	<p>実習生や中学生の職場体験を受け入れている。保護者や家族も参加できる行事を開催し、地域子育てネットワーク連絡会にて地域のニーズ把握に努めている。桃一祭りやマラソン大会などの地域行事には積極的に参加している。地域貢献は児童館中心ではあるが、乳幼児の親子向け「ももいろじどうかんゆうキッズ」を開催し、0歳児対象の「ももっこベビー」でふれあい遊びや絵本の読み聞かせ、1歳以上の親子向け「ももっこキッズ」で体を動かす遊びや工作を行っている。ほかにも「土曜日も遊ぼう」「親子体験型安全教室」など様々な活動を行っている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-1	子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している
タイトル②	日々の活動は全ての子どもに対して安全に安心できるものとして実践されている	
内容②	<p>「共有ノート」で常勤職員も非常勤職員も活動、伝達、情報共有がされている。日々のミーティングは、就業前と終業後に短時間で毎日行われ、共有ノートが学童クラブの重要な情報ツールとなり運営されている。個別育成支援計画は、区の児童青少年課が作成した複数のシートを使って作成と運用がされており、手厚く丁寧に行われている。保護者のアンケートにも「障害があるお子さんも受け入れており、その子たちを囲んで他の子どもたちが自然にやり取りをしている」などの意見があがるなど、安心で安全な活動が行われていると評価されている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	子どもたちの自立について、見守りながら支援している	
内容③	<p>子どもたちが「自分でやってみる」ことを大切にしながら、必要に応じて助けを求めたり、友達同士で協力したりできるよう見守りながら支援している。また、自分の1日の見通しを持ち、遊びや勉強の時間を主体的に考えられるよう促している。時間の管理についても意識できるよう、時計を読めるように指導するとともに時間の感覚を養うことができるような工夫をするなど、子どもたちが日常生活に必要なスキルを身につけ、自立した行動ができるよう支援している。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保護者からも安心安全に通える場所としての意見が多く寄せられている
	内容	今回の保護者アンケートには、「子どもが楽しく通っている」、「障害があるお子さんも受け入れている」、「遊ぶスペースは沢山ある」、「子どもが飽きずに楽しく通っている」、「設備や人といった環境が安心できる場所なのだと思う」、「先生たちがとても明るいです」、「異年齢で楽しく遊んでいる」、「職員の対応が丁寧」、「小さな変化にも気づいて連絡をくださる」、「いろいろな遊びを教えてください」などの意見が多く寄せられており、保護者にとっても学童クラブが安心して子どもを預けられる場所になっていることが読み取れる。
2	タイトル	子どもたちが主体的に遊びを楽しめるよう支援している
	内容	学童クラブでは、子どもたちが「来たらなんでもできる場所」と感じられるような環境を大切にしている。自由に遊び、学び、友達と関わる中で、自分のやりたいことを見つけられる場でありたいと考えている。また、学童クラブだけでなく、近くの公園など外の環境でもどのように遊び、どのように約束を守るべきかを学び、児童館以外の世界にも視野を広げてほしいという願いがある。そのために、遊びの誘い方や声のかけ方など、人との関わり方を身につける機会を大切に、主体的に遊びを楽しめるよう支援している。
3	タイトル	子どもを常に中心に、保護者も職員も共に育ち合うような場となっている
	内容	子どもや保護者の信頼関係が厚く、限られたスペースや職員の中104名の定員を満了し、要支援の子どもも積極的に受け入れている。子どものストレングスを活動に活かし、たくさんの子どもの中にもあっても一人ひとりの子どもに寄り添った対応をしていることが「親が気づかない子どもの成長は学童クラブからの情報を頼りにしている」「特別な支援が必要な子どもを困らなでほかの子どもたちが自然にやり取りをしている」などの保護者アンケートからも明らかである。子どもを常に中心に、保護者も職員も共に育ち合っていることを確認することができる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	当学童クラブの現場に合わせた業務の標準化への取り組みに期待したい
	内容	様々な日々の業務を棚卸し細分化することで、業務に構造的な視点を持ちそれを慣習化させることを期待したい。それにより、業務の構造化とワークフローへの分析につながると思われる。区から降りてくる書類や各種マニュアルについては区の管轄となるが、現場で起きている日々の業務に関しては当学童クラブの職員による構造化を行うことで、業務の標準化につなげていくことを期待したい。
2	タイトル	異年齢での関わりでの促進を課題とし検討している
	内容	現在、集団の中で異年齢の交流が十分にできていない点を課題としており、上級生が下級生をアシストする場面を増やし、自然な関わりが生まれるようにしたいと考えている。また、イベントを通じて協力し合う機会を増やし、異年齢の子どもたちが互いに助け合いながら活動できる環境を整えることで、学年を超えたつながりを持つことができるような取り組みを検討している。
3	タイトル	児童館内学童クラブであることから侵入犯罪にはより高い意識で備えることが期待される
	内容	危機管理マニュアルを整備して様々なリスクに備えている。それぞれのリスクに対して、研修や訓練を実施し、児童館内学童クラブの特性を活用して、合同で毎月複数の訓練をマニュアルに沿って実施している。しかし、児童館内ということ出入りする人間を限定できないことから侵入犯罪のリスクは若干高いことが懸念される。防犯訓練も実施しているが、万が一の発生時には全職員が迅速に対応できるような体制づくりと、より高い意識で備えることを期待したい。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

令和 7年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	大輪 光宏	経営	H2201047
	②	伊藤 一郎	経営	H1601010
	③	高橋 利明	経営	H2101092
	④	北原 富美子	福祉	H1501011
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	本天沼学童クラブ			
事業所連絡先	〒	167-0031		
	所在地	東京都杉並区本天沼3丁目34番35号		
	TEL	03-3395-3803		
事業所代表者氏名	館長 宇野 千里			
契約日	2024 年	6 月	7 日	
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年	9 月	27 日	
利用者調査結果報告日	2025 年	1 月	9 日	
自己評価の調査票配付日	2024 年	9 月	10 日	
自己評価結果報告日	2025 年	1 月	9 日	
訪問調査日	2025 年	1 月	16 日	
評価合議日	2025 年	1 月	16 日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 館長 宇野 千里 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)安心で安全な子どもの居場所としての学童クラブ運営 2)個々の子どもたちの成長を導き見守る育成支援 3)保護者に寄り添った信頼される子育て支援 4)地域の中での子育て支援における関係機関とのつながりや協同 5)職員のコミュニケーション充実と職場の活性化</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に意欲と能力を高め、子ども目線に立って新たな課題に挑戦していく職員。 ・物事を公平な立場で考えることができ、子どもたち一人ひとりに向き合い寄り添える職員。 ・職層に関係なく思いやりを持って助け合い協調性のある職員。 ・風通しの良い職場となるように、お互いを認め合える職員。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人を尊重し、個性を理解して成長や発達を支援すること。 ・与えられた仕事は責任を持って取り組むこと。 ・常に職場の課題を見つけたり、地域のニーズを探求して業務を発展していくことができること。 ・子どもにも保護者にも信頼され、地域とのつながりも構築できること。 ・職員同士助け合いチームワークを大切にできること。

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である89名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生19名、2年生12名、3年生12名、6年生1名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

89

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
89	0	89
44	0	44
49.4	0.0	49.4

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が38.6%、「本人と家族」が54.6%、「家族が推察」が6.8%であった。総合的な感想に関する調査の結果は、対象者の88.6%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が6.8%、「ややよくない」が2.3%、「よくない」が2.3%であり、大変高い満足度が得られている。

項目別では、＜生活について＞に関する5設問は3設問において、大変高い満足度であった。特に「職員は話を聞いてくれたり、相談にのってくれるか」、「あなたの考えを職員は聞いてくれるか」では、84.1%の大変高い満足度が得られている。

＜安心・快適性＞に関する4設問は3設問において、大変高い満足度であった。特に「けが・体調不良時の対応」では、95.4%の大変高い満足度が得られている。

＜あなたを大切にしてくれるか＞に関する2設問は「気持ちを大切にしてくれるか」において、86.4%の大変高い満足度が得られている。

＜嫌なことやしてほしいこと＞では、「困ったり、してほしいこと」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	36	5	1	2
「はい」が81.8%、「どちらともいえない」が11.4%、「いいえ」が2.3%、「無回答・非該当」が4.5%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「みんなとあそべて、ボールあそびまでできるところがたのしいです」、「ペイブレードを工作できるところ」、「遊戯室でもっと遊びたい」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	37	7	0	0
「はい」が84.1%、「どちらともいえない」が15.9%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「前相談に乗ってくれた」、「嬉しかったことを聞いてくれました」、「忙しそうだなと思って話ができない時があります」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	33	5	5	1
「はい」が74.9%、「どちらともいえない」が11.4%、「いいえ」が11.4%、「無回答・非該当」が2.3%であり、高い満足度であった。自由意見では、「おやつが美味しい」、「大好きなお菓子がおやつに出るから」、「班に仲の良い子がいない」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	37	2	1	4
「はい」が84. 1%、「どちらともいえない」が4. 5%、「いいえ」が2. 3%、「無回答・非該当」が9. 1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「意見をまだ言ったことがないため、わからない」、「ちょっと待ってと言われて聞いてもらえない」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	35	5	1	3
「はい」が79. 5%、「どちらともいえない」が11. 4%、「いいえ」が2. 3%、「無回答・非該当」が6. 8%であり、高い満足度であった。自由意見では、「みんなが楽しく遊べるためにルールがあると教えてくれた」、「優しく教えてくれた」、「ルールについてわかっているのに何度も言われる」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	27	12	2	3
「はい」が61. 4%、「どちらともいえない」が27. 3%、「いいえ」が4. 5%、「無回答・非該当」が6. 8%であった。自由意見では、「たくさんきれいになりました」、「床に消しゴムのカスとかゴミがよく落ちている」、「トイレのにおいが気になります」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	41	2	0	1
「はい」が93. 2%、「どちらともいえない」が4. 5%、「無回答・非該当」が2. 3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「職員によっては、子どものことを嫌な感じで呼ぶ人もるので、悲しい気持ちになる」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	42	1	0	1
「はい」が95. 4%、「どちらともいえない」が2. 3%、「無回答・非該当」が2. 3%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	41	1	0	2
「はい」が93. 2%、「どちらともいえない」が2. 3%、「無回答・非該当」が4. 5%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「何があったか聞いてくれる」、「話は聞いてくれるけど、どっちが悪いかのジャッジが納得できない時がある」、「今までなかったから」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	38	4	0	2
「はい」が86. 4%、「どちらともいえない」が9. 1%、「無回答・非該当」が4. 5%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「みんな大切です」、「優しい」、「『大切にされてる』かどうかは人によって違うのではないかな。自分は大切にされてるかどうかははっきりいえない」という声が聞かれた。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	29	3	1	11
「はい」が65.9%、「どちらともいえない」が6.8%、「いいえ」が2.3%、「無回答・非該当」が25.0%であった。自由意見では、「はいに決まってる！とのことです」、「子どもの障害のことを子どもに話しても良いかなど、事前にきちんとこちらの思いを聞いてくれて、子どもたち、親と職員、良い関係が築けています」、「そういうことは先生にも言いたくないからわからない」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	29	7	0	8
「はい」が65.9%、「どちらともいえない」が15.9%、「無回答・非該当」が18.2%であった。自由意見では、「嫌なことがあると帰宅後家で荒れますが、学童の日はそういったことがないので楽しく過ごしていると思います」、「ふつう」、「おやつが食べたくないものだったので、食べたくないと言ったけど、1つは絶対食べなさいと言われたのが嫌だった」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	19	5	4	16
「はい」が43.1%、「どちらともいえない」が11.4%、「いいえ」が9.1%、「無回答・非該当」が36.4%であった。自由意見では、「質問の意味がわかりません」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/> 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく <input type="radio"/> 非該当
	カテゴリ1の講評	
	学童クラブの重点目標を運営計画に掲げて職員全員で共有している 当学童クラブは、杉並区の公設公営施設で、児童館に設置されている。その基本方針は、杉並区学童クラブ運営指針や当年度の区の児童青少年課の組織目標を基に、児童館と学童クラブの目標を職員で話し合って策定し、運営計画に重点目標として掲げ職員全員で共有している。保護者には、区作成の「学童クラブ入会案内」や当クラブ作成の「入会のしおり」により、新入会説明会、保護者会などで伝えている。また、保護者との個人面談やその後の保護者会などを通じて、基本方針などを繰り返し伝えている。	
	打ち合わせや面談により職員の目指す目標を明確にしリーダーシップを発揮している 区の重要案件は、児童青少年課傘下の館長会で示達され、館長は年度当初に、全職員に向けて学童クラブの運営方針などを伝え、自身や各職員の役割を確認している。また、朝のクラブ打ち合わせや学童担当の打ち合わせなどで目指すべき方向性について全職員に都度徹底している。さらに館長は、目標申告シートをもとに年に2回程度、職員とのヒアリングを実施し、各職員の個人目標と照らし合わせて具体的な取り組みと達成度合いの検証を行うなど、リーダーシップを発揮している。	
	重要事項は保護者会やクラブだよりで伝達し、わかりやすく伝えている 重要事項は、児童青少年課館長会や説明会で通達され、館長はその内容を職員会や朝のクラブ打ち合わせ、学童担当の打ち合わせなどで常勤職員に伝達し共有している。また、非常勤職員に対しても口頭や回覧物などで確実に共有できるよう努めている。利用する子どもや保護者に対しては、保護者会や連絡帳、学童事業向けの情報共有アプリなどで適時伝達している。毎月発行されるクラブだよりには、当月の各種イベントやお知らせを掲載し、利用者、家族にわかりやすく伝えている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>利用者アンケートや「子ども会議」の設置など利用者ニーズを収集し運営に活かしている</p> <p>杉並区では、全学童クラブで利用者アンケートを実施し、その結果を職員で共有して子どもたちの意見や要望を収集している。また、子どもたち主体の運営となるよう「子ども会議」を設置し、その中で決まったことを可能な限り実現できるよう職員が力を合わせて取り組んでいる。年度はじめや夏休み前などには保護者会を開催し、保護者のニーズ把握に務め、職員の意向や提案は、職員会議や職員面談、各種打ち合わせ時や適宜職員からの相談などで聴取し、クラブの運営に活かすよう務めている。</p> <p>区の中長期計画をもとに年度の重点目標を定め、目標達成に向け取り組んでいる</p> <p>当学童クラブは、行政機関の施設であり、区の中長期の計画をもとにクラブの運営計画を策定している。区の計画は、杉並区総合計画・実行計画、杉並区保健福祉計画(子ども家庭分野)などマクロなもので、そこからプレイクダウンした児童青少年課のメゾ目標を具体化しクラブのミクロな単年度運営計画に反映している。単年度運営計画では、「子ども一人ひとりの尊重と安心安全」や「子どもの健やかな成長のために」などの重点目標を定め、さらにそれぞれの重点目標のもとに具体的な施策を列挙して、目標達成に向け取り組んでいる。</p> <p>毎月の月間運営状況報告など目標達成に向けた適切な評価を行っている</p> <p>運営計画の遂行のため、年度当初に担当、事務分担などを決めている。学童クラブ運営計画を基に運営し、各検証タイミングに応じて取り組み状況を検証し、毎月および年度末の運営状況報告を行っている。前年度の運営状況報告をみると、重点目標に対して実施した取り組み内容を記載し、さらに、それぞれの取り組みについての評価結果を記載しており、PDCAサイクルによる適切なマネジメントが確認できる。一方、評価は概ね定性的で、客観的に達成度合いを評価できる指標などがあればさらに良いと思われる。</p>		

3 カテゴリー3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー3の講評

公務員倫理や情報セキュリティを徹底して学んでいる

当学童クラブは公設公営であり、職員は全員公務員であることから、非常勤を含め全職員を対象に「公務員倫理」「情報セキュリティ」の職場内研修を徹底して実施している。倫理意識や情報セキュリティの理解度合いは、打合せ、ヒアリングを通して確認し、また、常勤職員に対してはハラスメントについての目標申告も実施して意識向上に努めている。さらに、児童青少年課作成の詳細な「児童館、学童クラブ運営マニュアル」を活用し、常に適正な業務運営となるよう務めている。

職員の言動の定期的な振り返りや評価分析の体制整備が期待される

苦情の受け付け体制については、当クラブや区の児童青少年課を苦情受け付け先とし、保健福祉サービス苦情調整委員制度等を入会案内などで案内している。虐待疑いの早期発見に対しては、育成室には複数職員を配置し、職員の対応について気づきがあれば、打合せ等で振り返りなどを行うこととしている。一方、人権擁護のためのセルフチェックリストなど、職員の言動の定期的な振り返りや評価分析の仕組みが導入されておらず、区の学童クラブ全体として今後の取り組みを期待したい。

地域の子どもの拠点として地域貢献・地域交流・地域協働に努めている

区の学童クラブでは、随時見学者を受け入れ、また、地域の子育てネットワーク地域連絡会等で活動内容、状況などを伝えている。ボランティア、実習生は、一元的に児童青少年課で受け付け、各学童クラブで受け入れている。また、クラブでは、近隣の沓掛学童クラブとの交流や親子交流行事などを通じて地域との交流を深めている。さらに、小学校地域子育てネットワーク地域連絡会や青少年育成会などと協働し、マラソン大会や、「ほんあまえんにち」(お祭り)などを開催し、地域交流に努めている。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>不審者侵入訓練などリスクに応じた訓練を実施し利用者の安全確保に努めている</p> <p>学童クラブでは、安全計画を策定し、計画に従い避難訓練、嘔吐時の対応、アナフィラキシー治療剤の使用方法などの研修受講や訓練を定期的実施している。危機管理マニュアルに従い、緊急時の防災無線や、学校110番を活用し、区と連携することとしている。安全計画を基に机上訓練や利用者も参加した訓練を実施している。不審者侵入訓練では、さすまたを使用した撃退を行うなど、リスクに応じた訓練を実施して有事に備え、利用者の安全確保に努めている。</p> <p>児童の安全確保の方針と確実な引き渡しについて、きめ細かく保護者に周知している</p> <p>事業継続計画は、区全体で作成しており全区民の安全確保やライフライン復旧のための計画となっている。学童クラブ固有のBCPは策定できていないが、南海トラフ地震など大規模災害を想定した場合、利用者児童の安全確保と保護者への確実な引き渡しを最優先課題とし手順をきめ細かく整えている。保護者に配付する「学童クラブ防災携帯カード」や保護者あて文書「災害時等の学童クラブ児童引き渡しについて」にて入会説明会や保護者会などで児童の安全確保の方針と確実な引き渡しについて周知を図っている。</p> <p>利用者の写真利用は同意書を取得し適正な情報管理に努めている</p> <p>学童クラブでは、区の規定に基づき、文書保存及び廃棄を実施している。文書保存、廃棄一覧、個人情報持ち出し管理簿を備え、各種文書は施錠できるキャビネットに入れて管理し、共有できるようにしている。PCはユーザーID、パスワードでアクセス制限し、個人情報を持ち出すときには、個人情報持ち出し管理簿に記載している。保護者には入会面談時に個人情報取得について説明のうえ、同意書を取得している。さらに、利用者の写真など肖像の利用についても事前に同意書を取得したうえで利用するなど、情報の適正管理に努めている。</p>		

5 職員と組織の能力向上			12/12
サブカテゴリ-1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当	

カテゴリー5の講評

正職員は定期的に異動することで幾つかの現場を経験し専門性を高めている

学童クラブの職員は、全員区職員で、人材確保については区の総務部および児童青少年課で対応している。杉並区職員人材育成事業実施計画に基づき計画的に運用されているが、公務員といえども人材の確保はタイトな状況で、当学童クラブにおいても一部の短時間職員に不足感がある。人事異動については、目標申告や異動希望調査を参考に実施し、特に正職員は定期的に異動することで幾つかの現場を経験し専門性を高めている。

職員一人ひとりにフォーカスした育成計画の策定が期待される

区が目指す職員像は「杉並区職員人材育成事業実施計画」に示されている。現場では、職員は個々の目標申告シートを作成提出し、それを基に所属長とのヒアリングを実施している。また、学童クラブの職員は、人事課人材育成係や児童青少年課が設定する各種研修を計画的に受講することとしている。一方、各職員の目指すキャリアプランに沿って、職員一人ひとりにフォーカスした育成計画は確認できなかった。職員アンケートでも、「個人別育成計画への育成成果反映」について不明瞭な回答となっており、個人別育成計画の制度化が期待される。

意見を言いやすい良好な人間関係の職場で、活力ある組織を創り上げている

館長は、常勤職員、非常勤職員ともに年に数回のヒアリングを実施し、職員一人ひとりの意向や希望、悩みなどを聴取しモチベーション向上に努めている。日々の打ち合わせなどを通じて、日常的に意見を言いやすい人間関係の構築を心掛け、特に、3名の主任層がチームワークの原動力となり、活力ある良好な職場環境を構築している。職員アンケートでも、「意欲や働きがい」や「良好な人間関係」、「チーム力」などについて、全職員がポジティブに評価しており、良好な人間関係の職場で、活力ある組織を創り上げていることが伺える。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

上級生が力を発揮したり、日常とは異なる特別感を味わったりできるようにする。
子どもたちが意見を出し合い、作り上げていく中で、考える力や協調性、社会性を培えるよう支援する。

【取り組み】

- ・班活動、班会議の実施
- ・アンケートや意見ボックスを配置して子どもの意見を収集し、運営に反映させる。
- ・「ほんあまえんにち」のお店など子ども主体での実施。
- ・3年生の有志児童が実行委員となり沓掛学童クラブとの交流会実施。
- ・子ども会議を開き、子ども主体で運営ルールを決める。

【取り組みの結果、振り返り】

- ・子ども会議で決めた意見を運営に反映させ、全員がそれを守り、気持ちよく過ごそうとする姿勢が見られた。
- ・上級生主導で会議を進めていくことで活躍できる場をもうけることが出来た。
- ・異年齢の班活動を行う事で、交友関係の幅が広がった。
- ・経験のない班活動の中で、様々なトラブルや課題が見つかった。
- ・子ども主体の企画が実施できなかった。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

クラブでは、コロナ禍で子ども主体での運営が困難であったため、「上級生が力を発揮し、日常とは異なる特別感を味わえる」ことや、「子どもたちが意見を出し合い、考える力や協調性、社会性を培えるよう支援する」ことを目標に取り組んだ。具体的には、子ども会議の設置や班活動・班会議を活発に行い、「ほんあまえんにち」のお店など子ども主体での実施や、3年生の有志児童が実行委員となり沓掛学童クラブとの交流会を行うなどをすすめた。その結果、子ども会議で決めた意見を運営に反映し、全員がそれを守り、気持ちよく過ごそうとする姿勢が見られるようになったとのこと。また、上級生主導で会議を進めることで活躍できる場が出来、さらに、異年齢の班活動を行うことで、交友関係の幅が広がったとのことである。一方、経験のない班活動の中で、様々なトラブルや課題も見つかり、また、子ども主体の企画が実現できないこともあり今後の課題と評価している。クラブでは、今後とも班活動を行うことで、異年齢の交流やクラブの一員としての自覚を促し、子どもたちの意見を運営に反映させ、子ども主体のクラブ運営に取り組むとしており、子ども主体のクラブ実現を期待したい。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

- ・保護者が安心して子どもを預けられるよう、こまめに子どもの様子を伝え合い、家庭と連携して子育て支援を行う。
- ・各家庭の子育て状況を把握した上で学校の先生との情報交換会を設けるなど、関係機関とのつながりを大切にし、連携した支援が出来るよう努める

【取り組み】

- ・個人面談、お迎え時や電話連絡などの日常的な丁寧な対応。
- ・学校との情報交換会、学校見学などの実施。
- ・その他関係機関との連携。
- ・出欠席の確認を職員間で再度見直し、児童の出欠席把握の徹底。

【取り組みの結果、振り返り、今後に向けて】

- ・学校と必要に応じて連絡が取り合える関係性を築き上げることが出来た。
- ・保護者に児童のクラブでの様子をこまめに伝えていたことが逆に保護者の不安を煽る要素にもなったケースがあった。
- ・丁寧な保護者対応を心がけていたことで、ささいなことも話してくれるようになった。
- ・出席確認をスピーディーに行ったことで、児童の所在を早急に確認することが出来た。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

クラブでは、子どもたちの安心安全な居場所を保つためには、保護者や関係機関との密な連携が重要とし、保護者が安心して子どもを預けられるよう子どもの様子を伝え合い、家庭と連携して子育て支援を行うこととした。また、各家庭の子育て状況を把握した上で小学校教員との情報交換会を設けるなど関係機関と連携した支援にも取り組んだ。個人面談やお迎え時など日常的な丁寧な対応、小学校との情報交換会、学校見学などの実施、その他関係機関との連携、児童の出欠席の正確な把握の徹底に取り組んだ。

取り組みの結果、学校と必要に応じて連絡が取り合える関係性を築き上げることが出来、出席確認を正確かつスピーディーに行うことで子どもの所在を早急に確認することが出来るようになったとのこと。一方、全体としては、保護者も丁寧な対応によりささいなことも話してくれるようになったが、保護者に児童のクラブでの様子をこまめに伝えていたことが逆に保護者の不安を煽りトラブルとなったこともあり、微妙な伝え方や頻度など、今後の改善課題であるとしている。今後も引き続き、小学校との連携に努め、保護者への丁寧で負担にならない対応に留意していきたいとしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目 (カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリー1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <input type="radio"/> 非該当
	サブカテゴリー1の講評	
	<p>多様な媒体と複数言語で情報提供を行っている 保護者や子どもたちが利用できる媒体を通じて学童クラブの情報を提供している。広報すぎなみや区役所HPでは、入会案内や申し込み方法が毎年適切に告知されている。また、利用案内はパンフレットや館内掲示により分かりやすくまとめられ、対象者や運営時間などの詳細が記載されている。加えて、複数の言語で情報を提供しており、多様な保護者への配慮が見られる。そのほかの複数の学童クラブについても、それぞれの特徴を明示し選択を支援している。</p> <p>行政や保育園と連携して情報共有を行っている 行政や近隣の保育園、幼稚園等に学童クラブの情報を提供している。行政には毎月利用児童数を報告しており、近隣保育園には入会説明会の案内やポスターを配布し、担当職員への説明も行っている。併設の保育園には直接案内を実施しており、園児が気軽に訪れることができる環境づくりにも取り組んでいる。こうした連携により、利用希望者や保護者への情報共有が円滑に行われるよう配慮している。</p> <p>問い合わせや見学に丁寧かつ柔軟に対応している 利用希望者からの問い合わせや見学の要望は電話で直接応じており、保護者が都合の良い日時で見学を受け入れている。特に、就労中の保護者への配慮として、土曜日や夕方などの時間帯にも見学に対応するなど柔軟な対応に努めている。保護者と子どもが同行しての見学が多く、併設する児童館の案内や子どもたちの過ごし方を詳細に説明するなどの配慮もしている。また、要望の多い時期には学童クラブ合同説明会を実施するなど、多様な方法で情報提供を行い、保護者のニーズに応える体制が整えられている。</p>	

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受け入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入会時には丁寧な説明で不安軽減を図っている</p> <p>入会時に子どもや保護者に対して丁寧な説明を行い、理解を得ている。入会面談や説明会では、基本的なルールや手続きについて資料を用いて説明するだけでなく、保護者や子どもに寄り添った受け答えを心がけ、不安の軽減や安心感の向上に努めている。面談では家庭の状況や子どもの健康情報を聞き取り、専用の記録用紙に記録している。また、保育園や幼稚園などからの情報の引き継ぎも行える体制を整えている。</p> <p>入会から退会まで一貫した配慮に努めている</p> <p>入会時に子どもの個別事情や要望を「入会面談記録」に記録し、必要な情報は職員間で共有している。利用開始直後には、連絡帳やお迎え時に子どもの様子を保護者に伝え、不安やストレスの軽減に努めている。また、上級生が下級生を支援する交流を取り入れ、クラブのルールや遊び方を自然に学べるよう配慮している。退会時には児童館事業の案内や卒会児の受け入れを通じて、生活の連続性を確保し、不安を軽減する支援を行っている。</p> <p>障害児支援の環境整備と包括的な配慮をしている</p> <p>障害や発達面で配慮が必要な子どもの受け入れに向けた環境整備と支援体制を整えている。入会時に保護者や保育園から生活状況を詳細に聞き取り、特別支援児童育成報告書などを活用して支援内容を具体化している。また、職員全体で特性を共有し、定期的な打ち合わせを通じて方針を確認している。子ども同士の理解を深める活動や職員が関係構築を支援する取り組みも行い、集団生活を円滑にする環境を整えている。加えて、必要に応じて加配職員の確保や物理的環境の調整を行い、安全で安心できる場を提供している。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
子どもの意見を反映し計画を柔軟に見直している 子どもの視点に立った育成支援の目標に基づき計画を作成している。日々の育成の中で子どもたちの意見を積極的に取り入れ、職員会議で共有し、活動への反映状況を評価している。アンケートを活用し、おやつやイベント内容など、子どもたちが望む活動を実現している。また、年度末の振り返りや日々の打ち合わせを通じて支援方法を見直し、必要に応じて計画を修正している。保護者会では育成目標や計画を資料として配付し、運営方法を詳細に説明している。			
詳細な記録体制で子どもの状況を適切に把握できるよう配慮している 子どもに関する記録を適切に作成する体制づくりに努めている。個人面談で得た情報は児童台帳に記録し、活動中の聞き取り内容も同様に記載している。日々の学童クラブ日誌には、子どものケガや体調の変化、友達とのトラブルなどを詳細に記録しており、必要に応じて連絡ファイルを活用して保護者に伝えている。また、支援児育成記録には、一人のひとりの状況や援助内容が具体的に記録され、時系列で特記事項を明確に記載することで、情報の整理と共有を目指している。			
職員間での情報共有体制を整え、課題も把握している 子どもの状況に関する情報を職員間で適切に共有する体制を整えている。日々の打ち合わせや随時の申し送りにより、必要な情報を職員間で共有し、打ち合わせ用資料や日誌に記録している。また、職員が育成支援方針を年度初めに共有し、育成記録をいつでも閲覧できる環境を整えている。ローテーションによる引き継ぎも行い、1階と4階で予定や連絡事項を確認できるようにしている。一方で、年度交代時の情報引き継ぎが課題として認識されている。			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>同意書とルールに基づきプライバシーを保護している</p> <p>入会時に個人情報の取り扱いに関する同意書を配付・回収し、情報の収集や利用について保護者の同意を得る体制を整えている。支援が必要な子どもの情報については、区が定める共通ルールに基づき対応している。また、写真利用については年初に保護者に確認し、外部利用の際には再度保護者に確認を取っている。個人情報については慎重な管理が行われており、子どものプライバシーに配慮した援助が実施されている。</p> <p>子どもと家庭を尊重し丁寧な支援を行っている</p> <p>日常の援助において子ども一人ひとりを尊重し、家庭の価値観や生活習慣に配慮した支援を心がけている。運営計画に基づき、子どもの意見を取り入れながら班活動や当番活動を実施し、子どもが自分の居場所と認識できる環境を整えている。日々の関わりでは些細な変化にも気を配り、必要に応じて職員全体で見守りと支援を行っている。また、保護者との個人面談や日々のやり取りを通じて家庭の情報を共有し、特性に応じた声かけや支援を実施している。</p> <p>いじめ防止とトラブル解決に向けた組織的支援が徹底されている</p> <p>子ども間の暴力やいじめを未然に防ぐための組織的な取り組みを徹底している。運営計画に基づき、安全な環境整備や日常的な危険箇所の点検を行い、トラブルの未然防止に努めている。トラブルが発生した際には、子どもたちの丁寧な聞き取りや話し合いを通じてわだかまりを解消し、保護者と情報共有を行いながら再発防止に取り組んでいる。また、学校との連携を密にし、学校でのトラブルや関係性を考慮した支援を行うことで、クラブ内外での問題解決を図っている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>手引書を活用し運営の手順を標準化している</p> <p>学童クラブが提供する支援の基本事項や手順を明確化するためのマニュアル書類を整備している。杉並区の学童クラブ運営マニュアルや危機管理、アレルギー対応、虐待防止に関するマニュアルを活用し、運営を標準化している。入会事務説明会資料では、入会手続きやおやつ代の管理手順を明示し、保護者向けに配付するしおりにはクラブの基本事項が記載されている。また、職員間でのトラブル対応についても運営マニュアルを基にルール化し、新入職員への教育にも反映させることで、一貫性のある対応を実現している。</p> <p>マニュアルを基に定期点検と改善を行っている</p> <p>提供するサービスが定められた基本事項や手順に沿っているか、定期的な点検と見直しを行っている。感染症対策については、シーズン前に対応方法を確認し、職員がいつでも閲覧できるよう掲示している。毎年度実施する利用者アンケートを基に、必要に応じてマニュアルの内容を改善している。また、避難訓練前には危機管理マニュアルを確認し、クラブの構造や環境に即した実施案を作成するなど、具体的な運用を職員間で共有している。マニュアルは日常的に、業務点検や問題解決の手段として活用されている。</p> <p>本天沼学童クラブ独自のしおりを見直し、意見を反映した改善を行っている</p> <p>支援や援助の向上を目指して業務水準や手順の見直しを行っている。区が作成する入会事務マニュアルや管理運営基準については、所管課による毎年の見直しに準じて運用している。また、本天沼学童クラブ独自のしおりは年度末に見直し・改訂を行い、職員が日常的に記録した修正点や、職員、保護者、子どもからの意見を反映して改善している。こうした取り組みにより、サービスの基本事項や手順の適正化が図られている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
		28/28
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
評価項目1の講評		
<p>子ども一人ひとりの発達状況や生活環境を的確に把握し、適切な援助を実施している</p> <p>入会面談で得た情報に加え、必要に応じて関連機関と連携し、実際の子どもの様子を確認することで支援の質を高めている。また、入会面談記録、個人面談記録、児童台帳、アレルギー調査表を活用し、職員間で情報を共有する体制を整えている。職員は、個々の配慮事項を把握し、一人ひとりに応じた支援を心がけている。特に、発達面で特別な配慮が必要な子には、職員が適切に関わり、他児との関係構築を促しながら、共に成長できる環境を整えている。学童クラブ全体として、子どもが安心して生き生きと過ごせるよう支援や環境整備に努めている。</p> <p>子ども同士が互いを尊重し合い、協力できる関係を築くことができるよう取り組んでいる</p> <p>異年齢の班活動やクラブ行事を通じて、子ども同士が互いを尊重し合い、協力できる関係を築くことを重視している。班の構成は1班8名程度の少人数制とすることで、自然な交流を促している。また、当番活動を通じて、子どもがクラブの一員として役割を担い、認め合える機会を提供している。特に、配慮が必要な子には、職員が適切に介入し、他児との交流を促すことで、班の中で無理なく活動できるよう支援している。こうした取り組みにより、障害の有無や文化・習慣の違いに関係なく、子ども同士が互いを理解し、受け入れる力を育んでいる。</p> <p>子ども同士のトラブルに対し、状況を把握しながら、解決へ導く支援を実施している</p> <p>トラブル発生時には、双方の子ども意見に耳を傾け、感情を受け止めたうえで、お互いの気持ちを適切に伝え合えるよう援助している。また、子どもの心理的負担を軽減するため、クールダウンのための空間を用意し、時間を置いて話し合いの機会を設けるなど、個々の特性に配慮した対応を行っている。さらに、感情の可視化を目的に、感情バロメーター表を活用し、子ども自身が自らの気持ちを整理し、表現できる力を養う取り組みもしている。これらの支援を通じて、子どもたちは感情のコントロールを学び、他者との円滑な関係を築く力を身に付けている。</p>		
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当
評価項目2の講評		
<p>子ども一人ひとりの自主性や自発性を尊重し、主体的に活動できる環境を整えている</p> <p>子ども会議を定期的に開催し、遊びの内容や学童クラブ生活のルールについて話し合う機会を設けているほか、子どもアンケートを実施し、子どもポストを活用し意見を収集している。提出された意見には職員がコメントを付し、掲示を行うことで、子ども達が自分の考えが尊重されたことを実感できる工夫をしている。また、子ども主体のイベント企画や運営を支援し、役割を持って活動できる機会を提供している。これらの取り組みにより、子ども達が自ら考え、話し合い、意思決定を行う経験を積み、主体性や協調性を身に付けられる環境を整えている。</p> <p>子どもが集団活動に主体的に関われるよう、多様な工夫を行っている</p> <p>学童クラブでは、実行委員会の募集やポスター作製、事前の声かけを通じて、活動への期待感を高め、積極的な参加を促している。日常の場面においても、おやつ時の当番活動や帰る前のゲーム会など、自然に集団活動を楽しめる機会を提供し、協調的な育成につなげている。また、トラブルが発生した際には、班会議を開き、職員が主導して話し合いを行い、子ども自身が解決策を考えられるよう援助している。さらに、子ども会議で提案されたルールは職員会議で協議し、子どもたちと合意のうえでルール化することで、社会性や責任感を育む機会となっている。</p> <p>子ども達が生活や遊びを通じて基本的な生活習慣を身につけられるよう、支援している</p> <p>手洗い、物の管理、挨拶などの習慣を定着させるための指導を行い、自他ともに気持ちよく過ごせる環境づくりに努めている。また、対人関係の面では、職員が適切な声かけを行いながら、互いを尊重し合う態度を養うよう援助している。特に、学童クラブでの生活が円滑に進むよう、子ども会議を活用し、ルールの策定に子どもたち自身が関与できる仕組みを整えている。職員は、子どもたちの意見を尊重しながら必要な場面で助言やサポートを行い、よりよい集団生活の形成を促し、適切な支援に取り組んでいる。</p>		

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3の講評

子どもが行事の企画・運営に主体的に関わり、自主性や協調性の育成に努めている

子どもが行事の企画・運営に主体的に関わる機会を提供し、自主性や協調性の育成に努めている。日常の会話を通じて子どもの「やりたいこと」を引き出し、実現可能な方法を職員と共に検討するほか、子ども企画アンケートを活用し、発言が苦手な子どもも意思表示できる環境を整えている。また、企画の準備段階では、子ども達がスタッフとして役割を分担し、ミーティングを重ねながら計画を進める仕組みを導入している。これにより、子ども同士の意見調整や責任感の醸成が促され、主体的な意思決定力や課題解決力の向上につながるよう努めている。

子どもが行事を通じて、協力しながら意見を交わす機会を積極的に設けている

子どもが行事を通じて主体的に活動し、協力しながら意見を交わす機会を積極的に設けている。子ども会議を開催し、子ども自身が司会を務めながら議論を進行することで、意思決定力の向上を図っている。会議ではタイマーを活用し、公平に意見を述べる環境を整えているほか、準備段階では子どもたちが役割分担を行い、計画から実施までを主体的に担う仕組みを構築している。これにより協調性や責任感を培いながら、一つの目標に向かって取り組む力を養っている。今後も、子どもが主体的に行事へ参加できる機会を増やす取り組みの継続を期待したい。

行事の準備・実施に際し、保護者の理解と協力を得るための工夫を行っている

毎月発行するクラブだよりを通じて行事の告知や報告を行い、情報共有を徹底しているほか、春の保護者会では年間活動計画を提示し、事前に行事の趣旨や目的を説明している。大型行事では、保護者会を活用して協力を募ると共に、安心でんしよばとや連絡ファイルの特記事項を活用し、確実な情報伝達を行っている。こうした取り組みにより、保護者の積極的な参加が促され、家庭との連携を強化しながら行事を運営している。保護者の協力を得ることで行事の充実度が高まり、子ども達がより意欲的に活動に取り組める環境整備に努めている。

4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇)・非該当1
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	<input checked="" type="radio"/> 非該当

評価項目4の講評

子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が快適で楽しくなるよう工夫している

運営や環境設定において、子どもの意見を積極的に取り入れ、一人ひとりの性格や特徴に応じた声かけを行うことで、安心感や自己肯定感を高められるよう配慮している。また、遊びの種類に応じたスペースを確保し、静かに過ごしたい子どもには休息のための環境を整えるなど、子どもが自分のペースで過ごせるよう工夫している。さらに、定期的な環境の見直しを行い、子ども達がより快適に過ごせる環境づくりを継続している。これらの取り組みにより、子どもたちは学童クラブでの生活に安心感を持ち、主体的に活動に参加できるよう取り組んでいる。

子どもが見通しを持ち、主体的に学童クラブでの生活を送れるよう支援している

学童クラブ到着後の行動をリスト化し、ホワイトボードに記載することで、1日の流れを理解し、自主的に行動できる環境を整えている。また、帰りの時間を個別に記載し、周知することで、子ども自身が時間を意識しながら行動できるよう工夫している。スケジュールの可視化により、子どもたちは生活リズムを安定させ、時間管理の習慣を身につけながら学童クラブでの時間を有意義に過ごしている。こうした取り組みを通じて、子どもたちは日々の活動に安心感を持ち、主体的に学童クラブでの生活を楽しむことができるよう配慮している。

子どもが快適に過ごしながら主体的に活動できる環境を整えている

子どもが安心して快適に過ごせる環境を整え、主体的に活動できるよう支援している。遊びの種類や子どもの特性に応じた空間を確保し、動的な遊びができるスペースと、静かに過ごしたい子ども向けの休息スペースを設けるなど、個々のニーズに対応した環境設定を行っている。さらに、子どもの意見を尊重し、日常の会話や子ども会議を通じて要望を把握し、環境の見直しや活動内容の調整に反映させている。行事やイベントでは、子どもたちが企画や運営に関わる機会を提供し、自らのアイデアを実現できるよう職員が適切に支援していることがうかがえる。

5	<p>評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもが円滑に学童クラブでの生活を送れるよう、学校と密に連携を図っている</p> <p>学童クラブでは、日常的に気になることがあれば学校と情報共有を行い、子どもの状況を適切に把握できる体制を整えている。また、年に1回、学童クラブと学校での生活について情報交換会を実施し、双方の視点を活かして支援の質を高めている。情報共有にあたっては、記録を作成し、職員間で周知徹底することで、支援の一貫性を確保している。さらに、緊急時には速やかに学校と連絡を取り合い、安全管理にも十分配慮している。これらの取り組みにより、学校と学童クラブの連携が強化され、子どもが安心して過ごせる環境が整えられている。</p> <p>学童クラブが安心できる居場所となるよう、個別の状況に応じた柔軟な支援を行っている</p> <p>不登校など課題を抱える子どもへの支援において、学校や保護者と綿密に情報を共有しながら、子どもの気持ちに寄り添った対応を行っている。普段から学校と連携を深めることで、子どもの状況を的確に把握し、適切な支援へとつなげている。特に配慮が必要な子どもについては、学校と適宜電話連絡を取りながら支援方針を調整し、学童クラブで安心して過ごせる環境を整えている。また、学校生活に不安を抱える子どもには、保護者と相談しながら必要な対応を検討し、支援の充実を図っている。</p> <p>特に配慮が必要な子どもへの支援を関係機関と連携して取り組んでいる</p> <p>障害のある子どもや養育環境で特に配慮が必要な子どもへの支援において、関係機関との連携を強化している。学校や福祉関係機関と定期的に情報共有を行い、ケース会議を通じて支援の方向性を確認することで、子どもの特性に応じた適切な援助を提供している。また、保育園、放課後等デイサービス、子ども家庭支援センター、児童館、医療機関とも連携し、総合的な支援体制を構築している。これらの取り組みにより、学童クラブが子どもにとって安心できる場となり、生活の安定や発達の支援が継続的に行われるよう取り組んでいる。</p>		
6	<p>評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもがおやつを楽しめるよう、落ち着いて過ごせるよう環境づくりに努めている</p> <p>異年齢の班を編成し、固定の席を設けることで、自分の居場所を認識しやすくし、安心して過ごせるよう配慮している。また、班会議を通じておやつ時間のルールを共有し、必要に応じて席替えを行うことで、より快適な雰囲気を保つ工夫をしている。さらに、月に1回誕生会を開催し、特別なおやつを提供することで、日常の楽しみの一つとなるような機会を設けている。こうした取り組みにより、子ども同士の関わりが深まり、安心して過ごす雰囲気の中でおやつ時間をより楽しめる環境づくりに努めている。</p> <p>子どもが主体的におやつを楽しめるよう、多様な工夫を行っている</p> <p>子どもが主体的におやつを楽しめるよう、多様な工夫を行っている。バイキング形式を導入し、子ども自身が食べたいものを選ぶようにすることで、自分で考えて選択する力を養う機会を図っている。また、定期的にアンケートを実施し、子どもの意見を反映したおやつを提供することで、満足度の向上につなげている。さらに、提供時間や量については、子どもの来所時間や夕食への影響を考慮し、無理なく楽しめるよう調整を行っている。こうした取り組みにより、子どもたちは自分の意思でおやつを楽しむことができる環境が整えられている。</p> <p>食物アレルギーを持つ子どもが安心しておやつを楽しめるよう、管理体制を整えている</p> <p>アレルギー児童一覧表や調査票を作成し、職員間で情報を共有することで、誤提供の防止に努めている。また、おやつ購入時には複数の職員が成分を確認し、アレルギー物質を含むものが提供されないよう徹底している。ナッツ類を含むおやつは一律に提供せず、すべての子どもが安全に食べられるものを選定している。さらに、アレルギーのある子どもには専用のトレーを用意し、職員の目が届きやすい席に配置することで、安全性を確保している。職員はアレルギー対応マニュアルを活用するなど、安全な環境のもとでおやつを提供できるよう努めている。</p>		

7	<p>評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが自ら健康や安全に関心を持ち、病気やケガを予防できるよう支援している</p> <p>感染症対策として、手洗いうがい・手指消毒を徹底し、換気や清掃、消毒をこまめに行うことで、衛生的な環境を維持している。また、咳が出る場合にはマスクの着用を促し、感染拡大防止に努めている。さらに、子ども達と共に感染症対策のポスターを作成し、注意喚起を行うことで、感染予防の意識を高める取り組みを実施している。おやつ前の手洗いも徹底し、個別指導を通じて衛生習慣の定着を図っている。これらの取り組みにより、子どもたちは日常生活の中で健康管理の意識を持ち、自ら安全に配慮しながら過ごすことができるよう取り組んでいる。</p> <p>子どもの健康状態を把握し、必要な対応を速やかに行う体制を整えている</p> <p>日々の視診を通じて子どもの様子を確認し、体調に変化がある場合には速やかに検温を実施し、必要に応じて静養室で休ませる対応を行っている。発熱が37.5度以上ある場合には速やかに保護者に連絡し、お迎えを依頼している。また、子どもの体調不良やケガの状況は、連絡ファイルや電話を通じて保護者に伝え、状況を共有している。さらに、学校でのケガについては、事前に保健師から情報提供を受け、適切な対応ができるよう連携を図っている。体調やケガに配慮が必要な児童は、家庭と連携しながら支援し、子どもが安心して過ごせる環境を整えている。</p>		
8	<p>評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の状況に寄り添い柔軟な支援を行っている</p> <p>保護者の子育てや就労状況に配慮し、個別支援を行っている。運営計画に基づき、個人面談や保護者会、日常の会話を通じて各家庭の状況を把握し、保護者の気持ちに寄り添った対応を心がけている。また、日々のやり取りや入会談で得た情報を基に、保護者の要望に応じた支援を提供している。さらに、退所後の自立を見据えた成長支援にも取り組んでおり、家庭と連携しながら柔軟で適切なサポートを実施している。</p> <p>保護者交流と職員との信頼構築を重視している</p> <p>保護者同士が交流できる機会を積極的に提供している。保護者会では、意見や情報交換の時間を設け、親子交流会や緑日を通じて保護者間のつながりを深めている。また、職員は日々の子どもの様子や成長について連絡ファイルや電話を通じて保護者に伝え、ケガやトラブル時だけでなく、日常的なコミュニケーションを重視している。保護者と職員の信頼関係が築かれ、子どもたちを支える環境が整えられていることがうかがえる。</p> <p>情報共有と安全確保に保護者と協力して取り組んでいる</p> <p>子どもの様子や発達の状況について保護者と共通認識を得る取り組みを行っている。個人面談の実施や、必要に応じた連絡ファイル、電話での情報共有により保護者と一体となった支援体制を整えている。また、安心でんしょばとを活用し、出欠席の管理を徹底し、不明点がある場合には迅速に確認を行うことで安全を確保している。さらに、学校との連携により、居残りなどで入室が遅れる場合も適切に対応し、子どもの安全と保護者の安心を両立させるよう配慮している。</p>		

9 評価項目9		地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当	
●あり ○なし		2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している		○非該当	
評価項目9の講評					
<p>地域資源を活用し多様な体験と交流を提供している</p> <p>地域資源を活用し、子どもたちが多様な体験や交流を持てる機会を提供している。児童館や公園、学校の体育館を活用した行事の実施に加え、ネイチャーゲームの会や近隣の高齢者施設の利用者との交流を行っている。また、保護者の協力を得て建築模型作りのイベントを開催するなど、地域と保護者の連携による活動も展開している。これらの取り組みを通じて、子どもたちが地域社会とのつながりを深め、多様な経験を積むことができる環境を整えている。</p> <p>地域行事を通じて幅広い交流機会を提供している</p> <p>地域の行事に参加し、子どもたちが地域の子どもや大人と交流できる機会を積極的に確保している。児童館と一体で運営しているため、地域の行事への参加や情報共有がスムーズであり、幅広い交流が実現している。例えば、「ほんあまえんにち」では保護者や地域の人々が行事や手伝いに参加し、子どもたちとの交流を深めている。また、隣接する高齢者施設の花火大会や中学校のお祭りへの引率参加など、多様な場面で地域とのつながりを築き、子どもたちが地域社会との関係を体験する機会を得ている。</p>					

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	安心・安全な居場所となるよう施設の安全管理、保守改修に取り組んでいる	
内容①	クラブは、別な出入り口の保育園と構造的に入り組んだ建物の1・2階と4階に所在し、50年以上経過した使いにくい構造の建物となっている。育成室は長い階段の上の4階で、外遊び場の確保のために、3階や4階にベランダや有事の際の避難階段を設置し、大人数の利用者の利便性と安全性を確保している。4階の酷暑対策として、昨年度はエアコン増設を実施し熱中症リスク対策に万全を期している。老朽化した建物であっても学童クラブが安心安全な居場所となるよう、施設の安全管理には特に力を入れ、設備保守や改修に取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-1	子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している
タイトル②	子ども主体の企画運営で自主性を促すことに力を入れて運営している	
内容②	子どもの主体性を尊重し、子どもが自ら企画・運営に参加できる取り組みに力を入れている。夏休みには子どもアンケートを実施し、やりたいことを記述してもらい、その内容を運営希望の子どもたちと職員が共同で検討している。コロナ禍で制限されていた活動が緩和される中、子どもたちが自由に希望を実現し、気持ちを解放できる環境づくりを進めており、子どもの意欲や自主性を伸ばす機会となっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	子どもの主体性を尊重し、自ら考え行動できる環境づくりに取り組んでいる	
内容③	子ども会議を定期的開催し、遊びやクラブ生活のルールについて話し合う機会を設けると共に、子どもアンケートや子どもポストを活用し、意見を収集している。提出された意見には職員がコメントを付し、掲示することで、子ども達が自分の考えが反映された実感が持てるよう工夫している。また、実行委員会の募集やポスター作製、事前の声かけを通じて、活動への期待感を高め、積極的な参加を促している。さらに、トラブル発生時には班会議を開き、子ども自身が解決策を考え、主体性や協調性を育みながら、行動ができる環境づくりに取り組んでいる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員間の情報共有体制が円滑で協力的に進められている
	内容	職員間の情報共有が円滑に行われており、正規職員だけでなく、パート職員や児童館職員とも連携しながら、育成支援に取り組んでいる。日々の運営中には随時申し送りを実施し、職員全体の打ち合わせで情報を共有している。また、日誌や打ち合わせ用ノートに記録を残すことで、情報の一貫性と正確性を保ち、ローテーションによる引き継ぎもスムーズに行われている。同じ予定や連絡事項を複数階で共有する仕組みが整い、協力体制が徹底されている。
2	タイトル	子どもが安心して快適に過ごせる環境を整え、主体的に活動できるよう支援している
	内容	遊びの種類や子どもの特性に応じた空間を確保し、動的な遊びができるスペースと、静かに過ごしたい子ども向けの休息スペースを設けることで、一人ひとりが自分に合った過ごし方を選べるよう配慮している。これにより、子どもたちは学童クラブでの生活に安心感を持ち、主体的に活動に取り組んでいる。トラブルが発生した際には、双方の子どもの意見を尊重し、クールダウンスペースを設置し、冷静に話し合える環境を整えている。さらに、感情バロメーター表を活用し、感情をコントロールしながら円滑な人間関係を築く力を身に付けられるよう努めている。
3	タイトル	全職員が力を合わせて課題解決に向かい、子どもたちも意見が言いやすい活力ある学童クラブを創り上げている
	内容	館長は職員一人ひとりの意向や希望、悩みなどを聴取してモチベーション向上に努めている。日々の打ち合わせなどで日常的に意見を言いやすい人間関係の構築を心がけ、主任層3名がチームワークの原動力となり、活力ある良好な職場環境を構築している。さらに、職員が力を合わせて課題解決に向かい、子ども会議や班会議など子ども主体のクラブ運営を目指すことで、子どもたちも意見が言いやすい風通し良い活力ある学童クラブを創り上げている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	クラブの実情を考慮した独自マニュアル策定で運営体制の強化を期待したい
	内容	本天沼学童クラブでは、区が策定した共通のマニュアルを活用しているが、クラブの実情に即した独自のマニュアル策定が求められる。危機管理に関しては、現行の実施案においてクラブの状況が考慮されているものの、改修などの環境変化を踏まえた実践的な内容へのブラッシュアップが期待される。独自のマニュアルを策定することで、現場での即応性や職員間の理解をさらに高め、より効果的な運営体制を築くことが期待される。
2	タイトル	人員体制の強化や業務の効率化を進めるなど、より安定した運営体制の整備が望まれる
	内容	事業所では子どもの意見を尊重し、日常の会話や子ども会議を通じて要望を把握し、環境や活動内容の見直しを行いながら、より充実した学童クラブの運営を目指している。さらに、行事やイベントでは、子ども達が企画や運営に関わる機会を提供するなど、手厚い支援に取り組んでいる。一方で、待機児童の解消や個別対応が必要なケースの増加を踏まえ、恒常的な人員不足への対策が課題となっている。職員の業務負担を軽減し、きめ細やかな支援を維持するために、人員体制の強化や業務の効率化を進めるなど、より安定した運営体制の整備が望まれる。
3	タイトル	日々の職員の言動を定期的に振り返り、組織的に分析・評価する仕組みの導入が期待される
	内容	職員は、気になる言動、行動などを互いに指摘しあい、朝夕の打ち合わせ時に情報を共有している。職員アンケートでも、「利用者の気持ちをつげるような職員の言動」について全常勤職員が前向きな評価をしており、意識の高さが伺える。一方、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」など、日々の職員の言動を定期的に振り返り、分析・評価する仕組みは導入されておらず、組織的な人権擁護や虐待防止の取り組みには若干の課題が見受けられる。是非とも「日々の言動の振り返りと分析評価」を当区の学童クラブ全体で取り組むことを期待したい。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

令和 7年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	高橋 正一	経営	H2201041
	②	高橋 利明	経営	H2101092
	③	北原 富美子	福祉	H1501011
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	堀ノ内東学童クラブ			
事業所連絡先	〒	166-0013		
	所在地	東京都杉並区堀ノ内3丁目49番19号 101号室		
	TEL	03-3315-7923		
事業所代表者氏名	館長 宮代 哲男			
契約日	2024年 6月 7日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024年 9月 27日			
利用者調査結果報告日	2024年 12月 3日			
自己評価の調査票配付日	2024年 9月 24日			
自己評価結果報告日	2024年 12月 3日			
訪問調査日	2024年 12月 10日			
評価合議日	2024年 12月 10日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
- 別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 館長 宮代 哲男 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)安心安全な学童クラブ運営 2)子ども一人ひとりに寄り添った適切な支援 3)保護者目線を大切にされた適切な保護者・家庭支援 4)地域での会議・行事等を通じ、地域との信頼関係の構築 5)これらを実現する人材の育成とチームワークの醸成</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情緒が安定していて、優しい気持ちで子どもたちに寄り添える姿勢を持っていること。 ・私見を交えず、公平な視点で、子どもたちに接することができること。 ・子どもたちのその瞬間の状態を理解し、その状況に見合った適切な関わりができること。 ・子どもたちが楽しく安心して過ごせるように、同僚と良好な関係を築き、お互いにフォローし合える気遣い、配慮ができること。 ・子どもたちの健やかな成長のために、地域の組織や要人と交流を深め、良好な関係を築けること。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの背景、特性の理解に努め、その子の立場になって考えられること ・個人の好き嫌いではなく、与えられた仕事に責任感をもって取り組めること ・子ども・保護者目線で考え、子ども・保護者から信頼を得られる職員であること ・地域のニーズを住民の声だけでなく、肌感覚で感じ取れる職員であること ・子どもたちの微細な変化に築き、オンタイムで適切な対応ができること

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である105名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生14名、2年生20名、3年生7名、4年生7名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

105

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
105	0	105
48	0	48
45.7	0.0	45.7

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が41.7%、「本人と家族」が52.0%、「家族が推察」が6.3%であった。総合的な感想に関する調査の結果は、対象者の89.5%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が6.3%、「ややよくない」が4.2%であり、大変高い満足度が得られている。項目別では、＜生活について＞に関する5設問は3設問において、大変高い満足度であった。特に「おやつ時間の楽しさ」では、91.6%の大変高い満足度が得られている。＜安心・快適性＞に関する4設問は3設問において、大変高い満足度であった。特に「けが・体調不良時の対応」では、87.5%の大変高い満足度が得られている。＜あなたを大切にしてくれるか＞に関する2設問は「気持ちを大切にしてくれるか」において、77.1%の高い満足度が得られている。＜嫌なことやしてほしいこと＞では、「困ったり、してほしいこと」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「職員以外へ相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	43	4	0	1
「はい」が89.6%、「どちらともいえない」が8.3%、「無回答・非該当」が2.1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「楽しいので、夜までずっと遊んでいたい」、「行くのが楽しい」、「4年目なので飽きてきた」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	39	7	1	1
「はい」が81.2%、「どちらともいえない」が14.6%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」が2.1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「きいてくれるし、きいてくれない」、「まだ、やったことない」、「したことがないのでわからない」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	44	2	1	1
「はい」が91.6%、「どちらともいえない」が4.2%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」が2.1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「友だちと食べるから超楽しい」、「お楽しみおやつのパリエーションが増えて以前より楽しみに変わった」、「お楽しみおやつを3回にしてほしい」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	32	4	1	11
「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が8.3%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」が22.9%であった。自由意見では、「だいなのはきいてくれる」、「そもそも、しょくいんさんに話しかけない。ただ友だちと楽しく遊んでいるだけ」、「やってません」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	38	4	1	5
「はい」が79.2%、「どちらともいえない」が8.3%、「いいえ」が2.1%、「無回答・非該当」が10.4%であり、高い満足度であった。自由意見では、「たいせつなことはわかった」、「聞いたことない」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	31	9	5	3
「はい」が64.5%、「どちらともいえない」が18.8%、「いいえ」が10.4%、「無回答・非該当」が6.3%であった。自由意見では、「人が多くて、友だちたくさんできて楽しい」、「まあまあきれい」、「トイレがびしょぬれでほこりがある。お片付けをしない人がある」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	40	6	0	2
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が12.5%、「無回答・非該当」が4.2%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「もんだいなし」、「言葉づかいが丁寧すぎない先生の方がフレンドリーで仲良くしやすい」、「こわい先生とやさしい先生がいる」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	42	2	0	4
「はい」が87.5%、「どちらともいえない」が4.2%、「無回答・非該当」が8.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「一つのお部屋に先生が絶対いるから」、「なったことないからわからない」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	39	6	0	3
「はい」が81.2%、「どちらともいえない」が12.5%、「無回答・非該当」が6.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「はなしをしてくれた」、「はなしあいをしていたらすぐにきてくれる」、「そんなにけんかしたことがない」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	37	5	0	6
「はい」が77.1%、「どちらともいえない」が10.4%、「無回答・非該当」が12.5%であり、高い満足度であった。自由意見では、「話し方がいい」、「ひとのきもちをかながえるのはむずかしい」という声が聞かれた。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	26	4	0	18
「はい」が54. 2%、「どちらともいえない」が8. 3%、「無回答・非該当」が37. 5%であった。自由意見では、「内緒の話はしたことないです」、「ないしょのはなしがない」、「そんなことをしたことがない気がする」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	32	5	1	10
「はい」が66. 7%、「どちらともいえない」が10. 4%、「いいえ」が2. 1%、「無回答・非該当」が20. 8%であった。自由意見では、「いやなおもいをしたのをきいて、はなしをしてくれた」、「いやなことはないのでわからない」、「こまったり、してほしくないことがない」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	12	2	10	24
「はい」が25. 0%、「どちらともいえない」が4. 2%、「いいえ」が20. 8%、「無回答・非該当」が50. 0%であった。自由意見では、「きいたおぼえがない」、「こまったこともない」、「こどもだからわかりません」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/> 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/> 非該当
	カテゴリー1の講評	
	事業所の重点目標を明示し、子ども・保護者、職員に周知している 「子ども一人ひとりの尊重と安心・安全のために」「子どもの健やかな成長のために」「子育て支援のために」という方針を「学童クラブ運営計画」に明確化し、その配付や研修を通じて職員や保護者に周知を図っている。子どもには「帰りの会」などで繰り返し伝え、「なにかあったら話してね」との声かけにより、気軽に相談できる環境づくりに努めている。保護者には保護者会やクラブだより、連絡用アプリを活用して説明を重ねている。職員同士も事例の共有を行いながら、各方針に基づいた支援や安全対策の質の向上に努めている。	
	事業計画達成のため各階層に沿った権限と役割を明確にし、職員に周知している 区の組織規則等により課長や係長、施設長など各層の役割と責任が明示されている。月2回の館長会で区や関係機関の情報を確認している。全職員に年度初めの方針説明を行うほか、必要に応じて決定事項などの再周知を促している。午前や日中の打ち合せ、終礼などを通じて情報共有を密に行っている。職員の役割分担表や年3回のヒアリングを活用して、個々人の業務方向性を提示している。こうした取り組みにより、経営層のリーダーシップが明確化され、全体が一丸となって目指す姿の実現に努めている。	
	子ども・保護者へ意思決定手順と伝達の流れを明確にしている 月2回の館長会の情報をメールや書面で職員へ確実に伝達している。課による重要案件の説明会の情報は、出席した職員が得た情報を他の職員に周知している。意思決定の内容や経緯は、職員には打ち合わせノートや配布資料、館長会資料で共有し、保護者には保護者会や連絡用アプリ、クラブだよりなど複数の媒体を通じて随時報告している。子どもにも必要に応じて「帰りの会」などで伝えることで、決定事項とその経緯を全体に明確に共有し、透明性の高い意思決定体制を築いている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>子ども、保護者、職員や取り巻く環境について情報収集し、課題抽出をしている</p> <p>年1回の利用者アンケートや保護者面談、月1回の「あそび会議」を通じて子ども・保護者の意向を把握し、可能な限り即時に対応している。全職員には年3回のヒアリングや会議で意向を把握し、常勤職員中心に対応の検討を重ねている。地域の会議や施設長会議での情報や公式ホームページ、課内資料などから得た情報を取捨選択して、職員へ共有している。課題は課長から適宜提示されており、それを踏まえた運営に努めている。こうした多面的な情報収集と即時対応により、利用者ニーズに沿った運営をしている。</p> <p>中長期計画から課題を抽出し事業計画の策定をし、予算編成をしている</p> <p>区の総合計画や実行計画を中長期計画と位置づけ、これらと単年度の区計画および児童青少年課の組織目標に基づき「学童クラブ運営計画」を策定している。計画のうち特に安全・安心に関する事項は、職員にはもちろん、子どもにも具体的な事例を示しながら丁寧に説明している。予算についても課が適切に判断し配分を行う仕組みが整っている。また、策定した「学童クラブ運営計画」は保護者へも周知を図っている。地域の状況把握にも努めつつ中長期的視点を活かした柔軟な運営を実現している。</p> <p>事業計画の進捗確認などの体制があるが、さらに数値目標の明確化を期待したい</p> <p>課の目標に沿った事業所独自の目標設定をし、項目ごとに実行計画を策定している。また、学期ごと(3学期)に進捗状況を確認し、必要に応じた軌道修正を行うことで計画の遂行に注力している。これにより、目指す姿の実現に向けて効果的に取り組む体制を整えている。さらに、会議や打ち合わせを通じて担当者の役割や活動内容を明示し、連携を図る仕組みとしている。今後は、「学童クラブ運営計画」の各項目の目標に関する項目毎の達成の指標をより明確にすることで、計画達成に向けた検討や実行がより的確に行われることを期待したい。</p>		

3 カテゴリー3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー3の講評

守るべきルールを明確にして職員に周知している

区の定める倫理に関する規則等に則り、年度当初の公務員倫理研修で全職員に説明し、以後は必要に応じて補足と確認を実施している。法令遵守と倫理観の保持が子どもの安心・信頼を支え、事業所全体の品質向上につながるように、会議やヒアリングで定期的に遵守状況を振り返り、公務員として胸を張って働く姿勢の指導を徹底している。継続的な取り組みにより、職員一人ひとりの法規範・倫理意識が強化され、適切なサービス提供と信頼性向上に寄与している。

子ども、家族の相談・苦情・要望を聞き取り、虐待防止も含めて組織的に対応している

杉並区保健福祉サービス苦情調整委員制度により区に対して保健福祉サービスについての意見等の申し立てができるほか、区の定める要望の取り扱いに関する規則等により苦情対応を定め、施設長を中心に即時対応を行っている。虐待防止面では施設長が研修を主導し、居室に複数職員を配置して日常的な観察と情報共有を徹底している。万一の事態には虐待対応マニュアルやフローチャートを活用し、迅速かつ包括的な支援を提供できる体制が整備されている。今後はさらなる虐待の研修や日常的なチェック体制の強化が望まれる。

事業の透明性の確保のため情報を公開し、地域の福祉ニーズに応えている

個人情報保護と子どもの権利擁護を重視しながら、保護者には電話やメールを通じて利用状況を丁寧に伝え、透明性を高めている。ボランティアや実習生、中学生の職場体験も適宜受け入れ、地域住民との交流や共催行事を通じて福祉ニーズに応える貢献活動に取り組んでいる。また、施設長が主体となり地域関係機関との会議や連絡会に参加し、共通課題の把握と連携を図っている。地域の一員としての責務を果たす姿勢が保たれているため、今後も幅広い情報交換を通じて、より一層の地域連携が期待される。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>子ども、保護者、職員の安心、安全のためにリスクマネジメントを実践している</p> <p>事業所では多様なリスクを洗い出し、優先順位を設定して対策を検討している。特に子どものケガを優先度の高いリスクと捉え、不審者対応や感染対策にも注力している。災害や不審者対応に関して、月1回以上の訓練やシミュレーションを行い、事故・災害などに対して即時対応し、その後の再発防止策も検討している。感染予防においては手洗いの徹底や清掃など、日常的な取り組みを強化している。一方で、事故対応マニュアルはあるが、予防に関するマニュアルが未整備なため、児童青少年課での今後の策定を期待したい。</p> <p>被災時でも継続した利用と安全確保のために地域との連携などの強化を期待したい</p> <p>区及び児童青少年課が策定した感染症対策版と自然災害対策版のBCPを共有し、職員間で適宜訓練や救急救命訓練・AED訓練を行うとともに、保護者会や広報等で周知している。学童クラブと児童館で月1回程度の避難訓練を実施し、対応力の向上に努めている。また、都営アパート自治会、保育園、児童館で合同の訓練を年2回、保育園と児童館で打ち合わせを含め年3回の合同訓練を実施、有事に備えている。BCPIについては学童クラブ単体で策定するものではないため、児童青少年課もしくは杉並区役所による、BCPの定期的な見直しを期待したい。</p> <p>事業所の取得するセンシティブ情報は安全に管理され活用可能である</p> <p>区及び児童青少年課の厳密なルールのもと、情報は紙媒体とデータで分類・保管し、必要時に活用できるように管理している。紙媒体は必ず施錠できる書庫に格納し、機密性の高い情報はアクセス制限を設けてデータで厳重に管理している。また、個人情報保護規程と「実習生のしおり」を活用し、全職員や実習生への周知を徹底しており、保護者にも明確に示している。情報を持ち出す場合は上長の承認を要し、子どもの機微情報を厳重に保護している。今後も区と連携し、ガイドラインに基づく適切な情報管理の強化を図ることが期待される。</p>		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー5の講評

人員不足が現有の職員の負担増となっているため、採用や配置の改善が望まれる

児童青少年課が常勤職員や会計年度職員を一括管理しているが、欠員が生じた際に施設長が学生や地域住民などを臨時職員として募るといった状態が続いている。施設長は年3回のヒアリングや日常の相談を通じて、職員個々の成長や将来性を考慮した配置でカバーを図っているものの、人員不足により十分な管理体制とは言い難い。スキルがあり経験の長い一部の職員に負担が集中している状態である。重点目標の実現のためにも安定的な体制を構築する必要があり、人材確保や配置計画をより一層強化することが望まれる。

研修計画に則った研修と個別の研修履歴の把握で育成に取り組んでいる

個々の職員の現状や要望を把握しながら、施設長や主任が中心となって職員個々の育成方針を適宜検討している。職員に対して、施設長だけでなく、主任と共に職員一人ひとりにヒアリングで真摯に向きあい、子ども・保護者支援に向けて組織で対応をしている。常勤職員と会計年度職員は、それぞれ目標を設定し、進捗状況を年3回確認する体制が整備されている。研修参加者は必ず報告を行い、職場内で知見を共有することで学びを活かしている。さらに、例会や会議で日常的に課題を共有し、改善を重ねている。

人事評価制度や福利厚生などで職員の意欲向上に取り組んでいる

区の規定に基づく自己申告書と評価表を活用し、評価と処遇を連動させている。また、ストレスチェックを実施して職員のメンタルヘルスに配慮し、ヒアリングや日々のコミュニケーションを通じて個々の状況を的確に把握している。上長や主任は職員一人ひとりの資質・可能性を踏まえ、主体的で積極的な職場づくりを推進している。日頃のコミュニケーションや短時間職員会議など多様な場面で情報交換を行うことで、良好な人間関係が醸成され、安全・安心な職場環境と職員の意欲向上に寄与している。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度の重要課題は、定数増に伴い、関係機関や保護者との関わりをより丁寧に行い、子どもの出欠席や日々の様子などを的確に把握・共有することとした。課題設定の背景としては、保護者とのコミュニケーションを通じて、子どもや家庭に寄り添った運営を実現するためには、小学校や放課後等デイサービス、特別支援学校との連携が欠かせないと感じたことである。特に特別支援児童の状況把握や適切な支援を行うため、見学や情報交換の機会を設ける必要性を痛感したためである。課題への取り組みとしては、小学校との情報交換や個人面談を実施し、子ども一人ひとりの状況を正確に把握するとともに、必要な支援策を検討している。また、特別支援児童の通う放課後等デイサービスや特別支援学校とも密に連携し、学習環境や生活上の支援に関する情報を共有している。さらに、新たな出欠席確認システムの導入にあたり、保護者説明会や資料の作成を行い、変更内容を周知した。これらの取り組みを通じて、子どもの安全と保護者の安心を確保し、より良い学童クラブ運営を目指した。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

取り組みの結果としては、学校や放課後等デイサービス、療育機関との連絡や見学を通じ、必要な情報を適宜共有できた。また保護者への連絡帳や電話、お迎え時の説明で健康状態やケガを欠かさず伝え、安心感を高めることができた。さらに、出欠席の徹底確認により、安全な学童利用を把握できたのも成果であった。今後の方向性としては、関係機関との訪問や情報交換、保護者との面談を継続し、子どもと家庭の理解を深める方針である。また、情報管理を電子化し共有手段を拡充しつつ、配慮を要する情報の安全性を確保したいとしている。さらに次年度に向けては、既存の連携にとどまらず、学校関係者や地域団体とも多面的に結びつきを強化し、支援体制の充実を図るとしている。特別支援児童に関しては、専用様式での記録を進め、より丁寧な情報共有を実現する。これらの取り組みにより、さらなる学童クラブ運営の質の向上を目指しているため期待ができる。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度の重要課題は、異なる学校に通う子どもが増加するなかで、それぞれの個性や違いを尊重し合える環境を整備することとした。具体的には、子ども一人ひとりの様子を日々把握し、適切な支援を行うために情報を全体で共有する必要がある。この課題を抽出した背景には、学童クラブとして子どもの受け入れ人数が増加している現状がある。一人ひとりの子どもを把握することが疎かになると、子ども同士のトラブルや見落としが生じやすくなり、安全かつ安心な居場所を確保できなくなる恐れがあるためである。課題への取り組みとしては、毎日実施している打ち合わせでの情報共有を徹底し、終業前の終礼でも学童クラブ担当者同士が子どもの状況を確認している。また、週に1度の学童担当職員の打ち合わせを設け、気になる事例や支援の方向性を検討・共有することで、子どもの個性を尊重した支援に努めた。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

取り組みの結果としては、毎日職員間で情報共有する時間を定例化し、その日のうちに子どもの様子を確認できたことで、各担当者が共通認識をもって対応できるようになった。特に、部屋ごとの出来事を即時に共有することで、子ども同士の関係性やトラブルを早期に把握し、必要に応じたサポートや環境調整が可能になった点が大きな成果であった。今後の展開としては、常勤職員が中心となり、様々な職員の学童クラブ職員同士がコミュニケーションを確保し、課題の収集・検討・改善に取り組む体制をさらに強化する方針である。情報共有の場を、単なる日々の報告にとどめず、事務や役割分担の確認、業務の効率化にも活用することで、子どもへの支援により多くの時間とエネルギーを注ぐことを目指している。課題としては、情報量の増加に伴う管理・運用の負担が懸念されるため、より効率的な共有方法や環境整備が求められることであるとしている。継続的に子どもの関係性を見守りつつ、より良い育成のために必要な情報を的確に扱う工夫を検討し、引き続き安心・安全な学童クラブ運営に取り組む所存であるとしているため期待ができる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目 (カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリー1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー1の講評			
<p>子どもや保護者に対する情報提供を多様な手段で実施し、適切な周知に努めている</p> <p>事業所では、杉並区のHPや広報誌「広報すぎなみ」、児童館案内に学童クラブの情報を掲載し、広く周知を行っている。また、毎年3月上旬に新入会説明会を開催し、入会資料を配付することで、保護者が学童クラブの利用方法を正確に理解できるよう努めている。さらに、「安心でんしよばと」を活用し、迅速かつ手軽に最新情報を発信し、保護者が必要な情報を随時確認できる環境を整えている。地域関連各所とのオフィシャルな会合を通じて関係機関に年間行事や関連資料を提供し、地域への情報発信を行っている。</p> <p>情報提供の工夫を重ね、保護者や子どもが必要な情報にアクセスできる環境を整えている</p> <p>区役所のホームページや広報誌にて多言語対応の情報を発信し、外国語を話す保護者にも配慮した情報提供を行っている。また、HPでは、高齢者や視覚障害のある方にも対応できる読み上げ機能を提供し、誰もが公平に情報を得られる仕組みを構築している。さらに、近隣の保育所には学童クラブの入会説明を実施し、利用希望者がスムーズに学童クラブを選択できるよう支援している。こうした取り組みにより、学童クラブの情報が適切に伝わり、利用希望者が正確な判断を行える環境が整えられている。</p> <p>利用希望者からの問い合わせや見学対応を適切に行い、情報提供の質を高めている</p> <p>事業所では、電話での問い合わせには職員が対応し、内容を記録して適切なフォローアップを実施している。また、事業所見学の希望があれば随時対応し、保護者が学童クラブの環境や活動内容を直接確認できる機会を提供している。年度初めの保護者会では、学童クラブの方針や活動内容について説明し、保護者の理解を深める場を設けている。さらに、地域関連各所とのオフィシャルな会合を通じて関係機関へ年間行事や関連資料を提供し、地域との連携を強化することで、学童クラブの情報が適切に共有されるよう努めている。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>サービス開始時に子どもや保護者に丁寧な説明を行い、理解を得る体制を整えている</p> <p>入会説明会では、入会のしおりや利用負担金、通所のルール、防災対策、アレルギー管理に関する資料をもとに説明を行い、保護者が必要な情報を把握できるよう努めている。また、入会面談では、保護者の質問に丁寧に応じて、疑問や不安を解消すると共に、子どもの健康状況や障害の有無、既往歴、生活習慣、アレルギー情報などを聞き取り、記録・保管している。これにより、子ども一人ひとりの特性を適切に把握し、安全で円滑な受け入れを実現している。加えて、入会面接を通じて保護者の意向を確認し、個々の家庭の状況に応じた取り組みが行われている。</p> <p>入会時の情報収集を徹底し、子どもが安心して利用できる環境を整えている</p> <p>事業所では、入会面接で保護者との十分な話し合いを通じて、健康状態やアレルギーの有無を確認し、必要な情報を学童クラブアレルギー調査表や学校生活管理指導表により管理している。特に支援が必要な子どもについては、関係機関と連携し、保育所での様子を確認するなど、適切な受け入れ体制を整えている。また、新入児がスムーズに環境に適應できるよう、上級生が部屋の使い方を教える支援を行うほか、必要な配慮があれば連絡帳や口頭で保護者と情報を共有し、個別に応じた対応に取り組んでいる。</p> <p>利用開始から終了まで、子どもや保護者の不安軽減に配慮した支援を行っている</p> <p>特別な支援が必要な子どもについては、入会面接時に詳細な聞き取りを行い、「特別支援児童プロフィール資料」を作成し、関係機関と連携した支援を実施している。また、職員間で情報を共有し、適切な対応を継続している。退会時には、児童館の「直接来館」や「ランチタイム制度」への参加を案内し、放課後や長期休暇中の生活の不安を軽減する支援を行うほか、退会後も児童館に訪れた子どもや保護者へ積極的に声をかけ、継続的な関わりを大切にしている。こうした支援により子どもが安心して学童クラブを利用し、生活の連続性を保てるよう配慮している。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>子どもの成長と発達を支える育成支援計画を職員間で協議しながら作成している</p> <p>計画は子どもの実態や生活環境の変化を踏まえ、適宜見直しを行い、より実態に即した支援が実施できるよう努めている。特に配慮が必要な子どもに対しては、特別支援児童プロフィール資料や特別支援児童育成報告書を作成し、発達状況を記録・分析することで、きめ細やかな対応が行われている。また、学童クラブ特別支援児童巡回指導事前資料に基づき、心理士による個別指導を受けるなど、専門的な支援体制も整っている。さらに、クラブ職員会議においてモニタリングを実施し、常時作成しているメモをもとに支援計画を見直し、支援の質向上を図っている。</p> <p>子どもの状況を把握し、計画的な育成支援を実施するための記録体制が確立されている</p> <p>日々の変化や支援内容は、学童クラブ日誌に記録し、特筆すべき事案については児童台帳第2号様式や児童育成記録に詳細を記載することで、継続的な支援の質を確保している。運営中のトラブルやケガ、体調不良についても日誌に記録し、必要に応じて保護者へ電話や対面で伝達し、速やかな説明と情報共有が行われている。特に配慮が必要な子どもについては、特別支援児童育成報告用記録用紙を用いて、生活全般や対人関係・集团的行動、指示理解、遊びの様子などを詳細に記録し、支援計画の適切な見直しへとつなげられている。</p> <p>職員間の情報共有を徹底し、子ども一人ひとりに適切な支援を行う体制が整っている</p> <p>日々の出来事や対応は、学童クラブ日誌や学童クラブ対応メモに記録し、全体打ち合せや終礼で共有することで、支援の一貫性を確保している。特に、子どもや保護者の状況に変化があった場合は、申し送りを徹底し、職員間で認識を統一している。定期的にクラブ会議を開催し、子どもへの対応や支援の方向性を協議し、議事録を作成し職員間で共有している。また、部署を超えた情報共有を行い、支援が円滑に実施されるよう取り組んでいる。これにより、情報の蓄積と共有が適切に行われ、全職員が共通認識のもとで支援を提供できる体制が構築されている。</p>			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>子どものプライバシー保護を徹底し、適切な管理体制を整えている</p> <p>事業所では入会面接時に同意書、入会時に肖像権使用同意書を取得し、写真や映像の使用について保護者の同意を得ることで、個人情報の適切な管理に努めている。また、写真撮影時の配慮や情報の共有範囲についても、保護者や子ども本人と確認し、不適切な取り扱いを防止している。さらに、職員には個人情報保護に関する研修を実施し、マニュアルを整備することで、全職員が統一した対応を図れるよう努めており、個人情報の適切な管理と支援の質の向上に取り組んでいる。保護者との面談時には個室を使用するなど、プライバシーへの配慮がなされている。</p> <p>子どもの権利を守り、意思を尊重するための取り組みを積極的に行っている</p> <p>日々の援助においては、一人ひとりに寄り添い、子どもの声に耳を傾ける姿勢を大切にしている。意見の反映を目的として、「おたのしみおやつアンケート」を年1回実施し、また、学童クラブと児童館の合同「遊び会議」を年5回開催することで、子どもたちの希望や考えを活動に反映する機会を設けている。さらに、「かえりの会」では、一日の振り返りを通じて、子どもたち自身がテーマを決め、主体的に意見を発信できる場を提供している。保護者とも定期的に個人面談を実施し、家庭の価値観や生活習慣に配慮した支援を心がけている。</p> <p>子ども間のトラブル防止と安全確保のための取り組みが行われている</p> <p>トラブルが発生した際は、毎日記録を行い、職員間で情報を共有し、迅速かつ適切な対応ができる体制を整えている。また、対象児から聞き取りを行い、学校や保護者と連携しながら見守りを継続している。虐待が疑われるケースでは、所管課や子ども家庭支援センター、学校と連携し、早急な対応を図っている。さらに、年2回の虐待防止研修を実施し、職員の意識向上と対応力の強化を進めている。マニュアルに基づいた対応を徹底すると共に、課題が生じた際には速やかに検討し、予防策や再発防止策を講じていることがうかがえる。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>各種マニュアルを整備し、職員が一貫した対応を行える環境を整えている</p> <p>事業所では、学童クラブ入会事務マニュアル、医療ケア関係書類、おやつ代マニュアルなど、業務ごとに必要な手順を明確化し、適正な運用が確保されている。特に、おやつ代の事務処理については、所管課と保護者による監査を毎年実施し、透明性を維持している。また、職員は業務遂行時に不明な点が生じた際、マニュアルを随時参照し、統一された手順に沿って対応できる体制が整っている。さらに、マニュアルは定期的に点検・見直しが行われ、運営状況に応じた改善が図られている。</p> <p>マニュアルや手引書は定期的な点検・見直しを行い、改善が重ねられている</p> <p>業務の効率化と統一的な運営を実現するため、マニュアルを整備し、職員が活用できる体制を整えている。各種業務の手順は明確化されており、職員は業務中に疑問が生じた際、マニュアルを適宜参照し、統一された対応を実施している。さらに、業務が定められた手順に沿って実施されているかを確認するため、定期的な点検・見直しを行い、改善を重ねている。また、マニュアルは職員がいつでも閲覧できる状態にあり、適切な活用が推奨されている。業務の質の向上と継続的な改善が図られ、職員が適切に役割を遂行できる環境が整えられている。</p> <p>業務水準の見直しを継続的に行い、サービスの向上に努めている</p> <p>入会事務のマニュアルや管理・運営に関する資料は、所管課により毎年度加筆修正され、最新の基準に適合するよう整備されている。また、学童クラブの運用ルールは、所管課の共通ルールを基に適正に設定され、随時見直しが行われている。改訂は年1回実施され、利用者の意見を反映しながら改善を重ねることで、より適切な運営が図られている。さらに、改訂後は所管課が説明会を実施し、職員への周知を徹底している。こうした取り組みにより、業務の透明性と統一性が確保され、利用者ニーズに沿った質の高いサービス提供につながっている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	29/29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>入会面接親子面談や小学校との連携により子どもの全体的な姿の把握に努めている</p> <p>入会の際に親子と面接を行い、その際に知り得た情報と小学校などの関係機関との連携により得た情報を職員全体で共有して、子どもの全体的な姿を把握し、援助に役立てられるようにしている。面接で聴き取った集団経験の有無や既往症、苦手な食べ物、友だち関係などの情報は面談記録に記載している。「健常児」「障害児」というとらえ方ではなく、入会する子ども全ての情報を個性として共有することで、職員全体で学童クラブとして同じ目標に向かって援助できるように努めている。</p> <p>子ども同士の相性や関係性に注力して支援することを心がけている</p> <p>外国にルーツのある子どもは在籍しておらず、習慣が異なる、日本語が通じないためのトラブルは起きていない。また、宗教などを信仰している子どもも学童での活動に影響はないとのことである。障害の有無ではなく子ども同士の相性や関係性に注力し、子ども同士の関わり合いの困り具合などを重視するようにしている。子ども同士のトラブルについては、できるだけ子ども同士で解決できるように見守り、時には気持ちに寄り添い支援できるように配慮している。善悪を職員が伝えるのではなく、子どもが判断して動けるようにバックアップすることに努めている。</p> <p>子どもが思いやりを持ち接することができるような環境作りを目指している</p> <p>子どもが、障害のある子どもへどのように接してあげることが良いのかななどを説明したり話をする中で、音量への配慮など互いを思い合える機会となるようにしている。同様に保護者にも保護者会などの機会に伝えることで、理解を得られるようにしている。障害があっても障害を個性だととらえ、一緒に育ちあえる環境で子どもを支援することを目指している。また、家庭への支援が必要な場合は、家庭支援センターや児童相談所などとも連携できる体制を構築している。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>子どもたちが自由に主体的に遊べる環境づくりに努めている</p> <p>子どもが自らやりたいことができる、子どもたちが主体的に遊べるような環境づくりに努めている。部屋ごとに違う遊びを提供できるように遊び道具を配置し、子どもが遊びを選択できるようにしている。建物の同じ階に児童館も併設されており、児童館の職員とも連携をとることで遊びの幅が広がることにつながっている。違う事業内容の職員の間にも、子どもを別の視点でとらえることが、子どもの理解を深めている。遊び中心の側面だけではなく、子どもの成長や生活への支援を見守る視点を持つことで子どもの援助につながっている。</p> <p>年間を通して全員参加の行事を行うことで自主活動の楽しさを体験できるようにしている</p> <p>下校後の学童での日々の活動のみならず、年に数回全員参加の行事を行い、自主活動の面白さや友だちと協力して準備をしていく楽しさを体験できるような機会づくりに努めている。それらの活動をする中で、子どもたちは学童としてまとまることできるようになり、集団の中の一員としての意識も芽生えてくると認識している。学童クラブの一員という意識の向上により、堀ノ内東学童クラブらしい集団活動の実施がさらに充実することを期待したい。</p> <p>ルールを守ることで楽しく遊べる環境になることを学べるように支援している</p> <p>子どもたちには機会があるごとに、それぞれの場所や場面でルールがあり、それを守ることが楽しく過ごせることにつながるということを伝えている。遊びの場面でのルール以外にも、生活の中でのルールについても地道に声かけをしており、時には子どもと一緒にルール作りをして安心・安全な集団活動につながるようにしている。年度当初には、お世話係として新2年生以上の子どもが新入生に学童のルールを教えるなどの機会を創出し、互いの交流につながるような取り組みも行っている。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どものやる気や気持ちを尊重して参加したいと思える行事になるように工夫している</p> <p>年間を通して多くの行事があるが、多くの子どもが自ら参加して、一緒に協力してやり遂げられるように進めることを大切にしている。子どもが行事に参加するには保護者の同意が必要となるため、まず子どもたちが行事に興味を持てるように声かけやポスターなどの掲示、行事の説明などを行い募集をしている。子どもたちのやる気や気持ちを尊重し、参加したいと思える行事になるよう職員は工夫をしているが、子どもが自ら行事準備などにも参加していることを実感できるように、準備の段階から子どもの意見などを取り入れて進めることにしている。</p> <p>行事への取り組みが子どもの育ちにつながるとして過程も大切にしている</p> <p>行事への取り組みはグループ別に活動することが多く、行事への取り組み方の姿勢やアプローチの仕方などはグループごとに異なるが、職員はできるだけ見守る姿勢で関わることを大切にしている。失敗は、そのグループやメンバーの子どもを育てる糧であるとして前向きに受け取り、その失敗が子どもが次のアプローチを考える力となるとしてプラスにとらえている。結果として残念ながら失敗しても、その思いや経験が今後子どもの育ちにつながる過程であると支援しており、あきらめずに取り組む姿勢、友だちと協力する姿勢を学べる機会が行事だとしている。</p> <p>行事の際には父母会によるバックアップを得ている</p> <p>行事を行う際には、保護者に行事の詳細を記載した学童クラブのお便りなどを電子送信、または配付して、周知を図っている。年2回親子と一緒に集団遊びなどを行う親子交流会を行っているが、保護者の参加も多く、保護者に学童クラブでの子どもの様子を見てもらう機会にもなっている。また、親子交流会の後に保護者会もっており、親子、保護者同士、保護者と職員が交流できる場となっている。行事の際には父母会による手伝いもあるなど父母会による行事へのバックアップも得ることができており、保護者と職員間の信頼関係が築かれていることがわかる。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもたちが自ら参加したくなるような行事やタイム実施に力を入れている</p> <p>4月当初は1年生を学校まで迎えに行き、学童クラブまでの道のりで危険な場所などを伝えることで、安全に通えるように支援している。学童クラブでの過ごし方もわかりやすいようにボードに表示したり、子どもたちが好きなことを選択して過ごすことができるような環境作りに努め、自ら参加したくなるような行事やタイムを実施することに力を入れている。子どもたちは5つの小学校と養護学校から通ってくるため学童に入る時間は様々であるが、おやつや帰りの会などの時間を毎日定時に行うことで、子どもが活動しやすいように配慮している。</p> <p>年齢が違う子ども同士でも関わり合いながら過ごせることを大切にしている</p> <p>学童クラブのそれぞれの部屋の遊び方や遊べる玩具などは、ポスターを貼るなどわかりやすく掲示している。それぞれの部屋で子どもたちが遊びに合わせて利用できるようにしており、遊ぶ内容によって部屋を区切ったり遊びの時間を決めるなど、子どもが遊び込める環境になるように配慮している。遊びも静と動の遊びに合わせて玩具などの環境設定もしている。子どもの年齢層には幅があるため、一緒に遊ぶことはできなくても、同じ部屋で共存することで互いに関わり合う経験ができることも大切にしている。</p> <p>子どもたちが好きなことを選択して過ごせるような環境作りに努めている</p> <p>子どもの遊ぶ目的に合わせてそれぞれの部屋で遊べるように設えており、例えば、図工室ではさまざまな素材が準備され子どもの発想でそれらの素材を利用して製作ができる環境になっている。廊下にはピアノがあり自由に弾くことができ、目の前の公園は利用できる曜日と時間などの制限はあるが公園で固定遊具などで遊ぶこともできる。また、ゲームボード、卓球、ボール遊び、一輪車など多彩な遊びも提供している。一方で、宿題や読書をする、漫画を読むなど、放課後の時間を子どもが自分の思いごとに過ごせる環境となるよう取り組んでいる。</p>		

5	<p>評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校や関係機関との情報共有に努めている</p> <p>当学童クラブは5校の小学校と養護学校から子どもたちは通ってきている。そのため、各学校と情報を共有し連携がとれるように注力しており、特に年度当初は各学校と子どもの様子などの情報共有に努めている。常に各学校の教諭と情報共有の機会を設け、家庭や子どもに配慮が必要な事象が起きた際には、小学校や関係機関と適切に連携がとれる体制を整えている。ただし、複数の小学校や養護学校から子どもが集まっているということから、さらなる関係機関との一層の連携が必要であるということも認識している。</p> <p>多数の小学校からそれぞれ通ってくる子どもが安心安全に過ごせるように配慮している</p> <p>近隣で不審者などの情報を得た時には学校と情報を共有し合い、時にはお迎えに行くなどの対応にも努めている。特に入所当初は職員が各小学校まで迎えに行き、横断歩道や車が通る道など下校時に注意が必要な場所を直接その場で伝えることで、安全に通うことができるように支援している。学校で感染症などが出た場合には学童にも連絡が入るよう連携がとれている。その際には、子どもたちは多数の小学校から集まってくるので、学童クラブで感染が広がらないように、手洗いうがいなどを促すなどの配慮をしている。</p> <p>障害児への支援を充実させるために関係機関との連携を深めることを目指している</p> <p>障害がある子どもについては、養護学校、子ども発達支援センター、放課後等デイサービスなどの関係機関と情報を共有し、実際に関係機関で過ごす子どもの様子を見学に行く機会なども図っている。現在複数名の障害児が通所しているが、障害の症状はそれぞれ違うため、職員は事業所内研修などを行い、個々の子どもへの適切な支援ができるよう配慮している。学童クラブでは子どもの発達のためにも小学校、子ども児童発達センター、児童相談所等との連携も必要だと考えているなど、在籍する子どもに適した環境整備と成長支援へ注力している思いが伝わる。</p>		
6	<p>評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>おやつは数種類から選択できるようにするなど子どもの自主性を尊重している</p> <p>おやつは、子どもたちが自分の遊びや活動の中で食べたい時に友だちと一緒に育成室で喫食できることになっており、自由度が高く、子どもたちの自主性を尊重するクラブの意向を読み取ることができる。子どものアンケートの意見の中にも「おやつ時間が調整できるようになって、遊びに集中する時は区切りのいいところまでできるようによかったです」などの意見があがっており、子どもが自分で時間を管理し、遊び込める環境作りにつながっていると思われる。なお、おやつは数種類の中から自分が食べたいおやつを複数選択できる形になっている。</p> <p>「おやつアンケート」を行うなど子どもがおやつを楽しめるような企画を実施している</p> <p>年度途中に「おやつアンケート」を行っている。アンケートで出されたおやつ全種類の写真を掲示し、その中から食べたいと思うおやつを投票してその結果の上位5位までのおやつを年間5回提供している。アンケートから全候補の写真や絵での掲示、そして投票、結果発表と時間をかけて進めることで、このイベントによりおやつ時間が子どもたちの楽しみにつながっていることがうかがえる。楽しい企画として評価したい。</p> <p>アレルギー児への配慮としてダブルチェックなどを行い提供している</p> <p>アレルギーへの配慮として、提供するおやつをパートの職員が確認しアレルギーごとの仕訳をした後に、再度職員がチェックをするダブルチェックを行い、さらに色の違うお皿で提供するなど誤食を起さないように配慮している。現在在籍しているアレルギー児は、ショック症状を起こすような重篤な発作を起こす子が居ないこともあり、友だちと一緒に楽しくおやつを食べられるようにしている。ただし、おやつを食べる部屋には必ず職員が見守っており、誤食だけでなく何かあった時にはすぐに対応できる体制にしている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当

評価項目7の講評

学童に帰ってきたときには手洗いなどの感染予防に努めている

下校時には手洗いを促し、感染症の予防に努めている。各学校の学級閉鎖などの情報は小学校の教諭と情報を共有し、子どもにも声かけをし、保護者には電子連絡帳でんしょばとで伝えることで周知を図っている。体調不良の際には保護者に電話で伝え、必要であれば育成室で身体を休めることができるようになっている。ケガの多い場所や遊び方については、職員や子どもに伝えることで大きなケガにつながらないように配慮している。なお、ノロウイルスなどによる嘔吐への対応は、流行する季節前に事業所内研修のほか子どもへの確認や声かけを行っている。

当学童クラブには医療的ケアが必要な子どもは現在是在籍していない

現在医療的ケアの必要な子どもは在籍していない。また、アナフェラキシーや熱性痙攣を起こす可能性があり薬を預かっている子どもも居ないとのことである。アレルギー児については、アレルギーなどが記載された医師の指示書のコピーを非常時の持ち出し袋に入れており、いざという時に正確な対処情報が得られるように配慮している。玩具や遊具については、1か月かけてそれぞれチェックをしており、必要であれば角にクッションなどを取り付けている。その際には小さいパーツの個数なども数え、安全に遊べる状態であることを確認している。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当

評価項目8の講評

保護者が安心して子育てできるよう、各家庭の事情に配慮した支援を行っている

事業所では、入会時に杉並区の入会案内に基づき、減額や助成の案内を行い、経済的な負担を考慮した支援を行っている。また、入会面接時の記録を活用し、関係機関と連携しながら子どもの受け入れを行うことで、個々のニーズに応じた適切な支援を提供している。さらに、個人面談や日常のコミュニケーションを通じて、保護者の相談に対応し、職員間で情報を共有することで、一貫した支援を可能としている。必要に応じて追加の面談を実施し、連絡帳や電話を活用して子どもの様子を保護者と共有することで、共通認識を深めている。

保護者同士の交流機会を提供し、信頼関係を築く取り組みを行っている

保護者会および親子交流会ではスライドショーを活用した紹介に加え、一日育成の説明やアイスブレイクを取り入れた遊びを行い、保護者が学童クラブの方針を理解しやすい環境を整えている。おまつりやもちつきの際には、保護者に運営の一部を担ってもらうことで、自然な形で交流の場を提供している。さらに、お迎えの際や連絡帳のやり取りを通じて、保護者との関係づくりに努めている。これらの継続的な取り組みにより、保護者間のつながりが生まれると共に、学童クラブと家庭の信頼関係が強化され、子どもが安心して過ごせる環境が構築されている。

子どもの安全確保と発達支援を目的に、保護者との情報共有を徹底している

出欠確認には「安心でんしょばと」を活用し、不明な場合は電話で確認することで、安全管理を徹底している。また、連絡帳を通じて子どもの様子や変化を保護者と共有し、支援の一貫性を確保している。個人面談の期間外でも、必要に応じて面談を実施し、保護者と職員が共通の認識を持てるよう努めている。保護者からの情報は職員間で共有し、適切な対応につなげることで、子どもの支援を充実させている。これらの仕組みがあることで、保護者は安心して学童クラブを利用でき、職員との信頼関係を築きながら子どもの成長を支える環境が整えられている。

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目9の講評			
<p> 地域とのつながりを深めるため、多様な体験の機会を提供している 児童館との一体運営を活かし、地域の行事への参加を促進すると共に、公園や広場を活用した屋外活動を実施し、子ども達が地域に親しむ機会を設けている。また、近隣の特別養護老人ホームへ子どもの工作を寄贈する活動を継続し、高齢者との世代間交流を図っている。これらの取り組みにより、子ども達は地域社会の一員としての意識を育み、幅広い世代との交流を通じて社会性を身につけながら豊かな経験を積むことができる環境が整えられている。 </p> <p> 地域との連携を強化し、子どもたちが多様な人々と関わる機会を提供している ほりとんまつりでは、子ども達自身が近隣小学校の校長先生に招待状を書き、地域の大人と交流する機会を設けている。また、児童館での発表を学校や地域のイベントでも披露し、自己表現の場を広げている。さらに、近隣3小学校や特別支援学校と連携し、情報共有を行うことで、学童クラブと学校の連携を強化し、子ども達が安心して活動できる環境を整えている。これらの取り組みにより、子ども達は地域の中で多様な交流を経験し、地域社会とのつながりを実感しながら成長ができるよう取り組んでいる。 </p> <p> 地域資源を活用し、子どもたちが多様な体験を通じて成長できる環境を整えている 児童館との一体運営を活かし、地域の行事やイベントへの参加を促進している。また、公園や広場を活用した散歩や身体を動かす遊びを取り入れ、地域環境との関わりを深めている。もちつき大会では、地域団体と協力しながら、子ども達がスタッフとして運営に携わる機会を設けている。さらに、特別支援学校や養護学校と連携し、情報を共有することで、一人ひとりの状況に応じた支援が行われている。こうした取り組みにより、子ども達は地域社会の一員としての意識を育みながら、多様な人々との交流を通じて社会性を身につける機会を得ている。 </p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-2-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している
タイトル①	年度の計画や具体的な行動計画を策定し、意見を拾いあげて振り返り、修正をしている	
内容①	「学童クラブ運営計画」と「係の目標シート」を策定し、方針を明確化するとともに、年数回の「遊び会議」を通じて子どもの意見を積極的に取り入れている。学童クラブ全体の質を向上させるため子ども一人ひとりの声を拾い上げ、遊びや行事の内容を定期的に見直すことで、子どもの主体性と学びを重視しながら運営を行う姿勢が示されている。特に、係の目標シートを活用することで、上長と職員が具体的な行動計画を共有し、各担当分野での役割を明確にしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル②	行事に前向きに参加することで行事が多くなることを学べる機会となることを目指している	
内容②	多くの行事を行う中で、自ら参加して友だちと一緒に協力してやり遂げることを大切にしている。子どもたちのやる気や気持ちを尊重し、準備の段階から子どもの意見などを取り入れて進めることにしている。行事への取り組み方の姿勢などはグループごとに異なるが、職員はできるだけ見守る姿勢で関わることを大切にしている。失敗をしても失敗がそのグループやメンバーの子どもを育てる糧であるとして前向きに受け取り、その失敗が子どもが次のアプローチを考える力となるとしており、あきらめないで友だちと協力することができるのも行事だとしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	保護者との連携を重視し、個々の子どもに適した支援と交流の機会を提供している	
内容③	入会面接時の記録を活用し関係機関と連携することで子どもの特性や支援の必要性を把握し、適切な受け入れを行っている。個人面談や日常の対話を通じて、保護者の気持ちに寄り添った継続的な支援が行われている。また、連絡帳や電話を活用し子どもの様子を保護者と共有することで、共通の理解を深めている。年2回の保護者会及び親子交流会では、スライドショーや遊びを通じて学童クラブの活動を伝え、保護者の理解を深めている。おまつりやもちつきでは、保護者が運営に参加できる機会を設け、保護者同士がつながりを深められる機会が提供されている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの意見を大切にし、安心できる環境づくりに努めている
	内容	日々の援助では、一人ひとりの声に耳を傾け、おたのしみおやつアンケートや遊び会議を通じて、子どもたちの意見を活動に反映している。かえりの会では上級生が司会進行し、一日の振り返りを行い、子ども自身がテーマを決めて発言する機会を設け、主体性を育てている。保護者との連携も重視し定期的な個人面談を実施し、家庭の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている。一方で、トラブルが発生した際は対象児からの聞き取りを行い、継続的な記録を作成し、保護者と連携した見守りを継続するなど、子どもが安心して過ごせる環境づくりに努めている。
2	タイトル	学童クラブで過ごす時間が子どもに良い環境となるよう努めている
	内容	子どもの遊ぶ目的に合わせてそれぞれの部屋で遊べるように設えたり、おやつ時間も遊びへの取り組みに合わせて柔軟に時間を設けるなど、放課後の時間に子どもが自分の思いごとに過ごせる環境を提供することに注力している。加えて、児童館が併設されているという環境を最大限に活用し、児童館の職員も協働することで子どもの成長や特長などへの配慮も複数の視点から持つなど、子どもへの支援の幅を広げることに努めている。
3	タイトル	子どもの様子を把握し、共通認識を持つことで一人ひとりに寄り添った支援をしている
	内容	登録利用者数が100名を超える大規模な運営ながら、一人ひとりの成長や安心・安全を実現するため、職員間の毎日の打ち合わせや、その日のことはその日に解決する終礼、毎週水曜日の打ち合わせなど、日常的な情報共有をきめ細かくおこなっている。保護者との連絡には連絡用アプリを活用し、必要な情報を速やかに伝達することで、子どもの状況に即した支援を迅速に行う体制が整備されている。こうした取り組みで、埋没しがちな子どもを見逃さず、全員が安心して過ごせる環境づくりをしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員間の記録の徹底を図り、必要な情報が確実に蓄積・共有される仕組みを強化することが望まれる
	内容	事業所では、日々の出来事や対応は、学童クラブ日誌や学童クラブ対応メモに記録し、全体打合せや終礼で共有されている。特に、子どもや保護者の状況に変化があった場合は、申し送りを徹底し、職員間で認識を統一している。また、定期的なクラブ会議では、子どもへの支援方針を協議し、議事録を作成しながら、支援の円滑な実施を図っている。一方で、話し合いの場は確保されているものの、その内容が議事録に記録されていない場合があるため、今後は記録の徹底を図り、必要な情報が確実に蓄積・共有される仕組みを強化することが望まれる。
2	タイトル	多様な子どもを受け入れる仕組みや体制の検討および再考の機会をもつことが課題と思われる
	内容	5つの小学校と養護学校から通所していることで、子どもたちは幅広い人間関係を構築しており、この学童クラブの特長にもなっている。養護学校の子どもと一緒に交流し合うことで、他者を思いやる姿も確認されている。ただし、加害のある子どもがほかの子の遊びや場所を限定し、加害のある子どもも含めた子どもの安全を守るために職員の見守りの目を固定化せざるを得ない現状が憂慮される。安心安全に過ごせる学童の実現のために、適切な職員体制や環境整備などについて現場の意見を汲み取り児童青少年課を中心に検討及び再考することが課題と思われる。
3	タイトル	人員不足のため研修などが追い付かず、現有職員の負担増となっているため、採用や配置の改善が望まれる
	内容	会計年度任用職員(一般・短時間)の2名分が、通年で欠員状態となっているため、特別支援児を含む多様なニーズに応じた十分な支援の確保が困難となっている。こうした人員不足は、十分な研修ができない環境も含めて、既存の職員に過度な負担をかけ、支援の質を維持する上で支障をきたす恐れがある。結果として、子どもや保護者に安心・安全を提供できないリスクが高まるため、早急な補充と安定的な人員配置が望まれる。また、適切な研修やサポート体制の整備も含め、組織全体での取り組みも期待したい。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

令和 7年 3月 31日

杉並区長殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシテムズ

認証評価機関番号

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一

機構 06 - 167



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	伊藤 一郎	経営	H1601010
	②	高橋 利明	経営	H2101092
	③	和田 輝美	福祉	H1001021
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	杉二学童クラブ			
事業所連絡先	〒	166-0016		
	所在地	東京都杉並区成田西3丁目4番1号		
	TEL	03-3314-2208		
事業所代表者氏名	クラブ長 山口 智香子			
契約日	2024 年 6 月 7 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 9 月 27 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 1 月 24 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 9 月 13 日			
自己評価結果報告日	2025 年 1 月 24 日			
訪問調査日	2025 年 1 月 31 日			
評価合議日	2025 年 1 月 31 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
- 別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 理事長 秋山 由美子 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)あたたかな環境の中で「ほっとした気持ちになる」居場所作り 2)信頼の繋がりのもと職員・子ども・保護者が共に育ちあう 3)職員が子ども達の成長を理解し関りを積極的に深めていく 4)集団を通して他児とのあたたかな関り 5)生活の場として、挨拶や思いやりを育む</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後の時間が豊かで伸び伸び過ごせる様な空間、環境、イベント作りを積極的に行う ・子どもや保護者の想いや願いを受け止め、あたたかな人間関係の構築を目指す <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業理念を元に、保護者に寄り添い共に成長していくこと ・日常の中で子ども達が発信している事をしっかりと受け止め、どう実現していくのか共に考える ・目の前にいる子どもに「どう寄り添っていくのか」の視点で学びを深める。また日頃から情報収集を行い専門性を高めていく

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である180名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生14名、2年生14名、3年生8名、4年生2名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

180

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
180	0	180
38	0	38
21.1	0.0	21.1

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が47.4%、「本人と家族」が47.4%、「家族が推察」が5.2%であった。総合的な感想に関する調査の結果は、対象者の94.7%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が5.3%であり、大変高い満足度が得られている。

項目別では、〈生活について〉に関する5設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「学童での生活や遊びは楽しく興味が持てるか」では、89.5%の大変高い満足度が得られている。

〈安心・快適性〉に関する4設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「職員の接遇・態度」では、86.8%の大変高い満足度が得られている。

〈あなたを大切にしてくれるか〉に関する2設問は「気持ちを大切にしてくれるか」において、概ねの利用者が満足とする回答を得られている。

〈嫌なことやしてほしいこと〉では、「困ったり、してほしいこと」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「職員以外へ相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	34	3	0	1
「はい」が89.5%、「どちらともいえない」が7.9%、「無回答・非該当」が2.6%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「仕事をやれるのが楽しい」、「すごたのしいです」、「まんからのゲームが楽しい」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	25	4	1	8
「はい」が65.8%、「どちらともいえない」が10.5%、「いいえ」が2.6%、「無回答・非該当」が21.1%であった。自由意見では、「ワークの分からないところを教えてくれた」、「遊びとか勉強とか教えてくれるところがいい」、「たぶんのってくれる」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	31	7	0	0
「はい」が81.6%、「どちらともいえない」が18.4%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「いろいろなおやつが出てくる」、「たのしい、おいしい」、「ふつう」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	18	3	1	16
「はい」が47. 4%、「どちらともいえない」が7. 9%、「いいえ」が2. 6%、「無回答・非該当」が42. 1%であった。自由意見では、「これやっていいかどうか聞いたら教えてくれた」、「話し合いがあまりない」、「行ったときには既に一日の流れが決まっている」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	27	5	2	4
「はい」が71. 0%、「どちらともいえない」が13. 2%、「いいえ」が5. 3%、「無回答・非該当」が10. 5%であり、高い満足度であった。自由意見では、「走ったら人とぶつかるからダメとか教えてくれた」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	29	3	2	4
「はい」が76. 3%、「どちらともいえない」が7. 9%、「いいえ」が5. 3%、「無回答・非該当」が10. 5%であり、高い満足度であった。自由意見では、「たぶん、きれいだと思う」、「工作の紙などが床に落ちていることがあるが、物などはみんな片付けている」、「鉛筆の線とかが書いてあった」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	33	2	0	3
「はい」が86. 8%、「どちらともいえない」が5. 3%、「無回答・非該当」が7. 9%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	32	0	0	6
「はい」が84. 2%、「無回答・非該当」が15. 8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「具合が悪くなったことがなく、わからない」、「見たことがない」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	25	4	1	8
「はい」が65. 8%、「どちらともいえない」が10. 5%、「いいえ」が2. 6%、「無回答・非該当」が21. 1%であった。自由意見では、「ケンカやいじめにあったことがない」、「助けたというより、止めた」、「ケンカをしても友だち同士で解決している」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	26	1	0	11
「はい」が68. 5%、「どちらともいえない」が2. 6%、「無回答・非該当」が28. 9%であった。自由意見は特になかった。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	14	2	0	22
「はい」が36.8%、「どちらともいえない」が5.3%、「無回答・非該当」が57.9%であった。自由意見では、「内緒話をしたことがない」、「そういうことになったことがない」、「そういうはなしをしたことがない」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	19	4	0	15
「はい」が50.0%、「どちらともいえない」が10.5%、「無回答・非該当」が39.5%であった。自由意見では、「困ったことがない」、「そういう経験がない」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	9	5	8	16
「はい」が23.6%、「どちらともいえない」が13.2%、「いいえ」が21.1%、「無回答・非該当」が42.1%であった。自由意見では、「そういう状況になってない」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/>非該当
	カテゴリ1の講評	
	法人理念を職員や保護者に親しみやすく周知することに取り組んでいる 法人理念やクラブ理念を明確にし、職員や利用者、保護者に対して周知するための取り組みが行われている。年初にはWeb会議を活用した法人理念の説明や、各クラブの実態に合わせた運営指針の策定が行われ、職員が理念を具体的に理解しやすい工夫がみられる。また、「ワクワクを探そう」というスローガンを通じて理念を親しみやすく表現し、利用者や保護者に理念を伝える工夫もされている。さらに、法人理念を事務室内に掲示したり、保護者会資料に記載して説明するなど、理念の理解を促す取り組みにも努めている。	
	経営層がリーダー会議や研修で方針を共有している 法人としての理念や運営方針を明確にし、その実現に向けた役割と責任を職員に伝えている。特に、年度当初のリーダー会議やWeb会議を通じて方針を示し、職員が取り組むべき方向性を共有している点が特徴的である。また、新クラブ長研修を実施し、管理者が役割や責任を理解できる体制づくりにも努めている。さらに、職員自己評価を活用し、リーダー層と一般職層がそれぞれの視点から改善点を指摘するプロセスがあり、人材育成や職員間の連携が重視されていることが確認できる。	
	重要案件の周知手順が整備されている一方で改善の余地にも配慮願いたい 重要な案件については、区から法人への通達を経て、現場へ情報が共有される手順が整備されている。例えば、大規模学童クラブへの移行に際しては、区職員が経緯を説明し、現場運営に関する詳細はクラブ側から保護者に説明する形で進められている。また、安心でんしょばとの導入時には、区の説明を踏まえた上でクラブにおいて具体的な運用説明を行うなど、重要案件の決定内容が適切に周知されている。一方で、保護者会に参加しない家庭への情報伝達方法についてはさらなる工夫が求められる。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー2の講評		
<p>地域や保護者からの情報を活用し課題解決に取り組んでいる</p> <p>地域の保育園や行政機関との連携を通じて子ども人口や保育園利用状況などの情報を収集し、運営体制の整備に活用している。また、保護者アンケートや個人面談を実施し、保護者からの意見を運営に反映するための検討を行うなど、利用者ニーズへの対応に努めている。一方で、パート職員の不足が課題として挙げられ、今後の運営安定化に向けて常勤職員の増員を検討している。さらに、行政の動向や制度改定に関する情報を日々収集し、大規模クラブとしての運営を改善するための仕組み作りを進めている。</p> <p>単年度計画は適切に実施されているが中長期計画の策定は今後の課題としている</p> <p>区の方針や法人理念を基に年度ごとの事業計画が策定されており、それに基づいて年間計画を作成している。しかし、中・長期計画の策定は現時点で行われておらず、区の方針との整合性を考慮しながら検討が必要な状況である。重点目標の策定については幹部クラスで議論のうえ決定され、その後職員に共有されている。また、法人経理部門との情報共有により、計画に基づき実情に沿った予算編成が行われている。</p> <p>計画の進捗確認と修正を半期ごとに行い達成に向けた取り組みが行われている</p> <p>年度初めに年間計画を策定し、スローガンや月単位の目標を設定している。これにより、職員全体が計画の目的と内容を理解し、認識を共有している。また、事業報告書には、各学童クラブの振り返りや結果に対する考察が記載され、次年度へ向けた課題の把握に活用されている。計画の進捗状況は半期に1回合同会議で確認され、必要に応じて修正やアドバイスが実施されている。さらに、クラブ長が中心となり、定期的な見直しと確認を行い、計画の着実な実行に努めている。</p>		

3 カテゴリー3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー3の講評

法や倫理の遵守を支えるため、研修の実施と確認に努めている

全職員が社会人および福祉サービスに従事する者として守るべき法や規範、倫理を理解し、遵守できるような仕組みづくりが行われている。常勤職員には、児童憲章などの基本的な法規について学ぶための研修が実施され、理解を深める機会が設けられている。また、法人として就業規則に基づいた研修を行い、人権擁護や人権侵害防止に関するチェックリストを定期的に確認するなど、法や規範の遵守に向けた実効性のある仕組みの構築にも努めている。

子どもと保護者双方の意見に応える仕組みが整っている

意見箱やおやつリクエスト箱を設置し、子どもが自由に意見を表明できる環境があり、その意見をイベントや遊びの内容に反映している。日々の関わりでも自己肯定感を持ち、集団生活でのルールを理解し実践できるよう支援している。保護者からの意見や要望については、常勤職員が聞き取りを行い、対応内容を協議する体制があるほか、苦情解決制度を周知し、公正で中立的な第三者機関の利用を可能にしている。虐待防止においては、人権擁護・人権侵害防止チェックリストの確認を定期的に行い、職員間での情報共有を通じて組織的な防止策に取り組んでいる。

地域との連携と透明性の高い運営に取り組んでいる

事業所の活動内容は区や法人のホームページで紹介されている。また、近隣関係機関からのボランティアや実習生、職場体験の受け入れを行い、地域とのつながりを深めている。地域貢献として、学校や子ども子育てプラザ成田西と日常的に情報共有を行い、必要に応じた協力体制を整えている。さらに、避難訓練や行政連絡会への参加を通じて地域ネットワークとの連携を図り、共通課題の解決にも貢献している。法人主催のおまつりの準備を地域住民と協力して行うなど、地域の一員としての役割を積極的に果たしている。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ4の講評		
<p>災害や緊急時対応の訓練と情報共有の徹底に努めている</p> <p>水害や地震などの災害リスクについては、学校との連携を密にし、避難場所の変更が予想される場合でも柔軟に対応できる体制が整備されている。また、毎月の危機管理訓練や防災訓練を通じて、職員の対応力を高めている。事業内研修では、嘔吐やエビペンの使用、地震時や不審者対応に関する内容が実施され、児童に対しても帰りの会などで防災や防犯、交通ルールについて注意喚起を行っている。さらに、災害伝言ダイヤルや学校110番の周知を行い、共有された認識のもとでの対応を目指している。</p> <p>クラブの実態に即したBCPの具体化が求められる</p> <p>法人のBCP(事業継続計画)を基に対応が行われているが、クラブの実態に即した具体的な計画の策定が今後の課題として挙げられる。災害や感染症の発生時には、行政のルールを遵守し、関係機関と連携しながら迅速に対応している。また、事故やヒヤリハット事例については、法人でのフォーマットを活用しながらクラブ長会議で共有し、検証を行っているが、さらに実践的な運用が求められている。これらの取り組みを通じて、再発防止と対策の見直しに継続的に取り組んでいる。</p> <p>厳格なアクセス制限と規定に基づいた情報管理が行われている</p> <p>児童台帳などの書類は鍵付きキャビネットに保管し、利用権限を常勤職員に限定し情報管理の安全性を確保している。区とのやりとりにおいてはクラウドシステムを活用し、アクセス制限を設け個人情報の漏えい防止に努めている。情報の閲覧については、区からのお知らせや関係機関の情報をファイル化し、職員が自由に閲覧できる仕組みを整えている。さらに、「安心でんしょばと」により入室情報やお知らせを円滑に管理している。入会面談時には利用目的を説明し同意を得る手続きを実施しており、開示請求があった際には区の規定に基づいて対応している。</p>		

5 カテゴリー5		
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー5の講評

待遇改善とキャリアパスの明確化で人材育成を推進している

待遇改善や職員紹介制度を活用して人材確保に努めているが、大規模化に伴うパート職員不足が課題となっている。学童事業部が募集を担当し、クラブ間での応援派遣を実施するなど、相互の連携が図られている。事業計画や人事考課制度を通じて職責やキャリアパスが明確に示され、リーダー層の長期的視点や一般職層の即時的な課題解決への取り組みを支援している。また、個別面談や打ち合わせでは意見交換を重視し、特別支援児童には個別支援会議を設けるなど、職員間での共通認識を深めている。

研修充実と働きやすい環境整備により職員育成を推進している

経験や役職に応じた研修が学童クラブ事業部で計画されている。また、新任研修やOJTを通じて現場での実践力を向上させる仕組みが整えられている。研修後にはアンケートや意見収集を行い、職員会議で共有し、改善に活かしている。人事考課制度を活用して処遇への反映やフィードバックを行い、意欲向上に努めている。休暇が取りやすいシフト作成や常勤対象の面談の実施など、働きやすい職場環境づくりに配慮がみられる。さらに職場内研修を計画的に実施し、少人数での実践的な研修体制を目指している。

情報共有と意見交換を通じたチーム力向上が図られている

日々の業務では「ほう・れん・そう」を徹底し、打ち合わせやノートを活用して情報共有を行うことで、職員間のスムーズな連携が実現している。職員会議や担当会議では、報告や意見交換を通じて共通認識を深め、課題の改善に努めている。特に常勤職員が固定されたメンバーで構成されているため、職員間の風通しが良く、困りごとや判断に迷った際の相談や対応確認がしやすい環境が整っている。このような仕組みが、チームでの目標達成や課題解決に役立てられている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

学童クラブでは、新型コロナウイルス感染症の影響により制限されていた活動を見直し、子どもたちが楽しく過ごせる環境を取り戻すため、「楽しさひろがる 笑顔の輪」というスローガンを掲げて取り組んでいる。個別遊びから集団遊びへの移行を目指し、子どもたちから意見を集めるとともに、職員間で年間計画や行事を定期的に見直している。子どもの状況や興味に応じた活動を検討し、遊びのバリエーションを増やすことで、以前のような楽しい場の実現を目指している。
取り組みの背景には、コロナ禍での活動制限によるつながりの希薄化や、遊びのバリエーションの減少、おやつや昼食時の黙食による楽しさの低下があった。これに対し、子どもたちが自由に意見を表明できる場を設け、職員がその意見を基に活動を計画・改善することで、子どもたちの笑顔が広がる学童クラブの実現を目指している。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

職員会議や打ち合わせを通じて子どもの様子を共有し、学年別や性別に分けた遊びを提案・実現していった結果、「楽しさひろがる 笑顔の輪」というスローガンに基づいた活動が進展している。具体的には、学年別カードゲームや玩具の追加、育成室内や体育館での遊びのバリエーションを増やすことで、子どもたちが自ら遊びを選択し、友達や異学年と交流できる環境の整備につながった。これにより、子どもたちがルールを理解しながら遊びを楽しむ姿が見られるようになった。
さらに、取り組みを通じて、職員が提供する遊びから子どもたち自身が主体的に活動を考える流れが形成され、今年度の「ワクワクをさがそう」というスローガンにつながった。このように、活動を通じて子どもたちが主体性を持つきっかけが生まれており、スローガンに向けた取り組みが着実に成果を上げているといえる。今後は、これらの成果を基盤にさらなる発展を目指すことを期待したい。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

新校舎への引越に伴い、遊ぶ場所や遊具、遊びの内容が大きく変化したため、特に「身体を使った遊び」の充実に向けた取り組みを進めている。新校舎での活動を計画するにあたり、常勤職員4人が育成室の見取り図を基に、新生活の動線やリスクを考慮しながら話し合いを行った。また、新しい現場を実際に訪れることで、具体的なイメージを共有し、意見を明確にして活動の方向性を検討している。これにより、新しい環境での活動に向けた準備が進められている。
引越し前は狭い校庭を使用して活動していたが、新校舎では校庭がまだ完成していない状況にあり、小学校内の体育館やクラブ前の公園を遊び場のひとつとして利用している。また、保護者から身体を使った遊びに対する強い要望が寄せられていることで、課題解決の重要性を高めている。新校舎での活動計画には、場所や設備、時間の制約を考慮しつつ、子どもたちがより活発に体を動かせる環境作りが求められている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

新校舎への引越に伴う環境変化に対応するため、職員間で子どもの動線や備品の配置、スケジュールについて話し合いを重ねた結果、育成室2(にじの部屋)が身体を動かす活動に適しているとの意見がまとまり、活動場所として活用されている。子どもたちは説明だけでなく、実際の活動を通じて新しい環境に自然に慣れる様子が見られている。学校の協力により体育館の使用が可能となり、広い場所での活動も実現している。さらに、小学校前の「杉二小前広場」では学年別利用を導入し、子どもたちが新しい遊び場を知るきっかけを作ったほか、希望に応じて職員を伴い外部の公園を利用する機会も広げている。これにより、子どもたちの活動範囲が拡大し、遊びの選択肢が増えている。職員自身も運営を楽しむ姿勢を大切にし、今年度のスローガン「ワクワクをさがそう」を子どもたちとの合言葉として活用しながら、環境変化に伴う不安を和らげ、安心して過ごせる場を提供している。

II サービス提供のプロセス項目 (カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリー1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー1の講評			
<p>入会希望者や保護者に対し、適切な手段を用いて学童クラブの情報を提供している 杉並区のHPにて入会児童の募集情報を掲載すると共に、学童クラブ内にも区のポスターを掲示し、視認性を高めている。また、法人のHPにおいても学童クラブの写真や受け入れ人数を掲載し、入会を検討する家庭が具体的なイメージを持てるよう工夫している。さらに、毎年3月上旬に開催する入会説明会では、入会案内資料を配付し、詳細な説明を行うことで、保護者の理解を深めている。年度初めには保護者会を開催し、必要な情報を適時提供している。これらの取り組みにより、子どもや保護者が必要な情報を適切に得られる環境が整備されている。</p> <p>入会希望者や保護者が分かりやすい形で情報を入手できるよう努めている 年度ごとに学童クラブ入会案内を作成・配付し、説明を行うほか、入会説明会では資料を提供しながら詳細な情報を伝えている。また、年度初めに保護者会を開催し、保護者が直接質問しやすい機会を設けている。行政や関係機関に対しても、行政連絡会を通じて年間行事や関係資料を配付するなど、情報共有を積極的に進めている。さらに、事業所の見学については、希望者に対し日時調整を行い、運営中の短時間説明や、運営時間外の詳細な案内を実施している。</p> <p>入会希望者からの問い合わせや見学希望に対し、柔軟かつ適切に対応している 学童クラブでは、電話での問い合わせには常勤職員が対応し、対応内容を記録することで対応の一貫性を確保している。また、見学希望に対しては、運営時間内は短時間の説明を行い、運営時間外での見学時には施設概要や育成内容、遊びの様子を丁寧に伝えるなど、状況に応じた対応に努めている。こうした個別対応により、利用希望者が学童クラブの雰囲気や活動を理解しやすくなっている。さらに、行政連絡会や関係機関を通じて学童クラブの年間行事や関係資料を配付するなど、地域への情報提供が行われている。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受け入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>利用にあたって不安を感じることなく、安心して預けられる環境が確保されている</p> <p>学童クラブでは、入会面談時に入会のしおりやマニュアルを基に、常勤職員が学童クラブの活動内容や利用者負担金について詳細に説明し、保護者からの質問にも丁寧に対応している。また、児童の健康状況やアレルギー(エビペン所持の有無)、障害の有無、既往歴、身辺自立の状況などを詳細に確認し、学童クラブ入会面談記録に記録したうえで、適切に管理・保管している。さらに、保育園・幼稚園・子ども園での集団生活の様子や、必要な配慮事項についても聞き取りを行い、子ども一人ひとりに応じた適切な支援を行う体制を整えている。</p> <p>入会時に子どもが安心して利用できるよう支援を行っている</p> <p>入会面談時には、アレルギー(エビペン所持の有無)や健康状況について詳細に聞き取りを行い、学童クラブアレルギー調査表や学校生活管理指導表の写しを提出してもらい、適切に管理している。また、学童クラブ児童台帳や学童クラブ緊急時児童引渡し申出書、服薬の管理が必要な場合は、与薬申出書の提出を求め、個々の状況に応じた対応が行われている。さらに、新入会児童には、環境に慣れるため滞在時間を少しずつ長くする提案を行い、不安軽減に努めている。保護者の相談内容は運営前の打ち合わせで共有し、必要に応じて改善に取り組んでいる。</p> <p>特に配慮が必要な子どもの受け入れに際し、環境整備と情報共有を図っている</p> <p>特に配慮が必要な子どもの受け入れに際し、環境整備と情報共有を図っている。入会時には、保護者や児童と面談を行い、配慮事項を詳細に聞き取ることで、適切な対応ができるよう努めている。また、関係機関と連携し、特に配慮が必要な児童については特別支援児童プロフィール資料を作成し、情報を共有している。加配が必要な子どもについては児童育成記録に記載し、職員間での情報共有を図っている。さらに、退会時には、保護者や子どもに声かけを行い、放課後の居場所事業との連携を継続するなど、生活の連続性を考慮した支援を実施している。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>学童クラブでは、育成支援の目標に沿った計画を策定し、適切な支援を行っている</p> <p>学童クラブでは、クラブ長が年度ごとの目標を設定し、事業計画を作成している。法人の運営目標を基に年度初めにスローガンは常勤職員で話し合い決定し、短期間の目標も設定している。運営前の打ち合わせでは、報告事項や育成支援の検討事項を共有し、支援の質を高めている。特に配慮が必要な子については、特別支援児童プロフィールを作成し、職員間で情報を共有することで一貫した支援を実施している。さらに、年度始めの保護者会では法人理念・スローガン、運営方針を説明し、保護者の理解を得られるよう努めている。</p> <p>子どもに関する記録を適切に作成・管理する体制を整えている</p> <p>運営中のトラブル、ケガ、体調不良は学童クラブ日誌に記録し、必要に応じて保護者に報告・共有している。日誌は月ごとにまとめて区へ提出し、チェックを受ける仕組みとなっている。個々の児童については児童台帳を作成し、気になる様子や支援の必要性を随時検討している。特に支援が必要な子どもについては、日誌の特記事項に記載し、対応内容が複雑な場合は児童台帳第2号様式や児童育成記録に詳細を記録することで、職員間での情報共有を図っている。また、保護者との連携を強化するため、重要事項は連絡カードを活用し、適切に伝達している。</p> <p>子どもの状況について職員間で適切に共有し、支援の質を向上させる体制を整えている</p> <p>毎日の運営前に打ち合わせを実施し、記録の確認や子どもの様子について共有している。事業所内の記録は全職員が閲覧できる場所で管理され、必要な時に確認できる体制が整っている。また、毎月1回の職員会議やリーダー会議を開催し、子どもや保護者の状況の変化について情報共有し、支援の方向性を検討している。さらに、子ども一人ひとりの理解を深めるため、定期的な振り返りを行い、具体的な支援方法の見直しを進めている。これらの取り組みにより、職員間の情報共有が円滑に行われ、子どもの成長や変化に即した適切な支援が可能となっている。</p>			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>子どもや保護者のプライバシー保護を徹底するための体制を整えている</p> <p>入会面談時には個人情報の取り扱いに関する同意書を取得している。また、個人情報やプライバシーに関する研修を実施し、職員の意識向上を図っている。さらに、法人のマニュアルを整備し、適切な情報管理を徹底している。保護者と重要な話をする際には、個室を利用するなどプライバシーに配慮した環境を確保し、ほかの保護者に内容が漏れないよう配慮している。</p> <p>子どもの権利を守り、意思を尊重する体制を整えている</p> <p>子どもが主体的に行動できるよう、スケジュールを可視化し、自ら移動や遊びを選べる環境を整備している。また、入会面談や個人面談を通じて保護者の思いを受け止め、学童クラブで対応できることを話し合い、家庭の価値観に配慮した支援を行っている。さらに、子どもの意見を反映させるため、子ども会議(上級生会議)や意見箱を設置し、自由に意見を表明できる機会を設けている。トラブルや気になる変化があった際には、対象児からの聞き取りを行い、学校や保護者と連携して適切な支援を進め、子どもが安心して過ごせる環境を整えている。</p> <p>子どもの安全を確保し、いじめや虐待の予防に組織的に取り組んでいる</p> <p>職員向けに虐待予防研修を実施し、虐待防止マニュアルを作成することで、支援の質を向上させている。また、トラブル発生時には対象児の聞き取りを行い、学校や保護者と連携して適切な対応を実施している。いじめや暴力を未然に防ぐため、日常の支援を通じて子ども同士の関係性を把握し、必要に応じた働きかけを行っている。さらに、虐待が疑われるケースが発生した際には、所管課や子ども家庭支援センター、学校と連携し、迅速な対応を行う体制を整えている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5 / 5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見を提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>業務の標準化を図るため、マニュアルを整備し、職員が活用できる体制を整えている</p> <p>法人共有のマニュアルとして、危機管理、虐待予防、運営マニュアルが整備され、職員が随時閲覧できる環境が整えられている。また、事業所独自のマニュアルも作成され、おやつ提供など具体的なルール化が行われている。さらに、区のマニュアルを基に、リーダー職を中心に現場の実情に即した定期的な見直しを行い、業務の改善を図っている。業務上の不明点が生じた際には、マニュアルを活用し、クラブ長が判断できない場合は区へ確認する体制を整えている。これらの取り組みにより、統一された手順に基づく安定した子どもたちへの援助が行われている。</p> <p>子どもへの援助の質向上を目指し、業務水準の見直しを定期的実施している</p> <p>学童クラブでは、区の入会事務説明会や委託学童クラブ担当者会議で変更点が生じた場合には、マニュアルを改訂し、最新の基準に沿った運営を行っている。法人としても毎年マニュアルやチェックリストの見直しを行い、必要な改訂を実施している。改訂内容は職員会議で説明され、全職員に周知を促すことで、業務の統一性と質の向上が図られている。これにより、標準的な業務水準が維持され、適切な支援が提供されている。今後も定期的な見直しを継続し、職員や子ども・保護者の意見を反映させながら、より良い子どもへの援助の提供を目指している。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	27/27
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している			
		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>発達の過程や生活環境など子どもの全体的な姿を把握し援助している</p> <p>入会面談時の聞き取りや個人面談で得た個別の情報を共有し、日々の支援に反映できるようにしている。子ども一人ひとりの状況や特記事項については、口頭による申し送りや打ち合わせノートによって周知しており、前日の振り返りについても確認できるようにしている。低学年の子どもについては年齢だけではなく月齢にも配慮しており、出来ないことにも挑戦する気持ちを大切に汲み取りステップアップにつながるよう個別に声をかけている。</p> <p>子ども同士が尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している</p> <p>活動時間は学年ごとの下校時間に合わせて予定されており、1年生と早帰りの子どもたちは先におやつをとり、その後は2年生以上が続いている。自由遊びでは駒や縄跳びなど室内でも体を動かす遊びを取り入れたり、体育館で遊ぶ時間を設けたりしており、学年ごとに時間を設定する場合もあるが、学年や男女関係なくそれぞれが好きな遊びと一緒に取り組む姿が見られている。手持ち無沙汰な様子が見られた場合は、何気なく遊びに誘うなどの配慮に努め、子どもたちが安心して過ごせる環境が整えられている。</p> <p>配慮が必要な子どもが、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</p> <p>特別な配慮を必要とする子どもについては、職員が1対1で付き添い、必要な援助を行っている。職員間では子どもの特性や関わり方について共有し、一人ひとりが好きな遊びに取り組み、落ち着いて過ごすことができるよう環境を整えている。子どもの状況に応じて体育館でほかの子どもたちと一緒に遊び、関わりを持てるようにしている。保護者に対しては、お迎えの際に子どもの様子を伝え共有できるようにしている。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している			
		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>発達段階に応じた生活ができるよう、環境の工夫をしている</p> <p>遊びの種類ごとに部屋を分け、玩具、カードゲーム、読書、身体を動かす遊びなどを子どもが自分で選べる環境を整えている。机上では、色鉛筆、折り紙、お絵描き、工作などを楽しめるようにし、積み木、ままごとなどの玩具も用意している。漫画、図鑑、物語など子どもの興味に合わせて本も多く揃え、読書を楽しめる環境もある。片付けについては、決められた場所に収納ルールを設け、ケースや棚に整理できるように指導している。学校や塾の宿題、読書の時間には、集中できるよう時間とスペースを確保している。</p> <p>学童クラブでのルールを子どもたちにわかりやすく伝えている</p> <p>4月当初は、1年生に対して入室後の手洗い、各部屋の使い方、本や玩具の配置、使用や片付けのルールについて伝え、1週間を目安に一つの部屋で楽しく過ごし慣れることができるようにしている。1日の流れは時間と予定がわかりやすく掲示されており、子どもが自分で確認できるようになっている。一人ひとりのロッカーには製作途中の作品などを入れておくことができるが、金曜日にはすべて持ち帰るルールとし、その都度伝えながら指導を行っている。また、他の学年から新しく入会することもあり、状況に応じた配慮を行っている。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもが興味を持って行事に取り組めるよう工夫をしている</p> <p>毎月の誕生日会や季節の行事など、子ども達が楽しく参加できる行事やイベントを開催している。誕生日会では記念としてカードを持ち帰るなど、子どもが特別な日を楽しみ、保護者とも共有できる工夫をしている。ハロウィン、クリスマス、節分など季節の行事も取り入れており、その際はイベント用のパッケージのおやつを準備し雰囲気味わえるような工夫を行っている。クリスマスでは手作りのアドベントカレンダーを用意して、子どもたちが楽しみに過ごすことができるようにしている。</p> <p>子ども同士が協力し達成感を得られるような行事を開催している</p> <p>行事にあたっては、子ども同士が意見を出し合いながら、企画や活動をつくり上げていく機会を設けており、好きなことや興味のあることを尊重し取り入れている。地域まつりに向けては、お店の名前や作業工程について話し合い、学年を超えて協力しながら進め、やり遂げる楽しさを感じられるよう援助している。3年生以上が行う行事では、低学年の子どもたちが年上の子どもたちに憧れを抱きながら学ぶ姿が見られており、異年齢の関わりを大切に活動となっていることがうかがえる。</p> <p>行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている</p> <p>年度初めの保護者にて年間事業計画書について説明を行い、保護者の理解が得られるよう取り組んでいる。また、保護者への情報発信は、アプリやおたよりを活用して参加を募り、行事実施後はその様子について伝えている。行事によっては手伝いに来てくれる保護者もあり、協力を得ながら活動を進めるようにしている。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇)・非該当1
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	<input checked="" type="radio"/> 非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している</p> <p>下校時の子どもたちへの挨拶を大切にしており、小さな変化が感じられた場合は丁寧に話を聞き、職員間で共有して子どもの気持ちを受け止める関わりを心がけている。また、友達同士のトラブルがあった際には、表情や態度の変化に気を配り、適切なタイミングで声をかけ、話を聞くようにするなど、状況に応じた支援に努めており、子どもたちが安心して学童クラブに通える環境づくりに配慮をしている。帰宅時間10分前に声をかけて集めるようにしており、トイレなどの促しを行い、送り出しは門まで付き添うようにしている。</p> <p>子どもが見通しをもって過ごせるよう援助している</p> <p>育成室に1日の流れを掲示し、子どもが活動予定時間を自分で確認することで、見通しを持って過ごせるように援助している。育成室には個人ロッカーがあり、自分の持ち物の管理を行い、本やゲーム、玩具などの備品については使い方や片付けなどもしやすく棚に掲示を行っている。カードゲームは1年生用、2年生以上が使用するものに分かれているなど、年齢に応じて楽しめるような配慮もある。年度末には、新しく購入してもらいたい本やゲーム、玩具などの希望を聞くようにし、子どもたちが楽しく過ごせるよう配慮をしている。</p> <p>子どもたちが落ち着いて過ごせるよう環境設定をしている</p> <p>夏休みなど長い休みの期間中は、手芸や工作など子どもたちがそれぞれ好きな活動に時間をかけて取り組むこともできるようにしており、行事に向けての作品づくりの時間も取り入れている。午前中は学習時間も設け、宿題にも取り組めるようにしている。また、昼食後はDVDを見たり本を読んだりしてゆっくりと過ごせるようにしたり、1年生は体を休める時間を設けるなど、1日を通して疲れが出ないように配慮をしている。長時間利用の子どもたちには体を動かして遊び、気分転換できるように声をかけている。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当

評価項目5の講評

小学校や区と情報共有を行いながら子どもの育成にあたっている

学童クラブの運営前に職員室へ挨拶に行き、行事予定や体育館使用確認を行っている。また、クラブ長は毎月の調整会議で小学校の予定や区からの情報を得る機会があり、子どもたちの状況についても伝達している。下校時間を過ぎても到着しない場合など、小学校とのやり取りが必要な際には、主に内線電話で連絡をとるようにしている。また、小学校教諭や養護教諭から、子どものケガや体調などについての連絡をもらうこともあり、職員間で情報を共有して本人の様子を確認している。

不登校などの課題について職員間で共通認識を持ち対応できるようにしている

不登校などの課題を持つ子どもに対しては、学校と密に情報を共有しながら、子どもの気持ちに寄り添った援助を行う体制としている。学校との連携状況を把握し、子どもに対しては無理のないペースで子どもが安心して過ごせるよう、受け入れながら声をかけ、過ごし方の選択肢を増やすなど、子どもに合わせた支援を行い、保護者からの話などで気付きや違和感があった際は学校へ共有し見守りを行うようにしている。

保護者や関係機関と連携を図り、配慮が必要な子どもの支援に努めている

障害のある子どもや、発達面・養育環境で特に配慮が必要な子どもへの支援については、保護者及び関係機関と連携を図りながら支援を行っている。また、学童クラブ内でも、職員間での情報共有を徹底し、安心して過ごせる環境を整え、日々のかかわりを大切に子どもの成長を支えている。支援学校からバスを利用しているケースもあり、バス停までの送迎など保護者と連携を行っており、体調などについては丁寧伝えていく。

6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当

評価項目6の講評

子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している

おやつ時間は、グループごとに決められた席で食べるようにしており、定期的に席替えを行い、様々な子どもと関わる機会を取り入れている。季節や行事を感じられるお菓子を提供し、特別感を取り入れよう工夫し、子どもたちがおやつを楽しめるように工夫をしている。誕生日会では特別なおやつを提供を行っている。

おやつの種類は子どもたちの意見を取り入れるようにしている

子どもたちの好みに配慮しながらおやつを提供を行っており、ゼリー、おせんべい、クッキーやパンなど3種類やバナナなどの果物、紙パックのジュースも用意している。食べたことのないものや好き嫌いにも挑戦できるよう声をかけ、興味を持って無理なく食べられるよう援助している。また、子どもたちの意見を取り入れるために、リクエストを募集したり「おやつ選挙」を実施しながら、楽しみとなるような工夫を行っている。水筒を持参し、冷水器も設置されている。

食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している

食物アレルギー対応のおやつは専用の皿を使用し、色の違いや名前、原材料名を提示することで、誤食がないよう取り組んでおり、職員も随時確認を行い、子どもが安心しておやつを楽しめる環境を整えている。食物アレルギーを持つ子どもたちについては、座席を決めており、入り口のロッカーにも近い場所とし、薬の服用など緊急時の対応がとりやすいように配慮をしている。

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(○)・非該当1
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している ○非該当
○あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている ●非該当
評価項目7の講評	
子どもが自分の健康や安全に関心を持てるよう援助している 手洗いのルールを徹底し、体育館や外遊びから戻った際、おやつ前などには適宜声をかけ手洗いを促している。また、日頃より子どもの顔つきや体調の確認に努めており、寝不足や体調の変化が見られる場合は声をかけ、体を休めるように伝えたり、熱を測るなど状況に合わせて対応している。アレルギー対応として薬を携帯している子どもについては、毎日の所持を確認し、忘れていた場合は保護者に連絡をしている。一日育成の日などは忘れやすいため、確認のために電話をするなどの対応を行っている。	
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(○○○○○)
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている ○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている ○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている ○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている ○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている ○非該当
評価項目8の講評	
保護者が安心して子育てできるよう、個々の事情に配慮した支援を行っている 入会面談時の記録をもとに関係機関と連携し、子どもの状況を把握したうえで受け入れを実施している。また、個人面談や日常の対話を通じて保護者からの情報を収集し、職員間で共有することで、子ども一人ひとりに適した対応を心がけている。保護者会や運営協議会を定期的に開催し、保護者との意見交換の機会を設け、子どもの成長について共に考える場を提供している。さらに、職員は連絡カードや電話を活用し、児童の様子を適宜伝えることで、信頼関係の構築に努めている。今後も、保護者と連携しながら支援の質を向上させる取り組みに期待したい。	
保護者同士の交流の場を積極的に設け、支援の充実を図っている 学童クラブでは、年2回の保護者会を開催し、保護者が直接交流しながら子どもの成長について情報交換できる場を提供している。また、地域のお祭りへの参加を通じて、保護者同士が自然な形で関係を築ける機会が設けられている。保護者会では、学年別に子どもの様子を伝えるほか、スライドショーを活用し、学童での生活を具体的に紹介する工夫もされている。こうした取り組みにより、保護者同士がつながりを深め、学童クラブと家庭が連携しながら子どもを育む環境が形成されている。今後も交流の機会を継続し、より円滑な保護者支援を目指している。	
保護者と連携しながら子どもの安全を確保する取り組みが行われている 学童クラブでは、出欠席の管理には配信サービスの安心でんしよばとアプリ、連絡カード、電話を活用し、保護者と密に連携を図っている。所在が確認できない場合は迅速に捜索を行い、必要に応じて関係機関と連携し、安全確保に努めている。お迎え時には、その日の遊びやトラブル、ケガの有無を伝えることで、保護者と日々の様子を共有している。さらに、個人面談や運営協議会を定期的に開催し、子どもの発達や成長について保護者と共通認識を持つ機会を設けている。これらの取り組みにより、保護者が安心して子どもを預けられる環境が整えられている。	

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目9の講評			
<p>地域資源を活用し、子どもが多様な体験をできる環境を整えている</p> <p>周辺には自然や広場、公園が多く、散歩や身体を動かす遊びを積極的に取り入れ、子どもが自然と触れ合いながらのびのびと活動できる機会が設けられている。放課後等居場所事業「はっぴいタイム」との交流を行い、異なる年齢の子どもたちと関わる場を設けている。さらに、放課後等居場所事業とも連携を継続し、放課後の活動の選択肢を広げている。これらの取り組みにより学童クラブ内に留まらず、地域の様々な環境や人と関わる機会が確保されている。今後も地域資源を活かした活動を充実させ、子どもの経験幅をさらに広げていく取り組みが期待される。</p> <p>地域との交流を大切にし、子どもが地域社会と関わる機会を提供している</p> <p>学童クラブでは、地域との交流を大切にし、子どもが地域社会と関わる機会を提供している。地域のお祭りに参加し、地域の子どもや大人との触れ合いを促進しているほか、近隣の関係機関にポスターを掲示することで、地域とのつながりを強化している。また、中学生ボランティアとの遊びの交流を実施し、異年齢の子ども同士が関わる機会を設け、年上の子どもから学ぶ経験を大切にしている。これらの活動を通じて、子どもたちは地域の一員としての意識を育み、社会性を身につける機会を得ていることがうかがえる。</p> <p>地域の施設を活用し、子どもの生活の幅を広げる取り組みを行っている</p> <p>学童クラブでは、小学校内の体育館を借りて活動を実施し、広い空間を活かした運動機会を提供している。また、避難訓練では小学校の避難訓練に参加し、実際の避難経路を確認しながら安全意識を高める訓練を行っている。こうした地域施設の活用により、学童クラブ内では得られない貴重な体験を提供している。さらに、放課後等居場所事業との関わりを継続し、子どもたちが地域の様々な活動に参加できる機会を確保している。今後も、地域との連携を深め、子ども達の成長を支える環境づくりを目指している。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-1	事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている
タイトル①	待遇改善と連携強化などの人材の確保に力を入れて取り組んでいる	
内容①	大規模化に伴う人材確保に力を入れており、特に常勤職員を中心とした募集を区との連携で進めている。学童事業部が募集活動を担うことで、相互の状況理解がしやすく、必要に応じたクラブ間での応援派遣も実施されている。さらに、給与アップや職員紹介制度による報奨制度など、待遇改善に注力し、魅力的な職場環境を整えることで人材確保を目指すなど、これらの安定的な運営体制の構築に向けた努力が続けられている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル②	子どもの主体性を尊重し、自ら選択できる環境づくりを推進している	
内容②	学童クラブでは、スケジュールを可視化し、移動や遊びを自由に選べるよう工夫することで、子どもの自主性を育てている。また、子どもの声を反映させるため、子ども会議(上級生会議)や意見箱を設置し、意見を自由に表明できる機会を設けている。保護者との連携にも力を入れ、入会面談や個人面談を通じて家庭の価値観を尊重しながら、学童クラブでできる対応について話し合い、適切な支援を実施している。さらに、トラブルや子どもの変化が見られた際には、対象児の聞き取りを行い、学校や保護者と連携しながら適切な対応を進めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	
内容③	子どもたちの遊びについては、定期的に職員間で話し合い、活動内容や玩具、本、環境について見直すようになっている。また、新しい遊びのルールを丁寧に説明し、子どもたちが安心して遊べる環境を整えている。遊びを充実させることで、異年齢での関わりや遊びへの挑戦を考え、より楽しく学びのある時間を提供できるよう努めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保護者との連携を強化し、子どもの成長を支える環境を整えている
	内容	学童クラブでは、入会面談時の記録を基に関係機関と連携し、子どもの状況を把握したうえで適切な受け入れを実施している。また、個人面談や日常の対話を通じて保護者からの情報を収集し、職員間で共有することで、一人ひとりに応じた支援を行っている。年2回の保護者会では、学年別の情報提供やスライドショーを活用し、学童での様子を具体的に伝える工夫をしている。さらに、地域のお祭りへの参加を通じ、保護者同士の交流を促し、学童クラブと家庭の連携を深めている。これらの取り組みにより、子どもを安心して預けられる環境が形成されている。
2	タイトル	異学年交流をするなかで、それぞれが学び合いながら成長できる環境である
	内容	育成については、子どもの人数が多いため集団が大きいことを考慮し、学年別に対応を行っているが、学年を超えて一緒に活動する機会も多くあり、子どもたちが多様な関わりを持ち、協調性を育むことができる環境となっている。また、4年生以上も14～15名ほどおり、年下の子どもたちと関わること、リーダーシップや思いやりの心を育てている。
3	タイトル	理念の共有と実践が一体となった運営に取り組んでいる
	内容	あたたかな環境作りや信頼関係の構築、子どもたちの成長を支える積極的な関わりを理念に掲げ、具体的な取り組みを展開している。年初には法人理念や運営指針を各クラブの実態に合わせて共有し、職員間での理解を深めている。また、利用者や保護者には「ワクワクを探そう」というスローガンをういて理念をわかりやすく伝え、遊びを通じて実践につなげる工夫がなされている。これにより、職員、子ども、保護者が一体となり、理念に基づいたサービス提供を目指している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域貢献の視点を持った活動を充実させていくことが期待される
	内容	学童クラブでは、公園や広場を活用した運動遊びを取り入れ、自然と触れ合う機会を提供している。また、放課後等居場所事業や中学生ボランティアとの交流を通じ、異年齢の関わりを促進し、社会性の育成に努めている。さらに、関係機関と連携を図り、地域とのつながりを深めている。一方で、地域交流の範囲が限られ、学童クラブの地域貢献について職員間での議論が不足していることが挙げられる。今後は、地域との連携をさらに広げ、学童クラブが果たす役割について職員間で共有しながら、地域貢献の視点を持った活動を充実させていくことが期待される。
2	タイトル	遊びの場所が限られていることを課題とし検討を行っている
	内容	現在の課題として、遊びの場所が限られていることが挙げられる。校庭は工事中で利用できず、再開は2年後の予定となっているため、公園などの外部施設の活用についても検討している。また、子どもたちが様々な遊びを楽しめるよう、体育館での遊びの種類を増やし、活動の幅を広げていきたいと考えており、大人数ならではの良さを考慮した遊びを取り入れることを検討している。
3	タイトル	クラブ特性を考慮した実効性のあるBCP策定を進めたい
	内容	法人としてBCPが策定・周知されているものの、杉二学童クラブの実態に即した具体的な内容が反映されていない点が課題として挙げられる。クラブの特性や地域の状況を踏まえた独自のBCPを策定することで、災害や緊急時の対応能力をさらに向上させることが期待される。また、具体的な計画があることで、職員が迅速かつ適切に行動できる環境が整い、子どもたちや保護者の安心感も高まると考えられる。今後は、クラブの運営実態に基づく詳細なBCP策定が重要となる。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

令和 7年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一

以下のとおり評価を行いましたので報告します。



評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	伊藤 一郎	経営	H1601010
	②	坂本 里香子	福祉	H1302028
	③	和田 輝美	福祉	H1001021
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	西田学童クラブ			
事業所連絡先	〒	167-0051		
	所在地	東京都杉並区荻窪1丁目38番15号		
	TEL	03-5335-7753		
事業所代表者氏名	クラブ長 長尾 和子			
契約日	2024年 6月 7日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024年 9月 27日			
利用者調査結果報告日	2025年 1月 11日			
自己評価の調査票配付日	2024年 9月 10日			
自己評価結果報告日	2025年 1月 11日			
訪問調査日	2025年 1月 18日			
評価合議日	2025年 1月 18日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 代表取締役 伊藤 勝 康 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)企業理念:会社の存在意義は、マミーで働いている方々が幸せになるお手伝いをするためにある。そのことで、子ども達や関わるすべての人々を笑顔にすることが私たちの願いです。 2)企業スローガン:【Mommy,always there for you.(マミーはいつも人のためにあります。)]子どもから高齢者まで、全ての人々のためにあります。 3)社員行動指針:【忘己利他(己を忘れて他を利する)】マミー・インターナショナルの社員として、自分を中心に物事を考えてまわりに望むだけでなく、自分をすててまずは自助の精神で行動します。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>人材像:常勤は、放課後支援員資格取得者。コミュニケーション能力があり、周囲や児童の状況を細やかに察知し、忘己利他の精神があること。 役割:児童の心に寄り添い、自分で考え、やりたいことが実現できるという3点を大切に、職員全員が同じ方向性を持って支援できるようにしている。児童がやりたいと言える環境があり、やりたいが実現できること、そして困った時には一緒に考える支援者であること。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>私たちの運営する施設は自治体からの委託事業であって、関わっている職員はすべて本事業の職員として、その責任と自覚を持ち、当事者意識をもって業務にあたる。</p>

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である100名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生27名、2年生11名、3年生6名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

100

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
100	0	100
44	0	44
44.0	0.0	44.0

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の88.6%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が9.1%、「ややよくない」が2.3%であり、大変高い満足度が得られている。
項目別では、＜生活について＞に関する5設問は1設問において、大変高い満足度であった。特に「約束ごとがどうして大切なのかの説明」では、81.9%の大変高い満足度が得られている。
＜安心・快適性＞に関する4設問は1設問において、大変高い満足度であった。特に「職員の接遇」では、88.7%の大変高い満足度が得られている。
＜あなたを大切にしてくれるか＞に関する3設問は1設問において、大変高い満足度であった。特に「気持ちを大切にしてくれるか」では、81.9%の大変高い満足度が得られている。
＜不満・要望への対応＞では、「不満や要望への対応」は高い満足度であったが、「外部の苦情相談窓口の案内」についてはさらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	33	5	3	3
「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が11.4%、「いいえ」が6.8%、「無回答・非該当」が6.8%であり、高い満足度であった。自由意見では、「ベイブレード、ポケモンカード、ワンピースカードなどの遊びがあるから」、「いろいろな遊びができるから楽しい」、「同じ学年の子が少ないのと、学童のものは遊びつくして飽きたので、退屈なことが多い」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	33	7	0	4
「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が15.9%、「無回答・非該当」が9.1%であり、高い満足度であった。自由意見では、「相談にのってくれるときも、のってくれないときもある」、「あまり話をしません」、「そんなに職員に頼ってないからわからない」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	30	4	8	2
「はい」が68.2%、「どちらともいえない」が9.1%、「いいえ」が18.2%、「無回答・非該当」が4.5%であった。自由意見では、「セレクトおやつでおかわりができるから」、「おやつが美味しいからです」、「友だちと一緒にいつも食べられないから(グループが決まっているから)」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	31	5	0	8
「はい」が70. 4%、「どちらともいえない」が11. 4%、「無回答・非該当」が18. 2%であり、高い満足度であった。自由意見では、「やったことがない」、「考えが思いつかないから話したことはない」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	36	2	2	4
「はい」が81. 9%、「どちらともいえない」が4. 5%、「いいえ」が4. 5%、「無回答・非該当」が9. 1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「あそびいちなど教えてください」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	20	17	5	2
「はい」が45. 5%、「どちらともいえない」が38. 6%、「いいえ」が11. 4%、「無回答・非該当」が4. 5%であった。自由意見では、「ちょっときれいじゃない日もあります」、「たまに漫画の入れ方が乱れたままになっている」、「トイレが汚い」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	39	2	1	2
「はい」が88. 7%、「どちらともいえない」が4. 5%、「いいえ」が2. 3%、「無回答・非該当」が4. 5%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	35	3	0	6
「はい」が79. 5%、「どちらともいえない」が6. 8%、「無回答・非該当」が13. 7%であり、高い満足度であった。自由意見では、「転んだときに助けてくれた」、「なったことがない」、「ケガをしたり、具合が悪くなったことがないから」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	35	4	1	4
「はい」が79. 5%、「どちらともいえない」が9. 1%、「いいえ」が2. 3%、「無回答・非該当」が9. 1%であり、高い満足度であった。自由意見では、「ケンカをしたときに止めて、仲直りするようになってくれたため」、「なったことがない」、「ケンカをしないからわからない」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	36	2	0	6
「はい」が81. 9%、「どちらともいえない」が4. 5%、「無回答・非該当」が13. 6%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	20	1	0	23
「はい」が45. 5%、「どちらともいえない」が2. 3%、「無回答・非該当」が52. 2%であった。自由意見では、「ないしょの話をしたことがない」、「ないしょの話がない」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	32	3	2	7
「はい」が72. 8%、「どちらともいえない」が6. 8%、「いいえ」が4. 5%、「無回答・非該当」が15. 9%であり、高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	13	5	6	20
「はい」が29. 5%、「どちらともいえない」が11. 4%、「いいえ」が13. 6%、「無回答・非該当」が45. 5%であった。自由意見では、「おとなのひとならだれでも」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく <input type="radio"/>非該当
	カテゴリ1の講評	
	理念・方針を職員、保護者、子どもに周知している 学童クラブの運営指針を事務室に掲示し、職員や利用者に理念や基本方針の周知に努めている。法人全体のキックオフミーティングで前年度の振り返りを行い、理念に基づいた事業計画の共有を図っている。施設長は施設長会議や管理者会議に参加し、得た情報を職員へ報告し、議事録を回覧することで共有を徹底している。新入職員には、職員マニュアルやビジネスマナー研修を通じて理念や基本方針を説明している。保護者には入会説明会や見学会、保護者会で直接説明し、子どもには高学年の子どもと共に約束事や決まりとして伝えている。	
	会議や研修を通じ、職員の役割と理念を周知している 施設長を含む全職員が年初に自らの役割を共有し、施設長は対外的な役割についても伝えている。キックオフミーティングや行事の役割分担を通じ、職員の方向性を明確にしている。入職時研修や階層別研修、「語らう会」などで法人全体の方針を共有している。施設長会議や管理者会議の内容は職員ミーティングで伝達し、議事録を回覧して周知を徹底している。日々のミーティングではクラブ長が方針を確認し、書籍の配付や研修で仕事への姿勢を共有している。事業計画や指導計画は、理念に沿っているか施設長が確認している。	
	会議や議事録で職員に周知し、保護者にも適宜説明している 学童クラブ、法人、区、館長の順で相談しながら検討する手順がルール化されており、法人内の案件は法人の会議で審議し、決定事項は議事録を通じて全職員が閲覧できるようにしている。法人の経営陣と施設長が参加する会議や管理者会議で重要案件が話し合われ、決定している。なお、施設長同士の情報共有やシステム内で決済手順を確認できる仕組みがある。決定内容はミーティングで共有し、ノートにサインや押印後職員全員が確認している。保護者会、クラブだより、施設内掲示で情報の周知を図り、必要に応じて職員が口頭で説明している。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>利用者や職員の意向と地域動向を把握し、課題に対応している</p> <p>利用者や保護者へのアンケートや意見箱、保護者会、個人面談などで意向を把握し、子どもには意見箱「なないろBOX」を設置して対応している。職員については、年1回の意向調査や係活動で提案しやすい環境を整えている。地域の情報収集は館長会議や地域会議を通じて行い、小学校や行政の動向にも目を配っている。経営状況は法人経営陣との会議や巡回で共有し、予算削減にも配慮している。杉並区では学童クラブ需要の高まりや新たな「放課後等居場所事業」への対応も検討し、子どもの居場所支援に取り組んでいる。</p> <p>年度ごとの事業計画を策定し、中長期的視点を持って運営している</p> <p>前年度の課題を振り返り、毎年度の事業計画を策定している。法人全体としては中長期計画を策定しており、学童クラブでは事業計画の中で中長期を見据えた単年度計画を策定している。年度ごとの振り返りも行い、計画の実効性を高めている。予算編成は定められた予算内で実施し、クラブで申請した後、契約単位で区へ申請する仕組みとなっている。</p> <p>進捗を確認しながら計画を推進し、年度末に振り返りを行っている</p> <p>年度当初に役割分担を行い、行事やプログラムを実施している。目標達成度は具体的な数値や個人の目標設定を基に測定し、年度末に達成率を示して振り返りを行っている。毎月の常勤職員ミーティングでは進捗状況を話し合い、確認している。事務室には「TO-DOリスト」を掲示し、職員が自身の役割を自覚しつつ、施設長や他の職員と共有できる仕組みを整えている。年度末には事業計画の振り返りシートを作成し、次年度の計画策定に反映している。</p>		

3 カテゴリー3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー3の講評

研修やチェックシートを活用し、法・規範・倫理の理解と遵守の徹底を目指している

倫理研修やコンプライアンス研修を実施し、受講後には報告書を提出し、施設長が確認している。年度初めには就業規則を含む職員マニュアルを配付し、再周知を図っている。全職員が週1回「セルフチェックシート」、月1回「心構えチェックシート」を実施し、自身の行動を振り返る機会を設け、クラブ長やエリアマネージャーが確認し、必要に応じて指導を行っている。年度初めのキックオフミーティングでは行動規範の読み合わせを実施し、新人研修や年1回の動画研修を通じて理解を深めている。

苦情対応と虐待防止の体制を整え、関係機関と連携している

意見・要望・苦情への対応として、意見箱の設置や相談窓口の掲示、保護者会での相談先周知を行っている。苦情対応マニュアルに基づき、法人や自治体と連携しながら対応し、必要に応じて顧問弁護士へ相談する体制を整えている。職員間では注意しやすい環境づくりを進め、連絡帳や口頭での苦情も速やかに施設長へ報告している。虐待防止対策として、全職員が不適切行為の研修を受講し、セルフチェックシートで定期的に振り返りを行っている。異変を察知した場合は、施設長を経由し法人や自治体へ報告し、関係機関と連携できる体制を整えている。

地域や学校と連携し、行事や防災活動に積極的に参加している

児童館や併設の小学校と連携し、交流を図っている。クラブだよりをアプリや紙で配信し、利用希望者には見学や説明の機会を設けている。保護者会や個人面談では、子どもたちの育成状況をスライドなどで説明し、透明性を高めている。ボランティアや実習生の受け入れ体制を整え、保護者の1日指導員体験も実施している。地域の祭りや児童館行事に職員や子どもが参加し、学校の英語イベントにも協力している。地域連絡会や区のブロック会議を通じ、情報交換や防災の取り組みに参画し、小学校の避難訓練にも毎年参加している。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>研修や訓練を通じ、安全管理と感染症対策を徹底している ケガや災害、不審者対応などのリスクに対し、日々の事故記録やリスクマネジメントシートを活用し、研修や訓練を通じて対応を強化している。法人内の安全管理部では、安全管理担当者が年4回の会議でマニュアルの確認やリスク検討を行っている。緊急時の対応フローを職員コーナーに掲示し、職員配置も日案に記載している。AED講習や不審者対応訓練、子どもとの防災訓練を実施し、保護者にも災害時の訓練参加を呼びかけている。消毒や除菌を徹底し、感染症対策も強化している。</p> <p>BCPや防災計画を策定し、保護者や職員に周知している 法人で策定したBCPに基づき、各施設の事業継続戦略を定めている。西田学童クラブでは、自治体や学校の指示に従う方針を掲げ、クラブの実態に合わせた内容の検討も行っている。法人でも防災計画を策定し、事故防止や災害時対応のマニュアルを周知している。備蓄品の管理を行い、年度初めの保護者会で災害時や感染症対応、連絡手段について説明し、定期的にお便りで周知を図っている。日々の軽微なケガについてもミーティングで対策を話し合い、再発防止に取り組んでいる。</p> <p>個人情報を厳重に管理し、アクセス制限や研修で周知を図っている 情報管理について法人の規定に基づき個人情報の取り扱いマニュアルを作成し、全職員に周知を図っている。コンプライアンス研修で個人情報保護を学び、入職時には誓約書を提出している。書類は鍵付きキャビネットで保管し、保管期限を管理して適切に廃棄している。パソコンにはパスワードを設定し、重要情報はネットワーク未接続の専用端末で管理している。デジカメやタブレットは鍵付き棚で管理し、持ち出し簿で管理を徹底している。情報は外部への持ち出しを禁止し、アクセス権限を設定している。入会時には同意書を取得し、利用目的を明示している。</p>		

5 カテゴリー5		
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー5の講評

採用から育成までの体制を整え、適切な配置と研修を実施している

法人が採用を担当し、常勤職員は法人と現場の2段階面接を経て採用している。非常勤職員については施設長が評価シートに基づき採用を判断し、ミスマッチを防ぐため丁寧な説明を行っている。年齢や性別、地域性、子どもの特徴を考慮し、本人の意向も踏まえた適切な配置を行っている。自己他己評価シートの提出後、希望者には面談を実施し、キャリアの見通しを持てる機会を提供している。副施設長は研修に参加し、全体のスキル向上に努めている。非常勤職員も法人内動画研修や放課後児童支援員研修の受講を促されている。

研修や評価制度を活用し、職員の育成と定着を促している

週1回の「セルフチェックシート」、月1回の「心構えチェックシート」を実施し、施設長が確認して指導を行っている。自己他己評価シートを活用し、面談を通じて育成計画を策定している。研修は年3回の参加を目標とし、動画研修の活用や非常勤職員の参加機会も確保している。新人職員にはブラザー&シスター制度を導入し、月1回の面談を実施している。有給休暇の取得促進や時間外勤務の抑制、ストレスチェックや健康診断を年1回実施し、職員が意見を言いやすい環境を整えている。

研修共有やミーティングを通じ、チームワークと業務改善を図っている

研修後はミーティングで内容を共有し、報告書を職員が自由に閲覧できるようファイリングしている。全職員が発言しやすい環境を整え、ミーティングで意見交換を行っている。非常勤職員は係活動を通じて業務改善に取り組んでいる。定期的な業務報告を行い、職員同士が取り組みを認識し、相互理解を深めている。リーダーの役割を通じて各職員が運営に主体的に関わり、特に非常勤職員との情報共有を強化し、チームワークの向上につなげている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

・子どもが主体となり、協力しながら学童クラブでの時間を過ごせることを目指し、上級生の居場所作りや子どもの係活動・班活動に取り組んでいく。
 ・1・2年生の在籍が多く、3年生以上が落ち着いて過ごせる場所がないため、安心して過ごせる環境を整える。
 ・上級生ルームを設置し、間取りを子ども自身が考え、子ども主導でイベントを企画・実施する。特別感を持たせながらも下級生を疎外しない雰囲気づくりを大切に、上級生担当職員が話し合いを進め、日々の様子を見守りながらミーティングで課題を共有していく。また、コロナ禍で集団遊びの機会が減り、協力し話し合いながら活動する経験が不足していることを踏まえ、子どもたちの意見をもとに2・3年生が中心となって係活動を実施する。
 ・班活動では、おやつを食べる時間やイベント参加などを協力しながら行い、集団での活動経験を積んでいくことを目指した。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p> <p><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p> <p><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

上級生は片付けやスケジュール管理を自分たちで行うことができ、やりたいことと実際にできることの違いに気づく機会となった。子ども同士で意見をすり合わせる場面も見られ、下級生からは自分たちも企画したイベントを実施したいという声が上がってくるなど主体性が広がる結果となった。責任を持って係を担当する子どもが多く、帰りの会の放送では時間を見ながら自分の役割を果たし、同じ担当の子どもとも協力して取り組む姿があった。夏休みには上級生が企画したお化け屋敷を実施し、多くの下級生も楽しんだ。今後は、下級生がイベントを企画する際に、上級生がやり方を伝え、意見の違いを調整することや片付けをやり切ることを支援するなど、子どもの主体性が受け継がれるような環境作りも期待したい。一方で、遊びの中に班活動を取り入れ、班で決めた遊びや班対抗ゲームを実施し、集団で協力して取り組む経験を積み重ねるクラブのスタイルを確立していく。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

非常勤職員同士の連携と対応能力の向上を目指して、組織的な取り組みを進めていく。勤務時間の違いやモチベーションの差によって子どもへの対応にばらつきが生じているという課題があるため、クラブとしての方針や大切にしていることを非常勤職員にも継続して伝えていく。

・ミーティングの場では、正規職員だけでなく非常勤職員にも参加を促し、子ども対応に関する考え方を共有し、一貫性のある支援ができるようにする。

・非常勤職員のスキル向上を図るため、子ども対応研修や放課後支援員の心構えに関する研修、倫理研修を実施し、職員が共通認識を持てるようにする。これにより、非常勤職員の対応力を向上させ、子どもとの関わり方に統一性を持たせる。

・個々の得意分野を生かせる場を設けることで、非常勤職員が自信を持って業務に取り組める環境づくりを進めていく。得意な分野での活動を通じて、非常勤職員が主体的に関わる機会を増やし、チーム全体の活性化につなげる。

今後も、非常勤職員が継続的に学び、成長できる機会を提供しながら、連携の強化と対応能力の向上に取り組んでいくことを目指した。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p> <p><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p> <p><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

・非常勤職員の研修やミーティングへの参加を通じて、職員自身に自信が付き、子どもからの信頼が高まっている。子どもへの声かけが変化し、職員の気づきのレベルも向上している。支援員としての自覚や意識が高まり、当事者意識を持って子ども対応にあたる職員が増えている。

・職員の係活動を実施し、チームごとに話し合いながら様々な活動に取り組んでいる。ミーティングでは月1回の報告の場を設け、進捗を共有しながら改善を図っている。これにより、職員が自主的に行動し、アイデアを積極的に出すようになっている。非常勤職員からも多様な意見が出るようになり、新たな遊びや運営方法、子ども対応の選択肢が増えている。

今後も、職員同士の連携を強化しながら、それぞれの得意分野を生かし、子ども支援の質を向上させていく。

II サービス提供のプロセス項目 (カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じた対応している		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評			
<p>区のHPやパンフレットでクラブ名や住所、電話番号などの基本情報を見ることができる</p> <p>区のHPでは「くらしのガイド」「子育て」「児童館、子ども・子育てプラザ、学童クラブ、児童青少年センター（ゆう杉並）」と検索していくと、利用対象や利用できる日と時間、利用料、申し込み窓口などが示されている。また「施設案内」「子育て関連施設」と検索すると、施設名や所在地、電話番号が書かれた学童クラブの一覧を見ることができ、施設情報として電話番号や曜日ごとの利用時間、休業日などを見ることができる。区のパンフレットにはクラブ名、住所、電話番号、各クラブの地図と最寄り駅などからのアクセスなどが紹介されている。</p> <p>英語のネイティブ職員の在籍、班での異学年交流などをクラブの特徴として紹介している</p> <p>見学の問い合わせは電話で受け、クラブ長または補佐の職員が見学者の希望の日時に合わせて見学を実施しているが、飛び込みでの訪問にも対応している。また10月には荻窪と合同で児童館にて、新1年生向けの合同説明会を実施し、希望者はそのままクラブに移動し、見学を行っている。見学の際は各クラスを見てもらい、英語のネイティブ職員が常駐していることや班での異学年交流、遊びを楽しんでいることなどをクラブの特徴として紹介している。そのほか申請期間は単年度であることを伝え、見学者の気になる点や興味のあることを丁寧に説明している。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>「入会のしおり」に沿って、重要事項について不明点はないが確認しながら説明している</p> <p>見学後、入会希望者は申請時期に申請書と就労証明書を提出してもらっている。これらの書類をもとに条件を満たしているかなど審査を行い、利用が決定すると、年度始めは入会説明会、中途の場合は個別にクラブ長またはその補佐の職員が「入会のしおり」に沿って、利用曜日・時間や生活の流れ、保護者との連絡の仕方、持ち物、提出書類、緊急・事故時の対応、費用などを不明点はないか確認しながら説明している。</p> <p>入会面談で丁寧な説明、初日はオリエンテーションを実施し、不安軽減に努めている</p> <p>入会面談は入会説明会後に提出してもらった書類を確認しながら個別に保護者と子どもで行っている。クラブ長と職員の2名で区指定の記録票に沿ってアレルギーや既往歴、配慮してほしいことを聞き取り、健康状態や生活状況、家庭環境や子どもの特性を把握している。その際、保護者の不安を和らげるように丁寧な説明を行うようにしている。今年度新1年生は60名程と多かったため、初日は1つクラスでオリエンテーションを行い、言葉だけでなく、絵を使うなど理解しやすいように配慮するとともに、変化を見落とさないように目配りや声かけを行っている。</p> <p>退会後の子どもたちの遊び場となるように児童館や近隣クラブと連携を深めている</p> <p>当学童クラブは小学校の敷地内にあり、新入学児の申し込みが多く、低学年を優先すると3年生以上は近隣の児童館内にあるクラブに異動しなければならない。そのため日常的に児童館との交流を行うほか、近隣クラブと合同で地域行事に出店するなどの連携に努めている。利用終了時には「卒室ありがとうの会」を開催し、退会する子どもたち一人ひとりが挨拶をして、おやつを食べ、ビンゴ大会などを楽しく見送っている。クラブとしては、退会後も放課後を安心して過ごせるように、児童館や公園などを在籍中に更に多く利用していきたいと考えている。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>季節行事などの年間行事計画のほか、日々の活動は日案にて複数の遊びを提供している</p> <p>年間育成支援計画は区指定の書式によるものと法人としての事業計画の2種類を作成している。この計画に基づいて、創作や食育、英語などのカリキュラムのほか、誕生会や季節行事などの年間行事計画が立てられており、毎月の行事についてはイベント指導案にて、日時や必要物品、活動のねらいのほか、具体的な活動内容や当日の流れなどを計画し、実施後は良かった点と改善点を振り返り、職員に回覧されている。日々の活動は日案にて職員の業務分担を明確にし、実施する外遊びや工作など複数の遊びを用意し、子どもが選べるようになっている。</p> <p>特別支援児童については情報を共有し、状況の変化に迅速に対応するように努めている</p> <p>特別支援児童については、区指定の書式にて個別育成計画を作成し、学級担任などと情報共有しながら、支援を行っている。子どもの様子は毎日のミーティングで職員間で共有し、クラブに来る時間がかかるようになったことに気づき、声かけの仕方を変えたり、本人が好きなことをやるようにしたりするなど、状況の変化に迅速に対応するように努めている。保護者に対しては入会説明会や保護者会にて、クラブの目標や年間行事などを配付して、理解を求めている。子どもの様子は学童クラブとして記録するほか、連絡帳にて保護者とも共有されている。</p> <p>問題や本人からの発信がない子どものために一定期間での振り返りの実施を期待したい</p> <p>日々の支援内容や子どもの様子は日誌に記録されているが、ケガやトラブルなど職員間で共有すべき重要事項はミーティングノートに記載し、出勤時に必ず確認することになっている。子どもごとの個別の記録は、年度ごとに作成する児童台帳(職員記録用)に保護者の面談内容やトラブルなど、特記すべきことが起きるたびに随時記録している。配慮が必要な子どもについても同様で、問題や本人からの発信がない子どもや保護者には目が向けられにくい状況である。トラブルなどが起きていない子どもに対しても一定期間での振り返りを行うことを期待したい。</p>			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>子どもや保護者に関する個人情報の使用について2種類の同意書にて理解を得ている</p> <p>入会時に個人情報の取り扱い同意書にて、子どもや保護者に関する個人情報の使用について同意を得ている。本同意書には、個人情報を学童クラブの職員以外に児童館長や区の関連部署の職員が利用経験のある保育園や幼稚園、こども園、こども発達センター、その他の通所施設、学校、医療機関に見学や聞き取りを行うことがあるなど、具体例が書かれている。また氏名の貼り出しやクラブ内での掲示、保護者会や運営協議会などでの画像の使用などについても「学童クラブでの写真撮影と個人名の使用について」という書類にて保護者の理解を得ている。</p> <p>定期的な研修やテストなどの自己点検を行い、個人情報の管理を徹底するよう努めている</p> <p>法人ではプライバシーマークを取得し、保護者や見学者などの館内撮影を禁止としており、児童台帳や個人面談記録などは、鍵付きキャビネットに保管するなど、個人情報の管理を徹底している。PCIには1台ごとにパスワードを設定し、デジタルカメラやタブレットは持ち出す際は持ち出し簿を記入するなど、マニュアルに沿った管理を行っている。毎年、非常勤職員も含め全員にコンプライアンス研修の中で個人情報に関する教育を実施している。また月1回「心構えチェックシート」、年1回「プライバシーマークテスト」にて自己点検を行っている。</p> <p>上級生の居場所や意見を出しやすい仕組みを作るなど、思いを尊重するよう配慮している</p> <p>クラブの各部屋は広いが、数が少ない。利用者は低学年の子どもがほとんどで3年生以上が静かに過ごす場所がなかったため、共有スペースの一部をパーティションで仕切り、上級生の居場所作りを行った。クラブでのスケジュールはホワイトボードに記載し、時間の管理を行っているが、遊びの時間は複数あるプログラムの中から子どもたちがそれぞれ、やりたいことを選んで活動している。また活動内容は、子どもたちから直接意見を聞く機会を設けるほか、なないろBOXという何でも言える意見箱を設置するなど、意見を出しやすいよう配慮がなされている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>区や法人の業務マニュアルのほか、クラブ独自の緊急時対応フローなどを作成している</p> <p>マニュアル類は区が作成する児童館・学童クラブ運営マニュアルのほか、入会手続き、ケガへの対応などの手引きがある。法人としても苦情対応や個人情報の取り扱いなどに関するマニュアルを整備して環境変化などに対応し、適宜更新されている。クラブとしては、日案や環境整備などの職員分担表や年間行事分担表、係活動表で業務を明確にして分担している。校庭の利用の仕方や受け付け対応などのクラブ独自の手順書も作成している。このほかに災害時に備えた自衛消防隊の編成、緊急時に迅速に対応できるようフローを作成し、事務室に掲示し周知している。</p> <p>法人内交流研修や定期的な自己点検、上長の定期巡回で業務チェックを行っている</p> <p>全てのマニュアルは事務所のキャビネットに保管し、改訂のたびに施設長が最新のものに差し替え、不明点がある時にはいつでも閲覧できるようにしている。マニュアル通り業務が行えているかは、法人内で交流研修が行われており、そこで見聞きした良い点だけでなく、改善すべき点をフィードバックし合い、サービスの向上に努めている。またセルフチェックシートなどで定期的に自己点検を実施し、その内容を施設長が確認し、回答内容によっては個別に面談を行い指導しており、エリアマネージャーが巡回した際にこれらの実施状況を確認している。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
		28 / 28	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>日々のミーティングや記録によって子どもの全体的な姿を把握し援助している</p> <p>毎日のミーティングを運営開始30分前に実施し、前日のケガやトラブル、体調、家庭からの連絡事項など日々の子どもの状況を職員間で共有できるようにしている。午後からの出勤者も多いため14時から再度ミーティングを行っており、午前中の状況を共有している。ミーティングノートを活用し、申し送りの内容を全体共有できるようにしており、チェック体制も整えている。日々の活動内容などは夕方に日誌にまとめ、職員間で再び子どもに関する状況の把握に努めており、口頭でも引き継ぎを行い、適切な対応ができるようにしている。</p> <p>子ども同士のトラブルに際しては、状況に応じた対応を行っている</p> <p>毎日のおやつ時間や帰りの会、イベントなどでチームでの活動を行い、異年齢の子ども同士の関わりを深めている。前期のチームは1年生は名前順、2年生以上は相性を考慮し、後期にはバランスを見て変更している。子ども同士のトラブルに際しては、状況に応じた声かけを行い、「体に触れない」「押さない」ことを伝え、困ったときは職員に相談するようにと話している。育成室には常に職員1～2名を配置し子どもたちの安全を見守っているが、トラブルやケガが起こった際には、双方の保護者にも報告し家庭での様子も見てもらえるようにしている。</p> <p>子ども同士がお互いを認め合い、共に成長できるよう援助している</p> <p>入所前の面談では育成に必要となる事項を保護者に確認し、必要に応じて報告を受けながら、学童での様子を伝える機会を設けている。活動中は、気になる子どもに対して適切な配慮を行い、特に自分の気持ちを表現することが難しい場合には、職員が声をかけ、答えやすいよう工夫した質問をするなど、具体的に話しやすい環境を作っている。また、子ども自身が選択できる場面を増やし、無理なく気持ちを表現できるよう支援している。子ども同士の関わりも大切につつ、一人で過ごしたい場合にも配慮し、安心して学童での時間を過ごせるよう配慮している。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している			
		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>子どもたちが快適に過ごせるよう環境設定の工夫を行っている</p> <p>日常の援助を通して子どもの意見を把握し、やりたいことができる環境を整えている。育成室は遊びや活動の内容に応じて3つのルームを分けて使用できるように設定を行っている。図書室として本や漫画を読んで静かに過ごすルーム、キッチンがありおやつを食べたりボードゲームなどを楽しむルーム、玩具を広げて遊べるルームのほか、仕切りを使用して3年生以上が落ち着いて過ごせるスペースも設定している。活動内容に応じてスペースを使い分け、イベント用の作業スペースも確保し、折り紙や作品を貼る場所を設け創作活動の継続を支援している。</p> <p>子どもが主体的に集団活動に関われるよう援助している</p> <p>子どもたちが集団活動に主体的に関われるように、イベントの企画や運営は子ども主体で行えるよう、事前の話し合いや目的の確認を丁寧に行い、主体性を育む工夫をしている。係活動や班活動を行っているが、今後はさらに日常生活のさまざまな場面において、班で話し合いの機会を設けたり、イベントの企画を考えたり、助け合える場面を意識的に増やしていく。これにより、子どもがより主体的に集団活動に関われるよう支援を強化していきたい。</p> <p>集団生活の中でのルールを学べるよう様々な機会を取り入れている</p> <p>子どもたちが役割を持って行動できるよう、班の当番や係活動を取り入れている。おやつやお弁当の準備、司会や放送(いただきます・帰りの会)では、マイクを使って読み上げるなどの役割もあり、意欲を持って取り組めるようにしている。外遊びの際は並ばせる係や体操の見本を示す係などを決め、そのほかにもおやつメニューを書く、掃除の手伝い、花の水やりなど、子どもたち自身が考えた仕事を実践できるよう工夫をしている。自分の「やってみようこと」に挑戦できる環境づくりを大切にし、主体性を育む取り組みを行っている。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目3の講評			
<p>多様なイベントを通じて、子どもたちが主体的に関わり、楽しく学べる環境を整えている</p> <p>年間を通じてさまざまなイベントを実施しており、毎月のお誕生会やエンジョイイングリッシュに加え、隔月でスポーツイベントを開催している。お誕生会では、誕生日の子どもにカードを用意し、おやつ時間に紹介することで、みんなでお祝いする時間を設けている。英語活動では、ネイティブ指導員が季節に関連した英語を用いたレクリエーションを行い、楽しみながら学べる機会を提供している。また、体育館ではスポーツイングリッシュの活動も実施し、体を動かしながら英語に親しむ機会を作っている。</p> <p>イベントでは、上級生の活躍を見た下級生が「やりたい」と思えるよう工夫をしている</p> <p>イベントは子どもたち主体で進められ、3～4年生が意見をまとめて企画を立てている。おばけ屋敷の企画・制作を行うほか、半年に一度のおやつパーティでは、3～4年生が内容を考え、自分たちで盛り付けを行っている。後半には1～2年生も引き継ぎを経験し、学年を超えた関わりを深めている。また、地域とのつながりを大切に、荻窪児童館との交流や「あそび市」への参加にも力を入れている。学童クラブとしてお店を出し、その準備や景品づくりを子どもたちが主体となって行うなど、異学年の交流を促し、協力して作り上げる経験を大切にしている。</p> <p>子どもが意欲的に行事へ取り組めるよう、保護者の理解や協力を得る工夫を行っている</p> <p>行事やクラブでの取り組みについては、おたよりやスライド、個人面談を通じて紹介し、お迎え時にも子どもの様子をこまめに伝えている。また、事前の案内はアプリや電子メールを活用し、保護者が情報を把握しやすいよう配慮している。特に、地域一体型の「あそび市」については、連絡帳を通じてチラシを配付し、保護者の参加を促している。また、保護者会での報告も行い、学童の活動を共有する機会をつくることで、保護者の理解が深まり、子どもたちが安心して行事に参加できる環境を整えている。</p>			
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇)・非該当1	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している		○非該当
○あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している		●非該当
評価項目4の講評			
<p>子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している</p> <p>1年生が安心して通えるよう、4月1日から3日間のオリエンテーションを実施している。この中で、育成室の使い方や活動内容を説明し、自己紹介の時間も設けている。2年生以上の子どももお手伝いとして関わり、ロッカーの使い方や玩具についてなど細かな決まりを教えるなど異学年交流を促している。また、入所後約1か月間は、職員が下校コースごとに迎えに行き、安全に学童へ到着できるよう支援している。5月の連休明けには子ども自身で通えるよう段階的に自立を促し、職員全員が個別の声かけや見守りを行い、子どもたちの安心感を高めている。</p> <p>子どもが見通しをもって過ごせるよう援助している</p> <p>平日の下校後は自由遊び、おやつ、帰りの時間など1日の流れやイベントの案内をホワイトボードに掲示し、子どもたちが自ら確認できるようにしており、見通しをもって主体的に活動に参加できるよう援助している。また、夏休みなど長期休暇中には午前中に学習時間を設定し、宿題などに集中して取り組めるようにしている。昼食後は体育館や校庭での活動、DVDシアター鑑賞などを取り入れ、多様な過ごし方を提供して充実した時間を過ごせるよう工夫している。塾、習い事などへは早帰りを基本とし、保護者の申し出によって対応可能としている。</p> <p>子どもたちが落ち着いて過ごせるよう環境設定をしている</p> <p>平日は学習時間の設定はないものの、子どもが自主的に宿題や学習に取り組めるスペースを確保している。在籍数の少ない3・4年生専用スペースを設けるなど、それぞれの子どもにとって快適な環境づくりを進めている。職員は遊具や施設内の危険箇所を定期的に点検し、安全管理を徹底している。</p>			

5	評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している		○非該当
	●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当		
評価項目5の講評				
<p>小学校や区と情報共有を行いながら子どもの育成にあたっている</p> <p>小学校との日常的な連携を大切にしており、毎週金曜日に週案を提出する際には、活動内容の共有や校庭使用の調整を行い、円滑な関係づくりに努めている。また、運営協議会においても学校との連携状況を報告する機会を設けており、相互理解を深め、協力体制を維持している。学校施設を使用する際に事前申請を行い、学校の避難訓練にも参加している。1年生については年度始めにクラス担任と子どもに関する情報共有の機会を設定し、子どもの個別の状況を早期に把握できるようにし安心して新しい環境に適應できるような支援につなげていきたい。</p> <p>不登校などの課題について職員間で共通認識を持ち対応できるようにしている</p> <p>子ども同士のトラブルなどで気になることがあった場合、副校長や学級担任と速やかに情報共有を行っている。内容によっては、学校側がクラス内での学級指導を実施するなど、学童クラブと学校が協力して対応することで、子どものより良い成長を支援している。日頃より子どもの言葉や行動を一つひとつ丁寧に受け止め、その様子を職員ミーティングで共有し、起きた問題に対しては子ども自身の話をよく聞き、一緒に解決策を考えられるよう支援に努めている。非常勤職員も含めた研修やチェックシートの活用を通じて意識向上にむけて取り組んでいる。</p> <p>保護者や関係機関と連携を図り、配慮が必要な子どもの支援に努めている</p> <p>気になる子どもがいる際には副校長に一報しうえて、担任の先生とも直接対面で情報共有を行っている。その際、学校での様子も伝えてもらうことで、学童クラブとして子どもの状況をより深く理解でき、日常の育成支援に効果的に活かすことができている。日々の子どもの様子を電話やお迎え時に保護者へ伝え、情報共有を徹底している。延長保育登録は29名であり、そのうち約半数の子どもは保護者がお迎えに来て帰宅している。</p>				
6	評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当		
評価項目6の講評				
<p>子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している</p> <p>下校時間の異なる子どもたちが揃う午後3時からおやつの時間とし、縦割りのグループに分かれ落ち着いて食べられるようにしている。定期的にセレクトおやつ、おやつパーティーを取り入れるなど、子どもたちがおやつを楽しめるような工夫も行っている。手洗いは順番に実施し、おやつ後のテーブル拭きやゴミ片付けなどはグループごとに当番を決め、協力して行うことができるようにしている。また、アレルギー対応についてはマニュアルに沿って提供し、定期的な法人内研修を実施し、非常勤を含めた職員全員が緊急時に適切な対応ができる体制を整えている。</p> <p>おやつの種類は子どもたちの意見を取り入れるようにしている</p> <p>おやつを子どもたちが楽しめるよう、甘味、塩味、ゼリーなどをバランスよく用意し、発達や個々の状況に応じておかわりや残すことも認めている。飲み物として麦茶も提供している。また、法人全体の取り組みとして毎月食育活動を実施し、旬の食べ物をテーマに事前に説明をしたうえで関連したおやつを提供しており、子どもたちにも好評である。利用者アンケートで要望があった果物についても月1回提供し、今後はさらに回数を増やせるよう、仕入れ先の選定などを検討している。</p> <p>アレルギー対応についてマニュアルに沿って成分表の確認や提供時の配慮を行っている</p> <p>アレルギー対応については入会前に保護者と面談を行い、連絡帳を通じて具体的な対応事項を確認している。育成室にはアレルギー専用席を設置し、トレイやお皿を区別したうえで、子どもの名前とアレルギー品目、症状を明記している。現在、複数名のアレルギー対応が必要な子どもが在籍しており、対応薬の管理は事務室のファイルやキッチンにあるチェック表で毎日確認を行っている。また、担当職員によるおやつへの衛生管理チェックや、子どもごとの個別チェックリストも活用し、安全な提供ができるよう管理を徹底している。</p>				

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当

評価項目7の講評

子どもが自分の健康や安全に関心を持てるよう援助している

冬季の外遊びの際は上着を着用させ、年間を通して室内に戻った後は必ず手洗いを促している。手洗後はペーパータオルを使用できるよう設置している。ケガや体調不良が生じた場合には記録を取り、クラブ長に報告し、ケガの状況により保護者へ電話連絡、連絡帳、お迎え時に伝えている。首から上のケガの場合は即時に保護者へ連絡し、原則として医療機関受診を勧めている。発熱や感染症が疑われる子どもは別室で隔離し、定期的に状態を確認し、37.5℃以上の場合は速やかにお迎えを依頼する体制としている。

医療的ケアが必要な子どもの受け入れ時には区の研修を受講して対応している

補聴器の利用や熱性けいれんなど、医療的ケアが必要な子どもについては、入会前に保護者と面談を行い、受け入れにあたり子どもや保護者の不安が軽減されるよう配慮している。さらに、医療的ケアが必要な子どもへの対応については、職員が区の研修を受講し、その内容を職員ミーティングで共有することで、適切に支援できる体制を整えている。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当

評価項目8の講評

父母会と協力しながら、子どもたちに楽しみを提供するよう取り組んでいる

現状定員100名満員の状況で、延長利用登録は30名、利用している子どもは10～20名程度、土曜日の利用も1割弱となっている。日々の利用は毎回システム上で前日の17時まで利用登録を行うことになっているが、急な延長は保護者の就労状況に配慮し当日でも受け付けている。利用や延長を連絡するシステムにはクラブからの連絡を発信する機能もあり、行事などの周知にも使われている。学童クラブの父母会主催の12月のお楽しみ会には父母会が用意したプレゼントをクラブで配るなど、協力しながら子どもたちに楽しみを提供するよう努めている。

地域の祭りの出店手伝いを通して、保護者同士の交流ができるよう支援している

保護者会は年に2回開催し、6月には当学童クラブのみで運営状況の報告や子どもたちの様子を伝え、夏休みの利用について説明を行っている。3月の年度末には近隣の3年生以上異動が多い学童クラブと合同で1年の振り返りを行い、新年度の準備について質問に答えながら話している。また地域の祭りに出店する際は保護者にも手伝いを募集し、そこでの保護者同士の交流ができるよう支援している。保護者会は会場の閉館時間の制限があり、保護者同士が交流する時間を設けることができないため、別の場で意見交換できる機会を作ることを期待したい。

子どもの様子を直接見てもらえるよう、保護者の指導員体験を増やしたいと考えている

クラブでの取り組みはクラブだよりで毎月システム上で配信しているが、個人情報に配慮して画像と指名は載せていない。そのため保護者が迎えに来る時などに見られるようクラブ内に画像を掲示するようになっている。行事などの様子は運営協議会の資料を見てもらっている。子どもたちの様子を直接見てもらえるよう、夏休みに保護者向けに指導員体験の期間を設けているが、参加する保護者は少ない(今年度は参加なし)。参加者からは、どんなふうに進んでいるか分かってよかった、などの声が聞かれており、更なる周知を行い、参加を増やしたいと考えている。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域イベントへの参加や商店での購入など地域資源を活用し小学校との連携も図っている</p> <p>区からのお知らせや地域イベントなどのちらしはクラブ内に掲示し、児童館だよりは持ち帰れるように設置するなど、地域情報の提供に努めている。土曜日に隣接の公園で行われている工作のイベントには子どもたちと参加し、クラブで提供する食材は地域の商店で購入するなど、地域資源の活用を図っている。小学校とは運営協議会に校長と副校長に出席してもらい、クラブからは英語プログラムにネイティブ指導員が協力し、避難訓練にも参加するなど、連携を図っており、運動の時間の確保のため、長期休暇中は体育館を借ってもらうなどの協力を得ている。</p> <p>毎月の児童館の行事や地域の祭りには出店し、クラブの活動を地域住民に発信している</p> <p>外遊びは小学校の施設を使わせてもらうほか、近隣の公園にも出かけている。学年が上がると定員の関係で児童館内にある学童クラブに異動となる子どもが増えるため、早い段階から環境に慣れてもらえるよう、普段から児童館へ遊びに行ったり、クラブとの交流の機会を作っている。10月に行われる自治会や中学校、小学校などが参加する地域行事「あそび市」には学童クラブとして出店し、子どもたちと一緒にポーリングなどのブースを出すなどの活動もした。学童クラブとしてクラブでの活動の様子などを発信している。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-1-1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる
タイトル①	倫理研修や振り返りの仕組みを通じ、職員の意識向上を図っている	
内容①	職員の倫理観と適切な対応力の向上に力を入れており、法人が作成した行動規範の説明や倫理研修を受講し、社会サービス従事者としての意識を高めている。コンプライアンスや心得に関する研修では報告書を作成し、施設長が内容を確認している。就業規則を含む職員マニュアルを年度初めに配付し、職員全員に再周知している。全職員が週1回「セルフチェックシート」、月1回「心構えチェックシート」を実施し、子どもとの接し方を振り返り、クラブ長やエリアマネージャーが確認し、必要に応じてアドバイスをを行い、日々の職員の意識向上に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル②	非常勤も含め研修の機会を多く設け、専門職としての資質や意識の向上に努めている	
内容②	新入職員には法人にて職員マニュアルを使ったビジネスマナー研修を実施し、法人の理念や基本方針を説明している。その後は児童対応研修や放課後支援員の心構え、倫理研修など、基本的な知識のほか、実践に備えたアレルギー対応訓練や嘔吐処理対応訓練を全職員が受講している。また常勤職員は普通救命講習を、施設長は上級救命講習を受講し、緊急時の対応に備えている。常勤職員は放課後支援員研修を受講させるなど、非常勤も含め研修の機会を多く設け、職員一人ひとりの学童クラブの支援員という専門職としての資質や意識の向上に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している
タイトル③	異年齢の活動を通して子どもたちの成長が見られる	
内容③	異年齢の子ども同士の関わりが多く、その中で子どもの他者を思いやりの気持ちが育まれている。特に上級生は下級生に対して忘れ物があれば教えてあげたり生活上のルールなどを積極的に伝えているほか、遊びが見つからない下級生に声をかけ、一緒に遊んであげるなど優しい関わりがみられている。4つの学年が交流しながら長い時間を共に過ごす中で、良好な関係が築かれていることが評価できる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	集団活動を促進するため係や班活動を取り入れ、子どもたちの自主性を伸ばしている
	内容	当クラブでは外遊びや室内でのゲーム以外に創作活動や英語などのプログラムを年間スケジュールに沿って提供している。特に英語はネイティブ指導員が在職しているので英語を使って遊んだり、運動をしたり、帰りの会を行うなど、楽しみながら自然と英語に触れる機会を多く作っている。また区の方針としてコロナ禍で減少したコミュニケーションを改善するため集団活動が促されており、係活動を昨年度から、班活動を今年度から取り入れられている。掃除や本の整理などの係の中から子どもたちがやりたいものを選び、職員の見守りのもと、自主的に活動している。
2	タイトル	育成方針に従い職員全員が共通理解のもと支援にあたることを大切にしている
	内容	「子どもの心に寄り添うこと」「自分で考えること」「やりたいことが実現できること」の3点を育成方針として重視し、職員全員が共通理解のもと支援にあたっている。子どもが自分のやりたいことを安心して表現できる環境を整え、その実現を支えらるとともに、困難に直面した時には職員が共に考える支援者となることを大切にしている。
3	タイトル	利用者や職員の意見を尊重し、情報を共有している
	内容	利用者や保護者の意見や毎年のアンケート結果を分析し、運営に反映している。保護者会や個人面談、送迎時の対話を通じて意見を収集し、子どもの声を拾う意見箱「なないろBOX」を設置している。職員が返答を掲示し、悩みや相談には個別対応を行い、子どもの意見を尊重する体制を整えている。職員も相談しやすい環境の中で意向調査や係活動を通じて意見を反映している。地域情報は館長会議や地域会議から職員へ共有している。法人内では施設長会議や経営陣との会議から情報共有を行い、組織全体での課題把握と対応に取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	行事参加だけでなく勉強会の講師を依頼するなど、まずはクラブに来てもらうことから始めようとしている
	内容	現在はスペースの関係で1年生と2、3年生と分けて外遊びを行っている。遊びは基本的には子どもたちがやりたいように自由遊びとしているが、職員から様々な遊びを伝える機会を作っていきたいと考えている。今よりも地域に出向き、地域との交流を行えるよう、上級生の外出届等を活用し、児童館との交流を増やしていこうとしている。現在地域の行事参加しか行えておらず、クラブの取り組みを詳しく地域住民に伝える機会をあまり図れていない。今後は職業体験や勉強会の講師を依頼するなど、少しずつクラブに来てもらうことから始めようとしている。
2	タイトル	自分から周りに発信することが苦手な子どもへのフォローを期待したい
	内容	自分から周りに発信することが難しい子どもへの個別フォローが十分にできていないことが課題と思われる。個人面談や保護者の声を通して「つまらない」「友達に話しかけられない」などの子どもの思いに気づくこともあり、今後は職員が子どもの様子により敏感に気づけるよう、研修等を通じて職員全体の意識向上を図っていききたい。
3	タイトル	BCPと学童クラブの中長期計画の策定が求められる
	内容	BCPは法人で策定されており、事業継続戦略として自治体や学校長の指示に従う方針が示されているが、西田学童クラブの実態や環境に即した具体的な内容への見直しが求められる。現状では、法人の中長期計画はあるが、学童クラブとしての中長期計画は策定されておらず、単年度計画の中で中長期を見据えているにとどまっている。単年度で解決が難しい課題や、どのようなクラブを目指すのかといったビジョンを明確にするためにも、学童クラブ独自の中長期計画の策定が望まれる。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

令和 7年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一

以下のとおり評価を行いましたので報告します。



評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	久保 俊明	福祉	H1801028
	②	伊藤 一郎	経営	H1601010
	③	和田 輝美	福祉	H1001021
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	沓掛学童クラブ			
事業所連絡先	〒	167-0033		
	所在地	東京都杉並区清水3丁目1番9号		
	TEL	03-6913-9885		
事業所代表者氏名	クラブ長 黒木 峻介			
契約日	2024年 6月 7日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024年 9月 27日			
利用者調査結果報告日	2025年 1月 16日			
自己評価の調査票配付日	2024年 9月 10日			
自己評価結果報告日	2025年 1月 16日			
訪問調査日	2025年 1月 23日			
評価合議日	2025年 1月 23日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 クラブ長 黒木 峻介 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)企業理念:会社の存在意義は、マミーで働いている方々が幸せになるお手伝いをするためにある。そのことで、子ども達や関わるすべての人々を笑顔にすることが私たちの願いです。 2)企業スローガン:【Mommy,always there for you.(マミーはいつも人のためにあります。)]子どもから高齢者まで、全ての人々のためにあります。 3)社員行動指針:【忘己利他(己を忘れて他を利する)】マミー・インターナショナルの社員として、自分を中心に物事を考えてまわりに望むだけでなく、自分をすててまずは自助の精神で行動します。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>人材像:常勤は、放課後支援員資格取得者。コミュニケーション能力があり、周囲や児童の状況を細やかに察知し、忘己利他の精神があること。 役割:児童の心に寄り添い、自分で考え、やりたいことが実現できるという3点を大切に、職員全員が同じ方向性を持って支援できるようにしている。児童がやりたいと言える環境があり、やりたいが実現できること、そして困った時には一緒に考える支援者であること。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>私たちの運営する施設は自治体からの委託事業であって、関わっている職員はすべて本事業の職員として、その責任と自覚を持ち、当事者意識をもって業務にあたる。</p>

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である64名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生19名、2年生9名、3年生8名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

64

共通評価項目による調査対象者数
 共通評価項目による調査の有効回答者数
 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
64	0	64
36	0	36
56.3	0.0	56.3

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が22.2%、「本人と家族」が72.2%、「家族が推察」が5.6%であった。総合的な感想に関する調査の結果は、対象者の86.1%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が13.9%であり、大変高い満足度が得られている。
 項目別では、＜生活について＞に関する5設問は1設問において、大変高い満足度であった。特に「学童での生活や遊びは楽しく興味が持てるか」では、80.5%の大変高い満足度が得られている。
 ＜安心・快適性＞に関する4設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「職員の接遇・態度」、「けが・体調不良時の対応」では、86.1%の大変高い満足度が得られている。
 ＜あなたを大切にしてくれるか＞に関する2設問は「気持ちを大切にしてくれるか」において、概ねの利用者が満足とする回答を得られている。
 ＜嫌なことやしてほしいこと＞では、「困ったり、してほしいこと」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「職員以外へ相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	29	6	0	1
「はい」が80.5%、「どちらともいえない」が16.7%、「無回答・非該当」が2.8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「たいいくかんであそぶのが楽しい」、「友だちと遊べるから楽しいです」、「自分にとって楽しい遊びがあまりない」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	23	4	0	9
「はい」が63.9%、「どちらともいえない」が11.1%、「無回答・非該当」が25.0%であった。自由意見では、「あんまり先生に話をしていないからわからない。友だちと話している」、「そのような相談をすることがあまりありません」、「みんなを静かにさせてほしい」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	27	7	1	1
「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が19.4%、「いいえ」が2.8%、「無回答・非該当」が2.8%であり、高い満足度であった。自由意見では、「おやつがおいしい」、「おしゃべりしながら食べられて嬉しい」、「とくべつなおやつの日がほしい」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	22	1	0	13
「はい」が61. 1%、「どちらともいえない」が2. 8%、「無回答・非該当」が36. 1%であった。自由意見では、「あまりきかいがない」、「かんがえを話していないのでわかりません」、「はなしたことがない」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	24	4	3	5
「はい」が66. 7%、「どちらともいえない」が11. 1%、「いいえ」が8. 3%、「無回答・非該当」が13. 9%であった。自由意見では、「先生の話を書きいていないのでわかりません」、「もう少しみんなが静かにするルールを作してほしい」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	24	10	1	1
「はい」が66. 7%、「どちらともいえない」が27. 7%、「いいえ」が2. 8%、「無回答・非該当」が2. 8%であった。自由意見では、「おもちゃがかたづけられていないときがある」、「友だちが散らかしている」、「たまにみんながよごしてしまう」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	31	3	0	2
「はい」が86. 1%、「どちらともいえない」が8. 3%、「無回答・非該当」が5. 6%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「言葉づかいを直してほしい」、「先生の様子は見てないので忘れた」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	31	2	0	3
「はい」が86. 1%、「どちらともいえない」が5. 6%、「無回答・非該当」が8. 3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「じぶんから言えばたすけてくれる」、「別の場所で活動していてケガをしたとき、自分で(ひとりで)育成室に戻って、と言われたことがある」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	26	3	1	6
「はい」が72. 2%、「どちらともいえない」が8. 3%、「いいえ」が2. 8%、「無回答・非該当」が16. 7%であり、高い満足度であった。自由意見では、「先生に助けると言わないのでわかりません」、「何かを言うだけで、それ以上の助けをしてくれない時もある」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	24	4	0	8
「はい」が66. 7%、「どちらともいえない」が11. 1%、「無回答・非該当」が22. 2%であった。自由意見では、「全体のことを考えると、自分の気持ちだけを大事にすることはできない時もあるとはわかってるけど、ちょっと寂しい」という声が聞かれた。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	18	1	1	16
「はい」が50.0%、「どちらともいえない」が2.8%、「いいえ」が2.8%、「無回答・非該当」が44.4%であった。自由意見では、「ちゃんと守ってくれている」、「ないしょのことはないのでわかりません」、「ないしょはいけないことといわれている」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	24	1	0	11
「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が2.8%、「無回答・非該当」が30.5%であった。自由意見では、「寄り添ってくれる」、「そういう時がない」、「先生に言っていないのでわかりません」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	11	6	5	14
「はい」が30.5%、「どちらともいえない」が16.7%、「いいえ」が13.9%、「無回答・非該当」が38.9%であった。自由意見では、「言われてないと思うけど、もしかしたら忘れちゃってるだけかもしれない」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく <input type="radio"/>非該当
	カテゴリ1の講評	
	会議や掲示などで、理念・方針を関係者に説明して周知するように努めている 事業計画に法人理念を示し、法人職員を交えた年度初めのキックオフミーティングにて、理念や基本方針を職員間で共有している。また、運営計画記入表に「杉並区学童クラブ運営指針」を掲載して事務室に掲示し、職員に提示してその内容を周知するように努めている。理念・基本方針は、実施するサービスの内容や特性、放課後児童クラブの使命や目指す方向、考え方を読み取ることができ、職員の行動指針ともなる内容である。保護者には、入会説明会や見学会、沓掛学童クラブ便りの配付などで、必要な事項を説明し周知に努めている。	
	キックオフミーティングで、各職員の役割・責任などを確認し、理解の促進を図っている クラブ長は年度当初に、沓掛学童クラブの経営・管理に関する方針と取り組みを明確にし、自らの役割と責任について職員に説明し周知するように取組んでいる。さらに、キックオフミーティングでは職務分掌表や行事役割分担当表などで、各職員の組織における位置づけや、役割・責任、取り組むべき課題・方向性などについて周知と確認を行い、理解の促進を図っている。日々のミーティングでは、クラブ長から法人施設長会議や管理者会議の内容を伝達・周知するとともに、議事録を回覧して全職員に対して周知漏れがないようにしている。	
	重要な案件は法人内情報共有システムで決定手順と承認を確認することができる 法人全体に関わる案件は、法人代表を含め経営陣が参加する管理者会議で話し合わせ決定される。事業所内の重要な案件については、常勤職員ミーティングで審議・決定して、全職員に伝達・周知する仕組みとなっている。案件内容に応じて、学童クラブ⇒法人⇒区、館長会(区児童館の館長など)の順で相談しながら検討し、決定している。法人内情報共有システムで決定手順と承認を確認できるようになっている。保護者には、入退室アプリや面談、保護者会などで伝えており、必要に応じて掲示やクラブだより、口頭で報告している。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>各種情報を入手、検討して、事業所として取り組むべき課題抽出に努めている</p> <p>年1回のアンケート、連絡帳、意見箱設置にて保護者のニーズを、子ども用意見箱「なないろBOX」を設置して子どもの意向などを把握している。職員の意見・提案などは面談・調査、自己他己評価シートにて把握している。地域の情報や社会福祉事業全体の動向については、区の通知や館長会報告などで情報収集しており、クラブ施設運営に活用している。地域の各種福祉計画の策定動向と具体的な内容を把握し、利用者数、放課後児童支援事業の動きなど確認している。経営状況に関しては、施設長会議資料などで検討して課題抽出を図っている。</p> <p>法人中長期計画を踏まえ、関係者の意見やニーズを反映させた事業計画を策定している</p> <p>中長期事業計画は法人で策定しており、事業所では毎年度、学童クラブ部門として事業所単年度事業計画を策定している。学童クラブ単年度事業計画は、法人中長期計画を踏まえ、保護者や子ども、職員の意見ニーズを反映させた計画策定となっている。予算は区で決められた予算編成に沿って管理している。単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっており、単なる「行事計画」にはなっていない。また、単年度事業計画は、具体的な数値・達成目標・成果などを設定することにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p>職員間で計画の進捗状況を確認共有し、都度改善に努め、毎月区に報告している</p> <p>事業計画は職員などの参画や意見の集約・反映のもと、前年度の課題などを検討し作成しており、職員に対してはミーティングなどにて説明情報共有を図っている。職員は、事業計画および職務分掌表、行事役割分担表をもとに業務を遂行している。事業計画の実施状況は、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握され、また評価されている。評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行い、都度、職員に周知理解を促すための取り組みを行っている。計画の進捗状況は職員間で確認共有されて都度改善に努め、毎月区に報告している。</p>		

3 カテゴリー3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー3の講評

職員に研修やチェックシートを実施し、法令順守などの理解浸透に取り組んでいる

職員は、法人が作成した行動規範の説明や倫理に関する研修を受講するなどして、社会福祉サービスに従事する者としての言動を身につけ法令順守、コンプライアンス遵守に努めている。全職員は週に1回「セルフチェックシート」、月に1回「心構えチェックシート」を実施し、自身の行動を振り返る機会を作っている。法人エリアマネージャーが事業所を巡回した際には、チェックシートの確認を行っている。また、コンプライアンスや心得の研修、動画研修を受講した際は報告書を作成提出し、クラブ長が確認して職員の理解浸透を促している。

苦情・不適切指導についてはクラブ長が法人や関係機関と連携して対応している

苦情・相談に関する受け付けや対応体制などについては、保護者会で説明し周知に努めている。区や児童館館長への相談、その他相談窓口の連絡先を掲示またはチラシで周知を図っている。苦情などは、法人、児童館館長とも共有相談し、適切な対応ができるよう連携しながら解決している。苦情対応マニュアルに沿って法人と対応を協議し、クラブ長が対応するようにしている。不適切指導については、法人に対応窓口があり、慎重に学校や自治体担当課、子ども若者支援課、子ども家庭支援センターなど関係機関と連携する体制を構築している。

積極的に地域との関わりをもち、地域の共通課題に取り組んでいる

提供する育成支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報は適切に公開されている。クラブでは、子どもの活動などをアプリ配信したりスライドショーで紹介している。受け入れマニュアルを整備して、クラブ長が中心となりボランティアや実習生などに対応している。クラブは子どもと地域行事に参加することが、子どもの体験活動の充実、子どもの新たな成長の機会になるとしており、地域の一員としてネットワーク事業である「ほんあまえんにち」に参加したり、地域のイベント「わくわくマラソン」に協力するなど共通課題に取り組んでいる。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>クラブでは、子どもの安全・安心を第一として各リスク対策に取り組んでいる</p> <p>クラブでは、事故・ケガや感染症対策をはじめ、子どもの安全・安心を第一にリスクマネジメントを行い、危機管理としては地震、津波、火災(類焼リスク)、水害(浸水)、河川氾濫の順に各リスク対策に取り組んでいる。クラブでは、行政などの情報を適切に把握して自然災害などに備え、また指導ガイドや行政指導に沿って各リスクに応じた対策を講じリスクマネジメントに取り組んでいる。また、「事故報告書」「リスクマネジメントシート」「ケガ記録シート」の提出を促し集計分析して、職員間で情報共有し再発防止・事故予防に取り組んでいる。</p> <p>クラブは学校や近隣関係機関との連携・協力による各種訓練を実施している</p> <p>自然大災害や深刻な事故などに備え、災害用BCPを策定し、定期的に避難訓練や防災訓練・不審者対応訓練の実施および心肺蘇生などの「緊急時対応訓練」を実施している。各関係者にリスク対策マニュアルやBCPについて説明し周知に努めている。また、食材備蓄品リストを作成し、定期的に点検を実施して管理している。育成室は3階にあり、学校の避難訓練に参加し、また近隣の広域避難地域への避難訓練を行うなど、学校をはじめ地域住民や近隣関係機関との連携・協力により実践的な訓練を実施している。</p> <p>重要な文書類や個人情報に対して、適切な管理及び情報漏洩防止対策を講じている</p> <p>法人でプライバシーポリシーを取得し、職員には入職時研修などで個人情報保護規程や文書管理マニュアルを使い情報管理とともに個人情報の取り扱いについて説明し周知に努めている。重要文書類や個人情報は施錠可能なキャビネットに整理保管し、PCには1台づつアクセス権やパスワードを設定してセキュリティ対策をとっている。「児童台帳」など個人情報が入っているPCはネットワークにつながらず情報漏洩を防止している。個人情報の利用目的の明示や個人情報開示請求への対応は、法人と連携し適切に対応する体制が整えられている。</p>		

5 カテゴリー5		
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー5の講評

学童クラブとして、その機能を効果的に果たせるように福祉人材確保を行っている

新規定期採用は法人で募集・採用を行っており、HPや求人サイト、職員紹介、就職説明会フェア参加などを行っている。非常勤職員は各事業所で必要に応じて個人面接などを実施し、有資格者を中心に適正な人員配置となるように職員採用に努めている。法人および事業所は学童クラブとして、その機能を効果的に果たせるように福祉人材確保を実施している。配置・異動については、クラブの状況や職員の意向など将来を見据えながら、また、子どもの特徴、年齢、男女比などを勘案して、職員その人が輝ける配置となるようにしている。

職員が、自ら将来の姿を描くことができるような人材育成制度を設けている

人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員は「自己他己評価シート」を提出後、希望する職員は面談を受けることができ、自身のキャリアを見通せる機会を設けている。人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。処遇改善の必要性などを評価・分析するための取り組みを行い、把握した職員の意向・意見や評価・分析などにもとづき、改善策を検討・実施している。職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な人事管理を実施している。

研修内容や日々の気づきを職員間で共有し、課題解決に向け連携して取り組んでいる

クラブ長は、職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況や意向の把握などにもとづく労務管理を行い、風通しの良い職場環境となるように努めている。また年に1回、ストレスチェックや健康診断などを行い、職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)に配慮した取り組みを行っている。研修内容や日々の気づきは、ミーティングで共有・検討し改善を行いつつ、課題解決に向け職員間で密に連携し合って取り組んでいる。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

クラブ長は、子どもへの対応や運営の方法に職員間で差が見えることもあるが、職員間での連携やすり合わせを丁寧にする事で解消できると考えている。そこで、クラブ長は「職員間のスムーズな連携、報連相の徹底」をテーマにして当課題の解決に取り組んでいる。実施した取り組み事項は、職員間の適切なコミュニケーションを意識し、子どもや運営についての話し合いなどを積極的にするようにしている。職員間での対応のズレ(個人の特性や子どもとの約束への対応の仕方など)を感じた時には、クラブ長はミーティングで議題にし、職員に再度確認を行っている。クラブ長から確認したうえで、設定課題への取り組みに対する進捗状況や改善点を話し合うようにしている。クラブ長としては極力、話しやすい雰囲気づくりに努め、職員間で気軽に報連相ができる環境を目指し取り組んでいる。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

子どもへの対応や運営の方法に職員間で差が見えることに対して、クラブ長は職員間のスムーズな連携や報連相の徹底を行うことにより解決の道を模索している。具体的な取り組み事項は、職員間とのコミュニケーションを意識しつつ、職員間での対応のズレを感じた時にはミーティングで議題にして再度確認を行い、取り組みの進捗状況や改善点を話し合っている。その結果、職員間の運営に対する意識のズレが少なくなり、共通の認識をもって運営を行えるようになっており、認識の統一化を図ることができている。クラブの運営や子どもたちの様子についてもスムーズに共有できるようになり、子どもへの対応に活かすことができ、十分に成果が出ている。クラブ長は、引き続き職員間で共有・連携していき、これから、非常勤職員や新しく入った職員ともしっかりと連携を取れるようにミーティングで全職員に伝えるようにしていく。勤務が少ない職員に対しても、ミーティングノートを活用し、職員間でのズレが無いようにしていくとしている。令和7年度は、クラブ内でグループLINEを活用して、業務の個人情報には児童台帳・ミーティングノートで子どもの情報共有を図っていくなどを計画し、次につないでいる。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

利用者アンケートや子どもから、体育館・校庭遊びの時間を増やしてほしいとの声が多く上がっている。具体的には、子どもたちが地域とのつながりを持つことで、地域の一員として活動の幅を広げて欲しいとの声があり、また学童卒業後の過ごし方の幅を広げるため、クラブでは以下を課題にして取り組んでいる。クラブでは、

- ①体育館・校庭遊びの充実
 - ②地域とのつながり強化
 - ③児童館や公園などの公的社会資源の利用
- を掲げ取り組みを実施している。具体的には、
- ①体育館・校庭遊びの時間を増やすため、学校と相談、調整しながら少しずつ外遊びの機会を増やしていった。
 - ②地域のネットワーク事業や連絡協議会などの地域の会議に参加し、ネットワーク事業の行事「ほんあまえんにち」に参加した。
 - ③児童館の行事に積極的に参加、また、初めて公園遊びのイベント「公園へ行こう」を行った。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行ってなかった(目標設定を行ってなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

子ども、保護者、職員からも、外遊びや地域とのつながりなど公的な社会資源の活用をという声上がり、クラブの活動に上記①②③を取り入れる取り組みを実施している。結果、

- ①外遊びの機会を増やしたことで、子どもたちの学童での生活がより充実した。室内での自由遊び・おやつ・学習・外遊びと、メリハリをもって過ごすことができるようになった。
 - ②「ほんあまえんにち」では、子どもが様々な地域住民と触れ合い、地域の中にいるという意識を持つことができた。また、イベントの中で多くの店を回り、新たな興味・関心が生まれた。
 - ③「公園へ行こう」を行ってから、子どもから公園遊びの話聞くことが多くなった。公園で遊んでいる学童以外の児童の遊び方を見て、公園での遊び方を覚えており、こども同士のネットワークができています。
- ねらい以上の成果達成を見ることができる。今後は、
- ①引き続き積極的に外遊びに出て、子どもが楽しく充実した時間を過ごせるようにしていく。
 - ②今まで参加してきた行事だけでなく、新たな地域の行事にも目を向けていく。
 - ③児童館行事への参加、公園遊びの機会を増やして行く。
- 以上を企画し、適切なPDCAサイクルを実践予定である。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリー1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー1の講評			
<p>多様な媒体と工夫で情報を分かりやすく提供している 学童クラブの情報提供について、多様な媒体を活用していることが確認できる。杉並区のパンフレットや広報すぎなみ、HPを通じて、入会対象や期間、運営日程、費用などの詳細が明示されており、QRコードの掲載や申請書のダウンロード可能な仕組みも整備されている。また、毎月のクラブ便りや説明会資料、保護者会資料を通じて、情報が保護者に分かりやすく提供されている。写真や絵を活用した説明や、保護者の同意を得たスライド紹介などの工夫も行われている。</p> <p>地域や行政に具体的かつ定期的な情報提供を行っている 事業所の情報提供において、地域の保育園や幼稚園に学童クラブのポスターを配布し、周知を図っている。また、区のHPに学童クラブの情報を掲載し、入会申請書などの各種書類がダウンロードできるよう整備している。クラブ便りでは活動内容やイベント情報を紹介し、区役所には毎月、利用者の入会・退会状況、イベント内容、避難訓練の実施状況、保護者会や運営会議の内容などを詳細に報告している。</p> <p>問い合わせや見学に柔軟かつ丁寧に対応している 問い合わせや見学対応について、杉並区のパンフレットに問い合わせ先を明記し、10時から19時の間で電話対応を行っている。見学では希望者の要望に応じて対応しており、クラブ内の様子や活動内容、利用可能な施設、おやつの内容などを20分程度で説明している。子どもと同伴での見学が多く、丁寧な説明に努めている。また、内容によっては親館の館長に相談しながらクラブ長が対応するなど、柔軟かつ個別の状況に応じた配慮が見られる。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入会時に家庭状況や子どもの情報を丁寧に説明・記録している</p> <p>入会時には、入会説明会や入会時の面談で「学童クラブのしおり」を用いて分かりやすく説明している。入会決定前には家庭の状況に応じて基本的なルールや手続きについて案内し、入会決定後には流れやルールの詳細を説明するとともに、子どもの日常やイベントの様子をスライドショーで紹介している。また、入会時の面談でアレルギーや既往歴、配慮が必要な事項を聞き取り、専用紙に記録している。待機扱いとなった場合の書類管理や、入会後の情報更新も適切に対応している。</p> <p>入会時記録と退会後を見据えた支援に取り組んでいる</p> <p>入会時の面談では、健康状態やアレルギー、家庭環境、子どもの特性など、子どもに必要な援助情報を詳しく聞き取り、記録している。これらの情報は職員間で共有され、対応の一貫性が保たれるよう配慮している。また、特に新入会の子どもは注意深く見守りを行い、連絡帳や電話を通じて保護者に状況を伝えている。退会後も安心して生活を送れるよう、公園利用や児童館交流など地域資源を活用することを勧め、個別面談で保護者と退会後の生活について話し合う機会を持っている。</p> <p>障害児受け入れの準備や環境整備、研修を実施している</p> <p>障害のある子どもの受け入れに向けて、入会面談時に保育園や幼稚園、家庭での様子、配慮が必要な点を詳細に聞き取るとともに、保育園や療育機関への見学や情報収集を行っている。入会案内にも特別な支援が必要な子どもの受け入れに関する内容が明記されており、生活状況調査表や特別支援児童育成報告書などの書式が整備されている。また、階段には車イスの補助システムが設置されるなど環境整備が行われている。現在、障害のある子どもの利用はないが、職員が障害・特別支援に関する研修を受け、受け入れ準備を整えている。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>子どもに寄り添い、状況に応じた目標設定と支援を実施している</p> <p>育成支援の計画は、子ども一人ひとりの意見や個性を尊重し、日々の活動やイベント、玩具や本の選定にも反映させている。入会面談や個人面談では家庭の方針や価値観、生活習慣、学習状況、友人関係などを聞き取り、これらを基に支援を行っている。また、昨年度の様子や課題を踏まえた重点目標を設定し、年度初めのキックオフミーティングで理念や目標を確認している。年度中も子どもの状況に応じて職員同士で話し合い、目標を見直しながら共有している。</p> <p>日誌や台帳を用いて記録を管理し共有している</p> <p>子どもに関する記録は、学童クラブ日誌やミーティングノートに毎日の子どもの様子、ケガや体調の変化、友達とのトラブルなどを記載し、職員間で共有している。記録は常勤職員が行い、クラブ長が確認し、一定期間ごとに親館の館長が最終確認を行う体制となっている。また、重篤な内容や個人面談で聞き取った情報については児童台帳に記録している。区のモニタリングが年2回実施され、学童クラブ日誌の確認が行われることで適切な記録管理が担保されている。</p> <p>ミーティングや記録を活用し職員間で情報を共有している</p> <p>子どもの状況に関する情報共有は、毎日の運営前ミーティングを通じて職員間で行われている。前日の出来事は学童クラブ日誌に記録され、ミーティングノートを通じて運営職員も確認できる仕組みになっている。また、個人面談の記録を基にミーティングで情報を共有し、職員間で意識をすり合わせている。年初には重点目標や運営計画がクラブ長から共有され、それに基づく支援が行われている。さらに、研修時に事例検討を行うことで、職員が共通の理解を深め、対応の質を向上させる取り組みがなされている。</p>			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>同意取得と厳格な管理でプライバシーを保護している 子どものプライバシー保護について、杉並区の規定に基づき、個人情報収集に関して保護者から同意を得たうえで対応している。勤務中に知り得た子どもや家庭の情報は慎重に取り扱い、外部への口外を禁止し、個人書類は管理徹底が求められている。また、学童クラブ日誌や児童台帳は鍵付きキャビネットで保管されるなど、適切な運用が行われている。さらに、職員に対しては、リスク回避の観点から事例を交えた注意喚起が定期的に行われている。</p> <p>家庭や子どもの意見を尊重した育成を行っている 子ども一人ひとりを尊重する援助では、入会面談や個人面談で得た家庭の価値観や生活習慣、学習状況、友人関係に配慮して支援を行っている。また、子どもの話に耳を傾け、思いを汲み取る姿勢を重視している。保護者との面談内容も援助計画に反映し、家庭との連携を大切にしている。意見箱の「なないろボックス」を通じて子どもの希望や要望を受け止め、実現可能性を検討し対応内容を掲示するなど、子どもの意見を尊重する仕組みも整っている。職員の言葉遣いに関しても改善に向けた指導が行われている。</p> <p>学校との連携と早期対応でいじめ・暴力を防止している 学童クラブ内での暴力やいじめの予防・再発防止に向け、学校や保護者と連携しながら取り組んでいる。学校内でトラブルが発生した際には、担任がクラブに訪問して状況を伝えるなどの連携が取られ、本人へのヒアリングや両者の距離調整、再燃防止の対応が行われている。また、トラブルを引きずった子どもには個別対応を行い、必要に応じて両者で話し合いを促す工夫がなされている。いじめの兆候が見られた場合には、職員がクラブ長に報告し、全員で早期対応を徹底している。日常的に雰囲気づくりにも配慮し、安心できる環境を目指している。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>各種マニュアルを整備し、内容を職員間で共有している</p> <p>杉並区の学童クラブ入会関係事務マニュアルや運営マニュアル、アレルギー対応、虐待防止、危機管理などに関するマニュアルを整備し、基本事項や手順を明確化している。これらは紙ベースで区、法人、沓掛学童クラブ独自のマニュアルとして整理され、職員がいつでも確認できる環境が整っている。入職時にはクラブ長が主要な部分を新入職員と読み合わせ、内容を共有する取り組みが行われ、運営における統一的な対応が図られている。</p> <p>定期点検と日常の確認で適正運営を図っている</p> <p>提供されている支援が基本事項や手順に沿って実施されているかについては、定期的な法人の施設巡回で点検が行われている。運営状況や書類整備、金銭管理、安全管理、子どもとの接し方、おやつ提供方法などがチェックシートに基づいて確認され、不備があれば改善計画が立てられ、期限を定めて対応が進められている。日常的には「おやつ準備・手順について」の掲示物が活用され、その他の内容はミーティングを通じて共有・確認される運用となっている。</p> <p>意見を反映し業務水準や手順を定期的に見直している</p> <p>支援の向上を目指し、標準的な業務水準や手順について定期的に見直しを行っている。管理運営に関しては区の所管課によって毎年見直しされ、法人のマニュアルも逐次改定や年度ごとの全体見直しが行われている。沓掛学童クラブのマニュアルは、運営の中で変更が必要な場合に法人の確認を経て随時更新されている。さらに、子どもや保護者からのアンケートや日常の意見を反映し、具体的には外遊びや学習時間に関する要望を受けて育成時間を調整するなどの改善が図られている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	28/28
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している</p> <p>入会時の面談や個人面談を通じて、子どもの様子を把握し、家庭や学校での状況、来年度の見直しについても共有できるよう努めている。日々の共有は運営開始前のミーティングにて1日の流れや前日の出来事を確認し、スムーズに援助できる体制を整えている。職員間の情報共有を強化するために、ミーティング記録ノートを活用し、お休みの職員でも状況を把握できるよう工夫している。また、その日のケガや気になる出来事については、簡潔に伝え合いながらも、必要な対応が適切に行えるよう配慮している。</p> <p>子ども同士がお互いを認め尊重し合えるよう援助している</p> <p>相手を思いやる気持ちを大切にできるよう、職員は適切な声かけや注意を行いながら援助している。異年齢での関わりが持てるよう、2・3年生がリーダーとなる形で班を構成している。その時々の子どもの様子を見ながら休み前・休み後・年明けの3回班替えを行い、子どもたちが多くの仲間と関われるよう配慮している。班での活動は、帰りの会や下校時間の確認、週に数回の学習活動やイベント、ネイティブ指導員との取り組みなど多岐にわたる。また、夏休みなどの長期休みには班ごとの活動が増え、異年齢での関わりが深まる機会となっている。</p> <p>子ども一人ひとりの特性を受け入れ、柔軟な対応を心がけている</p> <p>配慮が必要な子どもに対しては、職員が近くにつきながらサポートすることで、個々の気持ちや環境の変化にも柔軟に対応できるよう配慮している。一人で遊びたい場合や、友達と一緒に遊びたい場合など、それぞれの気持ちを大切に、落ち着いた場所への移動や、絵を描く・本を読むといった好きなことをして過ごせるよう提案している。トラブルが発生した際は、子ども同士が解決しようとする姿勢を尊重し、必要に応じて職員も声をかけ話し合いを促し解決に向けて一緒に考えることを大切にしている。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>子どもの自主性を尊重し、安心して過ごせる環境づくりを行っている</p> <p>室内では、パーテーションを活用して空間を仕切り、おやつスペース・宿題や読書ができる静かなスペース・遊びのスペースを分けることで、子どもたちが落ち着いて過ごせる環境を整えている。玩具の場所についても分かりやすくし、子どもたちが主体的に遊びを選びながら活動できるよう工夫している。また、体育館や校庭を学校と調整しながら活用し、体を動かす機会を積極的に取り入れ、子どもたちが安心してのびのびと過ごせる環境づくりを進めている。</p> <p>主体的な集団活動への参加を促す取り組みを行っている</p> <p>子どもたちが集団活動に主体的に関われるよう援助し、班活動やイベントを通じて積極的に参加できるよう促している。夏休みには、体育館での活動や映画鑑賞(プロジェクター使用)、カード大会、縁日(くじ引き・ポウリング)、育成室での駄菓子屋やかき氷作りなど、楽しみながら集団で取り組めるイベントを多く実施している。また、英語イベントや、地域の講師を招いた動物将棋、誕生日会、公園への外出イベントなどを通じて、外の環境に触れる機会を設けている。学年ごとの外出も取り入れ、年齢に応じた活動を楽しめるよう工夫している。</p> <p>生活や遊びを通じて基本的な生活習慣を身につけられるよう援助している</p> <p>日々の活動の中で、手洗い・うがい・水分補給・食事のマナー・座って遊ぶことなどについて、繰り返し声をかけ、習慣化できるよう援助している。また、おやつ時間では、お皿に盛り付け、学年ごとに座って食べるルールを設け、自分で片付けを行うよう促している。テーブル拭き用の布巾を置き、子どもたちが自主的に清掃活動に関われるような工夫もしている。声の大きさについての掲示、ロッカーの使い方や着替えの管理についてもサポートし、個人面談の際に整理や入れ替えを促すなど、子どもたちの自立を支援している。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもたちが意見を出し合いながらイベントをつくりあげている</p> <p>日常の会話を通じて意見を聞くことに加え、「なないろBOX」を設置し、言葉で伝えづらいことも気軽に書いて伝えられるよう工夫している。「やってみよう」という気持ちを大切に、どうすれば実現できるかを職員も一緒に考えるようにしている。毎月のイベントでは、子どもたちの声を取り入れながら内容を決め、長期休みにも意見を反映した企画を積極的に取り入れている。ボール遊びやカード、工作などで子どもたちの希望を尊重し、楽しめる環境を整えている。また、イベントを通じてルールを考えることも大切にしている。</p> <p>子どもが興味や関心を持ち、進んで取り組めるようなイベントを開催している</p> <p>イベントを通じて子どもたちがほかの学童クラブと関わる機会を大切にしている。また、親子交流会では、保護者と一緒にボール遊びやドッジボール大会、リレーなどを行い、ミニ運動会のような形で楽しめるイベントを開催している。ネットワーク事業である「ほんあまえんち」では、準備にも取り組みながら、当日と一緒に楽しむ経験を積んでいる。交流イベントは土曜日に実施しており、異なる学童との交流を深めるだけでなく、保護者も一緒に楽しめる場を提供し、地域とのつながりを大切にしている。</p> <p>子どもが意欲的に行事へ取り組めるよう、保護者の理解や協力を得る工夫を行っている</p> <p>子どもたちが意欲的に行事に取り組めるよう、準備や実施にあたり保護者の理解と協力を得るための工夫を行っている。大きな行事では、アプリやお手紙を通じて事前に内容を伝え、保護者の協力を募ることで、円滑な運営につなげている。また、毎月配信するおたよりや保護者会ではスライドショーを活用し、行事の様子をわかりやすく伝える工夫もしている。お迎えの際にも子どもの様子を伝え、日々の取り組みについて理解を深めてもらえるよう努めているが、すべての保護者に浸透するようわかりやすい案内について検討を進めている。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇)・非該当1
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	<input checked="" type="radio"/> 非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもが楽しく学童クラブに通い続けられるよう援助している</p> <p>子どもたちが学童での生活を楽しめるよう、一人ひとりの意思を尊重することを大切にしている。1年生に対しては、最初に1日の流れや学童クラブの特徴をゆっくり伝えるようにしており、ルールや育成室の片付け方などについて上級生も加わり一緒に教えている。また、教室からの距離があるため、入学当初4月については、職員が昇降口まで迎えに行き、学童クラブへの移動をサポートしている。春休み期間中は、保護者の不安にも配慮し、お迎えの際に子どもの様子を伝えながら、不安に対応できるよう努めている。</p> <p>生活時間の区切りをつくり、子どもが見通しを持って過ごせるよう援助している</p> <p>毎日決まったスケジュールで運営を行い、子どもたちが見通しを持って生活できるよう工夫をしている。ホワイトボードにその日の予定をわかりやすく表示し、子どもたちが確認できるようにするとともに、次に何をやるかを自分で考えながら行動することができるようにしている。自由遊び・おやつ・体育館活動・宿題・帰りの会など、子どもが把握しやすい流れは変えないことを基本としているが、下校時間が早い日は学習時間を早めに設けるなど、状況に応じて柔軟な対応を心がけている。</p> <p>子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している</p> <p>育成室は一部屋のみのため、中央をパーテーションで区切り、「にこにこルーム」と「まったりルーム」とわかりやすい名称で示し、それぞれの場所での活動内容を定めることで、楽しく過ごせるよう配慮している。また、奥には学習スペースも用意し、事務用スペースもオープンで近いため職員からの見通しよく話しやすい雰囲気が感じられる。長期休みには午前にも学習時間を設定し、午後は自由遊びを中心にするなど、学びと遊びのバランスを考えた活動となるよう工夫し、子どもたちが自分のペースで快適に過ごせるようにしている。</p>		

5	<p>評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校との情報交換や情報共有など密に連携し援助している</p> <p>毎年6月頃に学校の教諭と子どもに関する情報交換会を実施し、学童クラブでの様子や学校での様子を共有する機会を設けている。情報共有は必要に応じて随時行うようにしており、連携を密にすることで子どもたちが安心して過ごせるよう配慮している。副校長を中心に校長や事務担当者とも連携を図り、半年に1回運営協議会を開催しているほか、夏休みにも小学校教諭との情報交換を行う機会を設けている。また、主事室ともやり取りをし、体育館の使用状況や施設の情報を確認している。</p> <p>課題について職員間で共通認識を持ち対応できるようにしている</p> <p>不登校や課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有を行い、子どもの気持ちに配慮しながら援助できる体制を整えている。現在、具体的な対応事例はないものの、今後必要に応じて学校と連携し、適切に対応していくことを想定している。子どもの様子を丁寧に見守り、元気がない時や普段と違う様子が見られた際には、職員が積極的に声をかけることで、話しやすい雰囲気をつくるよう努めている。また、学童クラブで自然に過ごすことができているという声も保護者から寄せられており、安心できる居場所としての役割を果たしていることがうかがえる。</p> <p>関係機関と連携を図り、配慮が必要な子どもの支援に努めている</p> <p>発達面で特に配慮が必要な子どもや、養育環境に配慮が必要な子どもに対し、関係機関と連携を取りながら支援を行っている。具体的には、発達に関する研修を外部研修で受講し、職員の理解を深めるとともに、子ども家庭支援センターと連携し、月1回の訪問を受けている。この際、支援センターの担当者が子どもと1対1で面談を行い、学校や家庭での状況についても情報を共有しながら支援を進めている。</p>		
6	<p>評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもが落ち着いておやつをとれるよう室内環境を整えている</p> <p>その日の状況に応じて、おやつの時間を多少前後させるなど、子どもたちが無理なく過ごせるよう柔軟に対応している。また、子どもの実態に合わせておやつの量を調節し、それぞれのペースや食欲に配慮している。遊びや活動の流れも考慮し、楽しく落ち着いて食べられる環境を整えることを大切にしており、育成室をパーテーションで区切り、遊びとおやつの場所を分けたことで、子どもたちが落ち着いておやつを食べられるようになり、自由遊びの再開もスムーズになるなどの効果がみられている。</p> <p>おやつの時間が楽しみとなるようイベントなども取り入れている</p> <p>子どもたちの声を大切に取り入れるようにしており、誕生日会やクリスマスなどイベントごとに特別なおやつを提供し、楽しんでもらえるよう工夫している。セレクトおやつでは、ドーナツやアイス、コンビニエンスストアのスイーツを取り入れるなど、子どもたちの興味に合わせた内容にするとともに自分で選べる機会を作っている。また、デコレーションとしてチョコレートペンやカラスプレー、ホイップクリームを使えるようにし、子どもたちが自由にアレンジできる楽しさも取り入れている。</p> <p>子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している</p> <p>食物アレルギーを持つ子どもが安全に過ごせるよう、マニュアルに従っておやつを提供し、職員複数名で内容を確認した上で対応を行っている。アレルギー対応として、専用の皿やトレイを色分けし、名前やアレルギーの内容を記載することで、提供時の誤りを防ぐ工夫をしている。また、アレルギー対応薬の所持・管理を徹底し、必要に応じて迅速に対応できる体制を整えている。法人内研修を実施し、職員がアレルギー対応について理解を深める機会を設け非常勤を含めた全職員が適切な対応ができるようにしている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当

評価項目7の講評

子どもが自分の健康や安全に関心を持てるよう援助している

登室時や外遊び後の手洗いを促し、室内では走らず座って遊ぶよう、日々声かけを行っている。遊びの前には注意事項を伝え、はさみの持ち方や使い方についても指導を行い、少しのケガでも職員に報告するよう促している。校庭でのルールについても、遊ぶ際に都度伝え、安全に活動できるよう意識づけをしている。また、自分の体調を職員に伝えることを大切に、元気がない様子やいつもと違う様子があれば、職員が積極的に声をかけるようにしている。インフルエンザの流行を考慮し、体調不良時の報告やマスクの着用についても適宜指導している。

定期的な研修により子どもの体調の変化などに適切に対応できるよう備えている

現在、医療的ケアが必要な子どもはいないものの、いつ入会しても適切に対応できるよう、関連する研修に参加し、備えを進めている。また、アレルギー対応薬の預かりがあり、職員は適切に管理・対応できるよう研修を受講している。非常時にも冷静に対応できるよう、定期的な学びの機会を設け、支援体制を整えている。育成室が一部屋しかないため、体調不良の子どもを休ませる場所が限られている課題があるが、現在、室内でパーテーションを活用し、子どもが落ち着いて休めるスペースを確保するなどの対策を検討している。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
---	--	-----------

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当

評価項目8の講評

家庭の状況や希望に配慮し、柔軟な支援を行っている

保護者への支援では、入会時や個人面談で家庭の状況や要望を聞き取り、その内容に基づいて対応している。特に学習に関する希望やおやつや量の量については、家庭の方針や夕食への影響を考慮し、調整を行っている。また、友だちとの過ごし方などについても保護者と状況を共有し、保護者の意向を踏まえた支援を実施している。一方で、保護者会や個人面談に参加が難しい家庭には連絡帳や電話を通じて積極的に情報を伝え、信頼関係の構築に努めている。

保護者の交流機会を設け、職員との信頼関係構築に努めている

保護者同士の交流促進に向け、保護者会では歓談の時間を設け、子どもについて話し合う機会を提供している。また、親子交流会ではFC東京の元選手を招いたイベントを開催し、保護者と子どもの参加を通じて交流を深めている。大きなイベントでは保護者の協力を求めることで、保護者間のつながりを促している。さらに、職員は保護者会や個人面談を通じて信頼関係の構築に努め、連絡帳やお迎え時に子どもの様子を積極的に伝える取り組みを行っている。

面談やツールを活用し、保護者と情報共有し安全を確保している

子どもの様子や発達の状況について、保護者と共通認識を得るため、個人面談で学童や家庭での様子を共有し、保護者会ではスライドショーを活用して子どもの様子を具体的に紹介している。また、日々の出欠席管理にはアプリ「安心でんしゃぼと」を使用し、入力情報の確認や不明点の連絡対応が徹底されている。さらに、居場所ボードや下校ボードを活用して、子どもがどのエリアで遊んでいるかや帰宅状況を職員が一目で把握できるよう工夫し、安全確保に努めている。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子ともや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用し、多様な体験の機会を提供している</p> <p>地域資源の活用により、子どもたちが多様な体験や交流を得られるよう取り組んでいる。具体的には、3か月に1回程度、本天沼児童館との交流会を開催し、公園には学年単位で職員が引率しておやつを食べたり遊んだりする活動を実施している。これらは運営計画に基づき進められている。また、児童館や公園を子どもたちが自由に利用できるよう、リスクの洗い出しを含む計画が進行中である。さらに、徒歩圏外へのイベントや交通機関を利用した活動も今後の検討課題とされている。</p> <p>地域行事やイベントで交流の機会を積極的に提供している</p> <p>地域との交流を深めるため、さまざまな取り組みを行っている。自由参加でわんぱくマラソンの手伝いを実施し、地域行事への参加を促しているほか、クラブ長は沓掛小学校のネットワーク事業や地域会議に参加し、地域の子もたちが活動の幅を広げるための取り組みに貢献している。また、月に1回「動物将棋で遊ぼう」のイベントで地域の将棋の先生を招き、子どもたちと交流する場を設けている。さらに、ネットワーク事業である「ほんあまえんにち」では保護者も参加し、大人と子どもの交流機会を創出している。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	クラブは、地域の一員として地域とのつながりを増やす取り組みを行っている	
内容①	子どもへの支援の一環として、子どもと地域行事に参加し体験活動を充実させ、子どもの新たな成長の機会づくりを模索している。また、地域の一員としてネットワーク事業や地域のイベントに協力したり共通課題に取り組んでいる。子ども、保護者、職員からも、外遊びや地域とのつながりなど公的な社会資源の活用の声が上がっている。さらに、積極的に外遊びに出て子どもたちが楽しく充実した時間を過ごせるようにし、新たな地域の行事にも目を向けて児童館行事への参加など地域とのつながりを増やす努力をしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-1	子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している
タイトル②	重点目標を共有し、子どもに合った支援を行っている	
内容②	昨年度の子どもの様子や課題を踏まえて重点目標を設定し、年度初めには法人職員を交えたキックオフミーティングで理念や目標を確認する取り組みを行っている。また、毎年度、子どもたちの実態や状況の変化に合わせて職員間で話し合い、クラブ長が最終的に目標を決定し共有しており、具体的な目標に基づいた支援が実施されていることがわかる。さらに、入会説明会や保護者会で保護者にも目標を共有し、連携を深めることに力を入れている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-4	子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている
タイトル③	子どもが楽しく充実した時間を過ごせるよう、さまざまな体験活動を取り入れている	
内容③	食育や英語体験、季節ごとのイベントを工夫し、子どもたちが学びながら楽しめる機会を提供している。職員も子どもたちの興味や関心に寄り添い、柔軟に対応することで、主体的に参加できるよう援助している。また、体育館や校庭を活用した活動も充実しており、体を動かしながらのびのびと遊べる機会を確保し、安全面にも配慮しながら安心して過ごせる環境である。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	学校と連携し、トラブルやいじめの予防に対応している
	内容	学童クラブでは、小学校との連携を密にすることで、子ども同士のトラブルやいじめの予兆に迅速に対応している。学校内でトラブルが発生した際には、担当がクラブを訪れ状況を共有し、本人へのヒアリングや適切な距離の調整などを行い、更なるトラブルへの発展を回避に努めている。また、学童クラブへの登所後にトラブルを引きずっている場合には、個別の話し合いや両者揃っての話し合いを行い、解決を図る取り組みを行っている。職員からクラブ長への報告体制や全職員での早期対応など、いじめの拡大防止にも十分配慮している。
2	タイトル	子どもの声を積極的に取り入れることを大切にしている
	内容	子どもたちの声を積極的に取り入れ、職員間でも情報を共有しながら、子どもの様子について話し合う機会を設けている。運営の中での会話を大切に、子どもや保護者の声を受け入れることで、安心して相談できる場であると感ずてもらえるよう努めている。少しの出来事も職員同士で伝え合い、コミュニケーションを密にすることで、子どもたち一人ひとりに寄り添った支援ができる環境を整えている。子どもも保護者も意見を言いやすい雰囲気があり、その声を受け止め、より良い学童クラブづくりにつなげている。
3	タイトル	子ども主体の自ら行きたいと思える居場所になっており、アットホームな雰囲気で運営している
	内容	学童クラブでは、子どもの声を積極的に聴き入れ、子ども主体の運営を実施している。その結果、自ら行きたいと思える子どもの居場所になっている。また、子どもはもちろんのこと、職員も含め一人ひとりが尊重されている。そのため子どもと職員が気軽に意見や要望を言える環境であり、アットホームな雰囲気で運営することができている。さらに、保護者との信頼関係も築けており、連絡帳や電話での連絡、保護者会、個人面談、親子交流会などで交流し、積極的に子どもについては話を共有し、少しずつ関係を作ることを目指している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員間で言葉遣いについて共通認識を持ち、定期的な振り返りを進めたい
	内容	入会面談や個人面談を通じて、家庭の方針や価値観を尊重し、生活習慣や学習、友人関係に配慮した援助を行っている。しかし、職員の言葉遣いに関して保護者や利用者から指摘があったことから、親しみを持って接しているつもりでも誤解を招く場合があることを周知する機会となった。クラブ長がアンケート結果を踏まえ、職員への指導を見直す取り組みを始めているが、さらなる改善に向け、職員間で言葉遣いについて共通認識を持ち、定期的に振り返りを行う仕組みが必要と思われる。
2	タイトル	子どもたちが学童クラブでの生活をより有意義に過ごせるよう、係活動・班活動の充実を目指している
	内容	子どもたちが主体的に活動し、協調性や責任感を育めるよう、係活動・班活動の充実を目指している。係活動については、1月頃からの実施を計画しており、子どもたちが自分の役割を持ち、生活の中で自分の存在が役に立っていると実感できる機会を増やすことを目的としている。また、班活動では、異年齢の子ども同士が協力し合いながら、活動を通じて社会性や助け合いの精神を学べるよう工夫を重ねている。さらに多くの場面で係や班での活動を活性化していくことを検討している。
3	タイトル	子どもと保護者との信頼関係構築へのさらなる取り組みに期待したい
	内容	子どもの意見創出を図り、保護者との情報共有に努めるなど学童クラブとして信頼関係構築を目指していることが確認できている。一方で、今回の利用者アンケートではさらなる取り組みへの期待の声もあがっている。アンケートであがった意見に真摯に取り組み、学童クラブと保護者との距離を縮める取り組みにも期待したい。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

令和 7年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	伊藤 一郎	経営	H1601010
	②	坂本 里香子	福祉	H1302028
	③	和田 輝美	福祉	H1001021
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	杉三学童クラブ			
事業所連絡先	〒	166-0003		
	所在地	東京都杉並区高円寺南1丁目15番13号		
	TEL	03-5929-7531		
事業所代表者氏名	クラブ長 赤井 純			
契約日	2024年 6月 7日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024年 9月 27日			
利用者調査結果報告日	2025年 1月 18日			
自己評価の調査票配付日	2024年 9月 10日			
自己評価結果報告日	2025年 1月 18日			
訪問調査日	2025年 1月 25日			
評価合議日	2025年 1月 25日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 代表取締役社長 島根 太郎 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)たくさんの体験活動やキッズコーチとの関わりを通して、子どもたちが自分の人生を切り開くための「社会につながる人間力＝非認知能力」を育てます。 2)家族と子どもたちの未来のために、地域から社会を変える変革に挑戦し、子育てが楽しい、子どもを産み育てたいと思える社会の実現に貢献していきます。 3)キッズコーチがコーチングの手法を用いて、子ども一人ひとりの気持ちを考え、個性を「認め」、しっかりと話を「聴く」ことで、子どもの未知なる力を引き出します。 4)当社では独自の小児性愛スクリーニングを相互監視のもと行い、危険な芽が育たない仕組みを構築しています。 5)「子どもの手本となる人格を磨き続ける」がキッズベースキャンプのコーチ倫理・行動規範の一つです。一人の人間として、プロフェッショナルな保育者として、子どもからも、保護者からも、仲間のキッズコーチからも信頼されるキッズコーチを目指しています。 ※上記、全て弊社ホームページより抜粋</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>※弊社ホームページより抜粋 子どもと一緒に自分たち自身も成長していく。 子どもが好きで、保育や教育に関心がある。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミッション(使命・存在意義):子育てが楽しい、子どもを産み育てたいと思える社会の実現に貢献する。 ・ビジョン(未来の構想):未来社会の各分野を支えるユニークな人材を輩出する ・もう一つの夢:キッズコーチを憧れの職業にする <p>※上記、弊社ホームページより抜粋</p>

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である77名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生16名、2年生6名、3年生9名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

77

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
77	0	77
31	0	31
40.3	0.0	40.3

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が32.3%、「本人と家族」が61.2%、「家族が推察」が6.5%であった。総合的な感想に関する調査の結果は、対象者の96.8%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が3.2%であり、大変高い満足度が得られている。項目別では、＜生活について＞に関する5設問は1設問において、大変高い満足度であった。「約束ごとの説明」では、80.7%の大変高い満足度が得られている。＜安心・快適性＞に関する4設問は1設問において、大変高い満足度であった。「職員の接遇・態度」では、90.3%の大変高い満足度が得られている。＜あなたを大切にしてくれるか＞に関する2設問は「気持ちを大切にしてくれるか」において、80.6%の大変高い満足度が得られている。ただし、「職員は秘密を守ってくれるか」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。＜嫌なことやしてほしいこと＞では、「困ったり、してほしいこと」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「職員以外へ相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	24	4	0	3
「はい」が77.4%、「どちらともいえない」が12.9%、「無回答・非該当」が9.7%であり、高い満足度であった。自由意見では、「レゴ」、「おもしろい日もつまらない日もある」、「日によってちがう」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	22	5	0	4
「はい」が71.0%、「どちらともいえない」が16.1%、「無回答・非該当」が12.9%であり、高い満足度であった。自由意見では、「友だちとケンカした時に聞いてくれる」、「相談したことがない」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	22	5	3	1
「はい」が71.0%、「どちらともいえない」が16.1%、「いいえ」が9.7%、「無回答・非該当」が3.2%であり、高い満足度であった。自由意見では、「わたあめがおいしかった」、「おいしいものが多い」、「さくさくパンダとコアラのマーチが好き。マシュマロ、ガム、グミはきれいなので、出さないでください」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	16	8	0	7
「はい」が51. 6%、「どちらともいえない」が25. 8%、「無回答・非該当」が22. 6%であった。自由意見は特になかった。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	25	1	1	4
「はい」が80. 6%、「どちらともいえない」が3. 2%、「いいえ」が3. 2%、「無回答・非該当」が13. 0%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「わかりやすいように話してくれる」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	22	7	1	1
「はい」が71. 0%、「どちらともいえない」が22. 6%、「いいえ」が3. 2%、「無回答・非該当」が3. 2%であり、高い満足度であった。自由意見では、「きれいになっている」、「自分はきれいにしていく」、「床が汚れている」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	28	2	0	1
「はい」が90. 3%、「どちらともいえない」が6. 5%、「無回答・非該当」が3. 2%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	23	0	0	8
「はい」が74. 2%、「無回答・非該当」が25. 8%であり、高い満足度であった。自由意見では、「お友だちが泣いていたのを助けていた」、「なったことがない」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	24	1	0	6
「はい」が77. 4%、「どちらともいえない」が3. 2%、「無回答・非該当」が19. 4%であり、高い満足度であった。自由意見では、「話し合っ解決してくれた」、「ケンカをするところを見たことがない」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	25	2	0	4
「はい」が80. 6%、「どちらともいえない」が6. 5%、「無回答・非該当」が12. 9%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「すぐ助けてくれる」という声が聞かれた。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	12	3	1	15
「はい」が38.7%、「どちらともいえない」が9.7%、「いいえ」が3.2%、「無回答・非該当」が48.4%であった。自由意見では、「そんなことになったことがない」、「ないしょ話をしたことがないので」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	19	3	1	8
「はい」が61.3%、「どちらともいえない」が9.7%、「いいえ」が3.2%、「無回答・非該当」が25.8%であった。自由意見では、「自分じゃないけど、他の人で見たとがあります」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	12	2	3	14
「はい」が38.7%、「どちらともいえない」が6.5%、「いいえ」が9.7%、「無回答・非該当」が45.1%であった。自由意見は特になかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/> 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく <input type="radio"/> 非該当
	カテゴリ1の講評	
	職員への理念浸透は徹底されているが、利用者周知に課題がある 法人の理念やビジョンは、職員に対してはクレドミーティングやカードの携帯、読み合わせといった取り組みを通じて、日常業務に根付かせる工夫がなされている。非常勤職員を含めて実施することで、全職員が共通認識を持つ環境が整えられている。また、保護者会において年間目標を周知し、利用者や家族への説明が行われている。一方で、クラブ独自の理念や方針が法人HPIには記載されていないため、利用者に対するさらなる周知方法の検討が課題となっている。	
	クラブ長は運営計画を通じて役割を明確化し、職員をリードしている クラブ長は、運営計画表をもとに各職員の個人目標を設定し、エリアマネジャーと共に役割と責任を明確にしている。年初にマネジメント方針を伝えることで、学童クラブのリーダーとして方向性を示し、職員をリードする姿勢がうかがえる。法人全体の目標や方針も全体会議や施設長会議を通じて共有され、人事制度資料に基づき求められる行動特性が具体化されている。職員面談を定期的に行う仕組みにより、方針や役割を丁寧に確認する体制も整っている。	
	重要案件は法人と連携して検討し、決定手順と周知体制が整備されている クラブ内の重要案件については、法人を含めた検討を行い、必要に応じて区への報告を行う仕組みが整備されている。法人では、事業グループ会議やSC会議を通じて重要案件の検討・決定を行い、その内容はポータルサイトや全体会議、施設長会議を通じて職員に周知を図っている。利用者には、毎月のおたよりや保護者会で伝達し、緊急性のある場合には「安心でんしょぼと」を活用するなど、迅速かつ確実な情報共有が行われている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー2の講評		
<p>利用者・職員・地域ニーズを把握し、課題を運営に反映している</p> <p>利用者ニーズは、区主催のアンケートや子ども会議、保護者面談を通じて把握し、事業に反映させている。職員の意向はMBO面談やエリアマネジャーの巡回面談で汲み取り、役割分担や運営に活用している。また、地域子育てネットワーク会議や運営協議会を通じて地域情報を収集し、運営に反映する体制が整っている。さらに、業界動向や行政の変化にも対応し、監査やミーティングを通じて課題を共有し、適宜対応している。</p> <p>中長期計画を策定し、年度計画と予算編成に反映している</p> <p>クラブ長とエリアマネジャーが協議しながら、中長期計画が策定され、法人の承認を得ている。計画には児童数、職員配置、学童クラブ目標、活動計画などが含まれ、2024年から2026年の具体的な目標が示されている。この中長期計画をもとに、クラブ長が年度ごとの目標を設定し、区の運営計画として事業計画を策定している。また、予算編成は関係者と協議しながら行われ、計画に基づいた予算の意図が明確に示されている。</p> <p>MBOと定期的な面談で計画進捗を確認し、柔軟に対応している</p> <p>人事制度に基づきグレードに応じたコンピテンシー(高い成果を上げるために必要な能力や行動特性)を開示し、それに基づいてMBOの目標を設定している。クラブ長と職員が個別面談を行い、目標の進捗状況や課題を共有しながら、計画の推進を進めている。クラブ長はOJTチェックシートを活用して、計画の達成状況を毎月確認している。また、常勤ミーティングで事業計画を定期的に見直し、利用者意見も反映して柔軟に対応している。半期ごとの振り返りにより、目標や計画の修正が適切に行われている。</p>		

3 カテゴリー3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー3の講評

研修やマニュアルを活用し、法・規範・倫理の遵守を徹底している

倫理・行動規範や基本行動指針などのマニュアルが整備され、クラブ内や法人主催の研修を通じて職員に周知を図っている。入職時のコンプライアンス研修では、遵守すべき法令や規範について学ぶ機会が提供され、全職員の理解を促している。さらに、法人では定期的な研修や注意喚起を実施し、関連法規の遵守と倫理意識の向上を図っている。これらの取り組みにより、職員が法・規範・倫理を意識しながら業務にあたる体制が推進できるよう取り組んでいる。

苦情対応や虐待防止で相互牽制と迅速な対応を徹底している

苦情解決窓口は周知されており、利用者アンケートの意見をおたよりで公表し、事業所からの回答を示している。クレーム対応の研修や苦情処理フローチャートを活用することで、迅速な対応が図られている。職員は人権や虐待防止の研修を受け、相互牽制を含む防止対策を徹底している。特に小児性愛スクリーニング期間(1か月)を設け、職員間で子どもの権利を守る取り組みが特徴的である。虐待発見時には関係機関と連携する体制も整っている。

活動公開や地域行事を通じて透明性と地域貢献を推進している

活動内容の透明性を高めるため、運営協議会での活動報告や施設内での写真展を通じて、日常の様子を地域に公開している。また、ボランティアや実習生受け入れの体制を整備し、地域との交流を推進し、近隣児童館や学校PTAとの連携により、地域行事や子どもの自主性を育む取り組みが展開されている。さらに、地域子育てネットワーク協議会への参加やゆうゆう館での交流会を通じて、地域ニーズに応えた活動を進め、地域貢献の役割を果たしている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>リスクマップやマニュアルで対策を明確化し、優先順位に基づいて対応している</p> <p>子どものケガや地震、火災などを優先リスクとして位置づけ、感染症対策や避難訓練を実施している。感染症対策では疑いのある子どもを分離し、発症が明確な場合には速やかに保護者へ連絡する体制を整えている。リスクマップを作成し、潜在的なリスクを可視化するとともに、環境の変化に応じて更新を行っている。さらに、フローチャートやマニュアルを活用し、事前予測と優先順位に基づいた対策を組織的に進めている。</p> <p>BCP策定と周知、災害時の連携体制を整備している</p> <p>杉並区のシミュレーションをもとにしたBCPが法人の基本フォーマットに基づき策定され、学童クラブの実情に合わせた内容となっている。震災救援所としての機能を持つ学校と連携し、備蓄品や非常用物資の管理も行っている。正規職員を中心にBCPの読み合わせや避難計画を実施し、職員と利用者への周知を進めている。避難訓練や研修を通じて防災意識や対応力を高め、事故や災害時には要因を分析して再発防止に努めている</p> <p>個人情報管理体制を整備し、情報漏洩防止策を徹底している</p> <p>個人情報の取り扱いについてマニュアルが整備され、全職員が入職時研修で遵守事項を学んでいる。個人情報文書の廃棄期限を設定し、不要な保管を防止している。情報は鍵付きの保管場所で管理され、共有が必要な情報は資料化して確認を徹底している。また、アクセス権限は所属やグレードに応じて設定され、非常勤職員には必要な情報を紙で共有している。メール送信には誤送信防止機能を活用し、漏洩対策を強化している。個人情報保護法に基づく規定も整備され、法人HPで公開している。</p>		

5 カテゴリー5		
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー5の講評

採用・配置・育成に加え、働きがい向上の支援体制を整備している

法人が採用活動を担い、インターンや大学と協力して採用の幅を広げている。また、非常勤職員についてはエリアマネジャーが関与し、配置計画が適切に進められている。正規職員は基準を上回る人数を配置し、十分な育成環境が整えられている。職員のメンタルケアや働きがい向上のため、メンター制度や新人面談、社員満足度調査など多様な支援体制が導入されている。自己申告書を用いた職員の意向確認や、キャリア志向を踏まえた配置計画も進められている。

研修・評価制度を整備し、職員の働きがい向上と定着を図っている

非常勤職員にもスキルアップシートを活用した面談や研修が行われ、働きがい向上やスキル向上に取り組んでいる。常勤職員は入職時研修から始まり、2年目以降の階層別研修やテーマ別検討会を通じ、継続的な成長が支援されている。MBOを用いた目標設定やフィードバック、評価基準の明文化により、育成と処遇が連動している。労働環境や健康状況の把握、相談窓口の設置、HKI(働きがい向上委員会)による意見反映など、職員が安心して働ける環境作りが進められている。

研修やミーティングを活用し、組織力とチーム力向上に取り組んでいる

クレドミーティングや常勤ミーティングを通じて職員の提案を共有し、スキル向上やチーム力の強化に取り組んでいる。新人育成ではジュニアメンター制度や充実した導入研修を活用し、職層ごとに必要な研修が豊富に用意されている。区の研修会や施設長会議で得た知見はミーティングで共有され、改善に活かされている。また、テーマ別検討会で知識や経験を共有する仕組みがあり、チームでの活動や課題解決に役立てられている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

子どもたちの主体性を育むことを目指し、生活委員、図書委員、イベント委員の3つの委員会を設置し、年間を通じて話し合いの場を提供することを計画している。各委員会では子どもたちが意見を出し合い、自ら計画を立て、行事や活動を実施できるよう支援する方針である。職員は子どもの意見を尊重しながら必要なサポートを行い、主体的な活動を支える環境づくりを目指している。前年度の課題として、職員が主導して決定されたイベントや活動が多く、子どもたちが主体的に行動する機会が限られている状況が挙げられた。この課題に基づき、子どもたちが自ら遊びや生活を充実させる環境を作る必要性が認識された。主体的な活動を促進することで、子どもたちの自主性や協調性を育成することを目指し、委員会活動を通じて子どもが関与しやすい仕組みを整える方針である。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

昨年度の取り組みでは、5月から委員会活動を開始し、図書委員会、イベント委員会、生活委員会がそれぞれ役割を果たして活動した。図書委員会では本の調査や整理整頓、アンケート実施、ランキング作成、破損本の修繕などを行い、イベント委員会は利用者全員が楽しめる企画として鬼ごっこや謎解きイベントを実施した。生活委員会はルールPOP作成や掃除チェックを通じて、施設内を快適に過ごせる環境づくりに取り組んだ。

「委員会」という名称が高学年への憧れとなり、やる気を引き出す効果があった一方、活動時期や目標達成度合いにばらつきが見られた。これを踏まえ、今年度は2か月に1回の定期的な活動を実施する仕組みを導入し、継続的な取り組みを行っている。また、新しい委員会設立の提案や改善案が子どもたちから発信され、子どもの声を学童クラブ全体で反映させる動きが生まれている。子どもたちの発想力を受け止め、やりたいことを実現することの重要性が認識された。今後は、主体的に引き継ぎが行われる取り組みとして定着させることを目指している。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

子どもの危機管理意識や回避力を向上させることを目指し、毎日の退室時に帰り道のリスクについて注意喚起を行い、定期的に避難訓練を実施する予定である。避難訓練では、火災や地震などの緊急事態を想定した行動を学び、子どもたちが自ら安全を確保できる力を身につけられるよう支援する。帰りの会では、帰宅途中で注意すべき点を具体的に伝え、安全指導を徹底することを目指している。利用者の増加に伴い、室内遊びの制約がある一方で、生活習慣の定着や避難訓練は実施できている。しかし、校庭遊びでは多くの遊具がある中で、大人の目が届かない場面において子ども自身が危機を回避する力を持つ必要があると課題が認識された。そのため、毎月の避難訓練を通じて危機管理意識を養い、退室時の注意喚起を徹底して行き、子どもたちの安全意識を高めることを目指した取り組みを計画している。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行ってなかった(目標設定を行ってなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

前年度は帰り道の安全指導が実施されていたものの、校庭遊びでのケガが多い状況であった。これを受けて、今年度は遊びの内容に合わせた環境整備を行い、校庭遊び時に準備体操やルール確認を毎回実施した。その結果、子どもたちの危機管理能力が向上し、ケガの発生回数が大幅に減少している。危険な行動が見られる場合には、子ども同士で注意し合う場面も増え、ルールが浸透し、自ら危険を回避できる力が育ち始めている。また、職員の役割を明文化し、当日の職員ミーティングで確認を徹底したことで、安全管理体制が強化されている。今後も安全を担保しつつ、子どもたちが主体的にリスクを回避しながらやりたいことに挑戦できる施設環境を目指し、さらなる環境設定の工夫を進めていくことを目指している。

II サービス提供のプロセス項目 (カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評			
<p>区のHPや法人のHPには利用曜日や時間、料金などの基本情報を見ることができる</p> <p>区のHPのトップページから、子育て、学童クラブと検索すると、利用曜日・時間や利用料のほか、申請書類を確認できる。施設案内のページからは学童クラブの一覧を見ることができ、住所や電話番号が公開されている。法人のHPには民間学童保育事業として運営委託も含め、数十か所の事業所を運営していることが紹介されており、クラブのページでは開所時間や利用料金などの基本情報を見ることができる。紙の情報としては区発行のパンフレットに区内の学童クラブの一覧表と各クラブごとに住所、電話番号、地図と最寄り駅などを見ることができる。</p> <p>就学時健康診断の際に案内を配付し、近隣学童クラブと合同入会説明会を開催している</p> <p>区が発行するパンフレットは児童館などの公共施設や各学童クラブに閲覧用として設置されている。また小学校の就学時健康診断の際に学童クラブの案内を配付し、周知を図っている。近隣児童館内にある学童クラブと合同で入会説明会を開催し、学童クラブの基本的なルールや重要事項などを説明している。見学の要望があった場合は、都度クラブ長が在所する日で希望する時間に合わせて対応している。見学時はクラブの特徴として、校庭を使って遊べる時間が多いことや子どもがやりたいことを支援していることを画像を使いながら説明している。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>分かりやすい表現で作られた学童クラブガイドブックを使用して入会説明を行っている</p> <p>新入会希望者は区指定の申し込み書と就労証明書などの必要書類の提出とともに、常勤職員2名で面談を実施し、利用条件を満たしているか確認している。入会が決定すると、館長同席のもと新入会説明会を開催し、学童クラブガイドブックに沿ってクラブ長及び常勤職員が説明を行っている。ガイドブックは区が発行するパンフレットで使われている言葉を使用しながら、保護者が理解しやすいように分かりやすい表現に努めている。その後、児童台帳や緊急時児童引き渡し申出書、アレルギー調査票などの書類を準備してもらい、入会面談を実施している。</p> <p>入会面談は子ども同伴で、特別な支援の必要な子どもについては2名で実施している</p> <p>入会面談は子ども同伴で、児童台帳などの提出書類の内容を確認しながら、区指定の書式の面談記録の項目に沿って行っている。子どもにも質問し、子どもや保護者の意向、保育園や家庭での子どもの様子、特にアレルギーや健康面に関しては丁寧に聞き取りを行っている。特別な支援の必要な子どもについては、所属館の館長と職員の2名で面談を行い、配慮が必要なことや環境整備する点について確認している。またアレルギーなどがある子どもについては、安全におやつを提供するため、別途クラブ長及び常勤職員が詳しい聞き取りの面談を行っている。</p> <p>利用初日や長期休み期間前にオリエンテーションを実施し、不安の軽減に努めている</p> <p>特別支援児童については、利用開始前に子どもが利用していた保育園などと保護者の了解を得たうえで情報共有を図り、生活の様子を把握し、職員ミーティングで情報を共有して、受け入れに向けてできるだけ同じような環境を整えるよう取り組んでいる。また利用初日や長期休み期間前には、1日の過ごし方などのオリエンテーションを実施し、入会面談で顔見知りになった職員から話しかけるなど、不安の軽減に努めている。保護者に対しては、お迎え時に子どもの様子を伝えるほか、連絡ファイルにて利用開始直後は特に丁寧に情報の共有を行っている。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>運営計画に基づき、職員ミーティングで具体的な行事の内容や日程などを決めている</p> <p>子どもたちへのアンケートを実施し、その結果や前年の反省をもとに、クラブ長が年度ごとの目標を設定し、区指定の書式で学童クラブ運営計画を策定している。計画の始めには安心・安全などの重点目標を設定し、学校のある平日と休業日の日常のクラブの1日のスケジュールを方針と留意点とともに記載している。このほかに年間の行事や保護者会、危機管理のための安全点検、訓練などについても月ごとに計画している。この運営計画に基づき、前月の職員ミーティングで具体的な行事の内容や日程などを決め、月初の学童だよりにて、保護者に発信している。</p> <p>静かに学習に取り組める場所や特別支援児のための個室など、環境整備に努めている</p> <p>日々の活動は校庭が使える時間が決まっているため、外遊びの時間はこれに合わせなければならないが、鬼ごっこ大会やマラソンなどのイベントも企画し、室内遊びはブロックやごっこ遊びなどを用意し、その時にやりたいことを選んで遊べるようにしている。室内の活動は、2つの部屋ごとに活動を分けているほか、パーテーションで区切り、いつでも静かに学習に取り組める場所や特別支援児のための個室を用意するなど、工夫しながら環境整備に努めている。このほかに外部講師を招いてガラススタイルを使った工作を行い、作品は自宅に持ち帰っている。</p> <p>班活動以外に希望者による子どもたち主体の委員会を設け各会ごとに活動している</p> <p>全学年バランスよく構成した班活動で、異学年の交流をしながら関係性を深めることで、やりたいことの発言が増えている。子どもたちとの話し合いの中で、班の中だけでなくクラブ全体の役割を決めたらどうかという意見があり、昨年度の5月頃に図書委員会やイベント委員会、生活委員会を立ち上げた。職員は活動をサポートする形で子どもたち主体の委員会活動を行っている。委員会は2年生以上の希望者で運営されており、ルールを作りたいという理由で生活委員が1番人気となっている。これからも自主的に活動できる環境の継続を期待したい。</p>			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>HPプライバシーポリシーを公開し、入会時に個人情報と肖像権の使用の同意を得ている</p> <p>HPの問い合わせ・資料請求ページには、プライバシーポリシーが公開され、周知の上申し込む流れとなっている。プライバシーポリシーには、法令などを遵守し、個人情報の収集は利用目的のために必要かつ最小限の範囲とし、職員に対して個人情報保護についての教育訓練を行い、その内容を法人内に周知徹底することなどが書かれている。利用希望者には個人情報使用の同意書を、入会時には画像の撮影とクラブだよりに掲載の可否をチェックする肖像権使用同意書とともに提出を促している。</p> <p>個人情報の管理体制を整備し、職員には研修や抜き打ちテストを実施している</p> <p>児童台帳やアレルギー調査票などは見やすいようにファイルされ、事務所内の鍵がかかる書庫に保管され、開閉は常勤職員に限定し、管理を徹底するよう努めている。PCは事務所内のみで使用することになっており、IDとパスワードが設定され、一定時間使用しないと画面が閉じる設定がされている。職員に対しては、個人情報の取り扱いについてのマニュアルを整備し、事務所に設置し、いつでも確認できるようにしている。また入職時に全職員に研修を実施し、その後毎年1、2回抜き打ちテストを行い、個人情報に対する意識を高めている。</p> <p>子ども同士の関係にも配慮しながら、一人ひとりの意見を尊重するように努めている</p> <p>クラブ長が法人で行われる法人内責任者研修で人権を尊重するための研修を受け、職員へプライバシーや個人の尊厳の重要性の周知を行っており、入職1年目の研修においても必ず人権研修を受講し、人権意識の向上を図っている。日常の中では、子どもについての話しは周りには聞こえない場所で行い、情報共有は子どもが帰宅後にするなどの配慮をしている。子ども同士でケンカをした時の相手の名前については、加害の子に許可を取り伝えるようにしており、子どもの情緒や子ども同士の関係にも配慮しながら、一人ひとりの意見を尊重するように努めている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>区や法人マニュアルに従い、クラブではより具体的な役割分担表などを作成している</p> <p>マニュアルは区の学童クラブの運営に関する各種マニュアルのほかに、法人としても震災や事故・ケガなどに関わる児童館危機管理マニュアル、クレームや虐待などの対応が書かれた公設事務運営マニュアル、法人内事務業務についての事務マニュアル、保育の基本や感染症・アレルギー対応などをまとめた保育マニュアルなどを整備している。クラブではこれらのマニュアルに従い、より具体的な外遊びのルールや室内での注意事項を作成しているほか、業務の分担をまとめた職員分担表、災害に備えた防災チェック表などをつくり、業務の標準化を図っている。</p> <p>クラブ長が自己評価を行い、エリアマネジャーが巡回チェックを定期的に行っている</p> <p>クラブ長が法人で行われる責任者研修の中で、個人情報など決められた通り管理できているかのチェックを実施しているほか、エリアマネジャーが月1回以上巡回して実態を確認し、3か月に1回は巡回チェックシートを使って、1つ1つ項目をチェックしている。マニュアルは事務所の書庫に保管され、アレルギーや感染症、ケガの応急処置など、職員から不明点を聞かれた時は、上長は対応を答えてしまうのではなく、マニュアルを見るように指導し、日常的な活用につながっている。また嘔吐処理など、マニュアルを使った法人内研修を実施している。</p> <p>利用者からの意見には可能な限り迅速に対応し、クラブ内の業務の見直しを行っている</p> <p>法人内マニュアルは法人で必要に応じて随時見直し、年度末に振り返りを実施している。改訂が行われると差し替え廃棄を指示する通達が届き、クラブ長がマニュアルファイルの入れ替えを行っている。区の説明会や担当者会議などで業務内容の変更などの説明があった際には手順を見直し、利用者アンケートからの意見などから職員ミーティングで検討し、ケガしやすい場所の改善や公園の利用回数を増やすこと、教育的要素の玩具や本の設置など、可能な限り迅速にクラブ内の業務の見直しを行い、要望に対する実施結果の報告を保護者に行うようにしている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	28/28
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している				
評点(〇〇〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している			○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している			○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している			○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			○非該当
評価項目1の講評				
<p>職員間の情報共有と連携により、子どもの全体的な姿を把握し援助している</p> <p>常勤職員は午前ミーティングを行い、その内容を午後の非常勤職員に共有することで、情報の一貫性を保ちながら連携を図っている。日々の子どもの変化を把握するため、全体で声をかけ合い、日常的にコミュニケーションをとることを大切にしている。トラブルや気になる事柄については、学童日誌や連絡ファイルに記録し、ミーティングで共有・振り返りを行う仕組みがある。個人台帳は必要に応じて確認し、一人ひとりの状況を把握しながら支援を行っている。予定変更については、電話や連絡ファイルなどを通じて対応し、保護者との連携にも配慮している。</p> <p>トラブルに際しては、子どもたちの関係性を育む支援を行っている</p> <p>トラブルが発生した際には、双方の意見を丁寧に聞き、原因を探りながら解決に向けた対応を行っている。一人ひとりの考えを尊重しつつ、子どもたちが相手の立場を考えながら話し合い、理解し合うことを促している。また、トラブルが長引かないよう、その日のうちに解決することを目標にし、迅速な対応を心がけている。兄弟関係や異年齢の関わりも多く、助け合う姿が見られることもあるため、子どもたちが困ったときには、「コーチに声をかけてね」「事務室にいるから相談してね」などの声かけを行い、子どもが安心して相談できる環境を整えている。</p> <p>ユニット活動によって異年齢での関わりを持てるよう援助している</p> <p>子どもたちを6つの班に分け、1年間を通じて継続的に活動する「ユニット活動」を取り入れている。おやつや帰りの会、「いただきます」の当番など、班での役割を設けることで、子どもたちが自主的に行動できるよう援助している。班の編成については、4月の子どもたちの様子を見ながら5月以降に決定しているが、1年生と2～3年生はおやつや帰りの会を分けるなど学年ごとの配慮も行っている。ユニット活動を通じて、子どもたちは仲間との関わりを深めながら、主体的に活動に取り組む力を身につけている。</p>				
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している				
評点(〇〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している			○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している			○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している			○非該当
評価項目2の講評				
<p>子どもが快適に過ごせるよう環境設定の工夫を行っている</p> <p>子どもたちがそれぞれの気持ちや目的に応じて過ごせるよう、育成室を2つのスペースに分け快適に過ごせるよう工夫している。「まったりルーム」では、読書、宿題、ボードゲームやカードゲームなど、静かに落ち着いて過ごし、「ニコニコルーム」は玩具で自由に遊べる空間として、子どもたちが好きな遊びに集中して取り組むことができる場となっている。おやつや帰りの会もここで過ごし、ロッカーや学習スペースも配置されている。落ち着ける小さなスペースも確保されており、一人になりたいときや静かに過ごしたいときに利用できるような空間となっている。</p> <p>子どもの主体的な遊びと成長を支える環境づくりを行っている</p> <p>保育園から一緒に過ごしている子どもが多いことから、集団遊びが発展しやすい環境であり、支援員は見守りながら子どもたちがルールを考え、主体的に遊びを進められるよう促している。校庭や体育館の利用も時間や曜日によって可能となっており、体を動かす遊びを取り入れることができるため、屋内外での活動の幅が広がっている。また、支援学級のある学校ならではの特色として、子ども同士の優しさや思いやりの気持ちが自然と育まれており、異なる背景を持つ子どもたちが共に過ごしながら成長する姿が見られている。</p> <p>日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している</p> <p>子どもたちの自主性を大切にし、2年生以上を対象に委員会活動を実施している。ロッカーや玩具の整理整頓を促す生活委員、図書管理や修復を行う図書委員、イベントの企画・実施を担当するイベント委員があり、それぞれの活動を通じて、子どもたちが役割を担えるよう工夫している。一人ひとりのロッカーには体育館シューズや着替えを収納し、月に1回は片付けを促す時間を設けることで整理整頓の習慣を身につけられるよう支援している。忘れ物についても持ち帰るように促すことで、自分の持ち物を管理できるよう働きかけている。</p>				

3	<p>評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし</td> <td>1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし</td> <td>2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし</td> <td>3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当				
評価	標準項目															
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当														
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当														
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当														
<p>評価項目3の講評</p> <p>子どもが主体的に関わり、楽しく学べるイベントを開催している</p> <p>子どもたちの声を大切にし、楽しく充実した活動ができるようなイベントを企画・実施している。工作では地域の講師を招いた「時計づくり」などの体験を取り入れ、目的を持って取り組めるよう工夫している。1年生から参加できるようなものから、少しずつ段階を踏んで進めることで、満足度を維持しながら、子どもたちの成長に合わせた体験を提供している。3年間を通じてさまざまなことに挑戦できるよう計画し、学びの幅を広げる工夫がされている。完成した作品は写真に撮って掲示し、持ち帰ることで子どもたちの達成感を高めている。</p> <p>子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている</p> <p>夏は暑さのために外での活動が難しくなることを考慮し、「杉三フェスタ」という学童クラブ内の縁日イベントを実施している。折り紙やプランなど、事前に作りためたものを景品として使い、子どもたちが主体となってゲームを企画・運営している。活動を通じて異学年の交流を深める場となっている。今年度からは、保護者の参加も取り入れ、ルール決めや作品作りを一緒に行うことで、より幅広い学びと経験が得られる機会となっている。イベントの準備には時間をかけ、子どもたちが主体的に関わりながら充実した経験につなげている。</p> <p>行事の準備や実施にあたり、保護者の理解と協力を得るための工夫を行っている</p> <p>保護者会では、年間の行事予定について説明を行い、学童クラブでの活動について事前に理解を深めてもらう機会を設けている。また、学童クラブ入り口付近に写真を掲示し、保護者が学校に来た際に自然と目に留まるように工夫している。学童新聞などでも活動内容や子どもたちの様子を詳しく伝えているほか、毎月初めに行事案内や学童クラブだよりを配信し、学童クラブの取り組みを継続的に発信している。保護者会や運営協議会では、プロジェクターを活用して活動の様子を映し出し、視覚的に伝えることで、理解を深めてもらう工夫がされている。</p>																
4	<p>評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)・非該当1</p>															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし</td> <td>1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし</td> <td>2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし</td> <td>3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし</td> <td>4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している</td> <td><input checked="" type="radio"/>非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	<input checked="" type="radio"/> 非該当	
評価	標準項目															
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当														
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当														
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当														
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	<input checked="" type="radio"/> 非該当														
<p>評価項目4の講評</p> <p>新1年生の受け入れを丁寧に行い、学童クラブに通い続けられるよう援助している</p> <p>新学期は1年生の受け入れを丁寧に行い、安心して学童生活をスタートできるような環境を整えている。春休みから通い始める子どもたちに対しては、慣れる期間を設け、学童クラブの流れやルールを少しずつ伝えるようにしている。学校が始まると、最初の2週間は集団下校に合わせて職員が迎えに行き、子どもたちが安心して学童クラブに通えるようサポートしている。入学式後は、給食が始まるまでお弁当持参の期間があるため、その間も少しずつルールや学童クラブでの過ごし方について説明し、負担なく新しい環境に慣れていけるよう配慮している。</p> <p>ホワイトボードを活用し子どもが見通しをもって過ごせるよう援助している</p> <p>子どもたちが安心して日々の活動に取り組めるよう、毎日の流れをホワイトボードで確認できるようにしている。1年生の利用開始初日や長期休みの開始時期には、1日の過ごし方についてオリエンテーションを実施し、スムーズに学童生活に適應できるよう支援している。1日のスケジュールは、学校の予定を考慮しながら策定し、子どもたちの体力面・精神面にも配慮した内容となっている。夏休みなどでは、午前・午後の活動バランスを考慮し、学習時間や自由遊びの時間を適切に配分することで、無理なく楽しく過ごせるよう工夫している。</p> <p>子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて環境を工夫している</p> <p>各部屋には遊びのテーマを設け、子どもたちが興味を持って取り組める環境を整えている。環境については帰りの会やアンケートを通じて子どもたちのニーズを把握し、要望に応じた遊具や図書の実装を図っており、学童クラブでの時間がより充実したものとなるよう援助している。帰りの会は帰宅時間の20分前を目安に開始し、職員は帰宅する子どもの時間を確認し、連絡ファイルを手渡ししながら、帰宅時の注意事項を伝えている。その後、翌日の予定やお知らせを共有し帰宅時間になったら順番に送り出しを行っている。</p>																

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当

評価項目5の講評

小学校や区と情報共有を行いながら子どもの育成にあたっている

毎月の学校だよりや学年だよりを共有してもらい、下校時間や学校行事を把握することで、学童クラブの運営に活かしている。また、学童クラブ利用者の担任教員とも連携を図り、気になることがあればその都度情報交換を行うことで、子ども一人ひとりの様子に合わせた支援ができるよう努めている。トラブルがあった際には学校側にも情報を共有し、適切な対応が取れるよう連携している。校庭や体育館の使用についても、空いている時間があれば利用できるよう学校側の理解を得ることができており、充実した環境での運営を行っている。

不登校などの課題について、子どもの気持ちに配慮した援助を行っている

不登校や課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら、子どもの気持ちに配慮した援助に取り組んでいる。トラブルや個別に配慮が必要な場合についても学校と連携し、適切な支援ができるよう努めている。学校内のカウンセリングスペースを活用し、登校しづらい子どもが少しずつ学校生活に馴染めるようサポート体制もある。学童クラブの環境を活かし、安心して過ごせる場として提供することで、学校以外でも子どもの居場所となるよう支援を行い、保護者とも連携を図っている。

特別な配慮が必要な子どもに対する支援を行うため、関係機関と密に連携を図っている

入会面談時には、障害や特性についての確認を行い、必要に応じて区の担当部署や関係機関と情報共有を行うことで、適切な支援を提供できるよう受け入れ体制を整えている。また、保護者とも丁寧に話し合いながら、子ども一人ひとりに合った支援ができるよう努めている。要支援家庭についても、区や関係機関と連携し、気になることがあれば情報共有を密にしながら適切な援助につなげている。お迎え時には、保護者と日々の様子を共有し、必要に応じて支援機関とも情報を共有することで、子どもの成長を支える環境づくりを進めている。

6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当

評価項目6の講評

子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれる環境づくりに取り組んでいる

楽しみながら食べることを大切にし、学童クラブならではの温かい雰囲気の中で、子どもたちが安心して過ごせるよう努めている。年度初めは1年生から順番に食べ始めるが、その後は班ごとにテーブルにつき、おやつを時間を一緒に過ごしている。下校時間にも配慮しそれぞれのタイミングで時間調整を行っている。ミニゲームやなぞなぞ、クイズ、じゃんけんなどを取り入れ、楽しさを演出している。また、席は基本的に班ごとだが、時には自由席の時間を設けることで、気の合う友達と一緒に楽しく食べられるよう配慮している。

子どもの楽しみとなるよう、おやつや時間や内容の工夫を行っている

職員がおやつの前には、ミニゲームなど楽しめる時間を設け、子どもたちがおやつや時間を楽しみに行けるような取り組みをしている。好き嫌いやこだわりについては、保護者とも相談しながら無理なく食べられるよう配慮している。また、遊びに夢中になり食べることを後回しにしてしまう子どもに対しては、お茶を促したり、落ち着いて座るよう声かけをしたりしながら、リズムを整えるよう支援している。週1回の「選べるデー」では、余ったおやつを一斉に出し、その中から好きなものを選べるなど楽しみを増やす工夫も行っている。

子どもの安全を最優先としたアレルギー対応に努めている

アレルギーを持つ子どもが安全に過ごせるよう、事前の個別面談を実施し、アレルギー調査票をもとにアレルゲンの特定や緊急時の対応について確認を行っている。また、誤食防止マニュアルに基づき、購入時、保管時、準備時、提供前の各段階で賞味期限や成分表をダブルチェック・トリプルチェックすることで、安全性を確保している。提供時には、アレルギー対応児専用の容器を使用し、誤食を防ぐための工夫を行っている。専用の机を設け、おやつや交換が起らないよう職員が同席して見守りながら提供する体制を整えている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当

評価項目7の講評

子どもたちが安全に過ごせるよう、帰宅時の安全指導や施設内外の安全管理に努めている

年度初めに帰宅路図を回収し職員が危険個所の確認を行い、必要に応じて調査を実施している。近隣で事故が発生した場合や危険個所が見つかった際には帰りの会で具体的な注意喚起を行い、安全指導を強化している。今年度は、職員が実際に危険個所を見に行き、より具体的な指導ができるよう取り組んでいる。避難訓練は毎月実施している。雷などの緊急時の対応についても子どもが安全に帰宅できるよう指導を行っている。室内でのルールは生活委員会が中心となり話し合い、1年生の過ごし方や走らない、落ち着いて過ごすなどの約束の掲示物を作成している。

子どもの健康維持にむけて適切に対応できるよう職員の知識と環境の準備を進めている

現在、医療的ケアが必要な子どもの在籍はないが、杉並区の医療的ケア児の対応研修を受講し、必要な支援を提供できる体制を整えている。職員全体で事故やケガの対応能力を高めるため、毎年、医療研修・アレルギー研修・上級救命講習を受講し、緊急時の対応力向上に努めている。健康管理の面でも感染症の流行状況を常に把握し、症状が見られる場合は、職員がこまめに観察し、必要に応じて検温や安静のための休息スペースを提供し保護者へ連絡するなど、きめ細かい対応を行っている。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
---	--	-----------

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当

評価項目8の講評

夏休みの配食の受け取りなど、保護者からの要望は可能な限り対応するよう努めている

保護者の就労への配慮としては、通常午後6時までの利用のところ、1時間の延長利用ができるほか、土曜日や夏休みなどの学校が長期休業期間なども朝から利用することができるようにしている。本来延長の申し込みは前日の17時までとなっているが、電車の遅延など抗うことができない理由であれば当日でも受け付ける柔軟な対応をしている。また今年度の夏休み期間では配食サービスの受け取りを行うなど、迎えに来た際や年2回の保護者会などで意見を聞きながら、前例のないことでも保護者からの要望は可能な限り対応するよう努めている。

システムによる発信のほか、画像入りの学童だよりをクラブの入口に毎月掲載している

入退室管理システムの導入により、保護者との電話や連絡帳でのやり取りを減らし、負担軽減に努めている。アプリで学童だよりが発信できるようになったが、個人情報でもある画像は掲載していない。そのため、子どもの様子を伝えられるよう画像入りの学童だよりをクラブの入口に毎月掲載し、保護者のお迎えや学校に用事がある際に見てもらえるようにしている。個別の相談や要望を聞く機会として、年2回の個別面談のほか、次年度の利用申請の時期に合わせて、保護者との面談を実施している。今後は災害時に備えて、引き取り訓練を行いたいと考えている。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子ともや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>子どもの自立に向けて近隣の公園に出かけたり、児童館のイベントに参加している</p> <p>制度上3年生以上で学童クラブを利用したい場合は近隣の児童館にあるクラブに移らなければならない。そのためクラブを退所後も放課後の過ごす場所となるよう、入会中に近隣の公園に出かけたり、児童館の毎月のイベントに参加したり、子どもの自立に向けた支援を行っている。退所後も関係を継続できるよう、PTA主催の行事にクラブでは手投げゴルフ、コイン落としなど子どもたちが企画したブースを出展するほか、児童館主催のドッチボール大会の練習の際には児童館内の学童クラブの子どもや職員に来てもらい交流できるような配慮をしている。</p> <p>地域のお祭りや清掃活動に参加するとともに、高齢者との交流なども行われている</p> <p>誕生日会のおやつは、いつもと違う特別感を出すために個人経営の菓子店で購入するなど、地域住民とのつながりを大切にしている。学校のPTA主催のお祭りにブースを出展させてもらい、学童クラブの活動を知ってもらう機会としているほか、地域の清掃活動には保護者にも参加してもらい、地域との連携を深めるよう努めている。また児童館の職員を講師に迎え、制作教室を開催するなど、地域資源の活用を図っている。地域の高齢者施設とは、情報誌をクラブ内に掲示するとともにクリスマス会を見に行くなど、交流の機会を増やしている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル①	多層的な研修制度で職員の成長支援に力を入れている	
内容①	<p>新人育成やジュニアメンター制度を通じて若手の成長を支援しており、2か月にわたる導入研修や責任者研修など、多層的な研修制度が充実している。常勤職員には入職時からOJT研修や年間を通じた振り返りの機会が提供され、非常勤職員にもスキルアップシートを活用した研修が行われている。職員同士のテーマ別検討会や階層別研修も導入され、職員が学び合いながら成長できる環境づくりに力を入れて取り組んでいる。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル②	宿題ができるスペースや特別支援児童用の個室を作るなど、柔軟に対応を行っている	
内容②	<p>子どもの普段の様子を常に観察し、気になる行動があった場合は毎日のミーティングで共有し、職員全体で見守り、支援するように取り組んでいる。ケンカや事故に迅速に対応できるように職員を1部屋に1名以上配置し、全体を巡回するフリーの職員が随時フォローできる体制を取っている。また2部屋しかないという制約がある中でも、通路部分に周りが見えないように仕切り、宿題ができるスペースを作ったり、職員の更衣室を改修して特別支援児童が落ち着ける個室を確保するなど、柔軟に対応し、集団の中でも個人の尊厳に配慮するよう努めている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している
タイトル③	支援が必要な子どもへの対応を全体で考え、適切なサポートが提供できるよう努めている	
内容③	<p>特別な支援が必要な子どもが多い中で、一人ひとりに寄り添い、安心して成長できる環境づくりに取り組んでいる。職員は子どもの特性や状況を丁寧に把握し、それぞれに適したサポートを行うことで、無理なく自分のペースで過ごせるよう配慮している。子ども同士の関係性にも温かさがあり、お互いを受け入れ、支え合う姿が見られている。集団生活の中での個別支援にも工夫がされており、必要に応じて落ち着いて過ごせるスペースを確保するなど、子どもが安心できる環境づくりに努めている。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	全学年バランスよく構成した班活動により関係性が深められ、生活習慣への主体的な取り組みが見られている
	内容	子どもの自主性・主体性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるような環境を提供するよう努めている。区が推進している子どもたちの交流を増やすための班活動は、全学年バランスよく構成し、1つの班に1人以上特別支援児童を編成した結果、異学年の交流をしながら、おやつ時間を楽しく過ごすとともに、掃除やごみ捨てなどの役割を主体的に行う生活習慣が身についた。またイベントの企画を行うことでコミュニケーションが増え、関係性が深まるという成果もみられ、保護者アンケートでも評価する意見がみられている。
2	タイトル	子どもがお互いの行動を意識し、感謝の気持ちや思いやりの心を育むことができるような取り組みを行っている
	内容	帰りの会を通じて子どもたち同士の関係を深める機会を大切にしている。「やってもらって嬉しかったこと」の報告を取り入れることで、日々の中での良い行動を意識し、互いに認め合うことができるよう援助している。また、昨年度に実施した「ちよぼらの木(ちょっとしたボランティア)」の取り組みを発展させ、今年度は「ちよぼら列車」として活動を展開している。友達の良いところを見つけたり、自分の良いところを発表したりすることで、自己肯定感の向上や他者理解につなげている。
3	タイトル	クレドカードを活用して職員間の価値観の統一を目指している
	内容	全職員がクレドカードを携帯し、クレドの日を設定して理念や行動規範の共有を進めている。非常勤職員を含む全職員が読み合わせを行い、具体的な現場の事例を通じて理解を深めている。クレドミーティングでは、職員間で理念や価値観の統一が図られ、日々の活動に反映されている。職員一人ひとりが理念を意識しながら行動する環境づくりを支えている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保護者とのコミュニケーションの充実と更なる交流の機会を増やすため、親子で一緒に身体を動かす遊びのイベントの実施を検討している
	内容	4月の保護者では自己紹介の時間を設け、自身の子の長所や趣味などを話してもらい、保護者同士の交流のきっかけづくりを行っている。また学童クラブ主催のお祭りを毎年開催し、保護者を招待して子どもたちの様子を見てもらうほか、保護者同士の交流の機会創出にも配慮している。さらに学童クラブとしては、保護者とのコミュニケーションの充実と更なる交流の機会を増やすため、親子で一緒に身体を動かす遊びのイベントを来年度に実施することを検討している。
2	タイトル	保護者や地域の意見を取り入れながら、実現可能な形で活動の幅を広げることを検討している
	内容	学童クラブの運営において、現在の課題の一つとして、親子で参加できる行事の実施を検討している。これまでの活動の中で保護者が関わる機会が限られていたため、今後は親子で一緒に楽しめる行事を取り入れることで、家庭と学童クラブのつながりをより深めていきたいと考えている。具体的には、保護者と子どもが協力して楽しめるイベントやワークショップなどを企画し、学童クラブでの生活や成長を保護者にも実感してもらえる機会を増やすことを検討している。
3	タイトル	職員交代時の保護者への丁寧な説明で保護者の懸念解消を期待したい
	内容	職員の入れ替わりやクラブ長の交代により、保護者から子どもへの影響を懸念する声が寄せられている点が課題である。現在の体制が安定していることは良いが、今後も職員の交代がある場合には、保護者に対して丁寧な説明を行い、不安を軽減する取り組みが求められる。また、職員が交代してもサービスの質を維持するための仕組み作りや、保護者との信頼関係の強化に努めることが重要と思われる。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

令和 7年 3月 31日

杉並区長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	杉村 寿重	経営	H2301012
	②	高橋 利明	経営	H2101092
	③	岡崎 圭子	福祉	H0902004
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	永福南学童クラブ			
事業所連絡先	〒	168-0064		
	所在地	東京都杉並区永福2丁目6番12号		
	TEL	03-3322-6148		
事業所代表者氏名	クラブ長 瀧澤 昌代			
契約日	2024年 6月 7日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024年 9月 27日			
利用者調査結果報告日	2024年 11月 30日			
自己評価の調査票配付日	2024年 9月 10日			
自己評価結果報告日	2024年 11月 30日			
訪問調査日	2024年 12月 7日			
評価合議日	2024年 12月 7日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価については職員説明会を実施して、職員に理解してもらうことに努め、職員自己評価結果は評価にも反映させた。 第三者性確保については、当評価機関と事業者の間には特別な関係は存在せず、中立公正な立場で調査を実施した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません
- 別添の理由書により、公表には同意しません

年 月 日

事業者代表者氏名 代表取締役社長 島根 太郎 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)たくさんの体験活動やキッズコーチとの関わりを通して、子どもたちが自分の人生を切り開くための「社会につながる人間力＝非認知能力」を育てます。 2)家族と子どもたちの未来のために、地域から社会を変える変革に挑戦し、子育てが楽しい、子どもを産み育てたいと思える社会の実現に貢献していきます。 3)キッズコーチがコーチングの手法を用いて、子ども一人ひとりの気持ちを考え、個性を「認め」、しっかりと話を「聴く」ことで、子どもの未知なる力を引き出します。 4)当社では独自の小児性愛スクリーニングを相互監視のもと行い、危険な芽が育たない仕組みを構築しています。 5)「子どもの手本となる人格を磨き続ける」がキッズベースキャンプのコーチ倫理・行動規範の一つです。一人の人間として、プロフェッショナルな保育者として、子どもからも、保護者からも、仲間のキッズコーチからも信頼されるキッズコーチを目指しています。 ※上記、全て弊社ホームページより抜粋</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>※弊社ホームページより抜粋 子どもと一緒に自分たち自身も成長していく。 子どもが好きで、保育や教育に関心がある。 ※役割については、人事制度参照。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミッション(使命・存在意義):子育てが楽しい、子どもを産み育てたいと思える社会の実現に貢献する。 ・ビジョン(未来の構想):未来社会の各分野を支えるユニークな人材を輩出する ・もう一つの夢:キッズコーチを憧れの職業にする <p>※上記、弊社ホームページより抜粋</p>

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である132名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生45名、2年生21名、3年生4名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

132

共通評価項目による調査対象者数
 共通評価項目による調査の有効回答者数
 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
132	0	132
70	0	70
53.0	0.0	53.0

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が35.7%、「本人と家族」が58.6%、「家族が推察」が5.7%であった。総合的な感想に関する調査の結果は、対象者の91.4%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が5.7%、「よくない」が2.9%であり、大変高い満足度が得られている。項目別では、＜生活について＞に関する5設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「学童での生活や遊びは楽しく興味が持てるか」では、91.5%の大変高い満足度が得られている。＜安心・快適性＞に関する4設問は3設問において、大変高い満足度であった。特に「職員の接遇・態度」、「けがや体調不良時の対応」では、88.6%の大変高い満足度が得られている。＜あなたを大切にしてくれるか＞に関する2設問は「職員は秘密を守ってくれるか」において、78.6%の高い満足度が得られている。＜嫌なことやしてほしいこと＞では、「困ったり、してほしいこと」は71.5%の高い満足度であったが、「職員以外へ相談の案内」についてはさらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	64	5	0	1
「はい」が91.5%、「どちらともいえない」が7.1%、「無回答・非該当」が1.4%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「めっちゃが一番大好き」、「まんからが楽しい」、「仲の良い友だちがいたら楽しいけど、いないとつまらない」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	52	9	2	7
「はい」が74.2%、「どちらともいえない」が12.9%、「いいえ」が2.9%、「無回答・非該当」が10.0%であり、高い満足度であった。自由意見では、「なんかあったときに、毎日対応してくれる」、「けんかしちゃったときに、聞いてくれる」、「話したい相談したいときがない」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	56	11	3	0
「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が15.7%、「いいえ」が4.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「おやつの中にアイスが入っていると嬉しい。自分で選べるのも楽しい」、「美味しくて楽しい」、「おやつ時間はカオスで落ちついて食べられない」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	47	7	0	16
「はい」が67.1%、「どちらともいえない」が10.0%、「無回答・非該当」が22.9%であった。自由意見では、「ちょっとだけ聞いてくれます」、「良い意見だと聞いてくれるし、あまり良くないときは聞いてくれない」、「話し合う機会がない」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	55	4	2	9
「はい」が78.5%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が2.9%、「無回答・非該当」が12.9%であり、高い満足度であった。自由意見では、「子どもが分かるように、優しく話してくれている」、「初めての時お話ししてくれた」、「いわれていない」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	48	9	4	9
「はい」が68.5%、「どちらともいえない」が12.9%、「いいえ」が5.7%、「無回答・非該当」が12.9%であった。自由意見では、「いつも片付いている」、「すごくきれいです」、「トイレがたまに汚れている」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	62	1	2	5
「はい」が88.6%、「どちらともいえない」が1.4%、「いいえ」が2.9%、「無回答・非該当」が7.1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「いつもきちんとしています」、「名前を呼ぶのがちょっと早い」、「怒る先生がいる」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	62	0	2	6
「はい」が88.6%、「いいえ」が2.9%、「無回答・非該当」が8.5%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「先生に言ったらすぐに事務室に連れて行ってくれる」、「具合が悪くなった時に優しく嬉しかったです」、「先生と話をして寝るだけで、もうすこし熱を測ったりしてほしいとのこと」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	57	2	1	10
「はい」が81.4%、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が1.4%、「無回答・非該当」が14.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「ケンカや言い合いがあると先生がかけつけてくれる」、「自分は大きなケンカをしないのでわかりませんが、友だちがケンカをした時は話をしているのを見る」、「あんまり、喧嘩はしない」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	55	1	1	13
「はい」が78.6%、「どちらともいえない」が1.4%、「いいえ」が1.4%、「無回答・非該当」が18.6%であり、高い満足度であった。自由意見は特になかった。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	41	4	1	24
<p>「はい」が58. 6%、「どちらともいえない」が5. 7%、「いいえ」が1. 4%、「無回答・非該当」が34. 3%であった。自由意見では、「秘密がないからわからない。でも、守ってくれそう」、「そういうことがないからわからない」、「その様な話をしたことがない」という声が聞かれた。</p>				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	50	4	1	15
<p>「はい」が71. 5%、「どちらともいえない」が5. 7%、「いいえ」が1. 4%、「無回答・非該当」が21. 4%であり、高い満足度であった。自由意見では、「僕はケガをすることが多いけど、職員が助けてくれます」、「嫌なことがあったらすぐ助けてくれる」、「そういう機会がないから、わからない」という声が聞かれた。</p>				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	20	4	11	35
<p>「はい」が28. 6%、「どちらともいえない」が5. 7%、「いいえ」が15. 7%、「無回答・非該当」が50. 0%であった。自由意見では、「お友たちとかは冷静に対応してくれている」、「ギリギリはい」、「今初めて知りました」という声が聞かれた。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく <input type="radio"/>非該当
	カテゴリ1の講評	
	民間事業者らしい企業的なアイデアで、理念・ビジョンと基本方針を浸透させている 放課後児童健全育成事業を公設民営で「株式会社」が経営と運営を担っている。民間企業ならではのアイデアで質の向上を図り、児童の安全・安心な居場所を確保するとともに、次世代を担う児童の健全な育成に資する目的を、株式会社の良い点を発揮して運営している。法人の理念・ビジョン、基本方針などは「クレドカード」として職員全員が常にネームホルダー等の中に入れて、いつでも確認できるように携帯している。職員の行動はMBOで明文化され、管理と評価がされており客観的に見える化を目指している。	
	年度初めと年度末に、学童クラブ運営計画書と学童クラブ運営状況報告書が提示される 区が定める学童クラブ運営業務等委託施設別仕様書、個人情報に係る外部委託契約の特記仕様書、履行評価基準、履行評価表、学童クラブ運営業務委託契約に係る契約継続基準など、区の目標とリンクして事業所運営がされている。年度初めに永福南学童クラブ運営計画書を作成し、重点目標、日常運営、特別支援児童についての方針・留意点(生活上の配慮・遊びの支援・子ども同士の理解と交流等)、年間の行事等、保護者会議等、危機管理、留意事項の項目構成となっている。また、前年度ふりかえり報告書も作成し共有されている。	
	株式会社経営の良い面で、事業所が目指すこと等が、常に上意下達で速やかに回っている コンピテンシーを含めて事業所の理念・ビジョンと基本方針が明文化された人事制度を基礎として、実行と実現のイメージや、職務分掌で提示されている職制と担当に応じた役割と責任を職員に伝えている。社会福祉法人やNPO、行政などの行動様式や対応処理スピードとは段違いに、株式会社の強みを存分に生かしている。エスカレーションやフィードバック、各種の業務は一般企業のビジネス世界でも十分に通じる引けを取らないレベルでありながらも、現場のサービス運営は利用者に寄り添ったものを実現している。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>保護者や子どもの意向を細かく収集すると同時に、子どもの思考パターンを育てている</p> <p>区主催の利用者アンケートで利用者のニーズを把握し、子ども向けに掲示物からアンケートを取ったり、子ども会議を開いたりしている。また、年2回の保護者向け個人面談(希望があれば土曜も対応)をして、保護者や子どものニーズを把握し、日々の活動と組織運営に反映している。子ども会議とは1ユニット/30人で15分程度行うもので、例えば「お留守番について」、「一人での買い物」など、子どもの自発性を引き出す効果があり自分をふりかえり、自分で考えることの経験ができるため、思考することが学童生活の中で自然に身に付けられる。</p> <p>学童クラブの課題を踏まえた中長期3年計画が作成され、年度の事業計画が作られている</p> <p>一般企業レベルの中長期計画が作られており、常勤ミーティングで毎月検討している。法人のエリアマネジャーが訪問してチェックと調整を行う「施設巡回」が月1回以上実施され、巡回の内容はチェックシートで確認と結果が記録されている。そして上位組織に上げるべき課題などがあれば、エリアマネジャーは必要に応じて、経営者等で構成される委員会の「SC会議(Steering Committee)」にエスカレーションを行い、判断や対処を仰いで事業運営の健全化を継続させる活動を行っている。経営状況は親会社による監査が実施されている。</p> <p>地域や子育て課題の要望を収集し、各会議体に参加してニーズを踏まえた活動をしている</p> <p>地域との会議体は区主催の「運営協議会」があり、年2回開催し学童クラブの運営状況を区に伝えるとともに、地域の情報を得てクラブの運営に反映できるようにしている。毎年秋に開催する「永福にこパラ祭り」の企画や、地域の遊び場をみんなで考える「地域子育てネットワーク協議会」がある。他に小学校長、民生委員、保護者、法人職員と毎月「調整会議」を実施し、子どもたちのことや行事など様々な調整とコミュニケーションを図っている。毎月の小学校との調整会議で得られた情報を参考に、日々のクラブの活動とサービスに接続している。</p>		

3 カテゴリー3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー3の講評

法令遵守を周知徹底するための日常活動と仕組みが整っている

法人のコンプライアンス研修は入職時に行われ、その後も遵守すべき法令についての研修が定期的に行われている。それと並行して、適宜のタイミングで関連法規の理解を深める知識や、注意喚起のメールを全職員に流すと同時に、法人内ポータルにもアップして万が一のうっかりミスや、気の緩み、抜け漏れが起きないようにしている。注意は一度言えば間違いなく定着するものではなく、事あるごとに繰り返し発信すると共に、二重にも三重にも方法を変えて発信・掲示することで定着させている。

クレームや苦情解決の仕組みがあり、組織として動く体制が整備されている

苦情解決窓口を施設内に掲示し周知している。利用者アンケートで出た意見は公表し、学童の回答も示している。クレームは区主催の運営協議会ニュースにも出している。また、クレーム対応の研修で、迅速に対応できるスキルを社員全員が身に着けている。苦情処理の手順をフローチャートで図式化しており、速やかに不備や漏れなく落ち着いて対応ができるようにしている。人権擁護や虐待対応の研修も職員全員が受講し、問題が発生した場合はエリアマネジャーと区担当者に連絡を入れ、関係機関と連携し組織として動く体制を取っている。

「小児性愛スクリーニング期間」を設け、職員が相互チェックと振り返りを実施している

子どもの生命と人権を守るために暴言や暴力以上に重要な問題は小児性愛であると捉え、性犯罪防止への取り組みも他社や他事業所および行政を超えて最先端の対応がされている。入職前の適性検査で排除することはもとより、今は問題がない職員には多くの時間をかけて研修を積んでいる。また、常に携帯が義務付けられている企業ポリシーを記した「クレドカード」にも性暴力の排除や相互牽制の記載がある。そして年に2回、6～7月と11～12月に部下が上司を、上司は部下を・・・と、小児性愛スクリーニングの期間を設けて目を光らせている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>リスクマップを作成し、事前に対応できることは準備し、リスク軽減の対策を取っている</p> <p>学童において考えられるリスクを事前に予測し、各種の対応マニュアルを作成し改訂を踏まえた整備がされている。また、必要に応じてフローチャートなど図式化することも行い、リスクの発生率の分析や対応プライオリティ付けも事前に行っている。施設内のリスクマップを作成し、リスクが潜んでいそうな場所や時間を洗い出し明らかにしている。そして顕在的リスクと潜在的リスクの双方から、各種マニュアルを使って対応できるように準備している。リスクに対する考え方は「あらゆるリスクに対応できること」を基本とし「未然防止」にも力を入れている。</p> <p>事業継続計画書(BCP)が整備され、定期的な見直しと改訂が決められている</p> <p>学童の事業継続計画(BCP)を策定し、区に提出していると共に定期的な見直しを行い、必要に応じて適宜改訂している。子どもや保護者には入会時に、区で定められている災害時の対応について説明している。また、毎月のおたよりに月1回行う避難訓練(月ごとランダムに、火災訓練、地震訓練、不審者訓練・・・などのメニューから選ぶ)の様子を記事として掲載し、保護者や子どもなどの利用者の防災への意欲向上に取り組んでいる。個人情報の取り扱いは個人情報保護規定を整備しており、その内容はホームページでも一般公開されている。</p> <p>各リスク研修を職員は毎年受講しており、対応できるリスク対策が仕組み化されている</p> <p>全職員がリスクマネジメント研修を受講し、そのほかにも医療研修、アレルギー研修、上級救命講習を毎年受講し、各種のリスクに関する知識と情報の更新を行っている。やむなく起きてしまった事故については、必要に応じて同法人の全事業所に向けた注意喚起をメールで発信し、全体会議やクラブ長会議で注意喚起を行っている。情報管理は適切に行われており、非常勤職員にも手書きの共有ノートを使って迅速に伝達が行われている。今まで直営事業所でしか導入していなかった誤送信メール対策を、今年から公設事業所でも同様に導入している。</p>		

5 カテゴリー5		
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ5の講評

人材募集に困らない人事制度と環境となっている

法人内では保育系大学で講師をしている者もあり、事業所が求める人材を的確に確保するために親会社やインターン、大学と協力して採用活動の幅を広げている。幸いなことに人材募集に困ることはなく、この会社で働きたい、この事業所で働きたいと希望する人は多く、それは年々増加傾向にある。社会的には人材不足でサービスが十分に提供できないという業界の中では、異例の倍率で応募者が集まっており、さらなる品質の高いサービスを利用者に提供できる人事体制となっている。

職員満足度の向上がサービスの向上につながるとする人事開発制度が準備されている

職員と組織の能力向上の仕組みとして、メンター・メンティ制度を取り入れて組織の活性化とメンタリングを実践している。人材開発チームが法人内にあり、「働きがい向上委員会(HKI)」や「社員満足度調査(GPTW)」などの活動や制度を導入して、職員のメンタルケアや働きがいの提供に努め、職員満足度の向上を促進している。人員配置においては事業所定員数および特別支援児童入会数に応じて必要な配置計画を策定している。年に1度、個人が次年度の働き方やキャリア形成への意向を自己申告書で提出し、異動や職員配置が検討されている。

労働環境は経営の重要課題との認識を持ち、働き方改善は日々着々と進化している。

時間外労働時間は平均で月10時間を下回っている。毎月月初に経営層が職員の労働状況(残業時間を含む労働時間、有給休暇取得状況など)の確認を取っており、適宜改善できるように配慮している。年に1回の健康診断はもとより、ストレスチェックの受診も行い、職員の健康状況の把握と将来のリスク軽減につなげている。法人内に相談窓口が設置されており、保健室やヘルプラインなどの相談しやすい仕組みが整備されている。そのほかにも、「テーマ別検討会(KENTOU)」を毎月実施し、様々な法人内改善に向けた知識の取り込みを行っている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

子どもアンケートにより発足した、子どもたちの色々な「やりたい気持ち」を具現化する活動を行った。具体的には子どもたちの子どもたちによる活動企画会議となる「イベント考え隊」を実施させた。また、子どもたち個々の得意が活かせるイベントを行う「〇〇王やってみ隊」も実施し、例えばオセロ、卓球、レシピカードゲーム、めっちゃ(ドッジボール)等を行い盛り上がった。それ以外にも、職員がやっている日常業務・現場業務と一緒に試してみる「お手伝いしてみ隊」の提案もあり、例えばテーブル拭きや、靴箱の中の砂を掃き出すなどの手伝いである。また、事業所に購入して欲しい玩具を自分たちでリストアップする「おもちゃ考え隊」の提案もあり、それにより今年度購入されたのが、リカちゃん人形、すみっこぐらし人形、LEGOマイクラフト、カラム(ボードゲーム)などであった。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

「イベント考え隊」では「きもだめし」を開催した。暗幕を使用して、部屋を暗くして段ボールを使ってお化けが現れる個室を作成したことで、非日常の空間を創り出すことができた。また、毎月1回程度のイベントとして「やってみ隊」活動を継続的に取り入れることができています。「お手伝いしてみ隊」と融合させて、「次のやってみ隊で、〇〇王やってみ隊」をやろう！等とのリクエストが出てくることもあった。大切なことは子どもたちが自主・主体的に考え行動することで、色々なことを実現できるようになって行くことが、子どもらの成長と発達につながり、これからも持続的に行うことの有効性が判断できる。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

子ども自身が危機管理意識をもって、身の回りのことを自分でできるように、基本的な生活習慣の指導、情報提供、支援を行うという課題をあげている。目標に対して、一日保育の日だけでなく、下校時間の早い日にも職員の配慮で学童での過ごし方のスケジュールを工夫して、外遊びの回数を増やすという取り組みを行った。その結果、分かったことは、前年度の日常における事業所外活動で近隣公園に行けたのは僅か2回だけで、改めて外出や外遊びを職員が意識的に取り組む必要があると感じ、今年度は「外遊び回数8回以上を目標」に実践した。その結果、10月末時点で4回の外遊びを実施できた。近隣公園に遊びに行くことは天気や気温に左右されやすく、職員配置も安全を確保できる状態にしなければならないので、余裕を持った人員確保が必要となる。11月以降は普段行くことの少ない公園を積極的に活用し、外遊びの経験を継続させている。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行ってなかった(目標設定を行ってなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

外遊びは地域資源の発見と開拓および活用につながるものである。図書館など公的場所の使い方や活用の仕方など、保護者からのリクエストも多く、有意義である。さらに、地域交流としてゆうゆう館1回、近隣保育園1回のみとなっているのを、今後はイベントと地域交流を絡めることで地域での活動の幅を広げ深めることに、期待を寄せたい。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目 (カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリー1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー1の講評			
<p>入会希望者が必要な情報を適切に入手できるよう、多様な手段を用いて情報提供している</p> <p>学童クラブでは、子どもや保護者が必要な情報を適切に入手できるよう、多様な手段を用いて提供している。杉並区のHPや法人HPにおいて学童クラブの紹介を行うと共に、毎年度の入会案内の配付と説明を実施している。さらに、既存の児童と保護者に対しては事前の意向調査を行い、入会希望者には必要書類をスムーズに提供できるよう準備している。また、学校の就学時検診における案内配布や、保育園の年長児向けのイベント開催を通じて、地域の子どもや保護者が学童クラブの情報を得ることができるよう取り組んでいる。</p> <p>保護者が学童クラブの情報を正確に把握し、安心して利用できる体制が整えられている</p> <p>本学童クラブでは、子どもや保護者に対し、わかりやすい表記や内容で情報提供を行っている。特に、入会希望者向けのガイドブックは、杉並区の定めた書類と統一した表現を使用し、保護者が理解しやすいよう配慮されている。また、新入会決定後には説明会を開催し、ガイドブックに沿って丁寧に説明することで、保護者の不安軽減に努めている。さらに、学童クラブの活動内容については、毎月の学童だよりや保護者会を通じて継続的に情報提供を行い、在籍児童の保護者にも分かりやすく伝えるよう努めている。</p> <p>保護者からの問い合わせや見学の要望に対し、適切に対応している</p> <p>問い合わせや質問にはクラブ長および常勤職員が対応し、保護者が不安を解消できる体制を整えている。見学については、基本的には入会面談時に案内する形を取っており、個別の対応は行っていないものの、必要に応じた説明の機会は設けられている。また、新入会希望者には面談を実施し、状況を把握することで、個々のニーズに応じた対応が行われている。入会決定後は、新入会説明会においてガイドブックを用いた説明が行われ、杉並区で定められた書類と同じ表記を用いることで、保護者にとって分かりやすい内容となるよう工夫されている。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>学童クラブの運営内容を十分に理解したうえで安心して利用できる環境が整えられている</p> <p>学童クラブでは、入会時に子どもや保護者に対し、適切な説明を行い、理解を得る取り組みを実施している。事業所独自のガイドブックを作成し、入会前の説明会で配付・説明することで、学童クラブの基本的なルールや重要事項を周知している。また、ガイドブックに沿って利用者負担金などの詳細についても説明を行い、保護者の理解を促している。さらに、入会面談時には、子どもや保護者の意向を丁寧に聞き取り、入会面談記録表に個別に記録・保管することで、利用者のニーズを把握し、適切な対応につなげていることがうかがえる。</p> <p>入会時に子ども一人ひとりの状況を適切に把握し、支援に活かしている</p> <p>新入会説明会を開催し、ガイドブックに沿って基本的なルールを説明することで、子どもや保護者が安心して利用できるよう努めている。特に、アレルギーや健康面に関しては、個別面談を通じて丁寧に聞き取り、「学童クラブアレルギー調査表」や「学校生活管理指導表」の写しを提出してもらうことで、正確な情報管理を行っている。また、「学童クラブ児童台帳」を提出・管理することで、個々の児童の特性を把握し、支援に反映させている。こうした取り組みにより、子どもの安全と安心を確保し、適切なサポートを提供する体制が整えられている。</p> <p>特に配慮が必要な子や退会後の生活の連続性に配慮した支援を行っている</p> <p>特に配慮が必要な子は、保護者や児童との面談を通じて情報を収集し、職員ミーティングで話し合いを行うことで、適切な環境を整えている。さらに、該当児童が利用していた保育園などと情報共有を図り、利用時の様子を把握することで、スムーズな受け入れにつなげている。また、退会を見据え、夏休み後から放課後の居場所事業との交流を開始し、外遊びの機会を増やすことで、子どもが自立して過ごせるよう支援している。学童以外の選択肢として児童館や放課後等居場所事業の情報を提供するなど、退会後の生活の継続性を意識した取り組みが行われている。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>子どもの視点に立った育成支援の目標を設定し、計画的に支援を実施している</p> <p>クラブ長が年度ごとに目標を設定し、それに沿った学童クラブ運営計画や施設外活動実施計画を策定している。また、子どもへのアンケートを実施し、その結果を参考にしながら運営内容の見直しを行うことで、子どもの実態や環境の変化に対応した支援が行われている。特に配慮が必要な子どもについては、特別支援児童プロフィール資料や特別支援児童育成報告書を活用し、発達状況を記録・管理する体制が整えられている。さらに、保護者会や運営協議会を通じて、育成支援の目標や計画、課題について説明を行い、保護者の理解を得られるよう努めている。</p> <p>子ども一人ひとりの情報を適切に記録し、支援の充実を図る体制を整えている</p> <p>個人の児童台帳を作成し、子どもの気になる様子について随時対応を検討する仕組みを設けている。また、学童クラブ日誌を作成し、日々の運営状況や支援内容を記録している。特筆すべき事項がある場合には、児童台帳第2号様式に詳細を記入し、個別対応の履歴を明確に残している。特に配慮が必要な子どもに対しては、個別の記録を作成し、支援内容や子どもの状況を具体的に記録することで、より適切な対応につなげている。さらに、学童クラブ日誌は1か月ごとに区へ提出し、チェックを受けることで、記録の正確性と継続的な管理を確保している。</p> <p>子どもに関する情報を職員間で適切に共有し、一貫した支援を行う体制を整えている</p> <p>事業所内の記録は、全職員が閲覧できるフォルダで管理され、育成支援の計画や子どもの様子を把握しやすい仕組みが構築されている。また、毎日の始業時ミーティングで前日の子どもの様子を報告・共有し、必要に応じて対応を検討している。さらに、月に1度の職員会議を開催し、子どもや保護者の状況について意見交換を行い、職員全体で支援の方向性を確認している。事例を持ち寄る場も設けられ、子ども一人ひとりへの理解を深めるための話し合いが行われている。この様な取り組みにより職員間の情報共有が円滑に行われ、適切な育成支援が行われている。</p>			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>子どものプライバシー保護を徹底し、個人情報の適切な管理に努めている</p> <p>入会面談時には同意書を取得し、入会時には肖像権使用同意書を提出してもらうことで、児童の写真や映像の撮影に関する保護者の同意を得ている。また、区が定める個人情報に係る外部委託契約の特記仕様書を遵守し、情報の適切な取り扱いを徹底している。さらに、法人のマニュアルを整備し、職員が適切に運用することで、プライバシー保護の意識を高めている。学童だよりには写真を掲載しているが、アプリなどのデジタル媒体では写真掲載を行わず、個人が特定される写真の掲載を控えることで、子どものプライバシーに配慮した運営に努めている。</p> <p>子どもの権利を尊重し、一人ひとりが安心して過ごせる環境づくりに努めている</p> <p>利用者の人権を守るため、人権研修を実施し、職員の意識向上を図っている。また、入会時や個人面談を通じて保護者の価値観を把握し、可能な限り個別に配慮した対応を行っている。日々の支援では、子どもの様子を観察し、気になる行動が見られた場合は、毎日のミーティングで情報共有を行い、職員全体で見守る体制を整えている。さらに、子どもが自分の意見を話しやすいよう2者面談を実施し、子ども自身が悩みや相談を打ち明けられる関係づくりに取り組んでいる。こうした取り組みを通じて、子ども一人ひとりの意思を尊重し、適切な援助に努めている。</p> <p>子ども同士の関係性や情緒に配慮しながら、安全で安心できる環境を提供している</p> <p>職員の配置においては、死角を作らないよう1部屋に1名以上を配置し、フリーの職員を巡回させることで、子ども同士のトラブルを未然に防ぐ工夫をしている。また、子どもたちの情緒や人間関係にも配慮し、意見を尊重する姿勢を大切にしている。さらに、子ども自身が自らの思いを伝えられる場として、ユニット会議を設置し、意見交換が行える機会を設けている。職員は日々のミーティングで子どもの様子を共有し、適切なフォローを行うことで、安心して過ごせる環境を提供し、子どもたちの安全と権利を守る学童クラブの運営に取り組んでいる。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映している	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>各種マニュアルを整備し、職員が適切に活用できる体制を整えている</p> <p>学童クラブでは、法人で作成された各種マニュアルに基づいてサービスを提供すると共に、事業所独自のマニュアルを作成し、遊戯室や工作室、音楽室などのルールを明確化することで、統一した支援を行っている。また、マニュアルは事務室の書庫に配置し、職員が直ぐに確認できる体制を整えている。さらに、事故やケガの防止に向けた対策や、発生時の対応に関するマニュアルを整備し、訓練や研修を実施することで、職員の対応力を高め、安全管理を強化している。これらの取り組みにより、子どもが安心して過ごせる環境づくりが推進されている。</p> <p>業務の標準化を図るためのマニュアルや手引書の整備と活用に努めている</p> <p>学童クラブの運営について、巡回チェックシートを活用し、法人エリアマネージャーがマニュアル及び法人内規定に基づき、適切に運用されているかを確認する体制が構築されており、マニュアル自体も毎年見直しが行われている。また、学童クラブ内での職員の動きや役割を定めることで、統一した支援が行われている。さらに、マニュアルは職員が業務点検の手段として活用できるよう整備され、日常的に確認しやすい環境を整えている。こうした取り組みにより、サービスの質の維持・向上が図られ、より適切な支援の提供につながっている。</p> <p>サービスの質を向上させるため、業務水準の見直しを定期的に行っている</p> <p>マニュアルの改定は、法人が年に2回実施するなど、区の入会事務説明会や委託学童クラブ担当者会議での説明をもとに適宜更新している。また、利用者アンケートの意見を迅速に検討し、実施可能なものはマニュアルに反映することで、現場のニーズに応じた改善が行われている。さらに、クラブ長が履行評価を実施し、結果を区に提出すると共に、区からのフィードバックをもとに業務の振り返りを行い、改善につなげている。これらの取り組みにより、業務の標準化と継続的な見直しが行われ、より良いサービスの提供が行われていることがうかがえる。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29/29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(0000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目1の講評			
<p>大規模学童クラブであるため、少人数ユニットに分けて顔の見える関係づくりをしている 登録者が130人を超える大規模な学童クラブであるため、ユニット制を取り入れている。少人数のユニットごとの活動とすることで、子どもたちは顔の見える関係の中で、対人関係や集団活動などの社会性を育んでいる。全部で4ユニットあり、各ユニットは約30人ほどの異年齢の子どもたちで構成されている。職員が子どもの相性などを見て毎年度6月にユニットメンバーを決定している。ユニット担当の職員が付き、ユニットごとの手厚い支援が実現している。ユニット単位での活動だが、休み時間は自由にユニット間を行き来できる。</p> <p>コーチングの手法を用い、子ども個々の思いを引き出して主体的な活動につなげている 当学童では子どもの支援にコーチングの手法を取り入れている。子どもたちがたくさんの体験活動やキッズコーチとの関わりを通じ、自分の人生を切り開くための社会につながる人間力を育てることを目的としている。キッズコーチの職員は、コーチングの手法を用いて、子ども一人ひとりの気持ちを考え、個性を認め、しっかりと話を聴くことで、子どもの未知なる力を引き出そうと努めている。</p> <p>障害のある子どもには職員が個別に付き、障害特性や本人の意向に沿った支援をしている 障害のある子どもも、当学童クラブの通うことができる。必要に応じて職員が個別に付き、本人のできること・できないことを把握したうえでサポートをしている。障害のある子どもが活動しやすいよう、個別のコーナーを設けるなど、環境づくりも行われていた。個別の関わりだけではなく、子どもの希望や能力に応じてポッチャなどのイベントや、さまざまな遊びにも参加している。一方で、当学童はバリアフリーの造りにはなっておらず、階段では移動支援のヘルパーが子どもを抱きかかえて昇降している。一層のバリアフリー化が進むと更に良いと思われる。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評			
<p>話し合いやアンケートなどを通じて、子どもの意向を尊重した活動に取り組んでいる 学童クラブでの活動は、子どもの意向を尊重したものとなるよう努めている。日々の遊び、玩具選びなどは、子どもアンケートや日々の活動での会話などから情報収集しており、子どもの好みや意向にそったものを選ぶようにしている。遊びだけでなく、学習の促しも行われている。当初、当学童クラブでは、小学1年生のみ、宿題タイムを設けていた。しかし、小学2年生以上にも学習時間をという保護者からの要望を受け、子どもと職員とで話し合いをし、新たな宿題タイムを検討した。子どもの意向尊重・納得の上でのルール作りなどが見て取れた。</p> <p>やってみ隊という活動があり、子どもの自主性・積極性を育てている 「〇〇やってみ隊」という独自の活動を行っている。主に職員がポスターで呼びかけをしている。やってみ隊の内容は、「花壇の花を植えてみ隊」であったり、「(保護者会用の)動画の撮影をしてみ隊」だったりさまざまな種類がある。強制の活動ではなく、子ども個々の興味や関心に基づき、自由に参加してよいことになっている。活動内容によって集まる人数はさまざまとのことだったが、この呼びかけを通じ、子どもの自主性・積極性の育みにつながっている。またボランティア精神を培う効果もあがっている。</p> <p>各種玩具、図書館の本がさまざま用意されており、定期的に入れ替えもしている 子どもアンケートや日々の会話の中で、子どもたちの意向を聴きとり、さまざまな玩具や書籍が用意されている。図工室、遊戯室、音楽室、玩具の部屋、静かに過ごす部屋などを設けており、さまざまな玩具類、物品などが置かれていた。コマやけん玉などの昔遊び、ボードゲーム、ブロック、折り紙ほか、多くの玩具類で、子どもたちが個々に遊んでいる姿が見受けられた。静かに過ごす部屋は学習参考書や書籍などが置かれている。遊び方のルールやマナーなども掲示され、子どもたちが楽しく活動できるよう工夫している。玩具・書籍は定期入れ替えもしている。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目3の講評

〇〇王決定戦という行事があり、子ども個々の特技に焦点を当て自己有用感を育てている
 例えばオセロ王決定戦など、さまざまな〇〇王決定戦というイベントを実施しており、子ども個々が自身の得意分野で活躍できるような場面づくりが行われている。優勝者へはトロフィーと賞状が授与され、学童クラブの玄関に飾られている。決定戦は学童だよりに予告され、参加者を募っている。自身の得意分野を知り、それが皆の前で評価されることで、子ども個々が自己有用感を育み、自信を持てるよう支援している。保護者からも好評を得ている活動である。

地域の祭りでは、子どもが話し合って店を運営するなど、主体的な活動を支援している
 地域の小学校の放課後居場所事業が主体で行う「にこパラまつり」に、当学童クラブも参加している。まつりは年1回開催されており、小学校を始め、地域の保護者会、近隣の保育園など700人が参加する大規模なイベントとなっている。学童クラブでは、子どもが主体となって準備を行い、3つの店を出した。出店を運営するための準備、備品の用意、必要物品の作成などを、子どもと職員とで話し合いながら進めている。活動記録を可視化し、子どもたち自身で考えて準備できるような工夫もされていた。

今後は親子のイベントを増やす計画をしており、実現が期待される
 保護者が学童クラブの活動状況を知る機会が少ない現状である。保護者会で年間行事について説明をしたり、学童での活動や行事の様子を写真や動画で伝えている。定期的な学童だよりの発行もしている。これらに加えて、実際の活動場面を見てもらうため、今後は親子イベント開催に力を入れていく予定を立てている。ボール遊びなど体を動かして楽しめるイベントを計画中であり、今年度中には実行とのことであった。実現が大いに期待される。

4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当

評価項目4の講評

遊びのテーマ別の部屋が複数あり、子どもが主体的に活動できるよう環境設定している
 子どもたちが学童クラブで楽しみを作り、進んで通い続けられるよう、バラエティ豊かな遊びの部屋がつけられている。図工室には折り紙などの作品展示、遊戯室にはバスケットボールのゴールやモルック、フリスビーほか体を動かす遊び道具、音楽室にはピアノ、玩具の部屋にはボードゲームやブロックなど、さまざまな遊び道具が用意されていた。静かに過ごす部屋では読書や学習ができる。各部屋にはルールやマナーなどがわかりやすい文章とイラストで明示され、子どもたちが活動しやすいように注意喚起もしている。

スケジュールが明示されており、遊び・おやつ・学習など見通しをもって生活できる
 日々のスケジュールは、ホワイトボードに明示されており、いつでも確認することができる。その日の流れを決めるにあたっては、小学校の予定表なども参考にしており、子どもの体力面や気持ちへ配慮した過ごし方となるようにしている。小学1年生など、新規に利用を開始する子どもには、初日にオリエンテーションを実施し、学童クラブでの過ごし方がわかるよう丁寧に説明をしている。また夏休みなど長期休みの前にも、オリエンテーションで、休み中の学童クラブのスケジュールを子どもたちに伝え、見通しを持った過ごし方ができるようにしている。

近隣小学校の放課後等居場所事業との交流が定期的に行われている
 近くにある小学校の放課後等居場所事業との定期的な交流の機会を設けている。当学童クラブと居場所事業の職員は、日々情報共有の時間を作っており、子どもの状況を確認しあっている。特に学童クラブを卒業する子ども向けに、自立支援を目的とした居場所の体験会も実施している。体験会は月1回土曜日に行われており、スムーズな移行ができるよう関係づくりをしている。これ以外にも居場所へ行ってみる機会もある。子どもたちは普段と違う場所・玩具などで遊び、楽しいひとときを過ごしている。

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校との調整会議を実施しており、情報共有や意見交換をする機会がある</p> <p>当学童クラブには、近隣の公立小学校や特別支援学校などから子どもたちが通っている。公立小学校とは、定期的な調整会議の機会があり、学童クラブや放課後等居場所事業の職員が参加して、子どもたちの日々の情報共有や支援にまつわる意見交換が行われている。学校や学童クラブ、居場所事業のスケジュールなども確認しあっている。これ以外にも、学校に担任教諭と学童クラブとで電話等で随時の情報交換もしている。一方で、私立小学校とは個人情報保護の関係もあり、連携を図ることができていない。このため保護者を通じて必要な情報を得ている。</p> <p>巡回指導の作業療法士等の助言を得て、障害のある子どもが過ごしやすいようにしている</p> <p>身体や知的、発達など、障害のある子どもの受け入れもしている。特別支援学校との定期的な調整会議などは行われていないが、福祉サービス利用にまつわる関係者会議には学童クラブも参加している。放課後等デイサービスなども参加しており、子どもの情報共有や支援にまつわる意見交換をしている。子ども発達センターから巡回指導のPT、OTも学童クラブを訪れており、車イスの高さや姿勢保持の仕方などについて助言をもらっている。一方で建物内がバリアフリーになっておらず、階段は移動支援のヘルパーが抱きかかえて昇降する状況である。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作り等に配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>リクエストや地域の和菓子店の菓子などを取り入れ、おやつを楽しめるよう工夫している</p> <p>日々のおやつは、3種類ほど用意し、好きなものを選べるようになってきている。種類も甘い・しょっぱい・ふわふわ・カリカリなど多様なものをそろえている。おやつアンケートも実施しており、子どもに人気の知育菓子なども提供している。また地域の老舗商店の和菓子なども取り入れ、交流の機会としている。月1回スペシャルおやつの日もあり、生クリームやチョコでトッピングをして楽しんでいる。このほか、誕生日の子が選べる特別なおやつなど、さまざまな楽しい工夫をしていることが確認できた。</p> <p>アレルギー対応はマニュアルに沿って徹底しており、職員複数の目で見守りをしている</p> <p>食物アレルギーについては、個別面談で確認し、アレルゲンや緊急時対応などを記した調査票を作成している。誤食防止マニュアルがあり、おやつの保管や準備、提供時の注意事項が明示されている。職員はこれに基づき、アレルギーの子ども専用の皿を使って、机も分けて提供している。子ども同士でおやつを交換してしまったりしないよう、職員が必ず同席し、見守りも行っている。提供にあたっては間違いが無いよう、ダブルチェックも実施している。非常勤職員も含め、事業所内研修も行われている。</p> <p>おやつはユニット単位で提供し、異年齢交流やお手伝いの機会を作っている</p> <p>大規模学童クラブであるため、少人数ユニットで日々の活動が行われている。おやつも同様で、ユニット単位で提供している。ユニットは異年齢の子どもたち30人で構成されており、学童クラブならではの異年齢交流の機会となっている。また生活習慣を身に着ける目的で、ふきんでテーブルを拭いたり、食べ終わったあとのごみを捨てるなどの役割分担があり、皆が主体的にお手伝いができるようにしている。子どもたちが落ち着いて楽しくおやつを食べられるよう、職員も同席して見守りを行っている。</p>		

7	<p>評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>日々、学童クラブ内外の危険個所チェックを行い、事故防止に努めている</p> <p>学童クラブ内外の危険個所をチェックするシートがあり、日々職員が確認をしている。チェック項目は網羅的に多岐にわたっており、食品管理、キッチン、キャビネット、蛍光灯、換気、書類管理、小口現金保管など、事故やトラブルにつながるような問題がないか、チェックしている。心配な箇所があればすぐに改善・修繕を行える体制がある。引き続き、日々のチェックを継続し、子どもたちの安全・安心の確保を維持することが期待される。</p> <p>年1回、職員が通学路の危険個所チェックを行い、子どもに安全の指導をしている</p> <p>年度初めに、職員が子どもたちの通学路を記した書類を集め、危険個所チェックを行っている。通学路の危険個所チェックの際には、地域住民も参加することができる。確認された危険個所は、学童クラブの帰りの会で職員が子どもたちに話し、安全指導をしている。道路に飛び出さない、日が沈んで暗くなったら明るい道を通るなどのセーフティークを実施している。学童クラブからの帰宅時には、職員が外に出て見送りをし、子どもの姿が見えなくなるまで見守りをしている。</p> <p>手洗いを徹底し、子どもたちの体調管理に気を配っている</p> <p>学童クラブでは手洗いを徹底しており、子どもたちの衛生保持に努めている。咳をしている子どもには、咳エチケットの話をし、マスク着用の奨励もしている。職員は医療研修、アレルギー研修、救命講習などを受講しており、子どもたちの変化に気づき、対応ができるようになっている。子どもの体調不良が見られた場合は、複数職員で共有し、対応を検討している。職員は日々、子どもの訴えに耳を傾け、様子をしっかり見て判断できるよう心がけている。医療的ケア児を受け入れた前例はないが、職員の研修受講などを実施しており、受け入れる体制はある。</p>		
8	<p>評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者が安心して子育てと就労を両立できるよう、適切な支援を行っている</p> <p>学童クラブでは、入会面談を通じて家庭環境を把握し、個人面談や日常のコミュニケーションを通じて保護者と連携しながら対応を進めている。特に、お迎え時や連絡ファイル、電話を活用し、子どもの様子を保護者に適宜伝えることで、信頼関係の構築に努めている。また、年2回の保護者会では、子どもたちの日常の様子をスライドショーで紹介し、保護者同士が交流を深める機会を設けている。こうした取り組みにより、保護者が学童クラブの支援を受けながら安心して子育てを続けられる環境が整えられている。</p> <p>保護者が交流できる機会を積極的に設け、子どもの成長を共有できる環境を整えている</p> <p>学童クラブでは、年2回の保護者会を開催し、保護者同士のディスカッションの時間を設けることで、育児に関する悩みや情報を共有できる場を提供している。また、行事に保護者が参加することで、子どもたちの日頃の様子を直接見る機会を増やし、家庭と学童クラブが一体となった支援を行っている。さらに、運営協議会を年2回実施し、保護者の意見を取り入れながら運営の改善に努めている。こうした取り組みにより、保護者同士のつながりが深まり、安心して子育てができる環境づくりが進められていることがうかがえる。</p> <p>子どもの安全を確保するため、保護者と協力した出欠確認の仕組みを整えている</p> <p>学童クラブでは、配信サービス「安心でんしよばと」を活用し、事前にスケジュールを把握することで、子どもの所在を正確に管理している。また、当日の変更が生じた場合は、ホワイトボードに反映すると共に、安心でんしよばとや電話での連絡体制を確保し、迅速な情報共有を行っている。さらに、保護者からの情報は全てホワイトボードで管理し、職員間で共有することで、子ども一人ひとりに適切な対応が図れるよう努めている。これらの取り組みにより、保護者が安心して子どもを預けられる環境が整えられている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流を持てる機会を確保している</p> <p>学童クラブでは、近隣の公園での外遊びを定期的実施し、自然の中でのびのびと活動できる場を提供している。また、近隣の商店を活用したおやつ提供の取り組みを行い、子どもたちが地域の商店に親しむ機会を増やしている。これにより、家庭でも地域の商店を利用するきっかけとなり、地域の活性化にも貢献している。さらに、地域の団体や資源を活かした行事の実施を通じて、子どもたちが地域社会とつながる機会を創出しており、学童クラブが地域の一員として機能していることがうかがえる。</p> <p>地域の人々との交流を深めるための取り組みを積極的に行っている</p> <p>学童クラブでは、地域の人々との交流を深めるための取り組みを積極的に行っている。今年度は、コロナ禍で中断されていたゆうゆう永福館との交流を再開し、地域の高齢者とのふれあいの機会を提供している。また、放課後等居場所事業主催の「にこぱら祭り」に参加し、ほかの子ども達や地域の団体と連携を図っている。さらに、地域の方を講師として招いた行事を実施し、子どもたちが地域の大人と関わる機会を増やしている。これらの取り組みにより、子ども達が地域社会とのつながりを深め、安心して過ごせる環境づくりに努めている。</p> <p>子ども達が退会後も自分の居場所を見つけやすくなるよう支援している</p> <p>子どもが退会後も地域の様々な場所で安心して過ごせるよう、地域資源の活用に取り組んでいる。特に、子ども達が放課後に利用できる居場所の選択肢を広げるため、近隣の図書館や公園など新たな地域資源の活用を検討している。また、地域の方を講師に招いた行事を実施し、地域の大人と子どもが自然に交流できる機会を設けている。こうした取り組みを通じて、子ども達は地域の様々な環境に親しみ、退会後も自分の居場所を見つけやすくなるよう支援している。今後も、地域資源の活用を進めることで、子ども達の生活の幅がさらに広がることが期待される。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-2-2	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている
タイトル①	小児性愛が絶対に起きないように、行政以上に厳しく効果的な対策を講じている	
内容①	人権擁護、虐待防止、小児性愛排除を大きな三本柱とし、特に世間も行政も手がけていない小児性愛排除に早く取り組んできた実績がある。知識だけでなく、相互牽制の仕組みで年2回の、計2か月間にも渡るスクリーニング期間を設けていることは、今どきの社会課題を先取りした、行政もやっていない素晴らしい実践であると言える。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	テーマごとの遊びの部屋が複数用意され、子どもの主体的で充実した活動が実現している	
内容②	登録者が130人を超える大規模学童クラブであり、子どもたちは異年齢で構成された少人数ユニット単位で活動している。1日のスケジュールが明示されており、子どもたちはユニットの中で対人関係や生活習慣を身に着ける機会を得ている。遊びなどの活動の部屋は図工室・遊戯室・音楽室・玩具の部屋・静かに過ごす部屋など複数用意されており、各部屋に多様な玩具類や遊びの道具が用意されていた。ルールやマナーもわかりやすく掲示されており、子どもたちはさまざまな経験をし、得意なことを活かせる機会がある。多数のイベントも企画されていた。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	子どもが退会後も地域の中で安心して過ごせるよう、地域資源の活用に取り組んでいる	
内容③	学童クラブでは、放課後の居場所の選択肢を広げるため、近隣の図書館や公園など新たな地域資源の活用を積極的に進め、子どもが退会後も地域の環境に親しめるよう支援している。また、地域の方を講師に招いた行事を実施し、子どもが地域の大人と自然に交流できる機会を提供している。さらに、地域の人々とのつながりを深めることで、子ども達は地域全体を身近に感じ、退会後も安心して過ごせる環境が整えられている。これらの取り組みにより、学童クラブを退会した後も、地域の中で自分の居場所を見つけられるよう、継続的な支援が行われている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの権利を尊重し、安心できる環境づくりに取り組んでいる
	内容	学童クラブでは、入会時や個人面談で保護者の価値観を把握し、個別に配慮した対応を行っている。また、日々の子どもの様子を職員間で共有し、気になる行動には迅速かつ適切に対応できる体制を整えている。さらに、職員配置では死角を作らない工夫に加え、フリー職員の巡回により、子ども同士のトラブルを未然に防ぐ体制が整っている。子どもが意見を伝えやすい環境づくりとして、2者面談や子ども達のユニット会議を設置し、子ども同士が話し合える機会を提供しており、子ども一人ひとりが安心して過ごせる学童クラブの運営が実現されている。
2	タイトル	王決定戦、やってみ隊など、子どもの特技を活かし、自主性を尊重して活動を促すさまざまな機会づくりをしている
	内容	〇〇王決定戦と名付けられたイベントを開催しており、オセロなどのゲーム、体を動かすボール遊びほか、さまざまなチャンピオンを生み出している。子どもたちは自分の得意な分野で決定戦に参加し、優勝したらトロフィーや賞状をもらうことができる。すべての子どもが自分の得意分野で輝ける良い機会となっている。また〇〇やってみ隊という取り組みでは、花壇の花植え、動画撮影などの仕事に自主的に参加し、ボランティア精神を養う機会になっている。子どもたちはこれらの企画を通じて自己評価を高め、有用感を育むことが実現している。
3	タイトル	常に業務課題を見つけては、即時に改善を行う実行力が、全職員の行動規範になっている
	内容	職員はそれぞれの立場や持ち場で、常に良いものをと考えており、改善できることは何でも改善していこうという行動が身につけている。これも株式会社経営している組織ならではの動きであり、今後の放課後児童健全育成事業を展開する中での良い意味でのロールモデルになり率先した業界のリーダーになれると考えられるので、さらなる組織としての成長が期待される。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	不登校の子どもへの関わりに期待したい
	内容	学童クラブは、原則として学校に登校し、放課後に通ってくる場所としての施設になっているため、不登校の子どもが学童クラブにのみ通うという事例などは無い状況である。不登校以外の課題、友人関係トラブルなどを抱えている子どもに対しては、随時に小学校に担任教諭と学童クラブの職員が連携し、情報共有や意見交換ができていく。今後に向けて、不登校の子どもへの支援についても、学童クラブでできることを検討することも期待される。
2	タイトル	子どものさまざまな活動は用意されているが、外遊びや親子イベントの機会が少ないため、今後の企画増が期待される
	内容	学童クラブ内での遊び・活動・行事などはとても充実している。一方で、外に遊びに行く機会は少ない現状である。危険防止、感染症防止などの観点も重要ではあるが、子どもたちが地域に出る機会が今以上に増えると更に良いと思われる。また保護者に対して学童クラブの活動を、たよりや保護者会などで情報提供しているが、実際に活動の場を見てもらう機会はあまりない状況である。今後は親子イベントなども検討しており、実現が大いに期待される。
3	タイトル	現状に甘んじず、今のポジションに留まらぬフロンティア精神を持ち続け、学童クラブ業界のリーディングカンパニーを目指したい
	内容	職員自己評価は組織マネジメントも、サービス分野も100点満点の高得点をしており、利用者調査もかなりの高得点を上げている。確かに素晴らしい組織運営を行っていることは訪問調査の中でも理解できた。しかし、現状に甘んじることなく、勝って兜の緒を締めよの諺の例えもある通り、現状に妥協せず、継続的な改善のサイクルを今まで以上に回して行くことを期待したい。